

昭和六十一年三月

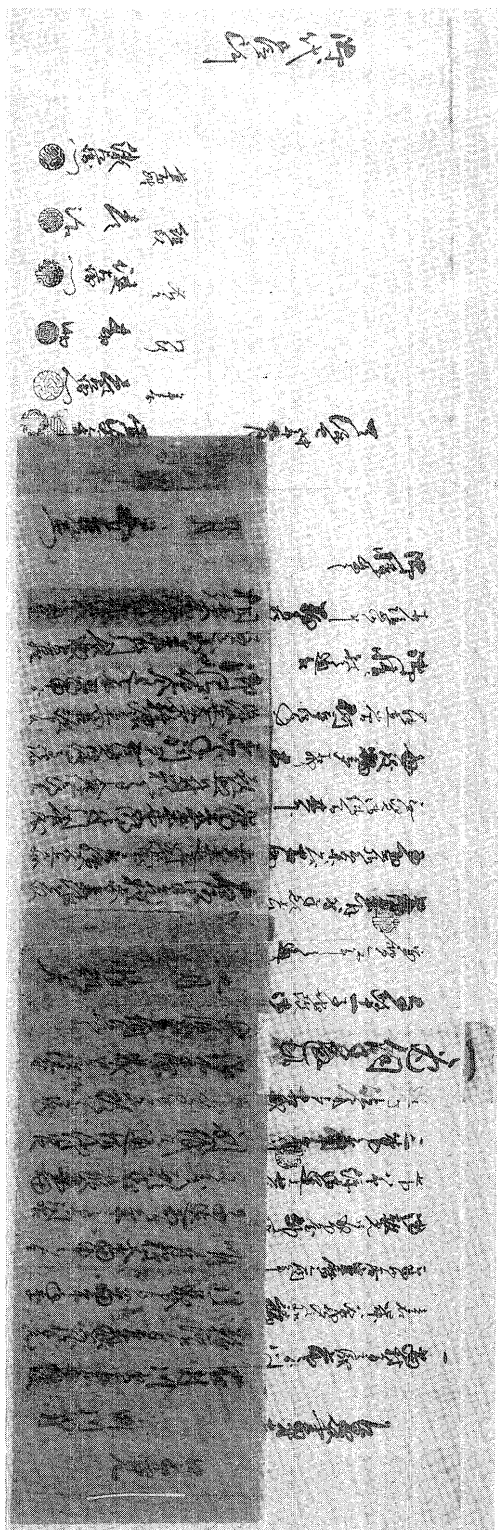
史料館所蔵史料目録 第四十三集

信濃国松代真田家文書目録（その四）

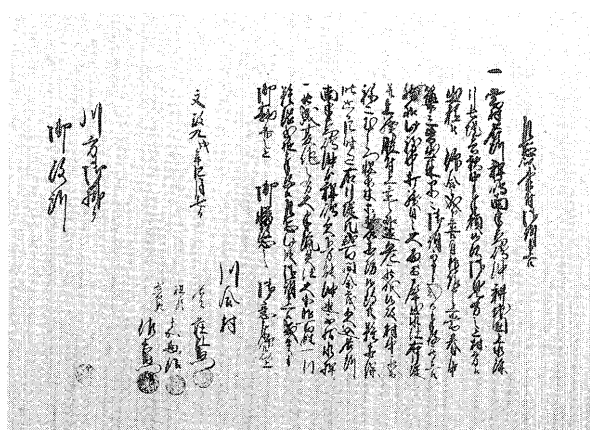
史料館

信濃国松代真田家文書目録（その四）

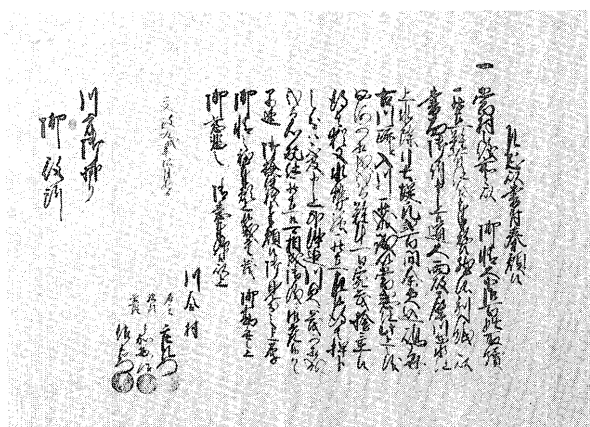
清江奉新



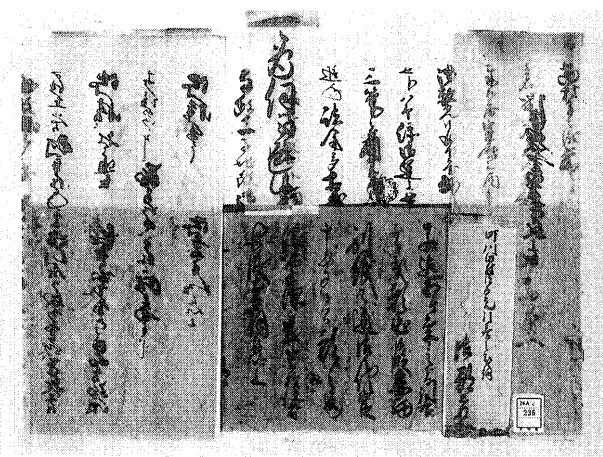
6. 綴込伺書（町川田村手充引居出願一件綴込伺書）〔諸役運上・く236〕



4. 御訴書（川合村三役人御訴書）〔堤川除普請・く160〕



5. 願書（川合村三役人願書）〔堤川除普請・く1605〕



7. 綴込伺書の端裏



## 凡 例

- 一 本目録は『史料館所蔵史料目録』第四十三集信濃国松代真田家文書目録（その四）として、同文書の書付型史料の一部を収めた。
- 一 史料はその性格等に応じ、大・中・小の項目を立てて分類配列した。分類の基準については後掲の解題を参照されたい。大項目は一二ポイント活字、中項目は一〇ポイント活字、小項目は九ポイント・ゴチック活字で示した。また必要に応じて〇印で細項目を示した。
- 一 史料目録の記載欄はほぼ、(一)表題 (二)作成者または差出人 (三)宛名 (四)作成年月日 (五)形態及び包紙類 (六)数量 (七)整理番号の順である。
- 一 表題（史料名称）は原表題の無いものが多いため仮に命名して掲げたが、(一)を付すことは省略した。本目録において(一)を付したものは当該表題に疑問を残したものである。また内容摘記は(一)内に八ポイント活字をもって併記した。なお史料名称については後掲の解題を参照されたい。
- 一 作成者または差出人および宛名のうち複数のものの一部などは適宜省略したものもある。なお役職名は必要に応じて付した。
- 一 作成年次は年月日・干支を採った。また推定年代は(一)を付した。
- 一 史料の形態は、薄冊類では半（半紙判）、美（美濃判）、美大（美濃大判）、半半（半紙半截判）、美半（美濃半截判）、横長判（半紙横長判）、横長美（美濃横長判）、横長美大（美濃大横長判）、横半半（半紙半截横長判）、横美半（美濃半截横長判）、などによって原書の大さの大概を示すにとどめた。また一紙書付類は大概は通をもって数量を示し、紙形の大小寸法は省略した。
- 一 数量の上部に示した仮は仮綴本を示した。
- 一 最下欄の、くの記号および数字は、各史料の整理番号を示す。照合・閲覧・引用の場合に利用されたい。

# 目次

口 絵	
凡 例	
信濃国松代真田家文書目録（その四）	一
目 次	三
目 録	五
解 題	五
真田家文書の伝来と特色	五
史料の表題について	三〇
史料の配列と概要	四六

信濃  
松代  
国

真田家文書目録（その四）

信濃国  
松代 真田家文書目録（その四） 目次

藩政	頁	耕作	頁	三年石川村開發場地境論、文政四	
土地	五	出作、入作	六	一同七年白石荒所開發一件、天保	
地押改	五	天保五年团右衛門役代一件、天保		二一同五年上横田村新田割合紛議、	
明和元、二年大岡四組地押改、明和		一二年团右衛門夫銀等紛議、天保		天保五年上五明村割地開發紛議、	
六年東条村地押改、明和九年西条		八一〇年源左衛門役叔等紛議、		天保八年石川村開發差止一件、嘉	
村地押改、明和九年大林寺地押改、		出入作その他		永元一三年瀬戸川村・古山村法蔵	
明和九年諸寺社地押改、明和九年		山野・河川	三	寺地論一件、安政六一文久元年瀧	
円通寺地所一件、文政元年淨福寺		入会山	三	本新田割地一件、明治四年日名村	
地押改、文政七年青池村有地改、		文化一〇一—文政二年仙仁村入会山		開發地領有紛議、幕末維新期開發	
文政七一同一一年広田村地押改、		一件、文政一三一—天保二年牧内村。		出願、開發その他	
文政一一年上布施村有地改、天保		二一ヶ村山論、入会山無心		村境	四
四年山平林村不埒一件、天保期地		開發	三	年貢	五
押改、		宝曆一二年沢山開發願人、明和六		檢見	五
田畑石盛	一九	一同八年小沼村等入会秣場新開出		檢見出願、檢見役人手充、檢見廻	
地所見分、地所石高、高名目違い		入一件、明和八年東川田村芝野高		村、檢見引。手充	
吟味、村内地域論		請一件、安永二年西寺尾村川欠地		定免	五
質地	三	開發、安永四年西寺尾村開發定免		取箇	五
御用地	三	出願、安永九年森村等開發手充一		年貢納入	五
		件、安永一〇年湯田中村開發願人、		納入規定、年貢割付、月割上納、	
		安永一〇年佐野村開發願人、文政		年貢皆済、不納・延滞、不正納入、	

先納、年貢納払勘定、明治期税制改正	
山年貢	三
諸役・運上	三
郡役	三
追鳥役・川役	三
冥加・運上	三
定例上納、諸役運上皆済、冥加上納出願、冥加金免除願、冥加増銀、不納・延滞	三
手充引	三
国役金	三
河川国役金	三
国役金上納、請取証文	三
朝鮮信使国役金	三
日光法会国役金	三
国役金その他	三
堤川除普請	三
寛保三年一統御普請	三
文化五年国役普請	三
文政六年国役普請出願一件	三
文政一〇年御手普請	三
弘化四年震災復旧川普請	三
安政三年国役普請	三
安政五年国役普請	三

信濃国  
松代  
真田家文書目録（その四）

（文書記号 26A）

藩政

土地

地押改

八瀬村外四ヶ村三役人等血判誓詞〔地押改に不正をなさざる旨〕（宛所ナシ） 宝曆十一年十一月一日―文久四年二月二十九日

一通く六九

○明和元、二年大岡四組地押改

芦野尾村三役人・地押改案内人連印答書〔当村請納新田三四石の地所の件。惡地ゆえ高請赦免のうえ山年貢の取扱いにされたき旨〕 肝煎勝右衛門外五名 地押改役人中宛 明和元年九月

一通く七四

大岡四組三役人連印答書〔他領、他村との境界不明の場所無の件。当組には無き旨〕 宮平組肝煎勝右衛門外一名 宮沢嘉平・佐藤新藏・三輪六十郎宛 同月

一通く七五

内花見村高厳寺・同村頭立并宮平組三役人等連印誓書〔境内田畑は前々より除地に相違なき旨〕 肝煎勝右衛門外七名 検地役人中宛 同月

一通く七六

北松尾村西蓮寺・同村頭立并宮平組三役人連印願書〔当村境内山林は除地にて年貢諸役不納に相違なき旨〕 肝煎勝右衛門外六名 検地役人中宛 同月

一通く七八

和平村吉祥院・村役人連印願書〔当村常連寺地押改の筋、境内添畑の名請に誤りあり。右は寺地にて八斗七升の除地の内に結ばれたき旨〕 勝右衛門外二名 地押改役人中宛 同年一〇月

一通く七七

宮平村外一ヶ村宿主・世話役連印誓書〔今般大岡村の地押改役人逗留中一切非分なく、一汁一菜の定通り賄いの旨〕 御宿善兵衛外二五名 佐藤新藏宛 同月

一通く七九

宮平村外一〇ヶ村宿主等連印誓書（同前） 宮平村幾太郎外二四名 三輪六十郎宛 同月

一通く七五

大岡四組三役人并案内人連印願書〔今般案内の宮地、墓場等高除地に相違なく、古証の次第は来月八日まで提出の旨〕 慶師村肝煎勝右衛門外四四名 地押改役人中宛 同月

一通く七〇

大岡諸村案内人連印申請証文〔地押改の野帳に非分一切なく、これにて水帳決定されたき旨〕 芦野尾村新右衛門外四一三名 同前宛 同月

一通く七三

大岡四組三役人并案内人連印誓書〔後日落地、隠地露見の節は啓蒙るとも異議なき旨〕 慶師村勝右衛門外四三名 同前宛 同月

一通く七三

代村三役人答書（名所大横反別四町歩は代村分荒地の内、標立場御用地の旨） 肝煎勝右衛門外二名 同前宛 同月	一通く 七三	芦野尾村頭立并宮平組三役人連印願書（儀右衛門ら五名所持の五石余の諸役免許の証提書付は八〇年以前に焼失。是迄通り免許されたき旨） 吉右衛門外五名 宮沢嘉平宛 同月	一通く 七三
大岡四組三役人并案内人連印請書（各村荒地無高反別は一九三町七反たること承知の旨） 肝煎勝右衛門外四名 同前宛 同月	一通く 七四	大岡四組三役人・頭立連印答書（聖権現社領一石除地の訳。水帳外記載ある旨） 肝煎勝右衛門外四名 地改役人中宛 同月	一通く 七四
下栗尾村光明院・同村頭立并宮平組三役人等連印願書（当組伊勢宮、天王宮社領地は宮修復、祭礼料、証提書付はなけれども是迄通り除地とされたき旨） 頭立左右衛門外八名 検地役人中宛 同月	一通く 七六	和平組三役人・案内人連印答書（和平組一〇村の宮地、墓場、用水場等除地の訳。証提は無けれど前々より諸上納を勤めざる旨） 肝煎与右衛門外一名 同前宛 同月	一通く 七五
北小松尾村佐次右衛門并宮平組三役人連印願書（一〇月九日地改の自分畑一筆、明年次男分家の予定ニ付屋敷高に変更されたき旨） 肝煎勝右衛門外三名 地押改役人中宛 同年一月	一通く 七六	天宗寺并代村頭立并宮平組三役人連印答書（代村常慶寺境内除地の訳。証提はなくも前々より諸上納免除の旨） 頭立七左衛門外四名 同前宛 同月	一通く 七七
川口村三役人・頭立連印答書（梨木村耕地一畝余は大門の跡あるにより権現宮地に相違なき旨） 肝煎九左衛門外四名 同前宛 同年二月	一通く 七六	川口村三役人・頭立連印答書（当村宮地、堂地、竹藪、墓場等除地の訳。同前） 肝煎九左衛門外四名 同前宛 同月	一通く 七六
根越村社家福馬并根越組三役人連印答書（諏訪社領一石の除地、証提はなくも水帳外記載にてこれまで年貢免除の旨） 肝煎勝右衛門外三名 同前宛 同月	一通く 七九	天宗寺并和平村三役人・案内人連印答書（和平村常連寺持地八斗余除地の訳。水帳外記載ある旨） 肝煎与右衛門外四名 検地役人中宛 同月	一通く 七九
川口村社家豊前并三役人・頭立連印答書（社領一石除地の訳。証提書付なく水帳外書にも見えざれども、諸上納一切なし。是迄通りとされたき旨） 肝煎九左衛門外三名 同前宛 同月	一通く 七〇	根越組三役人・案内人連印答書（根越組一〇村の宮地、堤、墓場等除地の訳。証提はなくも前々より諸上納免除の旨） 肝煎勝右衛門外一六名 地改役人中宛 同月	一通く 七〇
芦野尾村案内人・三役人連印請書（宮之根の畑二五歩、証提なきにより納所地たること承知の旨） 新右衛門外五名 同前宛 同月	一通く 七二	宮平組三役人・案内人連印答書（宮平組一二村の宮地等除地の訳。同前） 肝煎勝右衛門外四名 同前宛 同月	一通く 七二
宮平村三役人・頭立連印願書（坂下屋敷、穢多屋敷、是迄通り除地とされたき旨） 肝煎勝右衛門外四名 同前宛 同月	一通く 七三	天宗寺并小松尾村頭立并宮平組三役人連印答書（西蓮寺境内除地の訳。同前） 肝煎勝右衛門外五名 同前宛 明和二年一月	一通く 七三

内花見村高厳寺・案内人并宮平組三役人連印  
答書〔高厳寺境内并除地高八斗の除地の訳。同前〕  
肝煎勝右衛門外五名 地押役人中宛 同月

宮平組三役人願書〔外花見村野帳立札、太郎名前  
分を吉左衛門に変更されたき旨〕 肝煎新右衛門  
外二名 三輪六十郎宛 同年六月

大岡四組三役人連印請書〔大岡四組惣社聖権現  
社領一石。前々通り除地とされ有難き旨〕 肝煎新  
右衛門外一名 奉行所宛 同年十一月

根越村杜家福馬并根越組三役人連印請書〔杜  
家二石。同前〕 肝煎勝右衛門外三名 同前宛 同  
月

天宗寺并宮平組三役人連印請書〔北小松尾村西  
蓮寺境内。同前〕 肝煎新右衛門外三名 同前宛  
同月

内花見村高厳寺并宮平組三役人連印請書〔当  
寺境内除地高八斗。同前〕 肝煎新右衛門外三名  
同前宛 同月

天宗寺并根越組三役人連印請書〔当寺境内。同  
前〕 同前宛 同月

川口村杜家豊前・三役人連印請書〔杜家地所一  
石。同前〕 肝煎九左衛門外三名 同前宛 同月

天宗寺并和平組三役人連印請書〔和平村常蓮寺  
八斗余の地所。同前〕 肝煎与右衛門外三名 同前  
宛 同月

下栗尾村預所光明院・三役人連印請書〔除地高  
五斗五升の地所のうち三畝余は除地、出歩高は納  
所地のこと承知の旨〕 肝煎郡右衛門外三名 同  
前宛 同月

大岡四組三役人連印請書〔大岡四組三ツケ村の  
除地明細書上。願の通り除地とされ有難き旨〕 同  
前宛 同月

○明和六年東条村地押改

平林村・牧内村三役人連印答書〔皆神山社領地  
所の所在の件〕 肝煎幸藏外五名 奉行所宛 明  
和六年二月

皆神山和合院答書〔皆神山除地一三石余の所在  
の件。旧記にても不明、地改の節に地所を確定さ  
れたき旨〕 同前宛 二月三日

皆神山社領安堵旧記写〔天正二二年上杉景勝、慶  
長四年田丸直昌、同一〇年松平忠輝安堵状写〕

皆神山社領安堵旧記写〔天正一〇年森長可禁制、  
同一二年上杉景勝安堵状、同一五年須田満親安堵  
状、同一七年某社領寄進状、慶長二年某諸役免許  
状、同三年森嶋近政安堵状、同四年田丸直昌安堵  
状、同一〇年松平忠輝奉行衆安堵状、辰年松平忠昌  
奉行安堵状〕

平林村三役人・頭立連印答書〔皆神山地境の件。  
八合目より下は当村分地なるを、和合院は十六割  
之平は山林まで神領と主張の旨〕 肝煎幸藏外一  
二名 東条村地押改役人衆中宛 明和六年三月

和合院答書〔除地の訳。先に提出の外に証書はなき  
旨〕 同前宛 同年四月

和合院・宝蔵院并東条村三役人連印答書〔皆  
神山権現社領、八幡社領の除地の訳。同前〕 肝煎  
七左衛門外七名 同前宛 同月

和合院誓書〔下之平に所持の畑一枚、当山八幡社領  
に相違なき旨〕〔奥書、東条村三役人〕 同前宛 同  
年六月



和合院願書（皆神山大平拾六割の場所年貢地たる  
こと承知。ただし同地も冥加金二兩上納にて除地  
に結ばれたき旨）（宛所ナシ）（年月ナシ）

一通く六二

出浦五左衛門申送り書（三拾間四方未代寺地の  
件將明きたること、屋敷所の麦は来年より手作り  
されたき旨外） 実相院宛 二月二一日

一通く六七

東条村南組三役人届書（実相院所持の書付提出  
の旨） 肝煎七左衛門外二名 三輪六十郎宛 三  
月二三日

一通く六三

東条村実相院答書（寺地変遷の来歴書上） 地押  
役人中宛 明和六年三月

一通く六四

東条村三役人・案内人連印答書（三拾間四方屋  
敷の外に境内除地ありとの実相院の主張に難渋の  
旨） 肝煎七左衛門外三二名 同前宛 同年四月

一通く六五

実相院境内并所持地絵図

一通く六六

無漏山実相院初開弁薬師堂草創略縁起写 出  
浦林塘 元文三年一一月

一通く六八

下瀬関実相院覚書（同院境内は三拾間四方高除地  
の外たる由来書上）（東条村宛カ）

一通く六九

実相院答書（三拾間四方屋敷并境内は除地とされ  
たきこと、其外証拠なき分は高請地とされたき旨）  
奉行所宛 明和六年五月

一通く六〇

中条宮神主富岡権頭并東寺尾村三役人連印答  
書（社領除地は東寺尾村水帳末に記載あり、地所は  
東条村にある理由。寺尾一郷は産子なれば寺尾郷  
を分地とされたき旨） 名主吉兵衛外四名（奥書、  
東条村、荒町村、町分三ヶ所役人） 東条村地改役  
人中宛 明和六年三月

一通く七三

東寺尾村三役人答書（中条宮地并神主屋敷は東寺  
尾村分地に相違なき旨）（奥書同前） 同前宛 同  
月

一通く七四

某役問合書并下札（東寺尾村のうち中条諏訪大明  
神神主支配地の反別、名目の件）

一通く三五

西村彦五郎答書（祖先より馬医にて東条村に屋敷  
七石余拝領の旨、甲子年山井大藏朱印状写添付）  
同前宛 同年四月

一通く六二

窪田十八・竹岡平藏連名答書（屋敷内高一石余  
年貢諸役免除の訳。享保年中、紙漉の場所拝領の  
旨） 検地改役人衆中宛 同月

一通く六三

松代御安口蓮乗寺并東条村三役人連印答書  
（除地二石の訳。大久保石見守より仏供免に下され  
たる旨） 肝煎平助外三名 地押改役人中宛 同  
月

一通く六四

松代証蓮寺并東条村三役人連印答書（除地五  
石の訳。証拠書付は焼失なれど是迄通りとされた  
く、但し地改の出歩高は並上納いたす旨） 肝煎平  
助外三名 同前宛 同月

一通く六五

荒町村歛喜寺・肝煎并東条村三役人連印答書  
（除地一石の訳。元和八年酒井家よりの寄進状写添  
付） 肝煎七左衛門外七名 同前宛 同月

一通く六六

東条村東光寺・三役人連印答書（除地四石の訳。  
平岡帯刀よりの寄進状写添付。但し出歩高あらば  
村並納所いたす旨） 肝煎七左衛門外六名 同前  
宛 同月

一通く六七

東条村善徳寺・三役人連印答書（除地一石余の  
訳。水帳外記載の地に証拠はなけれども相違な  
し。境内は右除地の内） 肝煎平助外三名 同前宛  
同月

一通く六八

東条村明真寺鑑司頼處・三役人連印答書〔除地二石余の訳。同前〕 肝煎七左衛門外六名 同前宛 同月

東条村普賢寺鑑司蘇英・三役人連印答書〔除地五斗の訳。同前〕 肝煎七左衛門外三名 同前宛 同月

東条村池田宮神主・祠官・三役人連印答書〔除地四石の訳。天正一七年須田満親寄進狀写添付〕 神主小河原紀伊外七名 同前宛 同月

荒町中条宮神主富岡權頭・肝煎等并東条村三役人連印答書〔除地一石の訳。真田信之より拝領の旨〕 肝煎七左衛門外五名 同前宛 同月

池田宮神主・町分肝煎并東条村三役人連印答書〔伊勢免引六斗余の訳。閑屋川度々洪水により杜地引移して造営の旨〕 肝煎七左衛門外七名 同前宛 同月

荒町村薬師堂宝藏院・肝煎等連印答書〔除地の訳。もと薬師堂地なるが閑屋川洪水のため引移したる旨〕 肝煎彦仁外二名 同前宛 同月

東条村・荒町村三役人連印答書〔宮地、堂地、墓場等除地の訳。証拠は無けれども前々より高外空地の旨〕 肝煎七左衛門外七名 同前宛 同月

○明和九年西条村地押改

鈴木主計書狀〔西条村地押改につき勘定所へ家来出頭の件承知の旨〕 郡奉行祿津要左衛門・成沢勘左衛門宛 二月一九日

原与惣兵衛書狀〔同 前〕 同前宛 同日

郡奉行連名廻狀〔西条村内の家中屋敷間数改めに勘定役・竿手の者罷越す旨〕 祿津・成沢・河口五左衛門・井上嘉七外四名宛 二月一〇日

一通く六九

一通く七〇

一通く七一

一通く七二

一通く七五

一通く七六

一通く七七

一通く六六

一通く七四

一通く六三  
包紙一通

郡奉行連名廻狀〔同 前〕 同前 八田競・窪田惣右衛門外六名宛 同日

郡奉行連名廻狀〔西条村地押改につき同村境の屋敷脇に境分杭を立てること、心得ありたき旨〕 同前 三沢万右衛門・渋谷玄仙・宮沢兵太夫宛 同日

西条村三役人・頭立連印願書〔当村荒地地起返の詮議を命ぜられるも家中屋敷も多く地所混雑。来春検地ありたき旨〕 肝煎半兵衛外三名 奉行所宛 明和八年二月

西条村三役人・頭立連印願書〔地押改にて田地増減し年貢増加するとも異議なき旨〕 肝煎半兵衛外九名 同前宛 明和九年正月

西条村百姓連印答書〔名寄帳と土目録高辻の相違の訳。家中屋敷渡諸役免除の高除などにて混雑の旨〕 磯右衛門・喜四郎外一八五名 地押改役人中宛 同年二月

西条村三役人答書〔開善寺など寺領地押改ニ付、西条村本納百姓と寺領百姓和談にて地押改諸入料は惣高割に決定の旨〕 肝煎又左衛門外二名 同前宛 同月

西条村百姓連印答書〔地押改に際し無筋の願なきざること、村方にての内詮議取計方〕 磯右衛門・彦四郎外二〇名 同前宛 同月

西条村三役人願書〔地押改日限、来月五日に変更されたき旨〕 肝煎又左衛門外二名 同前宛 同月

宇敷与右衛門願書〔自分住居の御小作地を冥加金四両にて高請所持したき旨〕 大嶋多吉・大嶋条助・斎藤善藏宛 辰二月

一通く六四  
包紙一通

一通く六五  
包紙一通

一通く五五

一通く五六

一通く五七

一通く五八

一通く五九

一通く六〇

一通く五四  
包紙一通

清野源八答書（屋敷諸役免許の訳。寛文六年水帳に記載の旨） 同前宛 明和九年三月

佐藤左源次答書（田畑屋敷一〇石諸役免許の訳。元禄七年道橋奉行連印の免許書付の写添付） 地押役人中宛 辰三月

一通く五二

西条村惣百姓連印竿請証文（検地野帳に非分なく、これにて水帳作成されたき旨） 磯右衛門・喜四郎外三〇四名 同前宛 同月

一通く五六

願人弥五右衛門・伴右衛門連印願書（筒井村砂溜払堀出水の節危険につき自分所持畑の内へ移したき旨）（奥書 西条村三役人） 同前宛 同月

一通く五五

離山忠藏答書（この度高請願たる所は自分開発の地所に相違なき旨）（奥書 西条村三役人） 同前宛 同月

一通く六四

願人清兵衛願書（同前、砂溜新堰を立てられたき旨）（奥書 同前） 同前宛 同月

一通く五六

西条村三役人答書（竹山御小作山の一乗院地所の件） 同前 同前宛 同月

一通く六六

伊勢町茂兵衛返答覚書（御安江浦池敷一石余は伊勢町等五町にて購入のもの、年貢諸役とも般五俵にて西条村友右衛門取計いたること。回答） 西条村三役人衆中宛 同月

一通く五七

西条村宿主・世話役・三役人連印誓書（地押改役人逗留中非分の儀なし、一汁一菜たる旨） 御宿又左衛門外四名 大嶋多吉宛 同月

一通く六七

西条村三役人願書（水損・荒所三ヶ所分の起返し高請の件） 肝煎又左衛門外二名 地押役人中宛 同年四月

一通く五九

西条村三役人答書（堂地、宮地等一四ヶ所無高の訳。慣例にて年貢諸役免除の旨） 肝煎又左衛門外二名 同前宛 同月

一通く六八

西条村三役人願書（かわ屋敷分は是迄通り諸役免許とされたきこと、年貢は村中にて弁納の旨） 同前 同前宛 同月

一通く六〇

西条村孫左衛門願書（四三番地所は自分名前にて竿請したれども、浦同心町六右衛門名前に引訳されたき旨）（奥書 西条村三役人） 同前宛 同月

一通く六九

西条村三役人願書（般若寺山年貢の件。同寺の口上書は間違にあるにより返却されたき旨） 同前 同前宛 同月

一通く六一

浦町助治願書（自分竿請の地所、新五郎名前に引替られたき旨）（奥書同前） 同前宛 同月

一通く六二

西条村三役人願書（古水帳全部の提出を命ぜられるも紛失あるにより、見つけ次第指上すべき旨） 同前 同前宛 同月

一通く六三

西条村佐太夫願書（自分竿請の地所、紙屋町伯仙、柴町久藏らに引訳られたき旨）（奥書同前） 同前宛 同年五月

一通く六三

西条村三役人・案内人連印誓書（名所・地主の確認のため地押野帳三冊借覧いたしたく、無筋の願はなすまじき旨） 肝煎又左衛門外一五名 同前宛 同月

一通く六三

山崎伯仙・久藏連印願書（同前の件） 同前宛 同月

一通く六三

西条村孫左衛門願書（自分竿請の地所、御安口祐右衛門名前に引替られたき旨）（奥書 西条村三役人） 同前宛 同月

一通く六四

西条村彦七願書〔自分筆請の地所、御安口祐右衛門名前に引替られたき旨〕（奥書同前） 同前宛 同月

一通く六五

佐藤佐源次請書〔西条村一〇石諸役免許地の件。筋違いなれば本年より諸役勤むべき旨〕 同前宛 同月

包紙一通く六三

西条村三役人答書〔名前引替、地所引訳の願など一切無きにより水帳を作成されたき旨〕 肝煎又左衛門外二名 同前宛 同月

一通く六一

西条村新右衛門誓書〔自分持畑石盛の件ニ付訂正申告をせず、この上は田方本納となりても異議なき旨〕 西条村役人中宛〔西条村三役人奥書 地押改役人中宛〕 同月

一通く六六

同月

佐藤佐源次答書〔自分堀内甚兵衛の聲にて甚兵衛引取、田畑山形を引請たれど自分は別家にて跡目の訳には無き旨〕（宛所ナシ） 同年六月

一通く五三

佐藤佐源次答書〔田畑山形一〇石の諸役免許の件、筋違いにつき継続を願わず。なお配慮ありたき旨〕 同月

一通く五九

西条村三役人願書〔当村水損多く二八匁夫銀高崎銀等、是迄通り赦免ありたき旨〕 肝煎又左衛門外二名 大嶋多吉役所宛 同年七月

一通く六七

西条村地押改高一紙控 大嶋多吉・大嶋条助・斎藤善藏 同年十一月

一通く六八

西条村并開善寺・大林寺領水帳請取証文 肝煎又左衛門外二名 地押役人中宛 安永元年二月

一通く六九

西条村三役人請書〔宮地・堂地等一四ヶ所是迄通り高外とされ有難き旨〕 同前 奉行所宛 同月

一通く六〇

清野源八請書〔屋敷の内高四斗は諸役免許、七斗余は村並に勤むべき旨〕 同前宛 同月

包紙一通く六三

○明和九年大林寺地押改

大林寺口上書〔西条村地押改につき大林寺朱印地も混雑ゆえ地押改をなされたき旨〕 郡奉行成沢勘左衛門宛（明和九年二月八日）

包紙一通く五四

包紙〔大林寺御朱印初而頂戴の節諸書付写、五三三・五三五番在中〕

一点く五三

真田信之書状写〔大林寺領七〇石は真田の拝領高の外ゆえ御朱印を頂戴したき旨〕 安藤右京進・松平出雲守宛 五月一日

一通く五三

〔大林寺壇家連名誓書写〕〔大林寺領七〇石のこゝと先祖の代より紛れなき旨〕 松城狩野半助・嶋屋忠三郎・諸口三介・高村右馬之助・松村喜兵衛 大林寺宛 慶安四年五月三日

一通く五四

大林寺寺領目録写〔七〇石西条村などで新田にて違わすこと、但し人馬役は命ぜられる旨〕 河野加兵衛 明暦二年二月九日

一通く五五

地押改役人連名同書〔西条村のうち開善寺・大林寺・清水寺朱印地につき地所引分、立札、高附、出歩、孕新田等の改方。寺院、百姓の口上書添付〕 大嶋多吉外二名 二月

一通く五六

地押改役人連名同書〔同前〕 同前 同月

一通く五七

大林寺答書〔寺領につき公儀より従前尋ねあるやの件。百姓人数書上をなしたる旨〕 地押元々大嶋多吉宛 明和九年二月

一通く五二

大林寺答書〔朱印高七〇石のうち西条村地続き分以外の八斗五升の所在の件。不分明の旨〕 同前宛 辰二月

一通く五三

職奉行竹内庄左衛門書狀(大林寺寺中借家人書上。借家の始まり年月は不明の旨。回答) 祢津要左衛門・成沢勘左衛門宛 二月三日

一通く 五九

郡奉行連名伺書(大林寺領石盛に八斗五升の不足あり。よつて西条村地改のうえ同寺へ朱印高七〇石を渡すべきの旨) 祢津・成沢 二月二八日

一通く 五八

大林寺答書(同前の件。今度の地押改にて明らかにされたき旨) 祢津・成沢宛 二月二九日

一通く 五三

大林寺答書(西条村よりの年貢収納高、寺領田畑名所高目、打出孕新田等の明細説明の件) 大嶋多吉・大嶋条助宛 明和九年二月

一通く 五四

大林寺境内耕地絵図 大嶋・大嶋・齋藤・立合片岡惣市 同月

一通く 五四

笠村百姓連印願書(自分ら三人所持の大林寺五斗余の高地、これまで左衛門一人にて上納。此度三人に引分けられたき旨) 惣八・利兵衛・李兵衛(宛所ナシ) 同年三月

一通く 五二

寺領水帳請取証文 大林寺役僧師広 大嶋・大嶋・齋藤宛 安永元年二月

一通く 五四

大林寺領惣百姓連印答書(大林寺本田、新田、打出孕新田の明細書上) 源之丞・七郎左衛門外六一名 西条村三役人宛(三役人奥書 地押改役人宛) 明和九年二月

一通く 三七

開善寺領惣百姓連印答書(開善寺領、同前件) 善之丞・李左衛門外五〇名 同前宛(奥書同前) 同月

一通く 三六

西条村両寺領惣百姓連印請書(大林寺、開善寺両寺領の地押改につき孕新田 出歩等の高地編入の件承知の旨) 仲右衛門・半次郎外一〇四名地押役人宛 同年三月

一通く 三八

大林寺領惣百姓連印竿請証文 源之丞・七郎左衛門外六八名(奥書、大林寺役僧) 同前宛 同年四月

一通く 三〇

西条村両寺領惣百姓連印請書(地押改に伴う古高との増減問題、芝野、萱野の高付承知の旨) 大林寺藏本儀右衛門・開善寺藏本千右衛門外一二〇名 同前宛 同月

一通く 三九

開善寺寺領水帳請取証文 役僧悦玄 大嶋外二名宛 安永元年二月

一通く 四一

○明和九年諸寺社地押改

西条村安養寺答書(境内除地は先年引替の節に二石余となる旨) 役人中宛 二月

一通く 五五

安養寺答書(往古境内は神田川出水多く享保一六一年に引移りたる旨) 地押役人中宛 明和九年四月

一通く 五七

西条村天神堂引替地高帳写 西条村惣百姓・三役人・別当安養寺 奉行所宛 享保一六六年六月

大美

一綴く 五五

安養寺請書(当寺境内除地三筆明細承知の旨) 郡奉行所宛 安永元年二月

一通く 五八

西条村要八願書(乾徳寺新道付替にて自分屋敷四方とも道となり不都合につき停止されたき旨)(奥書、三役人) 乾徳寺役本宛 明和九年二月

一通く 五九

乾徳寺願書(浦作場道は除地ゆえ北に引移したきこと。境内添古川敷年貢地を冥加金一兩二分にて除地高に結入れられたき旨) 中村辰右衛門宛 辰二月

一通く 六一

乾徳寺境内添地絵図

乾徳寺願書〔地押改につき境内除地これまで通りとされたきこと、元文五年年貢諸役免許書付写添付〕 地押役人中宛 同年三月

乾徳寺請書〔地押改にて除地高一〇石余の明細承知の旨〕 郡奉行所宛 安永元年二月

西条村清水寺口上書〔西条村地押改につき当寺朱印地も改られたき旨〕 成沢勘左衛門宛 二月八日

清水寺答書〔当寺地所につき幕府への書上有無の件、享保度の町歩人数書上も真田家にてなされし旨〕 地押本、大嶋多吉宛 明和九年二月

清水寺領朱印状写〔西条村のうち一〇石并寺中竹本諸役免除の旨〕〔徳川綱吉〕 貞享二年六月一日

清水寺領朱印状写〔同前〕〔徳川家治〕 宝暦二年八月一日

西条村三役人答書〔清水寺地所の件、境内など三ヶ所、寺領持百姓は無き旨〕 肝煎又左衛門外二名 地押役人中宛 明和九年二月

西条村三役人答書〔清水寺観音堂は寛文六年に現在本堂に引移したる旨〕 同前 同前宛 同年四月

清水寺誓書〔境内山添の畑成り場は古来よりの卯頭に相違なき旨〕 同前宛 同月

清水寺願書〔場所反別の水帳を下付されたき旨〕 大嶋多吉・大嶋条助・斎藤善藏宛 同月

一通く 五二

一通く 五二

包紙一通く 五三

一通く 五五

包紙一通く 五四

一通く 五七

一通く 五六

一通く 五六

一通く 五九

包紙一通く 五五

包紙一通く 五〇

寺領水帳請取証文 清水寺 同前宛 安永元年二月

白鳥神主堀内大隅願書〔白鳥御供免高三石余の地、寛保度の水災にて荒地となり、本年に地所引替あるとの仰せにより願出でたる旨〕 郡奉行所宛 明和九年二月

西条村社家堀内大隅答書〔白鳥社地并除地二石五斗の由来、村方水帳に記載ある旨〕 地押役人中宛 同年三月

堀内大隅請書〔地押改にて当社除地二石余前々の通りたること承知の旨〕 郡奉行所宛 安永元年二月

西条村法泉寺願書〔当寺大門添の内は古来よりの三味場なるを先年雪庵和尚、村方と一代切の証文にて引移し、よつて三味場を右場所に戻したき旨〕 地押役人中宛 明和九年四月

表村頭立百姓連名為取替証文写〔新三味場の件、地方御尋の節は大門添へ戻すべき旨〕 佐野右衛門・運七・久右衛門 法泉寺宛 元文二年八月

法泉寺雪庵為取替証文写〔同前〕 表村頭立衆中宛 同月

法泉寺答書〔境内、除地三石の訳、寛文六年の水帳に記載ある旨〕 地押役人中宛 明和九年四月

西条村表組惣代・三役人願書〔雪庵和尚三味場跡地を切開となす、三味場を古来の場所に戻されたき旨〕 清弥外五名 同前宛 同年五月

一通く 五二

包紙一通く 五三

一通く 五三

一通く 五四

一通く 五七

包紙一通く 五七

一通く 五九

一通く 五〇

一通く 五九

法泉寺請書（三味場引移の件。偽ヶ間敷として出願却下、大門前の手作り畑地は高請地たること承知の旨）（奥書 西条村三役人） 郡奉行所宛 同年六月	一通く 五二	恵明寺請書（除地四石、これまで通りたること承知の旨） 郡奉行所宛 安永元年一二月	一通く 六七
郡奉行連名伺書（法泉寺三味場の件。佐藤佐源次諸役免許の件。一乗院支配地の件） 祢津要左衛門・成沢勘左衛門 七月	一通く 五三	西条村西樂寺答書（境内并除地三石の訳。寛文六年水帳に記載ある旨） 地押役人中宛 明和九年四月	一通く 六六
西条村三役人請書（法泉寺三味場の件） 肝煎又左衛門外二名（奥書 法泉寺） 奉行所宛 安永元年二月	一通く 五三 12	西樂寺請書（是迄通り高除たること承知の旨） 郡奉行所宛 安永元年一二月	一通く 六九
法泉寺請書（地押改にて境内、除地三石の明細承知の旨） 郡奉行所宛 同月	一通く 五三	大英寺願書（当寺除地の続き古土堤脇開発場、地押改ニ付高請したき旨） 大嶋・大嶋・斎藤宛 明和九年三月	一通く 六〇
関谷村明徳寺答書（当寺末寺西条村向陽寺の境内反別高除の訳。証拠はなくも往古より除地に相違なき旨）（奥書 西条村三役人） 地押役人中宛 明和九年三月	一通く 六四	大英寺答書（ハヶ所除地の訳。証拠書付焼失するも古来より相違なき旨） 同前宛 同月	一通く 六二
関谷村明徳寺請書（向陽寺の境内反別一反余除地となりしこと承知の旨） 郡奉行所宛 安永元年一二月	一通く 六三	大英寺答書（同前の件。元禄年中書上の同寺起立書、代々往持申伝を記載） 祢津・成沢宛 同年七月	一通く 六三
西条村梅寿院答書（梅津観音堂地の件。証拠書付は焼失するも是迄通りとされたき旨） 大嶋多吉宛 辰（明和九年）三月	一通く 六三 包紙一	大英寺請書（除地六筆これまで通りたること承知、有難き旨） 同前宛 安永元年一二月	一通く 六三 包紙一
西条村般若寺答書（先住和尚の時西条村薬師堂へ東条村般若寺号の引寺が許可されし旨）（奥書 西条村三役人） 地押役人中宛 明和九年四月	一通く 六五	一乗院答書（竹山御小作山麓の高除地の件。金井左仲の先祖の拝領地を自分親の代より預かりたる旨） 西条村地押役人中宛 明和九年四月	一通く 六五 包紙一
西条村恵明寺答書（境内、門前の除地四石の件。村方への土目録にも記載ある旨） 地押役人中宛 明和九年三月	一通く 六六	一乗院支配地所絵図 大嶋外二名 辰四月	一通く 六四
		金井左仲家来伊東軍蔵答書（同前の件。金井家拝領の秣場ににて一乗院に預置たること相違なき旨） 地押役人中宛 同月	一通く 六六 包紙一
		郡奉行連名書状草案（金井家秣場拝領の節の書付写を拝見したき旨） 祢津・成沢 金井左仲宛 四月一日	一通く 六七

金井左仲書狀（金井家拝領の証拠書付は寛保元年焼失の旨、回答） 祢津・成沢宛 四月一日

一通く六元

金井左仲書狀（竹山林場の件、自分家督の節に願書等に記したることは無き旨、回答） 同前宛 六月一日

一通く六元

誓書案（竹山林場、先祖拝領の地にて一乗院へ預置たること相違なき旨）（金井左仲）

一通く六〇

○明和九年円通寺地所一件

地押改役人連名申上書（西条村のうち円通寺屋敷、添畑地改高附に同寺難渋申立。再改めにて屋敷以下高附の旨。絵図添付） 大嶋外二名 辰四月

一通く五八

地押改役人連名申上書（円通寺、大林寺の古高と此度改高との明細書上） 同前 同月

一通く五二

円通寺地所反別高附覚書（屋敷、添畑、荒葭原）

一通く五〇

円通寺分地所地押改野札寄帳

二枚く五三

円通寺分地所地押改野札寄帳

六枚く五〇

金井源右衛門書狀（円通寺願立の件、願書差戻にて尤もの旨。返報） 祢津・成沢宛 四月一二日

一通く五三

地押改役人連名申上書草案（五五一番の草案）

一通く五三

郡奉行連名書狀（円通寺より別紙願書提出。元々等に尋ねるも絵図書入の高辻の通りニ付願書は差戻すべきやの旨） 祢津・成沢 金井宛 四月一二日

一通く五三

西条村三役人答書（円通寺願書に村役人奥印をせざる件。地押改役人の高附に非分なく、納所高は増加するも本高に比して余程減高の旨） 肝煎又左衛門外二名 奉行所宛 明和九年四月

一通く五九

円通寺願書（心得違ひニ付先日の願書を返却されたく、新高附にて納所いたす旨） 同前宛 同月

一通く五〇

○文政元年浄福寺地押改

封筒（田中村三役人、浄福寺地押改案内の節、答一件） 郡奉行鹿野外守 文政元年七月

一点く七三

浄福寺地境紛議一件綴込申上書 鹿野外守 六月

一綴く七五

1 田中村三役人答書（浄福寺朱印地地押改の検地竿の件。六尺竿にて間数改めたき旨） 名主道右衛門外二名 地押役人中宛 文化一四年八月

一通

2 田中村三役人答書（浄福寺境内地境の古杭の件。先年出入の節に立てたる場所と相違なき旨） 同前 同前宛 同年九月

一通

3 田中村三役人願書（浄福寺地境の打杭の件、高地境目相違につき浄福寺へ掛合うも埒明かず。よろしく取計われたき旨） 同前 同前宛 同年一〇月

一通

4 田中村古名主道右衛門答書（浄福寺地境ニ付去年地押改の節、軽率なる答をなし一言申訳なき旨）（奥書、田中村新三役人） 郡奉行所・郡中横目役所宛 文政元年五月

一通

5 田中村名主・長百姓連印答書（同前） 名主権左衛門外一名（奥書、組頭重兵衛） 同前宛 同月

一通

6 田中村地押改案内人連印答書（同前） 久兵衛・松三郎（奥書、三役人） 同前宛 同月

一通



一通く七六

広田村紛議一件和談案（紛議内済の手順。検地は一〇ヶ年延期し、検地入用金四〇兩を高掛にて徴収し貸付運用、三役人のうち一役は入札となす旨）  
扱人 文政八年六月

一通く七九

広田村小前惣代連印願書（地押改出願の件、村役人に頼むも遷延の旨） 庄三郎外二名 代官所宛  
文政九年二月

一通く七九

広田村三役人答書（百姓一四人地押を願いて駈訴の件。当村極難洪村にて残り四〇名の者は地押を希望せざる旨） 名主要助外二名 同前宛 同年（二月）

一通く七九

広田村百姓名前書（三役人、頭立惣代、小前惣代。郡奉行所への召喚者カ）

一通く七九

地押改規定覚書（村方連印、一村熱和等）

一通く七九

広田村三役人并願人小前惣代等連印請書（地改出願の件。村方一同連印なきにより却下するも当村有地改は来春中になすこと、地改役人賄いは下されること、承知の旨） 名主要助外六名 郡奉行所宛 文政九年二月

一通く七〇

広田村三役人・頭立連印願書（村方一統不和合、天候不順ニ付今年の有地改は延期ありたき旨） 名主要助外九名 同前宛 文政十一年

一通く六四

○文政十一年上布施村有地改

上布施村枝郷籠村惣代連印願書（当村有地改の件、先年許可されるも今に沙汰なし。願の通りなされたき旨）（奥書、本郷三役人） 代官所宛 文政十一年三月

一通く六〇  
包紙一通

郡中横目連名申上書（籠村より先年有地改の出願あるも本郷の支障にて沙汰止み。されど籠村は離村ゆえ当村のみの地改に配慮ありたき旨） 北沢源次兵衛・関山三弥 六月

一通く六二

某役御尋物答書草案（技郷にても地境他村同様の分は取上げて然るべく、但し先例なきにより願にては無く御趣意にて命ぜらるべきの旨）

一通く六三

○天保四年山平林村不埒一件

山平林村吟味人・仮三役人連印請書（当村名主、頭立ら吟味中手鎖を命ぜられたれど、吟味猶予され有難き旨） 仮名主久三郎外五名 郡奉行所宛  
天保四年一〇月

一通く六六

山平林村伝右衛門縫り書（当秋地押改のところ村民不埒の作為にて明畑多くなし、吟味を蒙る。赦免執成方願い） 勘定役吉沢十助・池田良右衛門宛  
同年十一月

一通く六七

山平林村吟味人・仮三役人等連印縫り書（同前） 名主長五郎外一名 真籠寺宛 同年十二月

一通く七〇

安庭村真籠寺歎願書（山平林村不埒一件赦免ありたき旨） 郡奉行興津権右衛門・岡嶋莊藏・金児丈助宛 同月

一通く六八

山平林村吟味人・仮三役人等連印請書（不埒一件有免され、以後正路に勤べき旨） 郡奉行所宛 同月

一通く六九

○天保期地押改

下宮野尾村除地一件綴込同書 郡方 天保三年

一綴 六三

1 郡奉行連名同書并附札（下宮野尾村社家除地、宮地、堂地、芝野等高除地の件） 岡嶋・興津金児（勝手掛家老宛） 六月

一通

2 勘定役連名同書（同前） 片桐惣右衛門・池田良右衛門・竹内藤助外二名 辰五月

横長半

仮一冊

3 下宮野尾村飯三役人・頭立小前惣代等連印 答書〔高除地の訳。証書はなくも宝暦度の通り高 外とされたき旨〕 飯名主宣左衛門外一五名 有 地改役人中宛 天保三年四月	一通
4 下宮野尾村社家連印答書〔諏訪宮地、除地畑 等六筆の件。同前〕 宮坂大和・宮坂山城 同前 宛 同月	一通
東寺尾村三役人答書〔当村寺社除地の件。万法寺 領、大明神社領等明細書上〕 名主喜左衛門外三名 勘定所元々役所宛 天保四年八月	一通く 六三
鼠宿村・新池村三役人連印答書〔両村町屋敷除 高の由来。参勤人馬継立御用にて手当引の旨〕 名 主仁兵衛外五名 同前宛 天保五年一月	一通く 三五
東福寺村・中沢村有地改大概一紙 勘定役池田 良右衛門・春日儀左衛門外四名 天保二年四月	一通く 六三
杵淵村有地改取箇一件綴込伺書 郡方 天保 二年	一通く 四四
1 郡奉行連名伺書并附札〔杵淵村有地改取箇の 件〕 岡嶋・金児・竹村 一一月	一通
2 杵淵村当丑有地改品々御取箇伺 小林・片桐 外二名 丑一一月	一通 横長美 飯一冊
3 杵淵村当丑有地改除地伺〔典厩寺境内、用水 堰土手等〕 同前 同月	一通 横長美 飯一冊
4 杵淵村典厩寺答書〔当寺境内并五石高引は承応 年中に御朱印頂戴のことにて、此度も高除とさ れたき旨〕（奥書、三役人、頭立小前惣代） 有 地改役人中宛 天保二年三月	一通
上宮野尾村外年貢地改并取箇一件綴込伺書 郡方（天保二年カ）三月	一通く 四五

1 郡方伺書并附札〔上宮野尾村、吉窪村、下小嶋田 村三ヶ村高請并冥加級上納の場所改め、取箇の 件〕 三月	一通
2 上宮野尾村外二ヶ村有地改取箇伺書 勘定 役池田・半田立合清野新之助 三月	一通 横長半 飯一冊
封筒〔関谷村有地改伺。七〇九〜七二三番在中〕 郡 奉行磯田音門 嘉永四年四月	一点く 七八
関谷村有地改一件綴込伺書 磯田音門	一通く 七九
1 郡奉行連名伺書并附札〔関谷村より有地改出 願の件〕 岡嶋・莊蔵・竹村・金吾・山寺源太夫・磯 田音門（勝手掛家老宛） 四月	一通
2 代官西沢軍治伺書〔支配関谷村地所混雑につ き有地改出願の件〕 三月	一通
3 関谷村惣百姓并諸村入作人連印願書〔当村 水帳は寛文六年のものにて地所不明。当秋有 地改ありたき旨〕 名主嘉次郎外一四七名 代 官所宛 嘉永四年三月	一通 美 飯一冊
4 関谷村惣百姓并諸村入作人連印請書〔有地 改は人別、納所迄の明白化に他意なきこと、地目 變更に異議を唱えざること、役人賄い、筆墨代等 は村方の負担たる旨〕 同前 郡奉行所宛 同 月	一通 美 飯一冊
関谷村有地改掛り役人名前書〔改元々春日儀左 衛門、改先竿馬場忠吾・宮本慎助、同書役兼丸山保 次、書役北嶋元之助〕 磯田	一通く 七二
恩田頼母差函書〔別紙同附札の通り心得べき旨〕 磯田宛 四月二九日	一通く 七三
関谷村亥有地改品々御取箇伺〔本田、新田高、 免、本口粗敷、小役、郡役の明細書立〕 春日・馬 場外三名 嘉永四年二月	一通 横長半 飯一冊く 七〇

関谷村取箇勘定書

○

検地条目写并寺社領検地定書〔真田領朱印高并書上新田高と合致するよう水帳を極めるべきこと、寺社領検地、荒所の処置方等〕（年月ナシ）

包紙一通く六五  
一四枚く四二

田畑石盛

○地所見分

東寺尾村蚕中新三味場取立一件綴込書 文政三年

一通く七三

1 勘定役・徒目付連名同書〔東寺尾村蚕中新三味場取立につき間数見分のところ、高除の代わりに地代金一兩を願たる件〕 片桐元吉・立合坂西喜平太 五月

一通

2 東寺尾村地主・三役人連印請書〔自分持地に蚕中新三味場を命ぜられたること承知。相応の地代金下されたき旨〕 持主伴左衛門外四名 片桐・坂西宛 文政三年五月

一通

3 東寺尾村三役人請書〔当村畑地に蚕中新三味場取立のこと承知の旨〕 名主吉兵衛外三名 同前宛 同月

一通

東寺尾村蚕中新三味場絵図

一通く六九

佐野村外二ヶ村場所見分綴込申上書 文政一三年四月

一通く一六四

1 郡方申上書〔佐野村堰筋、菅野村溜池普請、湯田中村割山らの件につき見分掛り勘定役、別紙の通り復命の旨〕 四月

一通

2 勘定役申上書〔佐野村田直し水引堰筋を見分のところ用水の差支はなけれど普請入料は多額のこと等同前三件の見分詳細報告〕 小林三左衛門・水井忠藏・宮原繁之助 四月

横長半

仮一冊

3 湯田中村三役人・頭立小前惣代連印願書〔当村秣場人別割山見分の件〕 名主善右衛門外四名 小林外二名宛 文政一三年四月

美

一綴

（郡奉行伺書并附札）〔勘定役別紙伺書の通り申渡すべきやの旨〕 九月

一通く一五

○五十平村新屋敷地改同紙〔同村孫市新屋敷願につき、増高の分は永引高のうちに起高としたき旨〕 勘定役伊藤栄治・小林佐兵衛・立合徒目付清野新之助 天保一二年九月

横長半

仮一冊

南俣村願人・三役人連印願書〔市兵衛所持地家影となり作毛不良につき屋敷地とし、畑二斗余を田方高請したく検使見分出願〕 願人市兵衛外三名 郡奉行所宛 万延二年三月

美

一綴く一六五

勘定役連名申上書草案〔紺屋町彦兵衛所持の中沢村分地一五四坪、地代金一五兩余の地所内改めの件〕 水野惣兵衛・堀内莊治

一通く八五

包紙〔東寺尾村、網掛村地所見分一件〕 立合徒目付久保祐助・勘定役宮沢義兵衛・佐藤民治

一点く八五

勘定役・徒目付連名同書〔東寺尾村起返本田高一九石余の内、岩崎主馬持高并村中分の引訳明細〕 宮沢外二名 二月

一通く八五

東寺尾村誓書草案〔和談にて起返地を絵図墨引の通り岩崎と引訳たる旨〕

一通く八五

勘定役連名同書〔東寺尾村手充引高四斗につき村方不調法あり、本口糶三斗余上納を命ぜられたき旨〕 宮沢・佐藤 二月

一通く八五

勘定役宮沢義兵衛申上書〔綱掛村川欠起返地見分のところ地生回復ニ付増免を申出たる旨〕八月	一通	六五 4	大豆嶋村重吉答書〔同前割地の件、当惑至極の旨〕同前宛 同月	一通	六六 2
聖沢村三役人歎願書〔嘉永二年高請の開発地、人手不足にて荒地となるにより見分出願〕名主龍藏外二名〔奥書、同村世話方中牧村中村良左衛門〕郡奉行所宛 明治二年四月	一綴	四三 1	梶平村願人・三役人連印請書〔当村のうち一反余の新田高請許可につき今年より年貢上納すべき旨〕願人又左衛門外六名 勘定役入安兵衛・徒目付佐竹周藏宛 文政八年八月	一通	六九
郡奉行岡野敬一郎申上書草案〔同前の件。勘定役見分につき立合の徒目付一人の出役を命ぜられたき旨〕	一通	四三 2	新町村三役人請書〔古川欠引高三石余起高を命ぜられ当節御請いたす旨〕名主彦右衛門外四名 勘定役入安兵衛・池田良右衛門宛 文政一二年一〇月	一通	四六
郡奉行連名伺書草案〔同前件、別紙復命の通り聞濟まされたき旨〕草間一路・佐藤美与喜・岡野敬一郎・助岸善八 九月	一通	四三 3	中山新田村組訳高辻書上 名主新右衛門外三役人・頭立小前惣代等六名 勘定所元々役所宛 天保三年二月	一通	四六
○地所・石高			千本柳村三役人願書〔起返地坪掛りにて年貢割付したところ多右衛門分超過となり同人承服せず。寺院仲裁も不調ゆえ同人召出し理解申聞かせられたき旨〕名主勝左衛門外二名 勘定役中村孝太夫・入安兵衛宛 天保四年二月	一通	五〇 1
封筒〔東寺尾村福德寺田地見分一件、八三九・八四一番在中〕郡奉行菅沼九左衛門 文化一〇年一二月	一点	六三	千本柳村多右衛門・勝五郎連印答書〔自分所持高は二斗余なるを村役人割付は六斗余となすにより上納を拒否の旨〕同前宛 (年月ナシ)	一通	五〇 2
東寺尾村福德寺・三役人連印請書〔当村高辻のうち福德寺持分四斗余の田地一〇ヶ年高除、年季明けの節、此度改の通り処置すべき旨〕福德寺役代清右衛門外四名 勘定役長岡助右衛門外二名宛 文化一〇年十一月	一通	六三	矢代村堰敷家作出入一件留書〔幸之助堰敷引高地の名目紛議。嘉永四年一〇月より安政三年四月までの請書、詫証文、済口証文等五通分の写〕〔安政三年カ〕	一通	六三
東寺尾村三役人請書〔同 前〕名主吉兵衛外三名 同前宛 同月	一通	六四	中津村・東福寺村三役人連印答書写〔当村猫嶋東畔本田の譲引直段の件。上畑五〇坪一俵として代金五両の旨外〕 (年月ナシ)	一通	七五
勘定役・徒目付連名申上書〔福德寺持分一〇ヶ年高引の場所見分復命〕長岡助右衛門・佐藤小文治・立合竹花永治 閏十一月	一通	六二			
大豆嶋村重吉答書〔当二日、自分女房家中の侍に欠訴の件。自分高請地を村中持として割地となる旨〕代官所宛 文政四年五月	一通	六六 1			

家老望月治部左衛門達書写〔近年用達金尽力の褒賞として彦九郎所持田地年貢を新田の扱いとなす旨〕 小布施町市村彦九郎宛 (安永元年) 二月十五日

郡奉行連名達書写 (彦九郎小河原村に所持の田地二石余を免一ツの新田となし年貢は代官所へ直納の旨) 祿津要左衛門・成沢勘左衛門 同前宛 安永元年二月

市村彦兵衛書状 (願の件聞済みになるとのこと有難し、金子差上げの時期は近日中に申上げる旨) 勘定役酒井市治宛 (明治元年々々) 四月二日

市村彦兵衛書状 (内願の件。自分所持小河原村分畑譲渡ニ付金子の額に行違ひ出来、整い次第金子上納の旨) 預所元々役太田藤左衛門宛 五月一日

市村彦兵衛願書 (自分直納地二石余譲渡代金の内三百兩一月中旬に差出すべく、内願の件執成方頼入) 酒井市治・水野清右衛門宛 明治元年九月

市村彦兵衛書状 (近々金子請取の時期ニ付、内願の件しかるべく願上げの旨) 酒井宛 十一月二日

○高名目違い吟味

袋 (西寺尾村御札一卷、八一六〇番在中) 勘定役入安兵衛・関田守之丞 天保三年九月

勘定役連名申上書草案 (西寺尾村源吉訴訟の件、同人本家安右衛門より久治郎へ地所譲渡ニ付高名目違い穿鑿の旨) (入・関田カ) 八月

勘定役連名申上書 (同前の件。天明八年、文化七年名寄帳等吟味の結果報告) 入・関田 八月

一通く一六六

一通く一六七

一通く一六九

一通く一六八  
包紙一通

一通く一六九

一通く一六六  
包紙一通

一点く一八五

一通く一八六

一通く一八六

西寺尾村源吉訴状要旨〔無面の地所取扱のこと、午新田丑起畑の二ヶ所は源吉方にあること、本田へ新田高付をなしたること等〕

源吉訴訟一件詮議覚書 (川欠引高は役人頭立に取込置き人別へ割合わざること、文政七年の川欠繰返取の取扱ひのこと等三件につき引帳と名寄帳と照合すべきこと) 九月

源吉訴訟一件詮議覚書 (水帳分付引合のこと、源吉地所と安右衛門地所との関係、引高と孕新田との関係)

新田地所代金請取切手写 (金一両余、午高請新田六番割の一割) 久次郎 安右衛門宛 天保三年五月

源吉訴訟一件詮議覚書 (引高と名寄帳との相違箇所の件、文政名寄帳取寄せのこと、同年給所分蔵本名寄帳取寄せのこと等)

源吉訴訟一件詮議覚書 (文政七年川欠時の繰返取の取扱方、古川欠引高帳のうち杵淵村にて五斗佐吉名前にて記載あること、川欠引高の取割元帳を破棄の件、割戻しの引当となるべき書類の提出命令等)

源吉訴訟一件詮議覚書 (地所は一ヶ所にして安右衛門、久二郎兩名とも名寄帳に記載あること、地所なく高辻ばかりの所へ役人印形の件、安右衛門呼出し、源吉へ親類組合をもつて尋ねのこと等)

源吉訴訟一件詮議覚書 (左忠太へ心得違いの答書をとるべきや、安右衛門地所引渡の節の取計方につき尋問すべきや等)

某意見書草案 (孕新田を給所へは立てがたく、本納の方へ立つれば引高とも立戻るべき旨等)

一通く一八七

一通く一八八

一通く一八九

一通く一九〇

一通く一九一

一通く一九三

一通く一九三

一通く一九六

一通く一九六

源吉訴訟一件詮議覚書〔源吉先祖佐吉の別家は  
天明二年のこと、午高請新田の八斗余の所在のこ  
と等〕

一通く 六三

勘定役連名達書控〔名寄帳取調への上勘定所へ報  
告すべき旨〕 入・関田 西寺尾村三役人宛 一〇  
月二三日

一通く 六四

勘定役連名達書控〔源吉住居の地は佐吉別家時と  
異同あるや、報告すべき旨〕 同前 同前宛 一〇  
月二四日

一通く 六七

勘定役連名達書控〔源吉所持田畑に川辺のもの有  
無の件等、報告すべき旨〕 同前 同前宛 一一月  
二日

一通く 六五

封筒〔押鐘村畑地抜讓渡吟味一件 六四八、六五七  
番在中〕 郡奉行金児丈助 天保一〇年三月

一点く 六七

押鐘村三役人・頭立惣代連印願書〔当村神主原  
伊勢妹婿市左衛門へ同村清右衛門より讓渡の畑地  
につき村役人による竿入高訳は不可との件〕 名  
主茂兵衛外三名 代官所宛 天保八年八月

一通く 六六

代官依田甚兵衛同書〔神主所持田畑に不審あり、  
吟味ありたき旨〕 一二月

一通く 六九

押鐘村名主茂兵衛請書〔讓り地一件につき職  
奉行所への申立てを怠り不調法の旨〕 職奉行所  
宛 天保八年二月

一綴く 六五

押鐘村三役人・頭立等連印願書〔讓り地につき  
村方にて高訳するは不法と知り、神主に返還を求  
めるも肯んぜざる旨〕 未年名主文五郎外四名  
代官所宛 同月

一通く 六六

押鐘村清右衛門答書〔高抜讓渡は重罪と知り、讓  
り地の返還を求めるも太四郎ら今に応ぜざる旨〕  
〔奥書、三役人〕 郡奉行所宛 天保一〇年三月

一通く 六三

原伊勢下判太四郎答書〔讓り地一件、今まで返還  
を等閑になし一言申訳なき旨〕〔奥書、三役人〕 同  
前宛 同月

一通く 六四

押鐘村未酉年三役人答書〔太四郎、清右衛門の頼  
むに任せて讓り地に立合て高訳し、高地に自己と  
して家作をさせたること。一件事実経過〕 酉年名  
主茂兵衛外三名〔奥書、同村組頭・長百姓〕 同前  
宛 同月

一通く 六五

郡奉行所連名同書并附札〔讓り地一件につき清  
右衛門、神主、村役人らに過料、叱りなど処罰申付  
たき旨。許可附札〕 寺内多宮・岡嶋莊藏・金児丈  
助 三月

一通く 六〇

押鐘村吟味人・同親類組合・三役人連印請書  
〔二同への処罰申渡書の趣承知の旨〕 清右衛門・  
原伊勢判下太四郎外九名 郡奉行所宛 天保一〇  
年三月二八日

一通く 六七

押鐘村吟味人・同親類・三役人連印申上書〔市  
左衛門の家作引払い地所返還したる旨〕 清右衛  
門、太四郎外四名 同前宛 同年四月五日

一通く 六三

○村内地境論

袋〔文政一〇、一一年五十平村佐市、武平治地境一件  
一六九九、一七〇四番在中〕 代官中村有之助  
二月

一点く 六六

代官中村有之助申上書〔支配五十平村佐市と武  
平治との地境論 手詮議にては落着せず御吟味あ  
りたき旨〕 〔郡奉行所宛〕 〔文政一一年〕二月

一通く 六九

五十平村地境一件詮議覚書〔佐市、畑境に石垣をなし二〇年以前より存在と主張の件、耕作通道を切起して畑になしたる件等〕 二月

一件立入人申上書〔畑境石積の件、去年七月以来内済を試みるも佐市承服せず。よって手切れの旨、瀬脇村庄右衛門・椿詰村九兵衛・市兵衛 代官所宛 文政一〇年十一月

五十平村一件訴答人・三役人連印日延願書〔来正月まで吟味猶予ありたき旨〕 佐市・宇兵衛外五名 同前宛 同月

一件立入人日延願書〔佐市町宿預け命ぜられ先非後悔、よって内済を調えたく明日まで吟味日延願上げ〕 布施高田村伊右衛門・伊勢町宿栄左衛門 郡奉行所宛 文政一一年一月一日

五十平村地境紛議一件内済証文〔石積取払い、畑畔の道筋を極め、土蔵はそのままとるべきこと〕 佐市・宇兵衛・三役人・立入人等九名 同前宛 同月

質 地

封筒〔杭瀬下村儀太夫實地出入一件 七八八〇番在中〕 戊〔文政九年〕 八月

職奉行石倉源五左衛門書状〔中之条陣屋より到来の添簡、質地滞金濟方一件書類を送付。その他の事案〕 岡嶋莊藏宛 八月晦日

内川村百姓名前書〔一件召喚者人名〕

幕領杭瀬下村儀太夫目安写〔真田領内川村良左衛門、同村孫之丞、志川村三四郎、矢代村儀助ら質入代金、貸金の返済滞りの件〕〔奥書、名主啓右衛門〕 真田伊豆守役場宛 文政九年八月

一通く七〇〇

一通く七〇二

一通く七〇三

一通く七〇三

一通く七〇四

一点く七六七

一通く七六八

一通く七六九

一綴く七九〇

内川村良左衛門質地証文写〔高二石五斗、質地代金一五兩。三年季直小作、毎年入上扱代金一兩三分〕〔加判孫之丞、奥書三役人〕 儀太夫宛 文化一一年十二月

内川村孫之丞・孫右衛門連印質地証文写〔高二石余、質地代金一五兩。三年季直小作、入上扱代金一兩三步余〕〔請人三郎左衛門、奥書三役人〕 同前宛 文化一三年十二月

内川村孫之丞・孫右衛門連印質地証文写〔高二石余、質入代金三〇兩。三年季直小作、入上扱代金三兩余〕〔請人良左衛門、奥書名主三郎左衛門〕 同前宛 文化一四年五月

内川村三役人届書〔公事当事者、召出につき参着の旨〕 名主佐次右衛門外二名 郡奉行所宛 文政九年九月

内川村借主・立入人・三役人等連印日延願書〔儀太夫出訴の件、濟方命ぜられ承知。濟口は八日迄延期ありたき旨〕 立入人繁藏・借主孫之丞等一〇名 同前宛 同年九月一日

内川村借主・立入人・三役人等連印日延願書〔良左衛門の件は濟方完了するも、三郎右衛門分は利子の扱いにて難航〕 三郎右衛門外七名 同前宛 九月八日

立入人連印日延願書〔貸金一件吟味、当月晦日まで日延ありたき旨〕 寺尾村三郎次・幕領柏王村権左衛門 同前宛 九月一八日

立入人連印日延願書〔来る一三日まで日延〕 同前 同前宛 文政九年一〇月

立入人連印日延願書〔三郎右衛門分は落着、孫之丞分は不調。来る二三日まで日延〕 同前 同前宛 一〇月一四日

一通く七二

一通く七三

一通く七三

一通く七四

一通く七五

一通く七六

一通く七七

一通く七八

一通く七九



内川村借主・三役人等連印請書（当月一〇日まで  
に濟方命ぜられたること承知の旨） 孫之丞外  
四名 同前宛 文政九年一〇月

一通く 八〇  
包紙一

封筒（杭瀬下村儀太夫質地代金一件内濟書類） 郡  
奉行岡嶋莊藏 文政九年一二月

一点く 八二

1 杭瀬下村儀太夫届書（質地代金訴訟、濟方出来  
の旨） 松代郡奉行所宛 文政九年一二月二三  
日

一通

2 内川村借主・三役人・立入人等連印濟口証文  
（質地代金滞り一件内濟出来、各代金減額によつ  
て和談の旨） 良右衛門、孫之丞等八名、郡奉行  
所宛 文政九年一二月

一通

上小嶋田村富右衛門質地証文（高三石、代金二  
〇兩、五年季）（合地証人善吉）（宛所ナシ） 文  
政九年

一通く 六五

中牧村役代人太右衛門田地預り証文（田畑三  
斗余質地にわたすも自分役代勤めるにより田地を  
預ること、入上叔五俵の旨）（加印、合地請人徳右  
衛門、三役人等六名） 赤田村専照寺役僧中宛 文  
政一三年一二月

一通く 八七

須坂上町久左衛門代人送り状写（円八より久左  
衛門へ質入の田地、文政七年に福嶋村民吉へ再質  
入。此度質地請戻しにつき民吉との為取替証文を  
送る旨） 久左衛門親類幸四郎 福嶋村円八宛  
天保三年二月

一通 七五

福嶋村円八質地証文写（田地四斗余代金五兩。金  
子出来の節は田地を戻されたき旨）（請人半三郎、  
裏書福嶋村民吉主字右衛門） 久左衛門宛 文政五  
年一二月

一通 七五

福嶋村民吉質地為取替証文写（田地二筆代金五  
兩五年季にて質地預り、五年以後は何時にても金  
子返済のうえ田地戻すべき旨）（請人彦之丞 円八）  
久左衛門宛 文政七年一二月

一通く 七五

須坂上町久左衛門質地為取替証文写（同前件。  
五ヶ年は請戻すまじく、その後は何ヶ年にも金  
子出来のうえ田地を戻されたき旨）（請人、福嶋村  
円八） 民吉宛 同月

一通く 七五

封筒（町川田村和太吉、須坂領綿内村如法寺江質地  
一件書類。七五八・七六五番在中） 郡奉行金児丈  
助（天保一三年）一二月二三日

一点く 七五

代官西沢軍治伺書（支配町川田村和太吉質地請戻  
し一件、吟味願） 一二月

一通く 七五  
包紙一

町川田村和太吉并同人代人・親類願書（自分養  
父、如法寺より金一二兩借用の際の質地の件。金子  
返済するも流地として田地請戻しを拒否の旨）（奥  
書、三役人） 代官所宛 天保一三年一二月

一通く 七五

町川田村今吉親類組合惣代・三役人并町宿連  
印請書（今吉吟味中、手鎖、腰繩にて町宿預けのこと  
承知の旨） 名主久助外五名、郡奉行所宛 同月

一通く 七六

町川田村今吉答書（如法寺より借用金子は一〇兩  
と二二兩との二件あり、田地一石余は書入と質地  
の二重たること。和太吉も承知のことにて自分を  
相手取訴訟をなすは心外の旨）（奥書、三役人） 同  
前宛 同月

一通く 七六

町川田村九郎治金子借用証文写（金一〇兩年利  
九分、田地一石三斗を引当の旨）（請人今吉） 如  
法寺桂峯和尚宛 天保九年一二月

一通く 七三

町川田村九郎治質地証文(田地一石三斗地代金二兩・金子返済次第請戻すべき旨)(請人今吉・久右衛門・奥書、吉治) 同前宛 同月

一通く六七

質地紛議一件済口証文(和太吉より質地代金納入にて請戻し和談の旨) 願人(和太吉・相手今吉・立入人鍛冶町権左衛門等八名(奥書、町川田村三役人) 郡奉行所宛 天保一三年一二月

一通く六七

町川田村和太吉親類系図(和太吉、今吉、如法寺住持の間柄)

一通く六七

御用地

封筒(喰違御前裁、普請方へ返地一件) 郡方 文政四年八月

一点く六七

1 喰違物見跡請取証文(不用につき地所引渡あり、請取たる旨) 郡奉行金井善兵衛・渡辺友右衛門・金井甚五左衛門・普請奉行金井縫殿丞・三沢万右衛門・望月権之進宛 享和三年一二月

一通

2 喰違跡御用地引渡証文控 郡奉行岡嶋莊藏・鹿野外守・金井左源太・普請奉行上村何右衛門・堀田寛兵衛・興津権右衛門・藤田右仲宛 文政四年八月

一通

3 喰違跡御用地引渡証文 上村外三名 金井外二名宛 同月

一通

坂口条左衛門役代等連印請書(清須町浦騎射場跡、御小作請開発場年貢の件。来年は増上納すべき旨) 坂口役代金右衛門・増田助之丞役代喜八・勘定役小林三左衛門外二名 文政一一年一月

一通く六七

御焰硝藏野火除地場所開発一件綴込伺書 郡方 天保四年

一綴く六七

1 郡方伺書并附札(東寺尾村野火除地を田中村孫左衛門ら開発の件。許可附札) 四月

一通

2 勘定役丸山平左衛門伺書(別紙出願の件許可ありたき旨) (郡方宛) 四月

一通

3 東寺尾村三役人願書(当村分地焰硝藏野火除地開発の件、村方にて引請人なく地所返上したき旨) 名主喜左衛門外三名 丸山宛 天保四年四月

一通

4 開発願人連印願書(同前場所、桑、楮の試植をなすゆえ四ヶ年冥加、年貢免除ありたき旨) 田中村孫左衛門・荒神町佐吉・三郎左衛門 丸山宛 同月

一通

欠落者跡御用地地下一件綴込伺書 郡方 天保七年

一綴く二六

1 郡方伺書并附札(私曲欠落人持地につき親類方より頂戴願の件。許可附札) 郡方 八月

一通

2 私曲欠落御除帳、重三郎御拝借并他借共御書上帳 下横田村三役人 代官所宛 天保七年七月

横長美 仮一冊

3 私曲欠落御除帳、佐重郎御拝借并他借共御書上帳 同年 同前宛 同月

横長美

一冊

4 代官岡部八十喜伺書(文化年中私曲欠落二名の持地につき別紙出願の通り許可ありたき旨) 八月

一通

5 下横田村三役人願書(欠落二名の負債并済の親類ら難渋につき、冥加金上納のうえ引上御用田地を頂戴したき旨) 名主平助外二名 代官所宛 天保七年八月

一通

勘定役連名申上書（中沢村分地紺屋町彦兵衛所持の猫嶋東仲の地所の坪数、石高、地代金等報告） 小野左金太・堀内莊治（嘉永五年）七月	一通く 七 1	五十平村上組三役人答書（利惣太田地荒置の件、虫付の由を申せども偽りにて此度手入れしたるに相違なき旨） 名主治右衛門外三名 町田権之助宛 天保一二年九月	一通く 八三
紺屋町飯嶋彦兵衛答書（猫嶋東仲の地所、御用地となすに差障有無の件。承知の旨） 小野・堀内宛 嘉永五年八月	一通く 七 2	五十平村三役人・利惣太加判惣代等連印縫り書（一件吟味赦免執成方） 子年名主三郎治外九名 性乗寺宛 同年一二月	一通く 八三
水内村安用組平組三役人・願人惣代等連名願書（先年当村一六人 赤田村吉郎兵衛より借金につき書入地所は天保五年同人より献上にて御用地となる。今般金七〇兩にて払下げられたき旨） 惣代 本道十七歳外八名 元松代県役所宛 明治四年一二月	一綴く 七四 美	岩草村性乗寺歎願書（一件吟味赦免方） 郡奉行所宛 同月	一通く 八四
民事掛り伺書（同前の件） 一二月一三日	一通く 八五	出作、入作 ○天保五年団右衛門役代一件	
耕 作		封筒（上五明村入作坂木村団右衛門一件并九郎治跡式混雜一件書類、八七七、九一一番在中）	一点く 八六
封筒（五十平村欠落跡地手入方等閑吟味一件書類、八〇八、八一四番在中） 郡奉行岡嶋莊藏 天保一二年一二月	一点く 八七	上五明村三役人・永長百姓・頭立小前惣代連印願書（当村入作人幕領坂木村団右衛門、役代勤方につき郷法違反をなすにより是正方出願） 名主栄五郎外一〇名 代官所宛 天保五年三月	一通く 八二
五十平村吟味人名前書（名主治右衛門・組頭吉藏・利惣太加判惣代喜兵衛外八名）	一通く 八八	上五明村養右衛門吟味答書（役代勤方の件。地親団右衛門の言に従いたるもの、郷法違反頭取をなし一言申訳なき旨） （奥書、上五明村三役人） 郡奉行所宛 同年四月	一通く 八三
利惣太跡地一件諸書付写（天保一二年三月付加判八名連印の吟味赦免の願書、同四月付組合七名の手入等閑についての答書）	一綴く 八〇 半	上五明村重吉吟味答書（同前の件。郡役人足勤めのみとのことに承知せし旨） （奥書同前） 同前宛 同月	一通く 八九
五十平村上組名主治右衛門・組頭吉藏連印申上書（欠落跡地手入等閑にて此責を蒙る。当暮は荒地となさざる旨） 勘定所元へ役所宛 天保一二年八月一三日	一通く 八二	上五明村勝郎治吟味答書（同前の件。団右衛門、養右衛門、重吉より郡役勤方を頼まれ承知、小作人一同に連印を勧めたる旨） （奥書同前） 同前宛 同月	一通く 九六
勘定所元へ役町田権之助申上書（利惣太跡地手入れ等閑の件見分報告。応急の作付の跡にて荒置は紛れ無き旨） （郡奉行岡嶋宛） 九月一日	一通く 八九		

上五明村良右衛門吟味答書〔同前の件。養右衛門等三名より頼まれ承知、四名惣代は闕引にて定たるとは偽りの旨〕（奥書同前） 同前宛 同月	一通く九〇五	團右衛門役代紛議一件済口証文〔役代請負書付は消印とし、役代は相對のうえ村役元の取計らいとなす旨〕 坂木村團右衛門、上五明村三役人・永長百姓、頭立惣代・團右衛門小作人、立入人中町郷宿東作等二四名 天保五年六月	一通く八〇四
上五明村金作口書〔同前の件。養右衛門らの勧めにて郡役人足引受規定帳に連印せし旨〕（奥書、親類・組合惣代） 役人衆中宛 午（天保五年） 四月	一通く九〇三	真田家郡奉行連名書狀案〔團右衛門歎願の件にて添簡の趣承知。此度示談整い吟味流しの旨〕 興津・岡嶋・金兒 中之条代官所森規三郎宛 六月六日	一通く八〇五
上五明村小兵衛口書〔同前の件。小作田地引上げにて脅され連印に加わりたる旨〕（奥書同前） 同前宛 同月	一通く九〇四	○天保一二年團右衛門夫銀等紛議	
上五明村庄松口書〔同前の件。四人の他に発頭人は知らざる旨〕（奥書同前） 同前宛 同月	一通く九〇七	包紙〔坂木村團右衛門小作叔紛議一件、一八五〇二〇八番在中〕 郡奉行金兒丈助 天保一二年	一点く一八四
上五明村藤右衛門口書〔同前の件〕（奥書同前） 同前宛 同月	一通く九〇八	上五明村三役人聞置届書〔出作坂木村團右衛門、役代叔并文化年中の出入夫銀を不払い。これを請求するに本年貢上納を拒絶しおる旨〕 名主惣右衛門外二名 代官宛 天保一二年四月	一通く一八五
上五明村兵左衛門口書〔同前の件〕（奥書同前） 同前宛 同月	一通く九一〇	坂木村入作團右衛門御上納并一件夫銀滞金取調帳 上五明村三役人・掛り合新右衛門・良助外四名 代官所宛 同年六月	一冊く二〇三
坂木村團右衛門継り書〔上五明村出作田地役代の件は名主へ届済みのこと。されば出訴の謂なく吟味中の四名ら赦免ありたき旨〕 松代役所宛 同年五月	一通く八〇三	坂木村團右衛門内願書〔上五明村小作人、小作叔未進にて年貢上納差支につき善処ありたき旨〕 郡奉行所宛 同月	一通く一八六
上五明村小作人不納一件書付写〔元文二年、團右衛門の上五明村小作人らの小作叔、役代滞り一件の訴状、内済証文の写〕（團右衛門）（同前宛 同月）	一通く八〇六	小作未進名前書 内願人團右衛門	一冊く二〇三
坂木村團右衛門提出書付写〔元文二年内済証文、天保五年継り書等の写〕	一綴く九二一	團右衛門小作人連印答書〔小作叔未進の件。團右衛門小作叔増額を申付るによる旨〕 政五郎・金作外五名（奥書、上五明村三役人） 代官所宛 天保一二年六月	一綴く二〇四
封筒〔坂木村團右衛門役代一件内済書類、八〇三・八〇六番在中〕 郡奉行興津権右衛門 天保五年六月	一点く八〇三	坂木村團右衛門小作人別年貢滞取調帳 上五明村政五郎・金作、良右衛門、平太、兵左衛門、曾右衛門、徳左衛門 同前宛 同月	一冊く二〇二

坂木村団右衛門内願書（小作糶を上五明村名主惣右衛門押取不法 これを解除されたき旨） 郡奉行所宛 同月

一通く一七

上五明村三役人・掛り合人連印答書（団右衛門分小作糶差押の件。団右衛門年貢上納滞りのため旨） 名主惣右衛門外五名 代官所宛 同月

一綴く三〇五

天保五年団右衛門役代紛議一件済口証文写（八〇四番の写）

一綴く三〇六

天保五年団右衛門役代紛議一件済口証文写（八〇四番の写）（天保一二年七月二三日）

一綴く三〇七

坂木村団右衛門小作未進済方切手請取置候写上五明村三役人 天保一二年七月

一冊く三〇八

上五明村小作人惣代・三役人連印届書（小作糶納入方済みたる旨） 兵左衛門外三名 代官所宛 同月五日

一通く一八

坂木村団右衛門願書（小作糶皆済につき先の願書を下げられたき旨） 郡奉行所宛 同月九日

一通く一八

坂木村団右衛門欠込訴状（上五明村の小作糶を名主惣右衛門押領、この返還を郡奉行所に訴えるも取上げなき旨） 上（真田家）宛 天保一二年八月

一通く一九

家老望月主水差図書（団右衛門、目付へ欠訴につき郡奉行所へ訴状提出を命ず。その段心得あるべき旨） 郡奉行金児丈助宛 九月一日

一通く一九

目付宮嶋守人書状（団右衛門駈込願いにつき御用番家老より郡奉行所への引渡しを命ぜられたる旨） 同前宛 同日

一通く一九

坂木村団右衛門日延願書（小作糶一件吟味中なれど中之条陣屋より急用につき当二〇日まで日延べありたき旨） 郡奉行所宛 天保一二年九月六日

一通く一八

坂木村団右衛門并代人七郎右衛門連印願書（団右衛門病氣につき代人をもつて訴訟御答をなしたき旨） 同前宛 九月一四日

一通く一九

代人七郎右衛門日延願書（立入人示談あるにより二五日まで延期） 同前宛 九月一八日

一通く一九

代人七郎右衛門日延願書（団右衛門病氣全快まで延期） 同前宛 九月二四日

一通く一九

坂木村団右衛門日延願書（同前） 同前宛 丑（天保一二年）一〇月七日

一通く一九

小作糶差押一件済口証文（糶子は団右衛門に返還、未進年貢役代糶、夫銀等を減額一五ヶ年賦納入の旨） 坂木村団右衛門・同親類、上五明村三役人・役前惣代三名、立入人二名 郡奉行所宛 天保一二年一二月七日

一通く二〇

小作糶一件出頭者名前書（坂木、上五明両村百姓、立入人。内済証文の届人カ） 一二月七日

一通く一九

郡奉行進達書草案（団右衛門駈込訴の件。町宿扱にて内済調いたる段報告） 七日

一通く一九

○天保八一〇年源左衛門役糶等紛議

袋（市村南組入作、栗田村源左衛門分役糶、夫銀一件書類、一四二一五一番在中） 郡奉行岡嶋莊藏（天保八年二月一〇年二月）

一点く二二

市村南組帳元・願惣代連印願書（当村入作栗田村源左衛門、高一石に五斗役の諸掛勘定を一切不納の旨） 帳元林平外三名（奥書、名主兵左衛門）代官所宛 天保八年二月

一通く二三

一件立入人連名伺書〔源左衛門夫銀一件示談不調につき手切の旨〕 新田川合村門之丞・福嶋新田村  
小林忠右衛門 代官所宛 同年七月

代官山田兵次伺書〔同前一件、代官所手限りの処理不調につき吟味ありたき旨〕 一一月

市村南組名主兵左衛門願書〔一件市村側惣代新右衛門病死につき和助・津右衛門に替たき旨〕 郡奉行所宛 天保一〇年二月

栗田村源左衛門申上書写〔当年、源左衛門年貢直上納の年季更新に際して市村側より妨害につき善処ありたき旨。安永期以来の役扱、夫銀、直上納等の由来を記載〕 代官所宛 同年三月

市村南組帳元・願惣代等連印答書〔役扱一件川除普請弁金の取扱方〕 斧助外五名〔奥書、名主〕勘定役関田守之丞・松沢文右衛門宛 同年五月

市村南組帳元・願惣代等連印答書〔一件夫銀明細、利息算出基準、国役銀賦課理由等の諸件〕 同前 御調掛り宛 同年六月

役扱夫銀等紛議一件済口証文〔役料は減額し未納分三九兩余支払い。以後他所出入等は源左衛門にも申談すべき旨〕 市村南組名主兵左衛門外六名、栗田村源左衛門、立入人千田村良水外二名 郡奉行所宛 天保一〇月一二月

市村南組名主兵左衛門請書〔内済和談出来につき提出諸書付の消印〕 同前宛 同月

市村南組入作栗田村源左衛門出入一件書留勘定役春日儀左衛門・関田守之丞・松沢文右衛門 天保一〇年三月一二月

一通く一四

一通く一四

一通く一四

一綴く一四

一通く一四

一通く一四

一通く一四

一通く一五

仮一冊く一五

郡方伺書 并附札〔源左衛門の市村入作四一石余の年貢直上納の件。地元村も差支なきにより更に一〇ヶ年継続を命じたき旨并許可附札〕 〔勝手掛家老宛〕 亥〔天保一〇年カ〕一二月

〇出入作その他

年貢直上納諸件綴

1 布施五明村名主・役頭連印答書〔当村鯉一郎の年貢は直上納、諸夫銀は従前通りとの件。村方は差支なき旨〕 名主勇作外一名 勘定所元々役所宛 嘉永元年七月

2 市村南組名主清太夫答書〔栗田村別上納源左衛門諸懸物明細の件。源左衛門別上納の儀、村方迷惑の旨〕 同前宛 同月

3 上真嶋村三役人答書〔入作下真嶋村善右衛門別上納の件。諸役夫銀等差出しにつき差支なき旨〕 名主初右衛門外三名 同前宛 同月

4 小松原村三役人答書〔入作須坂領松森村・小布施町・飯田領福原松村の者年貢直納の件。夫銀等〔明細回答〕 名主栄之丞外五名 同前宛 同年八月

5 北東条村三役人答書〔入作別上納真光寺村与市の諸懸物の件、明細回答。別上納に村方差支なき旨〕 名主助左衛門外二名 同前宛 同月

下真嶋村善右衛門并上真嶋村三役人連名願書写〔善右衛門出作田地三石余のうち二石を同村百姓に譲渡につき年貢上納方変更〕 北村与右衛門役代善右衛門外四名 安政二年三月

一通く三五

一綴く一五

一通

一綴

一通

一綴

一綴

一綴く一八

○ 小河原東組卯八申上書(当村土地、常八預り地出  
作人より居村百姓へ引取一件。常八は不承知につ  
き善処方ありたき旨) 元ノ役所宛 天保五年正  
月

一通く五

山野・河川

入会山

封筒(御料所永井村麻績町村入会山札一件書類一  
〇六七、一〇七二番在中) 郡奉行祢津要左衛門  
天明二年四月

一点く二六

中之条代官所役人連署状(幕領入会山役札の件  
につき真田領一ヶ村に尋問あり、中之条役所へ  
の出頭を命ぜられたき旨) 飯村藤太夫・沢田勘助  
祢津要左衛門・小川多次宛 四月一日

一通く二七〇  
包紙一

真田家郡奉行連署状控(同前の件、村々へ申渡し  
たる旨) 祢津・小川 飯村・沢田宛 四月一日

一通く二〇六

向八幡村外四ヶ村三役人連印御訴書(入会山  
の札役の件、赦免願うも聞済みなきにより日延べ  
願いたる旨) 向八幡・小舟 内川・上徳間、千本  
柳村三役人 郡奉行所宛 天明二年四月一八日

一通く二〇七  
包紙一

真田家領更級郡諸村名主連印御訴書(入会山  
札の札米一件、中之条代官へ容赦方出願し許容あ  
りし旨。経過報告) 網掛、五明、力石、上平、新  
山、若宮、須坂、徳間、内川、千本柳、向八幡村名  
主 奉行所宛 (年月ナシ)

一通く二〇七

飯村藤太夫書状(入会山札一件、一ヶ村難渋の  
書付提出したるにより承届置きたる旨) 祢津・小  
川宛 四月二一日

一通く二〇七

郡奉行連署状控(同前一件有難き旨返札) 祢津・  
小川 飯村宛 四月二三日

一通く二〇六

封筒(東条村諸組入合秣場紛議一件書付并絵図)  
郡奉行富永新平 天明七年二月

一点く二二

東条村三役人・頭立并岩沢組外五組惣代連印  
答書(当村入会山割合、鎌留の規定を巡る組間、大小  
百姓間の紛議の件。村中申合規定の詳細報告) 東  
条村名主笑左衛門外八名、岩沢・菅間・瀬々木・般若  
寺・竹原・中河組惣代一三名 勘定所本ノ役所宛  
天明七年正月

一通く二三

東条村三役人・頭立并岩沢組外五組惣代連印  
答書(一一二番と同文) 同前 代官所宛 同月

一通く二三  
包紙一

岩沢・菅間・瀬々木三ヶ村惣代連印答書(先日  
の答書に惣百姓熟得しおるやの件内々尋ね。相違  
なく熟得の旨) 清治郎外六名 同前宛 同年二  
月

一通く二四

東条村中川・般若寺・竹原三ヶ組惣代連印答書  
(同前) 重左衛門外五名 同前宛 同月

一通く二五

東条村諸組入会山絵図 東条村三役人・頭立、六  
ヶ組惣代計二二名 同前宛 同月

186×65.8

一鋪く二六

下市場村三役人・頭立小前惣代連印請書(下  
市場村と牧野嶋村との入会山帰属争論 出作直上  
納高取扱争論の裁許申渡の請書) 名主兵右衛門  
外四名 郡奉行所宛 天保三年一二月

一通く二二

○文化一〇—文政二年

仙仁村入会山一件

仙仁村三役人・小前惣代等連印御訴書〔幕領枋倉村・中嶋村等四ヶ村名主らより細尾山等三ヶ所の開発高請に異議。郷中相談するも同所は丹蔵・平蔵の持山なれば右申入れは迷惑の旨〕 名主平蔵、組頭要右衛門、長百姓清五郎、頭立丹蔵、小前惣代幸右衛門 代官所宛 文化一〇年十一月

一通く 九八

仙仁山一件論所絵図〔細尾、大キノ入、大ねこう井幕領諸村組合入会山〕 同前 同月

54×76cm

一鋪く 九六

仙仁山一件論所絵図

53×77cm

一鋪く 九〇

仙仁山一件論所絵図 (文政二年カ)

33×55cm

一鋪く 九一

真田領入会山組合諸村山年貢書立〔仙仁村、仁礼村、福嶋村、八町村〕

一通く 九八

仙仁村丹蔵・平蔵連印欠込訴状〔享保八年の野火除印書は郡奉行預りとなり披見も許されず、兩名持山三ヶ所を留山とされ難渋の旨〕 目付役所宛 文化一三年并八月

一通く 五二

仙仁村三役人届書〔文化一二年の山論内済規定書の写。枋倉・中嶋村等一ヶ村と仙仁村との薪伐採、炭焼き等入会山用益規定〕 名主常右衛門、組頭武右衛門・長百姓幸右衛門 徒目付伊藤小一右衛門宛 文化一四年一〇月

一通く 九六

仙仁村丹蔵・平蔵連印答書〔文化一一年に野火除印書取戻しの節、各方面への礼物一覧。金六四兩余〕 同前宛 同年十一月

一通く 九三

享保八年野火除印書写〔八丁村御林の裏は、一ヶ村入会山より野火附にて類焼あるにより当座は諸木伐採を停止されたき旨〕 仙仁村手惣兵衛吉右衛門・八丁村覚之丞・覚之助 享保八年十一月

一通く 五三

仙仁村三役人・小前惣代連印答書〔細尾山等三ヶ所は野火除印書の場所に相違なき旨〕 常右衛門外三名 伊藤宛 文化一四年十一月

一通く 九五

仙仁村丹蔵・平蔵連印答書〔文化一一年の内済規定書調印の経緯、礼金取計方、仙仁村高違い、兩名役中不正嫌疑等諸件の事情説明〕 同前宛 同月

一通く 九五

仙仁村丹蔵・平蔵連印答書〔同前諸件再尋答〕 同前宛 同月

一通く 九六

仙仁村三役人・小前惣代連印答書〔三山帰属問題。丹蔵等その所持の証拠書付を有さず不審の旨〕 同前宛 同月

一通く 九七

仙仁村丹蔵・平蔵連印答書〔高違い一件。寛政五年川欠起返高に貸高などの操作をなした理由尋答〕 伊藤・勘定役町田源左衛門宛 文化一五年二月

一通く 九〇

仙仁村丹蔵・平蔵連印答書〔享保時に丹蔵先祖吉右衛門が野火除印書差出しの理由、三山所持の根拠、文化一一年内済規定書調印の件、貸高操作の件〕 伊藤・勘定役小林三左衛門宛 同年三月

一通く 九六

仙仁村小前惣代・三役人連印答書〔三山所持につき丹蔵高五斗の年貢上納とは同人の高操作の疑いあり。内済規定書のため入会山の焚炭稼ぎ停止となり村方難渋の旨〕 小前惣代政五郎外四名 同前宛 同月

一通く 九二

徒目付・勘定役連名伺書〔入会山焚炭稼ぎ停止に伴う冥加炭免除と小役賦課の件、九六一番に付属カ〕 伊藤・小林 (月付ナシ)

一通く 九三

徒目付・勘定役連名伺書〔村方双方吟味結果の報告。三山村は持山なるを丹蔵・平蔵村役人勤中に横領の疑いある旨〕 同前 三月

一通く 九六



仙仁村丹藏・平藏連印答書〔焚炭稼き停止の内済規定書差出しの理由等四ヶ条〕 伊藤・小林宛 文化一五年三月	一通 1 2 六六
御高増減御書上帳〔寛政五年以来の村民持高の高半 違いの是正一五筆分〕 丹藏・平藏 同前宛 同月	一冊 六三
勘定役・立合徒目付連名伺書〔丹藏ら高遠い取計方不埒につき過料金三〇兩。三山は引上げ大木の入山は丹藏らに下し、大ねつこ。細尾山は村持とされたき旨〕 小林・立合伊藤 三月	横長半 一冊 六七
郡奉行所菅沼九左衛門伺書并附札〔仙仁村一件処置伺。丹藏ら村高不正をなし入会山一件にも疑惑あるにより、吟味中手鎖、組預け。追って過料金三〇兩の旨并許可附札〕 四月	一通 六六
仙仁村平藏親類惣代清藏縫り書〔平藏赦免執成方〕 大英寺役僧宛 文政元年五年	一通 1 六三
仙仁村小兵衛親類組合惣代連印縫り書〔此度訴訟人小兵衛も名主下役勤めの節 丹藏ら高遠いを不吟味とて村預けを命ぜらる。赦免執成方〕 要右衛門・幸右衛門〔奥書 仙仁村三役人〕 同前宛 同月	一通 2 六三
大英寺歎願書〔平藏、小兵衛赦免方〕 郡奉行菅沼九左衛門・鹿野外守・菅沼弥右衛門宛 同月	一通 3 六三
仙仁村丹藏親類惣代大藏縫り書〔丹藏赦免執成方〕 大林寺役僧宛 同月	一通 4 六三
大林寺歎願書〔丹藏赦免方〕 菅沼外二名宛 同月	一通 5 六三
仙仁村一件吟味人連印請書〔落着申渡の請書。丹藏・平藏 三山引上げのうえ過料金三〇兩。小兵衛は過料金三兩の旨〕 頭立丹藏・平藏・小前小兵衛〔奥書 三役人〕 郡奉行所宛 文政元年六月二日	一通 六五

郡奉行菅沼九左衛門伺書〔別紙出願につき山見分方伺い〕 六月	一通 1 六六
仙仁村三役人願書〔引上げの三山、村方へ下渡されたき旨〕 名主常右衛門外二名 郡奉行宛 文政元年六月	一通 2 六六
仙仁村三役人・小前惣代連印請書〔大ねつこ、細尾山は村中へ、大木ノ入は丹藏らへ下渡しのこと承知の旨〕 名主常右衛門外四名 勘定所元々役所宛 同月	一通 六六
仙仁村三役人請書〔当村小前一同に金二五兩下さること承知の旨〕 名主常右衛門外二名 郡奉行所宛 同月	一通 六六
仙仁村一件綴込申上書 郡奉行菅沼九左衛門 六月	一綴 六五
1 郡方申上書〔仙仁村役炭停止による小役、郡役人足の賦課方、山年貢賦課方、二五兩被下金の件〕 六月	一通
2 徒目付・勘定役連名申上書〔三山山年貢の明細等〕 伊藤・小林 同月	一通
3 徒目付・勘定役連名申上書〔小役勘定明細〕 同前 同月	一通
仙仁村小前惣代・三役人連印請書〔被下金二五兩は先日破談の、内済予定の一三〇兩に割合いて項戴のこと承知の旨〕 政五郎外四名 勘定所元々役所宛 同月	一通 六三
仙仁村丹藏平藏子供・親類連印御訴書〔親丹藏・平藏出府途中病氣となり伊勢参宮に変更、帰国まで日延べを願ひおる旨〕 丹藏子治郎右衛門外二名〔奥書 仙仁村三役人〕 代官所宛 文政元年一〇月	一通 六三

仙仁村丹藏親類重三郎御訴書（江戸にて丹藏行方を詮議するも不明の旨）（奥書同前） 同前宛 同月

一通く 九四

仙仁村三役人答書（丹藏ら出府一件につき兩人子供、別紙の通り口書提出せし旨） 名主常右衛門外二名 同前宛 同年十一月

一通く 九五

仙仁村丹藏平藏子供・親類連印誓書（兩名行方捜すも不明の旨） 治郎右衛門外三名 仙仁村役元宛 同月

包紙一通く 九六

勘定吟味役望月權之進書狀写（関口源右衛門の内話に丹藏ら中山備前守家老大貫半助方に潜伏し、幕府若年寄林肥後守に山論一件を出願したるの旨） 菅沼九左衛門宛 十一月二十九日

一綴く 九四

袋（仙仁村丹藏平藏出府一件書類） 郡奉行菅沼九左衛門（文政元年） 十二月

一点く 九五

菅沼九左衛門書狀控（関口氏内話のこと承知、山論一件訴答書類写を心得のため進上の旨）（望月宛） 十二月

一綴く 九五

仙仁村入会山一件諸書付写（文化一〇年十一月一同一二年一〇月間の二通の關係書付の写） 菅沼 十二月

一綴く 九五

包紙（御料所小布施村要吉山出入一件）（菅沼カ） 懸り家老望月頼母宛 辰（文政三年） 五月

一点く 九三

中之条代官所役人連署狀（幕領小布施村要吉より仙仁村名主小兵衛らを相手取り、持山横領出入につき江戸出訴を願ひおる旨） 中嶋小太郎・金田源藏 職奉行竹内藤馬・師岡七郎右衛門・岡野弥右衛門宛（文政二年） 七月二十九日

包紙一通く 九三

小布施村要吉出入一件留書（中之条役人連署狀、要吉出訴願書の写）（詳細は本目録解題参照）

一綴く 九三

真田家郡奉行連署狀控（同前一件承知。丹藏ら不在につき事情判明次第報告する旨） 金井左源太・菅沼九左衛門・鹿野外守・菅沼弥右衛門 中嶋・金田宛 八月

半

一綴く 九三

仙仁村丹藏平藏子供・親類連印答書（三山、小布施村へ質入有無の件。丹藏平藏先月帰国、興国寺などへ駆入りたる旨） 丹藏子治郎右衛門外三名（奥書、三役人） 郡奉行所宛 文政一月八月

一通く 九六

仙仁村十一人惣代・名主連印願書（要吉三山所持の出訴は丹藏らと副合の企てにて、以後彼等より右山の質入等の振舞い無きように処置ありたき旨） 常右衛門外三名 代官所宛 文政二年一〇月

美

一綴く 九六

仙仁村清藏・重左衛門連印請書（要吉出入一件にて我ら手鎖町宿預となりしが、此度帰村のうゑ早急に金子調達すべき旨）（奥書、仙仁村三役人） 郡奉行所宛 同月

一通く 九六

仙仁村丹藏平藏・親類組合惣代連印請書（持山細尾、大根子の二ヶ所は村中へ、大木之入は兩名に下され年貢穀二俵余上納のこと承知の旨） 丹藏外四名（奥書、三役人） 同前宛 同二年一月

一通く 九六

仙仁村丹藏平藏・親類惣代連印請書（野火除印書下げ渡され、以後出入、歎願等なすまじき旨） 丹藏外二名 代官所宛 同年十二月

一通く 九六

仙仁村大藏・立合久藏連印答書（二ヶ所山を村中に下されたと、出入諸入料掛りとなるにより右割合辞退の旨） 代官所宛 文政二年

一通く 九六

出入中入料割方紛議一件済口証文（大根子山は売却にて出入中入料に充当、細尾山は頭立・小前三〇人にて平等割取の旨） 小前捨八人惣代久藏・政五郎・頭立捨八人惣代清藏・重左衛門・新古三役人六名、扱入新田川合村吉郎右衛門 郡奉行所宛 同年十二月

一通く 九六

仙仁村丹藏平藏親類惣代・三役人連名緋り書  
〔兩名押込に処せられしが赦免執成ありたき旨〕  
重左衛門外四名 小山村興國寺・井上淨運寺宛  
同月

一通く九七

仙仁村丹藏平藏・親類惣代請書〔赦免承知の旨〕  
丹藏外三名〔奥書 三役人〕 職奉行所・郡奉行所  
宛 同月

一通く九二

菅沼九左衛門書狀控〔右の通り裁許申付たること  
承知ありたき旨〕 望月權之進宛 同月

一通く九三

包紙 仙仁村

二点く九三

○文政一三―天保二年

牧内村、二一ヶ村山論

関谷村等二一ヶ村三役人連印願書〔牧内村地  
押改につき同村持林と二一ヶ村入会松山年貢地と  
の境目に絵図印形なしたき旨〕 関谷、欠、平林、  
桑根井、東条、長礼、加賀井、田中、東寺尾、柴、  
西寺尾、杵渕、広田、藤牧、小森、中沢、東福寺、  
上布施、上小嶋田、下小嶋田、荒町村三役人 代官  
所宛 文政一三年一〇月

一通く九五

桑根井村三役人願書〔当村用水取揚口より上流に  
不法に設けたる牧内村新堰を取払われたき旨〕  
名主清右衛門外二名 地押改掛り小林三左衛門、  
池田良右衛門・水井忠藏宛 同月

一通く九四

二一ヶ村惣代連印答書〔牧内村と入会松山との  
境目印形の件〕 欠、平林、桑根井、加賀井、西寺  
尾、荒町村三役人二五名 代官所宛 同年一月

一通く九三

牧内村三役人請書〔当村野山、二一ヶ村入会場に  
つき名所石打場より先へは差図なくして伐採手入  
れ致さざる旨〕 名主久左衛門外二名 同前宛  
同年二月

一通く九六

組合村申上書〔牧内村、石打場より上にて杉木一八  
本伐出したる旨〕 同前宛 天保一年四月

一通く九七

牧内村三役人願書〔名所なわ萩、芝野高八斗余等  
の高請の件。組合二一ヶ村と高請を巡る出入〕 名  
主久左衛門外二名 同前宛 同月

一通く二五

勘定役・立合徒目付連名申上書〔同前境論見分  
復命。双方存念したるところ申分無き由の請書  
提出。よつて吟味流しにされたき旨〕 池田良右衛  
門・片桐重之助・立合清野新平 五月

一通く九八

牧内村三役人・頭立惣代連印請書〔入会山境論  
墨引の通り承知。墨引の外へ差図なく手入れせざ  
る旨〕 名主久左衛門外三名 池田外二名宛 天  
保二年五月

一通く二〇三

二一ヶ村三役人連印請書〔同前。但し牧内村より  
桑植などの場所は差図なく切苅り等せざる旨〕  
同前宛 同月

一通く二〇三

二一ヶ村三役人連印願書〔札山見は地元村との  
定なれど、牧内村不正をなすにより当方へ命ぜら  
れたき旨〕 郡奉行所宛 天保二年五月

一通く九八

二一ヶ村三役人連印願書〔今度検使見分にて境  
筋絵図墨引請印差上げにつき吟味流しとされたき  
旨〕 同前宛 同月

一通く二〇〇

牧内村三役人答書〔論所にて立木伐採の件。幸吉  
先年植置の杉木売り木をなし恐入る旨〕 名主久  
左衛門外二名 道橋奉行所宛 同月

一通く二〇一

牧内村幸吉吟味答書〔無断伐採の件〕〔奥書、三役  
人〕 郡奉行所・道橋奉行所宛 天保二年六月

一通く二〇四

牧内村重内答書〔同前〕〔奥書同前〕 同前宛  
同年六月一日

一通く二〇四

牧内村頭立民左衛門答書〔同前〕（奥書同前）  
同前宛 同月 一通 〇〇四

牧内村政之丞・三役人連印答書〔同前〕 同前宛 同月 一通 〇〇四

牧内村吟味人親類組合惣代・三役人并町宿連印請書〔政之丞等吟味中手鎖にて町宿預け承知の旨〕 政之丞親類惣代勇八外九名 郡奉行所・道橋奉行所宛 同月 一通 〇〇六

郡奉行・道橋奉行連名伺書并附札〔無断伐採一件仕置伺。幸吉過忌夫、政之丞、民左衛門、三役人過料五貫文〕 興津権右衛門・藤井喜内外四名 六月 一通 〇〇九

御仕置附見合書〔御仕置御規定〕による擬律〕 一通 〇〇六

牧内村吟味人・同親類組合惣代・三役人連印請書〔無断伐採一件、落着申渡請書〕 幸吉外八名 同前宛 同年六月一六日 一通 〇〇七

○入会山無心

関谷村外三ヶ村三役人・頭立小前惣代連印願書〔白石新田村より二ヶ村組合入会山の山広地を無心の件。当四ヶ村は不承知なれど此度和談七年季にて山広地引訳境立となるにより訴訟書を返却ありたき旨〕 関谷・欠・平林・桑根井村二五名 吉沢十助役所宛 天保三年五月 一通 〇〇七

白石新田村名主組頭・小前連印願書〔同前件〕

名主弥七外四名 同前宛 同月 一通 〇〇六

勘定役吉沢十助伺書〔同前件。吟味流しにされたき旨〕 五月 一通 〇〇六

白石新田村山境絵図 関谷村 56×76cm 一通 〇〇六

開 発

○宝暦一二年沢山開発願人

雨宮村外六ヶ村三役人連印答書〔沢山の開発願人あるにつき差障有無尋ね。同所は七ヶ村入会山にて馬草、蒺藜に不可欠ゆえ差止められたき旨〕 雨宮、栗佐、森、倉科、生萱、土口、矢代村三二名 奉行宛 宝暦一二年八月 一通 〇七〇

雨宮村外六ヶ村三役人連印答書〔開発願人に巧みありとの件。開発困難のうえ幕領よりも近き旨〕 同前 同前宛 同年九月 一通 〇七四

雨宮村外六ヶ村三役人連印答書〔松尾、南、うろ、ほうろく此三ヶ所面積の件。二千二百坪、山年貢六〇俵〕 同前 同前宛 同月 一通 〇七三

〔雨宮村外六ヶ村三役人連印答書〕〔同前件。右山は元禄年中幕府の裁許を受けたる所なれば、願人一人の所持は不都合の旨〕 森村、倉科村三役人（後欠） 一通 〇七三

雨宮村外六ヶ村村役人連印返答書写〔板倉家坂本領三ヶ村より沢山を入会山との訴出に対する陳状〕 森村名主権左衛門外八名 幕府評定所宛 元禄四年三月六日 一通 〇七二

○明和六一同八年小沼村等

入会秣場新開出入一件

大熊村三役人伺書〔四ヶ村入会秣場開発願人一件につき、幕吏のみの見分にては不利ゆえ真田家役人立合のこと〕 名主文左衛門外三名 奉行所宛 明和六年三月 一通 〇九三

小沼村三役人答書〔見分に真田家役人立合の件。小沼村も希望の旨〕 名主長十郎外二名 同前宛 同月 一通 〇九七

大熊村三役人伺書（同前件、中野代官陣屋より真田家の添状を求められたるにより此段伺い） 同前 同前宛 同月	一通く 九四
大熊村・小沼村三役人連印願書（真田家役人立合のこと中野陣屋に出願したく添簡下されたき旨） 名主文左衛門外五名 同前宛 同月	一通く 九六
大熊村役人連印申上書（当村彦兵衛帳載一件にて三役人、職奉行の吟味をうけ町宿預けとなりしが、添簡の儀は大切ゆえ昨晚差遣したる旨） 組頭清兵衛・頭立重右衛門 代官所宛 同月	一通く 九三
大熊村・小沼村三役人連印御訴書（四ヶ村役人、願人平内、中野陣屋にて尋答の次第報告。真田家役人立合のこと許可外） 大熊村仮名主弥五兵衛外五名 奉行所宛 同年五月	一通く 九三
大熊村・小沼村三役人連印御訴書（見分日時通達手続き。当二六日見分の旨） 大熊村名主文左衛門外五名 同前宛 同月	一通く 九五
大熊村・小沼村三役人連印御訴書（出水にて中野役所よりの見分延期の旨） 同前 代官所宛 同月二六日	一通く 九二
小沼村三役人御訴書（当八日見分のこと、中野陣屋より通達方命ぜらる旨） 名主長十郎外二名 同前宛 同年六月五日	一通く 九二
大熊村・小沼村三役人連印御訴書（四ヶ村、願人連名にて見分時賄方等の請書の中野代官手附宛に提出せし旨報告） 文左衛門外五名 同前宛 六月八日	一通く 九六
高井郡小沼村埜地段野分間野帳写 代官篠崎 横美半 屯 丑（明和六年）六月	仮一冊く 九六
開発出願入会野地絵図	一通く 九三

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（当一七日中野役所へ、四ヶ村三役人・平内連印にて開発場面積一丁歩余の旨の誓書を提出の報告） 文左衛門外五名 代官所宛 明和六年六月	一通く 九三
大熊村・小沼村三役人連印御訴書（六月二八日中野役所にて、開発場絵図確認の連印誓書を提出の旨） 同前 同前宛 同年七月	一通く 九三
大熊村・小沼村三役人連印御訴書（昨日中野役所にて、願人平内差添人の件につき連印請書提出の旨） 同前 同前宛 同年七月二九日	一通く 九三
大熊村・小沼村三役人連印御訴書（八月七日より一八日までの中野役所にての吟味次第の報告。先年裁許の絵図面、平内口上書、四ヶ村野手高、山手高、土目録等の吟味） 同前（同前宛） 同年八月	一通く 九六
大熊村・小沼村三役人連印御訴書（九一六番の付属文書。開発場は野手高賦課の高請地の旨の口書を両村より提出につき、内分含まれたき旨） 同前（宛所ナシ） 同月	一通く 九六
小沼村三役人御訴書（八月三日の中野役所にての吟味次第。幕領北大熊村は村引請開発を願ひ、両小沼村は開発そのものに反対の返答せし旨） 長十郎外二名 代官所宛 同年九月	一通く 九五
小沼村三役人御訴書（八月二四日の吟味次第。願人平内申立の幕領小沼村分の無主田地見分の件。真田領には関わり無き旨） 同前 奉行所宛 同年九月	一通く 九四
開発場絵図（九三四番と一結）	一通く 九五

小沼村・三役人連印御訴書并願書（八月二一日より晦日までの吟味次第。開発新田引水問題、幕領小沼村分無主田地の件、真田領人別弥右衛門名義の田地ある旨言上につき、内分含まれたき旨） 長十郎外二名代官所宛 同年九月

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（新開出入の件。立入人の調停不調の旨） 長十郎外五名 同前宛 同年一〇月

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（一二月二一日より一二月三日までの吟味次第。北大熊村は村請開発を主張、他三村は引水問題で難決なれど天水、溜水を用うことにて開発同意の口書を提出せし旨） 文左衛門外五名 同前宛 同年一二月

大熊村・小沼村三役人連印願書（開発一件、江戸表吟味につき是迄両村提出の口書の内容よろしく取計れたき旨） 同前 同前宛 同月

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（中野陣屋代官交替につき吟味の節出頭すべき旨の請書を提出の旨） 大熊村名主伊右衛門外五名 同前宛 明和七年閏六月

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（代官交替につき口書申残し有無吟味次第。口書江戸送りの請書提出の旨） 小沼村与惣右衛門外五名 同前宛 同年七月

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（中野役所より申渡の次第。近日開発場見分につき真田方へ通達すべきとの旨） 同前 同前宛 同年八月

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（見分定日は当一七日の旨） 同前 同前宛 同月

小沼村三役人御訴書（当二四日中野役所へ、小沼村与惣右衛門所持古田につき口書提出の旨） 名主与惣右衛門外二名 同前宛 同月

一通く九四

一通く九三

一通く九二

一通く九一

一通く九〇

一通く八九

一通く八八

一通く八七

一通く八六

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（当一日より一〇日までの吟味次第。開発場は高請地との四村側主張通り、平内の出願却下。同人不服にて江戸表吟味を願たる旨） 小沼村名主藤八外五名 奉行所宛 明和八年二月

中野陣屋役人連署状（平内江戸表吟味願いたるにつき一件書物差添、代官臼井吉之丞方へ申遣わしたる旨） 大西嘉平太・長谷川数右衛門 郡奉行祢津要左衛門・成沢勘左衛門宛 二月二八日

大熊村・小沼村三役人連印願書（両村三役人、出府の節は江戸屋敷長屋を拝借したき旨） 藤八外五名 奉行所宛 明和八年五月

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（幕府勘定奉行よりの差紙到来の旨） 同前 同前宛 五月一〇日

大熊村・小沼村三役人連印願書（江戸表吟味の際の両村よりの想定答弁案） 同前 同前宛 同月

大熊村・小沼村連印御訴書（江戸到着にて中野代官屋敷へ届け、二四日四ヶ村一同勘定奉行所へ届けたる旨） 代官所宛 同年五月二六日

大熊村・小沼村三役人連印御訴書（幕府勘定所にての吟味次第。開発場は高地との平内主張退けられ開発出願却下。四ヶ村に開発打診あれど秣場なくては古田の障りとの返答せし旨） 大熊村名主清兵衛外五名 同前宛 同年五月二六日

江戸留守居連名書状（大熊小沼村三役人のうち二名を残し帰村を命ぜられし旨） 石川新八・鈴木弥左衛門 郡奉行祢津・成沢宛 六月二三日

一通く九三

一通く九二

一通く九一

一通く九〇

一通く八九

一通く八八

一通く八七

一通く八六

大熊村・小沼村役人連印御訴書〔幕府勘定所留役の言に一件場所は先年裁許の地、古田の障りともあれば新開叶うまじとのこと。四名婦村許されし旨〕 大熊村組頭金左衛門外三名 奉行所宛 明和八年六月

一通 九九

江戸留守居連名書状〔今度御見分派遣につき大熊小沼村両名の者帰村を命ぜらる旨〕 石川・鈴木 柅津・成沢宛 六月三日

一通 九七

大熊村・小沼村名主代連印御訴書〔江戸勘定所にての吟味次第。平内より切添地と主張の場所、近日見分ある旨〕 小沼村長百姓伴左衛門外一名 奉行所宛 明和八年六月二八日

一通 九七

○明和八年東川田村芝野高請一件

封筒〔東川田村上河原下河原芝野高請并地割一件書類 一〇八四一〇八八番在中〕 郡奉行柅津要左衛門 明和八年

一点 二六三

東川田村三役人願書〔当村芝野高請願人あるにより村方存念糾さる。新田高二石として村方にて高請したき旨〕 名主久兵衛外二名 奉行所宛 明和八年四月

一通 二六四

芝野高請願人名前書〔半兵衛、勝右衛門、善五郎ら三〇名〕

一通 二六四

東川田村願人惣代半兵衛願書〔当村田地所持せざる者にて芝地を一五一一〇石にて開発したき旨〕 中沢郡藏宛 同年三月

一通 二六四

東川田村三役人答書〔芝野開発主体の件。開発は村中をもつてし上河原分は高割、下河原分は軒割としたき旨〕 名主久兵衛外二名 奉行所宛 同年四月

一通 二六五

上川原下川原芝野割合品人別御書上帳 東川田村三役人 同前宛 同月

横長半

仮一冊 二六六

東川田村三役人請書〔村中にて芝野開発し、二年後に二二石の高請をなすべき旨〕 同前 同前宛 同月

一通 二〇七

中村辰右衛門書状〔東川田村開発の件。子年大検見の節 開発予定の書付差上げたるは相違無き旨〕 柅津要左衛門宛 四月二八日

一通 二〇八

○安永二年西寺尾村川欠地開発

封筒〔西寺尾村古川欠砂溜地開発割地紛議一件書付 一五九三一一五九九番在中〕 郡奉行柅津要左衛門 安永二年一〇月

一点 二五三

西寺尾村小百姓連印願書〔小百姓取続きのため当村砂溜場開発割合方を名主に願するも許容なし。村役人に割合方命ぜられたき旨〕 七郎兵衛・甚太夫外一名〔奥書 惣代七郎兵衛外三名〕 奉行所宛 安永二年八月

一通 二五三

川欠高覚帳 小百姓惣代喜兵衛・浅之丞・喜曾右衛門・七郎左衛門 勘定所本役所宛 同年九月

横長半

仮一冊 二五四

西寺尾村小百姓惣代連印願書〔砂溜場開発割合方〕 同前 同前宛 同月

一通 二七五

西寺尾村三役人・頭立連印答書〔小百姓出願の件。早速割合て開発いたす旨〕 名主彦次郎外六名 同前宛 同月

一通 二九五

西寺尾村三役人・頭立連印答書〔元禄期以来の同地所の取扱い来歴。役本にて支配し小作入粃をもつて惣村の夫銀に充当の旨〕 同前外一二名 郡奉行所宛 同年九月二五日

一通 二五六

当村西御請新田・河欠難渡御百姓坪割人別御書上帳 同前外二名 同前宛 同月

横長美

仮一冊 二五七

西寺尾村三役人・頭立連印願書〔寅年高請地四石余の地は惣村夫銀充当のため、此度割合より除外されたき旨〕 同前四名 同前宛 同月 一通く二五六

西寺尾村小百姓惣代連印請書〔新田割地より同前の地を除外の件承知の旨〕 七郎左衛門外三名 同前宛 同年一〇月 一通く二五九

○安永四年西寺尾村開発定免出願

筑摩川敷高請地定免願一件綴込伺書 郡奉行 祢津要右衛門 安永四年九月 一綴く二七四

1 西寺尾村高請願人連印願書〔御城裏古川敷開発して此度高請、免相二ツにて定免とされたき旨〕 長蔵・藤左衛門 郡奉行所宛 安永四年九月 一通

2 勘定役連名御尋物答書并勘定所元ノ役連名答書下札〔同前可否の件、二役よりの答申〕 勘定矢野倉弥太夫・三輪六十郎、元ノ佐藤軍治・大嶋多吉 八月 一通

3 郡奉行連名伺書〔同前件。定免二ツとすべきやの旨〕 祢津要左衛門・小川多次 一〇月 一通

4 勘定所元ノ役連名御尋物答書〔同前件。先例書立、免二ツ二分とすべきの旨〕 佐藤・大橋 同月 一通

5 郡奉行連名申上書〔同前件につき勘定所元ノ別紙の通り答申、此度開発は出費多く莫加金増上納につき定免二ツが妥当の旨〕 祢津・小川 同月 一通

6 勘定役連名返答書并附札〔高請新田につき検地竿延の有無等の問合への返答并免相二ツ一分とすべき旨附札〕 矢野倉・三輪 同月 一通

○安永九年森村等開発手充一件

封筒〔森村、風間村開発出願ニ付御手充一件、請取証文入〕 郡奉行祢津要左衛門 安永九年四月 一点く二〇二

森村等開発御手充渡方一件綴込伺書 祢津 一綴く二〇三

1 郡奉行連名伺書并附札〔森村等開発につき別紙の通り処置したき旨、許可附札〕 祢津・小川〔勝手掛家老宛〕 三月 一通

2 勘定所元ノ役連名申上書〔森村開発につき郡役赦免出願の件は金一三兩余の拝借、風間村開発は本年中成就の時は年貢半減となすべき旨〕 佐藤軍治・大嶋多吉 子三月 一通

3 森村三役人願書〔当村川欠地のうち二〇石余四ヶ年にて開発したく、郡役二人三ヶ年分赦免ありたき旨〕 名主久助外五名 郡奉行所宛 安永九年二月 一通

4 風間村三役人願書〔当村砂入地五石余開発したく郡役五人分赦免ありたき旨〕 名主長左衛門外二名 同前宛 同年正月 一通

○安永一〇年湯田中村開発願人

湯田中村三役人答書〔当村前河原開発願人につき差障り有無の件。同所は流失以前は新田百姓の居屋敷につき、以前高辻にての年貢上納を条件に願人申出却下ありたき旨〕 名主清八外二名 勘定所本ノ役所宛 安永一〇年三月 一通く二〇三

湯田中村前河原惣高辻書上〔川欠引高三石余の名請人の明細〕 同前 五四月 一通く二〇三

湯田中村三役人願書〔前河原は村方にて三ヶ年のうちに開発の旨〕 同前 同前宛 同年四月 一通く二〇三



湯田中村前河原開発地絵図 丑三月

44×120cm

一 鋪 〱〇七四

○安永一〇年佐野村開発願人

佐野村三役人願書〔当村北河原川欠地開発の願人につき差障り有無。当村にては開発届きかね願人へ渡したく、但し馬放場は残されたき旨〕 名主文蔵外三名 勘定所本ノ役所宛 安永一〇年三月

一 通 〱〇七五

佐野村三役人願書〔馬繕場二〇間四方は残されたき旨〕 同前 同前宛 同年四月

一 通 〱〇七六

佐野村三役人願書〔開発場納所の時節より馬繕場も芝野高請いたすゆえ前件許可ありたき旨〕 同前 同前宛 天明元年七月

一 通 〱〇七六

佐野村三役人・頭立小前惣代連印答書〔開発芝野のうち神明宮地の所在の件。右地所は願人に渡し耕地を境としたき旨〕 名主文蔵外八名 同前宛 同月

一 通 〱〇七七

佐野村北川原開発場絵図 佐野村三役人・頭立

56×79cm

一 鋪 〱〇七六

○文政三年石川村開発場地地境論

袋〔石川、中山新田、赤田村三ヶ村山境論内落一件書類、一八二一―一八二五番在中〕 郡奉行金井左源太 文政三年四月

一 点 〱〇八〇

石川村願人惣代連名頼入書〔当村草山新開につき役元へ願書奥印を頼むも拒絶。中山新田の者ら同所にて切添高請をなし小前一同迷惑につき御上への執成方頼入〕 久右衛門・団蔵 布施高田村伊右衛門宛 文政二年并四月

一 通 〱〇八四

石川村願人惣代連印答書〔当村草山開発の件、村内不一致なれど、小前難決により許可ありたき旨〕 同前 郡奉行所宛 同年一〇月

一 通 〱〇八三

石川村願人惣代・名主長百姓連印願書〔同前件。開発坪数減少にて一和につき境立等急速に定めたく検使派遣されたき旨〕 名主市郎治外三名 代官所宛 同年十一月

一 通 〱〇八六

石川村名主長百姓・頭立小前惣代連印願書〔先年絵図の通り村境定められたき旨〕 名主喜兵衛外三名 同前宛 文政三年二月

一 通 〱〇八三

石川村名主長百姓・頭立小前惣代連印願書〔山境論所見分願〕 同前 郡奉行所宛 文政三年

一 通 〱〇八三

三ヶ村三役人・頭立惣代連印請書〔此度和談にて境筋を定めたる上は、以後絵図墨引を尊重の旨〕 石川村、中山新田村、赤田村三役人等一三名 伊藤小一右衛門・小野唯右衛門・町田源左衛門宛 同年四月

一 通 〱〇八五

石川村・中山新田村・赤田村論所見分品々申上 勘定役小野・町田・立合徒目付伊藤 同月

美

仮一冊 〱〇八七

勘定役・立合徒目付連名伺書〔係争切添地一石七斗余の処理問題。石川村内の中山新田村出作高の形〕 小野外二名 同月

横長半

仮一冊 〱〇八六

郡奉行連名伺書〔開発賃加級の件、見分手申立の通りたるべきやの旨〕 金井左源太・鹿野外守・菅沼弥右衛門 同月

一 通 〱〇八元

石川村山耕地之内、開発地割絵図面 石川村名主長百姓頭立、三拾人組惣代、拾五人組惣代、四人組惣代 文政二年十二月

63×96cm

一 鋪 〱〇八〇

石川村・中山新田村・赤田村論所絵図面 三ヶ村三役人頭立惣代 文政三年四月

64×91cm

一 鋪 〱〇八三

○文政四—七年白石荒所開発一件

関谷村足輕武兵衛願書〔地蔵峠荒所開発につき家作手充、桑苗を下賜ありたき旨〕 野中忠左衛門・竹内六郎兵衛宛 文政四年正月

一通く八五  
包紙一

関谷村三役人・頭立惣代・開発願人連印願書〔開発手充の件〕 名主小右衛門外七名〔奥書武兵衛〕 同前宛 同月

一通く八五

荒地改目付竹内六郎兵衛同書〔武兵衛を開発場元へ・漆木見廻役兼帯とし郡役免除とせば都合よき旨〕 開発勘定見積り 同月

横長半

仮一冊く八五

漆木見廻役与治右衛門答書〔漆木見廻役の引渡しにつき差支有無の件。御用に立つまでは勤めたき旨〕 勘定所元へ役所宛 同年二月

一通く八五

郡奉行鹿野外守御尋物答書〔竹内同書の件。漆木役任命は差支えあり、林見役の儀は道橋方に尋ねられたき旨〕 同月

一通く八五

勘定所元へ役同書写〔漆木見廻につき制札を普請方より請取、与治右衛門に渡したき旨〕 元へ兩人 同月

半

一綴く八三

家老恩田靱負差図書〔別紙同書の通り承済たること、右掛り勘定役一人任じたること、場所立合を竹内に命じたる旨〕 鹿野宛 二月二六日

一通く八五

白石新田村開発掛り御免一件綴込同書 鹿野外守 文政七年二月二九日

一綴く八六

1郡方同書〔別紙の通り聞済まされたき旨〕 二月

一通

2勘定役竹内金左衛門申上書〔白石新田村開発順調につき自分の掛り免ぜられなく、足輕武兵衛も旧組への返人を願うおる旨〕 同月

一通

3開発場掛り武兵衛願書〔近年御用少なにつき普請方旧組に返人となされたき旨〕 竹内金左衛門宛 文政七年二月

一通

普請奉行連名書状〔武兵衛返人の件また揚人の件承知の旨〕 興津権右衛門・石倉源五左衛門 鹿野外守宛 三月一九日

一通く八三

○天保二—五年上横田村新田割合紛議

袋〔上横田村地境論所新田、村方割合紛議一件書類。一〇一—一〇二四番在中〕 郡方 天保五年三月

一点く二〇〇

御尊判出府ニ付規定書人別帳写〔矢代、塩崎、栗佐村との地境争論による江戸訴訟の費用支払規定〕 名主勘左衛門 天保二年三月

横長半

仮一冊く二二三

論所新田割合方覚書写〔四歩軒割、六歩高割の調停案〕 出入惣代与平太 上横田村役人衆中・村方中宛 天保三年八月九日

一通く二二三

上横田村与平太答書〔新田割合を巡る村内混雑一件。川欠高の算定并先年出入の夫銀勘定が争点の旨〕 代官所宛 同年九月

一通く二二四

一件立入人申上書〔与平太等、安永五申年新田の分まで平均割直を主張にて手切となる旨〕 会村金兵衛外二名 懸り勘定役町田源左衛門宛 同年一月

一通く二二五

一件立入人別紙申上書〔与平太境論勝訴に貢献するも地所割合方につき村役人を蔑にし村方不締りの旨〕 同前

一通く二二六

一件立入人申上書〔与平太・小前等は当村の二〇石余八重川欠高の平均割方を主張し、和談手切となる旨〕 会村金兵衛外一名 町田宛 同年閏一月

一通く二二七

上横田村村役人申上書〔立入人の調停案を承知するも、与平太等申新田の割直しまで主張するは成難き旨外〕 名主長兵衛・長百姓源左衛門・重立佐源治 同前宛 同月

一通く二〇八

包紙〔御内々申上〕 徒目付伊藤新右衛門

一点く二一九

1 上横田村村役人答書〔今般人詰跡改めの夫銀帳提出日延べの訳。与平太等夫銀割合を拒否しおるゆえの旨〕 名主長兵衛外二名 伊藤新右衛門宛 天保四年三月

一通

2 伊藤新右衛門申上書〔村方混雜にて夫銀帳取調べも出来かね、地所も荒所同様の旨〕 三月

一通

一件立入人申上書〔与平太側、申新田の割直しを主張して譲らず手切の旨〕 青池村八郎右衛門 勘定所元役所宛 同年三月

一通く二〇〇

上横田村本新田川欠高明細書上 与平太 同 横長半 同年六月・七月

仮一冊く七三

上横田村与平太答書〔立入人に対し軒割放棄も差支なしとの發言の件〕 同前宛 同年七月

一通く二〇二

(勘定所元役申上書)〔安永五申年荒地開発の節、川欠高にて割合べきものを親高にて割合たることが紛議の原因、五七年経過のことにて此度は村役人側申立の通り決せられて然るべき旨〕

一通く二〇三

(勘定所元役別紙調積)〔与平太主張の新田割合方〕

一通く二〇三

新田割合紛議一件済口証文〔論所新田は四分軒割六分川欠高割とし、川欠高余分所は申新田所持の者にて平均割取の旨〕 願人名主長兵衛外二名 相手方与平太・小前惣代奥右衛門、立入人会村金兵衛外三名 郡奉行所宛 天保四年二月

一通く二〇四

○天保五年上五明村割地開発紛議

上五明村小前惣代連名内願書〔千曲川敷一万歩余を割地開発するに大高持より中止申入、小前取続きのため開発を命ぜられたき旨〕 八郎兵衛・奎右衛門・九郎治 (荒地掛り宛) 天保五年正月

一通く八七

上五明村小前惣代連印内願書〔当村川原柳立の場所開発の件。大前開発不熱心ゆえ小前難渋者のみに開発を命ぜられたき旨〕 同前 同年一月

一通く八〇

上五明村三役人願書〔村中合意にて開発したき旨〕 名主栄五郎外二名 道橋方元宛 同年二月

一通く八二

道橋方手附春日安治申上書〔上五明村開発場所川除差障り有無見分したところ支障無き旨〕 (奥書 道橋方元宛) 道橋奉行所宛 同年二月

包紙一通く八六

道橋方手附春日安治申上書〔小前は難渋者のみの開発を望み、大前は軒割を主張しおる旨〕 二月

包紙一通く八九

上五明村三役人願書〔人別限り開発は村中混雜の基の旨〕 名主栄五郎外二名 荒地掛り役所宛 同年二月

一通く八三

人別限り開発願人名前書〔勝郎治、養右衛門、奎右衛門、小兵衛 九郎治等一八名〕

一通く八二

開発御願村方取調人別名前帳〔上五明村願人全体一三三名〕

仮一冊く八六

上五明村内々申上書〔開発一件につき養右衛門、九郎治父子の悪計。小前等の頭取となり村内混雜の張本人の旨〕

仮一冊く八七

上五明村小前惣代連印答書〔九郎治長百姓勤めながら小前惣代として願出のこと并人別限り開発の件〕 九郎治・奎右衛門・八郎兵衛 道橋役所元宛 同年三月

一通く八三

上五明村九郎治答書〔川原柳は道橋方支配、地所は郡方支配なるを筋違いの出願の件外〕（奥書 三役人） 勘定役町田源左衛門宛 同月

一通く八五

上五明村九郎治願書〔筋違い出願の件にて町田へ答書提出。よって前に申立の段は聞流しとされたき旨〕 道橋役所宛 同月

一通く八四

上五明村養右衛門・三役人并町宿等連印願書〔養右衛門吟味中手鎖にて町宿預け命ぜられたるところ 手鎖外し恐入。執成方願い上げ〕 名主栄五郎外六名 郡方手附坂口惣三郎・宮本惣右衛門宛 天保五年四月一日

一通く八八

上五明村三役人御訴書〔当村源右衛門ら東河原のうち坂木村分地にて開発をなすにつき吟味ありたき旨〕 名主栄五郎外二名 町田源左衛門宛 同月

一通く八六

上五明村源左衛門口書〔養右衛門の勧めに従い河原開発に着手せし旨〕（奥書、親類組合惣代一名）役人衆中宛 四月二日

一通く八六

上五明村三役人申上書〔小前養右衛門およびその子勇八・九郎治の三人、役職、印形を悪用し村内難渋の因たる旨〕 名主栄五郎外二名 郡奉行所宛 天保五年四月二五日

一通く八四

上五明村二役人同書〔養右衛門らの隣村坂木村分地の開発を禁じられたき旨〕 同前 同前宛 同年四月二五日

一通く八七

上五明村村役人申上書〔源左衛門ら境界地につき坂木村の者と馴合い、その分地を小作開発しおる旨〕（宛所ナシ） 午九月

一通く八〇

（町田源左衛門御尋物答書控）〔上五明村開発一件の経緯〕 未（天保六年） 六月

一通く八三

（町田源左衛門申上書）〔開発の件は村役人に取計方を命ぜられ、養右衛門父子を糺明されたき旨〕 一〇月

一通く八五

上五明村養右衛門父子三名連印答書〔三人別家なるに同居の訳。養家先勝手向難渋にて実家に止まりたる旨〕（奥書 三役人） 郡奉行所宛 天保六年一〇月

一通く八五

上五明村三役人・頭立小前惣代連印請書写〔此度有地改にて荒野石原一町余無高とし、開発次第改を受くべき旨〕 名主勇吉外一四名 有地改役人中宛 文政五年四月

一通く八九

網懸村三役人・頭立小前惣代連印答書写〔当村海老嶋開発の件〕 名主勘左衛門外一五名 同前宛 同月

一通く八九

上五明村三役人御訴書〔東河原続き坂木村分地柳立の場所を右村より畑地開発のこと、停止したる旨〕 名主勇之助外二名 郡奉行所宛 文政一〇年八月

一通く七六

上五明村三役人答書〔東河原開発の件。坂木村との出入の地にて開発を禁じられるも、向村様子次第に少々づつの開発をなす旨〕 名主卯左衛門外二名 町田源左衛門、宮原繁之助宛 文政一三年十一月

一通く九〇

○天保八年石川村開発差止一件

石川村名主長百姓願書〔当村入会山開発するも出水山抜の災害をなす。よって開発停止、冥加糶減少となされたき旨〕 名主元右衛門外三名 郡奉行所宛 天保八年四月

一通く一六〇

石川村入会山開発場絵図

25×35

一 鋪 一六二

石川村開発場見分一件綴込申上書 天保八年六月

一 綴 一六三

1 勘定役池田良右衛門申上書〔開発停止の件。夫食差支により当秋取入れまで耕作許可ありたき旨〕 六月

一通

2 石川村開発人惣代・村役人連印請書〔開発停止、芝野・木立になすべく承知の旨〕 久右衛門外六名 池田宛 天保八年六月

一通

3 石川村開発人惣代・村役人連印歎願書〔夫食差支につき当秋取入れまでの耕作願ひ〕 久右衛門外五名 同前宛 同月

一通

○嘉永元一三年瀬戸川村、古山村

法蔵寺地論一件

瀬戸川村三組惣代・三役人連印訴状〔当村入会地名所坂中の地、法蔵寺元屋敷と喝え同寺百姓開発の件〕 馬曲組・埋牧組・成就組一三名 寺社奉行所・郡奉行所宛 嘉永元年五月

一 綴 一〇五

瀬戸川村三組惣代・三役人連印答書〔埋牧組惣代新八郎一人が強情にて示談不調との件。法蔵寺提出の元禄年中の裁許史料の件〕 同前 同前宛 同年六月

一 綴 一〇五

法蔵寺役代永左衛門并押切村百姓惣代連印歎願書〔寺屋敷論所の件、元禄・寛延・寛政度の諸史料にて明白。三軒百姓難波により賢察ありたき旨〕 五右衛門外二名〔奥書、押切村三役人〕 同前宛 同年

美

一 綴 一〇五

法蔵寺役代永左衛門并押切村百姓惣代連印返答書〔瀬戸川村訴状への陳状。不法新聞との件、内済不調の原因、論所字名称の真偽等〕 同前 同前宛 同年六月

美

一 綴 一〇五四

瀬戸川村三組惣代・三役人連印願書〔証拠書付無く検見分願ひ〕 三組一三名 同前宛 同年八月

美

一 綴 一六四

瀬戸川村三組惣代・三役人連名願書〔論所絵図に誤記あり、下げ渡されたき旨〕 同前 郡奉行所宛 同年一〇月

美

一 綴 一〇五

一件詮議覚書〔坂中の字名の件、論所切起こし年数の件、寺屋敷の地の所在の件等〕

半

一 綴 一〇五

一件詮議覚書〔瀬戸川村水帳書抜、〔御定書〕の入会取扱規定、押切村の耕作事実の件〕

一通 一〇五

一件詮議覚書〔日影村立木ばかり入会の儀不審等〕

一通 一〇六

一件詮議覚書〔古山村水帳書抜、押切村と法蔵寺朱印地一二石との関係不審〕

一通 一〇六

一件詮議覚書〔押切村は日影村空地を出百姓による新開押領の嫌疑〕

一通 一〇六

包紙〔古証書三通、一〇四五、一〇五一番在中〕

一点 一〇四

日影西京組田之頭村百姓連印返答書〔当村と押切村の畑境はたかは原の瀬西の沢、論所を寺領とするは偽りの旨〕 七右衛門外二名 奉行所宛 元禄七年一〇月二〇日

一通 一〇五

古山村・西京村肝煎組頭連印扱状〔押切村、田之頭村の押切山論、公儀訴訟となるも西京、古山村肝煎等扱いにて和談。地境規定〕 古山村肝煎重左衛門外三名 田之頭村七右衛門外二名 惣百姓宛 元禄八年三月二九日

一通 一〇六

元禄八年扱状貼紙〔本文清水畑と押切村との関係  
勘案〕（嘉永元年）

古山村外四ヶ村肝煎組頭連名扱状写（一〇四  
六番と同文） 西京・ふる間・曾山・上平・古山村  
六名 押切村左兵衛外二名・惣百姓宛裏書、押切  
村訴訟人宛田之頭村訴訟人連印） 元禄八年三月  
二九日

一綴 〇五  
1

瀬戸川・桐山・古山村肝煎等連名申上書写〔同  
前件）の村境詳細説明。下札アリ、本文規定と法蔵寺  
論所との関係勘案〕 瀬戸川村肝煎彦右衛門外八  
名 奈良金太夫・久保田儀右衛門・息川重太夫・三  
村三右衛門宛 元禄一〇年八月二四日

一通 〇六〇

日影村中組外二ヶ村村役人連名誓書〔田之頭  
村より松本領までの町間数。めうと石を基点）中  
組・上平村・西京九名 改役人原式部左衛門・代官  
石井治兵衛宛 元禄一一年五月四日

一通 〇六三

日影村中組外二ヶ村村役人連名誓書〔同前。高  
やすめ嶺を基点） 同前 同前宛 同月

一通 〇六五

法蔵寺建立由来記写 法蔵寺十三世香山（正徳  
頃）

一通 〇六八

切山村百姓・立合人連名詫状写〔中沢の儀につ  
き後來我儘いたすまじき旨〕 次助外四名 押切  
村衆中宛 寛延四年九月

一通 〇七〇  
3

法蔵寺寺領朱印状写（徳川家斉） 天明八年九  
月二一日

一通 〇七五

切山村百姓連名詫状写〔当村田右衛門不埒の件〕  
甚左衛門外二名 磯五郎宛 寛政一一年二二月一  
一日

一通 〇七五  
2

押切・田之頭村論所絵図

28×39cm  
一通 〇四八

法蔵寺役代泰治請書（山論一件につき提出の古書  
三通、此度返却の旨） 郡奉行所宛 嘉永三年一一  
月

一通 〇九九

○安政六一文久元年  
瀧本新田割地一件

東条村南組徳左衛門割地一件覚書〔文政三年  
以来の瀧本新田開発および徳左衛門地所取上げの  
経緯〕

一通 〇八三

東条村南組三役人縫り書写〔徳左衛門不埒にて  
先年引上げの割地 同人へ下されたき旨〕 名主清  
右衛門外二名 郡奉行所宛 安政六年四月

半

一綴 〇八五

瀧本新田村村役人歎願書写〔徳左衛門に割地再  
下付は迷惑の旨〕 名主助右衛門外二名 同前宛  
同月

美

一綴 〇八六

勘定所元々役御尋物答書〔徳左衛門には瀧本新  
田村よりの年貢一割増上納をもつて御賞替となす  
べきやの旨〕 五月

一通 〇八四

瀧本新田村村役人答書写〔新田開発経緯の件。左  
源治開発不出精にて山林の茹取のみをなし村中難  
渋の旨〕 小前惣代友之丞外二名 代官岡部八十  
喜宛 文政一〇年并六月

半

一綴 〇八七

瀧本新田村割地一件詮議覚書〔八六六番史料の  
不審箇条〕

一通 〇八四

東条村南組三役人縫り書写〔八六五番と同一〕

半

一綴 〇七四

東条村南北両組三役人連印申上書〔去年四月  
割地返還の書付頂戴するも、瀧本新田村難渋申立  
にて示談手切の旨〕 南組名主清右衛門外六名  
代官所宛 安政七年二月

美

一綴 〇九五

瀧本新田村名主組頭答書〔東条村との示談の次第。徳左衛門当村に引越すならば割地差出すと申たる旨〕 名主助右衛門外一名 同前宛 同月 美	一綴く二七九六
東条村兩組新古三役人連印答書〔瀧本新田村一割地分の地代金額の件。二四兩程の旨〕 南組名主利兵衛外八名 同前宛 同年三月 美	一綴く二七九七
瀧本新田村名主組頭答書〔同前件。三〇兩程の旨〕 名主助右衛門外一名 勘定所元々役所宛 同月	一通く二七九六
郡奉行磯田音門書状〔瀧本新田村割地一件につき別紙内慮伺いにて再度取調べたく、存念報せられたき旨〕 高田幾太宛 二月一四日	一通く二八二一
郡奉行高田幾太書状〔自分不取計のことなれば申上方無き旨〕 磯田宛 二月一五日	一通く二八二三
磯田音門内慮伺書草案〔割地一件につき高田、一同の評議もなさず一己の伺をなす。不都束の廉も見えるにより吟味したき旨〕 (家老宛) 二月	一通く二八二〇
磯田音門内慮伺書控〔徳左衛門御賞替の件、同人に不埒の筋見えるにより尚吟味したき旨〕 二月	一通く二八二四
磯田音門評議廻状〔割地一件につき内慮伺のうえにて吟味に及びたく、高田よりの返報もあれば此段内評ありたき旨〕 郡奉行山寺源太夫・宮下兵馬・長谷川三郎兵衛・齋藤友衛宛 (三月) 一日	一通く二八三三
磯田音門内慮伺書 (二八一四番に同文) 二月一八日	一通く二八六九
目付役御尋物答書〔割地一件処置方〕 三月	一通く二八七〇

目付役御尋物答書〔昨年中穿鑿書の趣にては徳左衛門不埒に見え、割地再預けは不可の旨〕 三月	一通く二八七一
大目付恩田新六御尋物答書〔目付意見に同意の旨〕 三月二二日	一通く二八七三
郡奉行高田幾太同書〔割地一件関係役人不調法恐入り。地代金二〇兩相当の郡役免除をもつて徳左衛門への御賞替となしたき旨〕 閏三月一八日	一通く二八七三
先例見合書〔処罰の後、知行、格式の復旧を許されたる者の先例〕	一通く二八八六
下目付役申上書〔一件穿鑿復命書。徳左衛門親類堀内権左衛門の権勢にて今回の割地返還の沙汰となりし旨〕 四月	一通く二八八三
目付役御尋物答書〔高田は不調法至極なるに郡役免除の件を申立などにての外、徳左衛門地所は引上げのまゝにて当然の旨〕 四月	一通く二八八四
大目付役恩田新六御尋物答書〔目付申立に同意の旨〕 四月一九日	一通く二八八五
中老河原左京御尋物答書〔同前。代官・高田への察当あるべき旨〕 四月一九日	一通く二八八六
目付役御尋物答書〔高田へ察当の件。転役が妥当かの旨〕 四月	一通く二八八七
瀧本新田村名主組頭答書〔八七四番尋問への返答〕 名主助右衛門外一名 郡奉行所宛 万延元年五月 美	一綴く二八八五
中老河原左京御尋物答書〔目付申立に同意の旨〕 六月	一通く二八七三
家老赤沢助之進書状〔割地一件昨日引受け、向々よりの見込みもあるにより尚勘考あるべき旨〕 磯田音門宛 七月一日	一通く二八八六

瀧本新田村割地 一件書類目録

瀧本新田村割地 一件評議書類留書

横長半

東条村南組徳左衛門答書〔自分先年仕置の件并瀧本新田にて木立伐採を専らとしたる訳〕〔宛所ナシ〕 文久元年二月

徳左衛門答書別紙

割地一件答申渡書写〔木立伐採のみにて開発をせず、不埒につき割地取上げ過怠夫申付〕 佐源治〔徳左衛門〕 〔文政一〇年〕

瀧本新田村惣人別書上 名主新平外一名 文久二年

○明治四年日名村開発地領有紛議

封筒〔日名村半左衛門一件、一〇九〇―一〇〇番在中〕

〔日名村願人勝之丞内願書控〕〔近年凶作にて夫食難渋ゆゑ、当村秣場一万坪開発したき旨〕 広土方掛り宛 天保六年正月

日名村願人半左衛門内願書〔絵図の通り増高冥加穀上納を命ぜられたき旨〕 同前宛 慶応元年七月

〔郡方連名申上書控〕〔日名村若者共、開発場は入会地にて半左衛門ものにあらざると木立伐採をなす。広土懸より和談命じたる旨〕 〔慶応元年カ〕 一〇月

〔郡方連名申上書控〕 〔同前草案〕 兩人

開発人半左衛門内願書〔開発場所田地高請したく、衆之助ら五人ではなく自分に許可ありたき旨〕 広土掛宛 慶応三年三月

一通く二八五

一綴く二八六

一綴く二七九

一通く二八二

一通く二八〇

一通く二八元

一点く二八九

一通く二八六

一通く二八九

一通く二九五

一通く二七七

一通く二九二  
包紙一

日名村願人内願書〔畠地一万坪、秣場一〇万坪の山年貢穀と土地分割の件〕 同前宛 同月

〔郡方同書草案〕〔日名村開発場争論如何取扱うべきやの旨〕

願人半左衛門内願書〔新田高請は自分と重九になされたき旨〕 掛り宛 明治四年一〇月

日名村開発場絵図

日名村開発場絵図

日名村開発場絵図

○幕末維新期開発出願

開発願人連名内願書〔小布施村御栗林を畑地開発したく、献上粟は差支なく上納いたす旨〕 小布施村幸左衛門・大嶋村取締役久兵衛 海沼龍助宛 元治元年一月

勘定役海沼龍助同書〔同前件。冥加金二、三千兩程の開発許可ありたき旨〕 子〔元治元年〕 二月

調役御尋物答書〔同前件。公辺にても虚飾排除の改革の時節なれば、幕府に内伺のうゑ開発に踏み切るべき旨〕 〔慶応元年カ〕 二月

福嶋村開発願人多吉願書〔小布施村栗林開発拡大の件〕 林守関谷小右衛門宛〔奥書関谷 松代郡政役所宛〕 明治三年二月

〔郡方御尋物答書草案カ〕〔新田開発の件。領分入会山は草山年貢あり、開発にて数ヶ年無年貢となるは差支多きこと。荒地起返は推進すべき旨〕 六月

一通く二九三  
包紙一

一通く二九六

一通く二九四  
包紙一

一通く二九八

一通く二九九

一綴く二〇〇

一通く二七七

一通く二七八

一通く二七九

一通く二七五  
包紙一

一通く二七六



(郡方御尋物答書草案カ) (同前不提出草稿。姫路藩川合隼之助の仕法は山国の当領分には適用しがたき旨) 横長半 一綴く二七三

元松代藩士連名内願書 (保科村成谷原開発の件。同村役人も希望し自分共取続きのため開発試みたき旨) 壬申(明治五年) 正月 包紙一通く二七三

関谷村等二十五ヶ村入会秣場箇所附 中沢房治 壬申年正月一日 一通く二七三

元松代藩士中沢房治内願書草稿 (取続きのため関谷村字打穴の草野を開発したき旨) 二月 横長半 一綴く二七六

関谷村等二十五ヶ村入会草野箇所附 中沢 横長半 仮一冊く二七六

少参事矢野唯見問合書并回答附札 (下祖山村のうち入会場を同村新井茂兵衛開発出願の件につき、同人の人物照会) 野中喜左衛門宛 二月二二日 一通く二七六

松代藩開置届書草案 (管下西条村開発出願、近隣諸村の支障無きにより藩庁限り許可せし旨) (民部省宛) (明治三年カ) 一通く二七五

(郡方申上書控) (同前件。五町歩以上の開墾は民部省伺との達もあれば、別紙草案の通り伺われたき旨) 一通く二七六

(紺屋町惣左衛門内願書) (西条村野山等を拝借して諸物産を成製せば莫大の国益となるべき旨) 一通く二七七

○開発その他

布施高田村和吉願書 (字八幡越にて古川敷新田開発をなしたところ出水にて流失。村方へ右場所を引渡したき旨) 勘定所元々役所宛 文政一一年(月不明) 封筒一通く二七六

牛嶋村小前訴訟人惣代連印申上書 (当村中川原、川向新田混雑一件につき村役人より提出の絵図面に疑惑ある旨) 長左衛門・伊惣次外二名取扱竹花庄左衛門宛 天保五年二月 一通く二〇六

下水鉋村三役人・頭立小前惣代連印開置届書 (御用堰水引入れの場所 大豆・粟等仕付けるも不成育。よつて荒砂開発し麦作となしたき旨) 名主状左衛門外四名 郡奉行所宛 弘化四年七月 美 一綴く二七四

水内村峯組字穴平村百姓連印願書 (当村河原沖本田石砂入につき古川敷干場まで開発したき旨) 嘉蔵外一三名(奥書 三役人) 掛役所宛 同年二月 一通く二七〇

瀬脇村願入・三役人連印願書 (福次郎畑地等を田方開発したく、検使見分ありたき旨) 福次郎外三名 郡奉行所宛 文久元年三月 一通く二七三

上平村開発一件取調覚書 (上平村の開発による網掛・上五明・力石・新山・山口村等関係諸村の利害および示談方) 一通く二四〇

某書状草案 (同前件。五ヶ村の者罷出て申立るにより示談取計方) 一通く二四二

五ヶ村百姓名前書 一通く二四三

村 境

封筒 (羽尾村本郷、仙石組地所論一件書付) 渡辺友右衛門 文化元年三月(同一〇年二月) 一点く四三

羽尾村本郷・仙石組村役人并立入人連印請書 (当村除地四斗并伊勢山の領有につき双方確たる証拠も無く訴訟をなし叱りを蒙る。和談調い此上の願い無き旨) 本郷名主小右衛門外一〇名 郡奉行所宛 文化元年三月 一通く四三

郡奉行連名申上書（同前件内済調いたること、大目付へ越訴の件は別途吟味上申の旨） 金井甚五左衛門・渡辺友右衛門・金井善兵衛（家老宛）三月

一通く四三  
12

袋（赤田、田野口、中ノ御所、小芝見四ヶ村境論一件書付 一六七七―一六七九番一括）

一点く二六六

中御所・小芝見村・論所内済境立絵図面 中御所・小芝見・妻科・久保寺村三役人 文化七年四月

一鋪く二七九  
袋一

中御所・小芝見村三役人連印請書（両村訴答ともに証提不分明の境論をなし叱りを蒙る。以後融和し境筋を守る旨） 中御所村岡田組名主金左衛門外一二名 郡奉行所宛 同年五月

一通く二七七

田野口・赤田村三役人等連印請書（同前） 田野口村名主利右衛門外六名 同前宛 同月

一通く二六七

包紙（横田村佐源治等、矢代村と境論の節不埒一件書付 一〇四―一〇五番在中） 郡奉行金井左源太 文政四年三月

一点く二〇三

上横田村吟味人親類組合・三役人連印縫り書（矢代村と境論の節、佐源治ら他領篠井村へ赴き事情説明を求む。不調法咎められ町宿預け命ぜられるにより赦免執成ありたき旨） 佐源治親類源左衛門外五名 円福寺宛 文政四年三月

一通く二〇四

上横田村円福寺歎願書（佐源治ら三名の赦免方） 郡奉行所宛 同月

一通く二〇五

村境出入り一件済口証文写（明和四年の規定書の間数をもつて境立をなすべき旨） 幕領長沼村内町・浜田松平家領同村六地蔵町・同栗田町・真田家預所相之嶋村三役人等二四名 松代預所役所宛 文政五年六月

一通く一六五

封筒（中牧村高峯寺と大岡四組、聖権現建前絵図面につき地論一件書類写。一六四八―一六五四番在中）（郡奉行岡嶋莊蔵） 文政七年十一月

一点く二六七

職奉行岡野弥右衛門書状（領分寺社建前絵図書上につき聖権現建前の帰属を巡って紛議、地境糺明を郡方に頼みたき旨） 郡奉行金井左源太宛 一〇月一六日

一通く二六八

聖権現一件訴答書類留書 文政七年

半

一綴く二六九

1 大岡四組三役人等連印願書（当村鎮守聖権現絵図を別当高峯寺より不当にも提出の件） 職奉行所宛 文政七年三月

2 大岡四組三役人連印縫り書 同前宛 同月

3 聖山別当高峯寺願書 同前宛 同年四月

4 大岡四組三役人連印御訴書 代官所宛 同年一〇月

5 一件取扱覚書（岡嶋莊蔵）

大岡四組三役人連印御訴書（聖権現絵図書上の件、地論となり郡奉行所へ移管となるにより善処方願上げ） 宮平・根越・和平・川口組三役人二二名 代官所宛 文政七年一〇月

一通く二六〇

聖権現一件詮議覚書（郡奉行所への移管に際しての初尋問）（郡奉行）

一通く二六一

聖権現社領旧記書拔（寛文六年中牧村水帳、寛保三年同村水帳、明和元年検地絵図記載）

一通く二六三

明和元年大岡四組水帳書拔

一通く二六三

中牧村高峯寺請書〔聖権現建前絵図面に大岡四組加印の儀承知の旨〕 郡奉行所宛 文政七年一月一九日 一通く二六四

封筒〔預所村山村と福嶋村地境論并手入中不埒一件書類一〇二六―一〇四三番在中〕 郡奉行興津権右衛門 文政一三年八月（天保一〇年三月郡奉行金児丈助再封印） 一点く二三五

地境論一件立入人連印願書〔村山村と福嶋村の地境論和談成立につき、郷宿預けの福嶋村惣代茂左衛門ら境立済むまで赦免ありたき旨〕 中嶋村六兵衛・大嶋村久一郎郡奉行所宛 文政一三年六月 一通く二〇六

福嶋村三役人并立入人連印申上書〔地境一件議定を取纏めたる旨〕 名主宇右衛門外六名 同前宛 同月 一通く二〇七

地境論一件為取替内済証文〔正徳四年、明和二年、天明七、八年四度の絵図に従い境立をなす旨〕 村山村三役人・惣代、福嶋村三役人・惣代、立入人等二〇名 郡奉行所宛（年月付ナシ） 一通く二〇八

地境論一件論所絵図 55×76cm 一鋪く二〇九

地境論一件和談調印絵図 村山村・福嶋村三役人村方惣代、立入人等二〇名 文政一三年六月 62×96cm 一鋪く二一〇

福嶋村沖八答書〔差紙に不出頭の件、また町宿預け一時解除の節不慎他行の件 恐入の旨〕（奥書、三役人五名） 郡奉行所宛 同月 一通く二一三

一件立入人連印歎願書〔一件内済成立により沖八赦免ありたき旨〕 中嶋村六兵衛外一名 同前宛 同月 一通く二一六

勝樂寺・証蓮寺并一件立入人連名歎願書〔茂左衛門ら三人赦免方〕 同前宛 同月 一通く二一八

福嶋村本仮三役人等連印歎願書〔沖八ら差紙に不出頭の件赦免ありたき旨〕 頭立太郎兵衛外五名 同前宛 同月 一通く二一九

福嶋村百姓連印答書〔松右衛門発頭にて一同同調して沖八に帰村を勧めしこと、恐入の旨〕 松右衛門外七名（奥書、三役人） 同前宛 同月 一通く二二〇

福嶋村三役人并町宿連印答書〔沖八一件にて偽り申し恐入の旨〕 名主宇右衛門外五名 同前宛 同月七日 一通く二二一

村山村古名主連印答書〔沖八当月二日松代より帰村途中、当村百姓と行逢の次第〕 七郎右衛門・和太郎 松代預所役所宛 同月五日 一通く二二二

福嶋村長百姓市右衛門答書〔沖八一件に不埒をなし恐入の旨〕 郡奉行所宛 同月一九日 一通く二二三

職奉行・郡奉行連名同書并附札〔福嶋村問屋役沖八役儀取上げ一五〇日過意夫の伺い并許可附札〕 職奉行岡野・石倉、郡奉行岡嶋・興津・竹村・金児 七月 一通く二二四

郡奉行連名同書〔組頭松右衛門一〇〇日過意夫、市郎治ら七名過料三貫文外〕 岡嶋外三名 同月 一通く二二五

郡奉行連名同書并附札〔中町町宿総右衛門過料二貫文并許可附札〕 同前 同月 一通く二二六

福嶋村沖八并三役人等連印咎申渡請書〔沖八役儀上げ過意夫のこと承知の旨〕 沖八外七名 職奉行所・郡奉行所宛 文政一三年七月 一通く二二七

中町町宿総右衛門咎申渡請書〔過料錢二貫文〕 郡奉行所宛 同月 一通く二二八

福嶋村吟味人并本仮三役人等給申渡請書〔組頭松右衛門過意夫・外一一名過料錢〕松右衛門外二二名 同前宛 同年七月晦日

袋〔上下祖山村と橋詰・五十平・坪根・黒沼・古間・瀬脇・岩峯・念仏寺村との山論一件〕勘定所元ノ役矢野倉惣之進・菊池孝助 文政一三年十一月

貞享年中祖山村山論裁許絵図写 郡奉行祿津要左衛門・成沢勘左衛門・長谷川四郎右衛門 上下祖山村宛 明和四年一〇月

封筒〔須坂領綿内村と福嶋村村境不分明ニ付絵図面拜見関係書類 一一〇八、一一〇番在中〕職奉行兼郡奉行岡野弥右衛門 天保五年

堀家領綿内村村役人願書〔当村土屋坊組千曲川筋普請したく、境筋不分明につき真田役所絵図拜見したき旨〕 名主彦兵衛外三名 真田家役所宛 天保五年九月

須坂堀家役人連名添状〔綿内村の者、絵図拜見出願の件よろしく頼みたき旨〕 真田家郡方役人中宛 九月一日

綿内村村役人請書〔絵図拜見有難き旨〕 名主彦兵衛外三名 真田家役所宛 同月

幕府評定所出役連名廻状写〔各村天保六年以来の免状・村高家数人別書拔等 旅宿へ持参すべき旨〕 論所地改手代桑原全輔・森惣藏 鼠宿・網掛・五明・力石・上平・山田・新村村名主組頭中宛〔弘化二年〕九月二八日

東福寺村請書案〔東福寺・中沢村の千曲川堀川敷一町余の地境論。同所を当村へ、残余を両村持となすべきこと承知の旨〕 (宛所ナシ) 午年

一通 〳〳〳

一点 〳〳二七

一鋪 〳〳八

一点 〳〳〳七

一通 〳〳〳八

一通 〳〳〳〳  
包紙一

一通 〳〳〳〳

一綴 〳〳〳〳

一通 〳〳〳〳

勘定役・立合徒目付連名申上書〔上宮野尾村と小田中村との境論、和談成立につき吟味流しにされたき旨 復命〕 池田良右衛門・春日儀左衛門・立合竹花勘兵衛 三月

地論一件詮議覚書〔和佐尾村と出入の場所の件、証拠有無等不審事項六件の尋問覚書〕

地境論一件詮議覚書〔伊折村と論所一件、証拠有無等一件〕

坪根村三役人請書〔元御鷹山忠倉山御林へ入るまじきこと等承知の旨〕 名主九右衛門外二名 郡奉行所宛 文化四年八月

東寺尾村重七・同人組合幸四郎連印詮状〔喜惣太山にて草薙りをなし一言申訳無き旨〕 同村喜惣太宛 文化九年六月

年 貢

検 見

〇 検見出願

上平村三役人歎願書写〔当村川欠、山崩れにて衰微、検使見分のうえ村立直り方歎願〕 名主太兵衛外二名 代官所宛 弘化二年八月

袋〔河原新田、御小作地共田畑石砂入ニ付見分出願一件 二六九、二七三番一括〕 代官中嶋渡浪 万延元年八月

河原新田水損見分一件綴込申上書

一通 〳〳〳四

一綴 〳〳〳三

一通 〳〳〳三

一通 〳〳〳〳

一通 〳〳〳七

一綴 〳〳〳五

一点 〳〳〳六

一綴 〳〳〳七

1 代官中嶋渡浪申上書〔河原新田等水損石高。所持人名前報告〕 八月 横長半	一綴	御前裁懸申上書〔御小作地水損不作引方〕 未一〇月	一通く三七
2 高坂賀助持古川敷新田惣代願書〔千曲川水損にて田方不作につき検見願ひ〕 東寺尾村庫之助 代官所宛 万延元年八月	一通	仁礼村三役人届書〔天保七年、安政四年の藩よりの褒賞書付の写。凶作の節、検見願わさること奇特の旨〕 名主小松要右衛門外四名 代官所宛 明治二年一〇月 美	一綴く三六
3 高坂賀助持古川敷新田惣代願書〔畑方木綿、大豆小豆水損につき検見願ひ〕 同前 同前宛 同月	一通	仁礼村三役人届書〔慶応三年の同前褒賞書付写〕 同前 同前宛 同月	一通く三〇
4 河原新田惣代願書〔神田川出水にて畑方不作〕 紙屋町市兵衛 同前宛 同月	一通	代官西村源兵衛申上書〔仁礼村これまで減免を願わされども本年は稀な凶作ゆえ手充ありたき旨〕 一二月	一通く三六
5 河原新田惣代願書〔同前、田方水損〕 同前 同前宛 同月	一通	〔郡政副主事申上書草案〕 〔同前〕	一通く三七
6 河原新田惣代願書〔去年届砂入地三分一開発未了につき検見願ひ〕 同前 同前宛 同月	一通	仁礼村手充方一件申上書草案〔勘定役野中と郡政副主事との二通分草案〕 〔明治三年カ〕	一通く三九
7 河原新田惣代願書〔千曲川出水にて田方不作〕 御殿町新平 同前宛 同月	一通	○検見役人手充	
8 河原新田惣代願書〔同前、大豆・稗等不作〕 同前 同前宛 同月	一通	包紙〔大検見御手充渡方〕 北沢源次兵衛 岡嶋莊藏宛 〔文政七年頃〕	一点く三七
9 御城裏御小作地小作人連印願書〔千曲川出水にて小作親不作につき検見願ひ〕 荒神町茂助外二名 同前宛 同月 美	一綴	靱方申上書并勘案附紙〔節木代をもって大検見関係手充渡方〕 七月	一通く三六
畑方水損不作御書上帳 御小作人惣代新平外二名 荒地掛役所宛 万延元年九月 半	一冊く三六	岡嶋莊藏書状并勘返状〔大検見手充の儀につき江戸より別紙申来る件〕 勘定吟味役興津権右衛門宛 七月二日	一通く三七
田方水損不作御書上帳 同前 同前宛 同月 半	一冊く三七	興津権右衛門書状〔同前件。手充見送りにては役人出精も期しがたき旨〕 岡嶋宛 七月晦日	一通く三九
勘定役・立合徒目付連名申上書〔河原新田并御小作地の水損引方・復命〕 宮本慎助・関田慶左衛門・立合北沢右衛門 未九月	一通く三七	○検見廻村	
		封筒〔大検見の節、中条村・須坂村不埒の件。一〇五ノ一〇九番・二四九ノ一五三番在中〕 郡奉行岡嶋莊藏 天保九年一〇月	一点く二四

中条村三役人・頭立等連印詫状〔検見廻村の節、人足不揃いにて差支の件〕 名主安左衛門外七名 郡奉行所・勘定吟味役所・目付石倉大膳宛 天保九年八月二七日

中条村吟味召喚者名前書

中条村三役人・頭立等連印緋り書〔人足不揃い一件赦免執成方〕 名主安左衛門外八名 恵明寺・永谷寺宛 天保九年一〇月

中条村永谷寺歎願書〔同前件赦免方〕 郡奉行所宛 同月

西条村恵明寺歎願書〔同前〕 郡奉行寺内多宮・岡嶋莊藏・金児丈助宛 同月

岡嶋莊藏書状并勘返状〔須坂村寺院へ提出の緋り書を進覧の旨〕 勘定吟味役竹村金吾・目付役石倉大膳宛 一〇月一三日

須坂村吉藏親類組合・三役人連印緋り書〔役人名代吉藏一存にて稲作検見願いを代官に申立て吟味の一件、赦免執成方〕 寅右衛門外四名 大雲寺宛 天保九年一〇月

須坂村清郎治親類組合・三役人連印緋り書〔同前件〕 惣右衛門外四名 高田寺宛 同月

郡村大雲寺歎願書〔吉藏不埒一件赦免方〕 郡奉行所宛 同月

志川村高田寺歎願書〔清郎治不埒一件赦免方〕 同前宛 同月

大検見廻村時人足継立紛議一件〔四五〇、四五六番一括〕 慶応三年

一通く二九

一通く三五

一通く三五

一通く三五

一通く三五

一通く二五

一通く二六

一通く二七

一通く二八

一通く二九

一件立入人連印申上書〔検見廻村時の長持人足一件につき広瀬入山両村に負担折半の調停案を示すも不調の旨〕 上ヶ屋村、桜村名主・頭立惣代六名 勘定所元々青柳丈左衛門宛 慶応三年七月

広瀬村小前惣代連印欠込訴状〔大検見時の長持人足は往古より入山村の負担なるを新規新法の申掛にて難渋の旨〕 市郎兵衛・弥右衛門 大目付役所宛 同年八月

広瀬村吟味人親類組合・三役人并中町町宿連名請書〔市郎兵衛ら欠訴願につき手鎖腰縄にて町宿預けのこと承知の旨〕 藤左衛門外九名 同年八月二八日

広瀬村三役人・頭立惣代連印願書〔村方鎮まらず、入山村召喚のうへ実否糾明されたき旨〕 名主文治外八名 郡奉行所宛 同年九月二日

大検見人足継立順路絵図

入山村三組名主長百姓連印答書〔人足継立の由来并広瀬村負担の理由〕 影山組名主広告外五名 郡奉行所宛 同年九月

入山村三組名主連名請書〔大検見時の帳箱は今年より当村人足にて上ヶ屋村泊りまで送付する旨〕 名主清右衛門外二名 勘定所元々役所宛 天保一四年九月二日

郡奉行・目付連名廻状〔当一二日検見廻村につき人足三七人、伝馬九疋を村境にて継立べき旨〕 佐藤為之進・関山平治 志垣・栃原・入山・広瀬・上ヶ屋・桜村宛 九月一〇日

封筒〔検見一件一二〇、一二五番在中〕 大属渡辺憲藏 権大参事宛 (明治四年)

美

一綴く四五

美

一綴く四五

美

一綴く四五

美

一綴く四五

美

一綴く四五

一通く四六

一通く四五

一点く二九

租税方伺書〔大検見御用仕酒賄代、中借したき旨〕 八月二四日	一通く三	○清野村三役人歎願書〔早魃につき蔵納薬月割 の分半減されたき旨〕 名主民平外三名 代官 宛 文久三年十一月	一通
民事掛伺書并附札〔同前件中借方、村方上納の取 計方〕 八月二四日	一通く三四	桑原村本陣願書綴	一綴く二七
民事掛申上書〔当秋検見初めての儀ゆゑ朝廷に届 出づべきや並方を調査されたき旨〕 八月二五日	一通く三五	1本陣柳沢忠八郎内願書写〔近年諸侯往来多く、 地震破損の居間普請等にて困窮。屋敷地年貢免除 ありたき旨〕 (代官所宛) 元治二年正月	一通
松代県庁進達書〔同前件。届書案文送付につき宜 しく取計らわれたき旨〕 東京出張所 八月二五 日	一通く二三	2本陣柳沢忠八郎添書写〔屋敷地高一石余、先年 は無年貢たりしこと等〕 同月	一綴
届書案〔去月大風雨損毛につき手充方・起返方の件、 松代県庁より申越したる旨〕 辛未九月	一通く三〇	3本陣柳沢忠八郎歎願書写〔同前〕 郡奉行 所宛 慶応二年一〇月	一綴
渡辺大属申上書〔他県の届方の様子、松代よりの 届方についての存寄〕 九月一四日	一通く二三	4本陣屋敷高年貢高書立 柳沢忠八郎 五月二 九日	一通
勘定役連名申上書〔大検見の節、仁礼村煙草検見 立不調法の件、および検見立一般の対策につき同 役中評議上申〕 片桐惣右衛門・町田源左衛門・ 池田良右衛門・町田権之助・水井忠藏・竹内藤助 一〇月	一通く五二	町川田村三役人御訴書〔大雨出水にて冥加敷の 場所凶荒、手充下されたき旨〕 名主富八外五名 荒地掛り宛 同月	一通く三六
○検見引・手充		夏和村三役人縫り書〔水車渡世要吉、出水にて居 宅川欠となりしが村役人不行届きにて願ひ落とし。 検使見分ありたき旨〕 名主秀之丞外四名 郡奉 行所宛 同月	一通く三七
内川村三役人願書〔千曲川出水にて当村皆荒、給 所方貢租免除ありたき旨〕 名主繁蔵外二名 代 官所宛 文政一一年七月	一通く三四	東川田村三役人願書〔新田開発場所川欠につき見 分のうゑ冥加敷一俵余用捨引とされたき旨〕 名 主彦蔵外二名 荒地掛役所宛 同年九月	一通く三三
内川村給所方七名分知行高書立	一通く三五	町川田村三役人願書〔出水川欠につき開発冥加敷 一俵余免除されたき旨〕 名主富八外三名 同前 宛 同月	一通く三四
内川村給所方六名分収納高書立	一通く二六		
代官伊東賢治伺書〔支配清野村別紙出願、余儀な き次第につき聞済ありたき旨〕 一二月	一通く四七		

小河原村三役人請書（「昨年石砂入の引高のうち田高六斗の起高のこと承知の旨」） 名主松尾文治郎外七名 勘定役田中増治・半田亀作・萩原八左衛門宛 同月

一綴く 三九

八幡三ヶ村・志川村・郡村三役人連印願書（郡奉行所に預置きの貞享期以来の用水出入裁許絵図等、下げ渡されたき旨） 名主武井伝之丞外八名 元松代県役所宛 明治五年五月

一通く 三八

丹波嶋村免相手充一件綴込伺書 郡政副主事（明治二年）

一綴く 二八

1 郡政副主事市場源七郎伺書（別紙庶務掌申立の件許可ありたき旨） 一二月

一通

2 庶務掌野中喜左衛門伺書（丹波嶋村不作につき田畑引高、手充ありたき旨） 同月

一通

3 丹波嶋村三役人願書（凶作につき検見引の残高の貢租分も手充引とされたき旨） 仮名主庄兵衛外四名 租税司役所宛 明治二年一二月

一綴

丹波嶋村三役人願書（凶作にて宿方人馬立の者、夫食差支につき免相手充引ありたき旨） 名主岡沢介八郎外五名 郡政庶務方役所宛 明治三年七月

一綴く 四四

野中喜左衛門伺書（宿方手充と不作手充は別物なれば他村並の不作手充下すべきかの旨） 同月

一通く 三六

郡政副主事伺書（同前件聞済ありたき旨） 同月

一通く 三六

野中喜左衛門伺書草案（三六四番草稿） 同月

一通く 四六

郡政副主事伺書草案（三六一番草稿） 同月

一通く 四六

計政副主事御答書（同前件。宿入料帳面精査のうえ判断されたき旨） 七月二一日

一通く 三三

郡政副主事伺書（宿入料取調帳添えて再度伺い） 一〇月

一通く 三〇

丹波嶋村宿入料勘定書

横長美

一綴く 三五

丹波嶋村宿方手充引高書上 丹波嶋村 明治三年一〇月

一通く 三六

権大参事大熊薫差図書（宿役手充のうえに貢租引は不可、同村説諭あるべき旨） 市場源七郎宛 一二月二二日

一通く 三三

（民事掛連名同書）（中町名右衛門らの御小作地不作の場所、見分のうえ上納引方） 高橋清蔵（姓不詳）寛介 一一月

一通く 三六

鼠宿村・清野村干損引高積書 勘定役池田良右衛門・春日儀左衛門・立合徒目付富岡安右衛門外三名 九月一五日、二四日

二通く 一五

郡方役人評議書（収納引方、手充、郡役取扱方） 兩人

一通く 三七

定 免

封筒（山平林村定免願一件書類 一二七、一三二番在中）

一点く 二六

山平林村三役人・頭立小前惣代連印願書（当村水損多く免下げにて定免にされたき旨） 名主長五郎六名 小林三左衛門宛 天保一〇年一二月

一通く 三六

勘定役小林三左衛門伺書（同前件。改掛一同評議の結果許可ありたき旨） 同月

一通く 三三

山平林村定免引高勘定書 一一月

一通く 三三



勘定所元ノ役連名御尋物答書〔同前件、許可あるべき旨〕 一二月	一通く 三元	入有旅村村役人・頭立小前惣代連印請書〔同前〕 名主三郎右衛門外三名 同月	一綴く 四七
郡方伺書并附札〔同前件。元ノ役答申も別紙の通りなれば許可されたる旨并許可附札〕 同月	一通く 三〇	包紙〔定免請書同通入〕 嘉永二年四月	一点く 四九
山平林村三役人・頭立小前惣代連印請書〔定免許可の申渡書への請書〕 名主長五郎外六名 郡奉行所宛 天保一〇年一二月	一通く 三七	有旅村并入有旅村三役人・頭立小前惣代連印請書〔免相三分下げ定免五ヶ年延長、年限中水干損引を願わさる旨〕 有旅村名主市左衛門外八名 嘉永二年四月	一綴く 四九
山平林村三役人・頭立小前惣代連印請書〔本年、免相三分下げ定免の年季明けなれど更に五ヶ年延長の事有難き旨〕 名主伴右衛門外四名 同前宛 天保一五年八月	一綴く 四六	山平林村三役人・頭立小前惣代連印請書〔同前〕 名主伴九郎外四名 同月	一綴く 四九
封筒〔有旅村、入有旅村定免願一件書類〕 天保一五年三月	一点く 四七	西後屋敷村年貢勘定書 勘定役〔姓不詳〕茂右衛門 寛延二年	一通く 四〇
勘定役吉沢十助伺書〔両村山広地開発にて增高ゆえ免相三分下げ定免を許可されたる旨〕 一二月	一通く 四七	下高田村免相覚書〔文化七年免相一ツ下げ申渡書、文化二・同三年の免相書立等〕	一通く 三三
勘定所元ノ役連名御尋物答書〔同前件、類例もあれば許可されたる旨〕 菊池孝助・水井忠蔵 同月	一通く 四七	牛嶋村三役人・頭立小前惣代等連印請書〔当村新田地生立直りにつき免相三分増し、一ツ五分の納所をなすべき旨〕 名主丈左衛門外二一名 勘定役吉沢十助・片桐重之助・立合中村茂一郎宛 天保六年三月	一通く 四三
郡奉行連名伺書并附札〔同前件〕 岡嶋莊蔵・菅沼弥惣右衛門・竹村金吾・山寺源太夫 同月	一通く 四七	西条村三役人申上書〔裏柴町元片桐重之助屋敷地の年貢小役品々夫銀、当年上納辻書上〕 名主平四郎外二名 勘定役北嶋元之助・窪田半弥宛 文久三年一二月	一綴く 四〇
有旅村三役人・頭立小前惣代連印願書〔先年の地押改にて高増しとなり年貢難渋、免下げ定免とされたる旨〕 名主林之助外八名 吉沢十助宛 天保一五年二月	一通く 四七	年貢収納見積書 (明治三年カ) 閏一〇月二日・一二月八日	二通く 四六
入有旅村村役人・頭立小前惣代連印願書〔同前〕 名主三郎右衛門外五名 同月	一通く 四七	八幡村・志川村・郡村三役人連印願書〔八幡芝山年貢の件、御一新復古の趣意につき別紙の通り進達されたる旨〕 八幡村名主武井伝之丞外八名 松代役所宛 明治四年一二月	一綴く 四四
有旅村三役人・頭立小前惣代連印請書〔五ヶ年免相三分下げ定免のこと承知の旨〕 名主林之助外六名 郡奉行所宛 同年三月	一綴く 四七		

更級郡八幡芝山古書号(宝曆一〇年十一月付の年貢上納辻と御林見与惣右衛門の切米取証取証文)

一綴く四四  
2

東寺尾村河原新田貢米勘定書控 元松代庁(太政官宛) 壬申(明治五年)一〇月

一通く七三

年貢納入

○納入規定

年貢収納方定書(寛政五年、享和二年被仰渡書号、納俵拵方、目方規定、中札口札添付規定)

一通く六二

触書(年貢月割上納方、石代直段規定) 二月二五日

一通く四五

○年貢割付

子御年貢土目録 代官宮下善左衛門 小嶋田村宛 文政二年二月

一通く三三

寅御年貢土目録 同前 同前宛 天保元年二月

一通く三四

卯御年貢土目録 同前 同前宛 天保二年二月

一通く三五

辰御年貢土目録 同前 同前宛 天保三年二月

一通く三一

巳御年貢土目録 同前 同前宛 天保四年二月

一通く三三

辰御年貢免相土目録 代官依田甚兵衛 栗佐村 三役人宛 天保三年二月

一通く三〇

午御年貢免相土目録 同前 同前宛 天保五年二月

一通く三六

未御年貢土目録 代官山田兵次 大原村宛 弘化四年二月

一通く三三

申御年貢土目録 同前 同前宛 嘉永元年二月

一通く三六

酉御年貢土目録 同前 同前宛 嘉永二年二月

一通く三七

戌御年貢土目録 同前 同前宛 嘉永三年二月

一通く三八

亥御年貢土目録 同前 同前宛 嘉永四年二月

一通く三〇

子御年貢土目録 同前 同前宛 嘉永五年二月

一通く三九

申御年貢免相土目録 代官西沢軍治 八幡村三役人宛 嘉永元年二月

一通く三三

辰御年貢免相土目録 同前 桑原村三役人宛 安政三年二月

一通く三三

子御年貢免相土目録 代官伊東賢治 雨宮村宛 元治元年二月

一通く三四

丑御年貢免相土目録 同前 同前宛 慶応元年二月

一通く三五

年貢諸夫銀配付目録 長百姓磯五郎 (宛所不明) 天保八年二月

一通く三六

○月割上納

月割金上納切手綴 明治二年一〇月・十一月

一綴く三九

1月割上納金勘定書(金一三九兩余。内二五兩余金札、三分御手形、一一三兩余正金)

一通

2月割金上納切手 牧内村名主敬治 一〇月二〇日

一通

3月割金上納切手 西寺尾村組頭健左衛門 同日

一通

4月割金上納切手 東福寺村 同日

一通

5月割金上納切手 東条村北組名主健三郎 租税司役所宛 明治二年一〇月二〇日

一通

6月割金上納切手 東条村南組 同年一〇月二〇日	一通	月割金上納切手 (二ヶ村分同前、金七二兩余。租税司西村源兵衛方) 加賀井・中御所・下布施・上八町・四ツ屋・市・小市・下八町・長礼・保科・田中村 明治二年一〇月二〇日	一綴 く 三九七 (二通)
7月割金上納切手 力石村 一〇月二〇日	一通	月割金上納切手 (二ヶ村分同前、金九五兩余。外一八兩余) 南長池・瀬原田・大熊・小河原・上高田・東寺尾・(小河原入作)・中俣・布野・(北長池入作)・福嶋・二ツ柳村 明治二年五日・一六日・一九日・二〇日	一綴 く 三九六 (三通)
8月割金上納切手 出役卯作、網懸村 同日	一通	○年貢皆済	
9月割金上納切手 荒町村頭立七左衛門 租税司役所宛 明治二年一〇月	一通	一二月一以前皆済村々書立 (赤野田新田村、仙仁村、上八町村外。五ヶ年の二月中皆済日記載) 代官山田兵次 未一二月	一通 く 三二
10月割金上納切手 新池村仮名主和藏 明治二年一一月五日	一通	一二月一以前皆済村々書立 (向八幡村、上德間村、川合村外) 代官岡部八十喜 未一二月	一通 く 三三
11月割金上納切手 同前 明治二年一〇月二〇日	一通	一二月一以前皆済村々書立 (青池村、橋詰村、生萱村外) 代官依田甚兵衛 未一二月	一通 く 三四
12月割金上納切手 上德間村組頭伝七 租税司役所宛 一〇月一九日	一通	一二月一以前皆済村々書立 (南堀村、石渡村、下高田村外) 代官西沢軍治 未一二月	一通 く 三四
13月割金上納切手 中沢村 役所宛 (月日ナシ)	一通	一二月一以前皆済村々書立 (須坂村、白石新田村、柴村外) 代官宮下善右衛門 申一二月	一通 く 三五
14月割金上納切手 上山田村長百姓小山六兵衛 代官所宛 明治二年一〇月二日	一通	年貢皆済状 (天明八年分) 長谷川藤五郎 真嶋村 三役人宛 寛政元年三月	一通 く 三六
15月割金上納切手 町分名主清兵衛 租税司役所宛 明治二年一〇月二〇日	一通	年貢皆済状 (同前) 同前 川合新田村三役人宛 同月	一通 く 三六
月割金上納切手 (二ヶ村分同前、金九一五兩余。租税司細田久作方) 八幡・大宝・上真嶋・欠・須坂・(同入作)・桑根井・平林・西条・関谷・上小嶋田村 明治二年一〇月二〇日	一綴 く 三九六 (二通)	年貢皆済状 (同前) 同前 力石村三役人宛 同月	一通 く 三六

年貢皆済状 (同 前)	同前	鼠宿村三役人宛 同	一通く一七
年貢皆済状 (同 前)	同前	千本柳村三役人宛 同	一通く一七
年貢皆済状 (同 前)	同前	成沢文治 葉村三役人宛 同	一通く一七
年貢皆済状 (同 前)	同前	大宝村三役人宛 同	一通く一七
年貢皆済状 (同 前)	同前	清野村三役人宛 同	一通く一七
年貢皆済状 (同 前)	同前	牛嶋村三役人宛 同	一通く一七
年貢皆済状 (同 前)	同前	本八幡村三役人宛 同	一通く一七
年貢皆済状 (同 前)	同前	森山嘉藤太 栗佐村三役人宛 同	一通く一五
年貢皆済状 (同 前)	同前	土口村三役人宛 同	一通く一六
年貢皆済状 (同 前)	同前	野村善太夫 四ツ屋村三役人宛 同	一通く一六
年貢皆済状 (同 前)	同前	丹波嶋村三役人宛 同	一通く一六
年貢皆済状 (同 前)	同前	小市村三役人宛 同	一通く一六
年貢皆済状 (同 前)	同前	市村三役人宛 同	一通く一六
年貢皆済状 (同 前)	同前	東条与一郎 福嶋村三役人宛 同	一通く一五
年貢皆済状 (同 前)	同前	村山村三役人宛 同	一通く一六
年貢皆済目録案紙 (長礼村、加賀井村、田中村、保科村等里分諸村、慶応二年分)	南沢甚之助 慶応三年	一卷く四八	
年貢皆済目録案紙 (小柴見村、久保寺村小路組、同大門組、同差出組等)	同前 同年	一卷く四九	
年貢皆済目録案紙 (永熊村、安庭村、三水冷泉村等)	同前 同年	一卷く四〇	
年貢皆済目録案紙 (下宇木村、上宇木村等、明治元年分)	伊東賢治 明治二年	一卷く四三	
○不納・延滞			
封筒 (田中村浄福寺持分馬場形新田年貢一件書類)	郡奉行綿貫五郎兵衛 文化三年一〇月	一点く三三	
田中村浄福寺答書写 (同寺境内につき年貢地まで朱印地と公儀へ書上たる件) (奥書、関谷村明徳寺)	寺社・町・郡奉行宛 寛政三年二月六日	一通く四八	
田中村浄福寺答書写 (同寺分三六石余并馬場形新田の年貢上納の件、公裁にて朱印地の可否決するまで上納致しがたき旨) (奥書同前)	同前宛 同日	一通く四九	
江戸留守居池村八太夫申上書写 (浄福寺一件幕府への出訴につき手続き方并裁許見込み報告、奉行所吟味願書の案文記載)	二月一四日	一綴く六三	
田中村浄福寺内願書 (年貢滞納分の処理のため預置きの地所、手作りをなしたく返還されたい旨)	勘定役大嶋多吉宛 (文化三年) 一〇月	一通く四四	

郡奉行所連名伺書并附札(預置き地所のうち馬場形新田の分は当年にて滞納分皆済につき返還したき旨并許可附札) 金井善兵衛・渡辺友右衛門・綿貫五郎兵衛 一〇月二三日

一通く八三

浄福寺請書(馬場形新田下げ渡され、年貢、滞金返済とも履行いたす旨) 郡奉行所宛 文化三年一〇月

一通く八三

浄福寺知門地所請取証文(馬場形新田四石九斗余) 田中村三役人宛(奥書三役人 片岡治郎右衛門宛) 同月

一通く八三

勘定役片岡治郎右衛門申上書(浄福寺への地所引渡し完了の旨、復命) 一〇月一九日

一通く八三

封筒(月割上納金不揃い遅刻一件書類 一一一一一七番在中) 郡奉行寺内多宮 天保九年

一点く二〇

専納村嘉金太親類組合・仮三役人連印緋り書(月割上納金不揃遅刻により名主嘉金太町宿預けの件、赦免執成方) 伴右衛門外五名 大安寺宛 天保九年八月

一通く二二

大安寺村大安寺歎願書(同前件赦免方) 郡奉行寺内多宮・岡嶋莊藏宛 同月

一通く二三

専納村嘉金太・同親類組合・仮三役人連印請書(嘉金太赦免につき)の後は上納滞滞なき旨) 名主嘉金太外六名 郡奉行所宛 同月一四日

一通く二三

山上条村三役人緋り書(月割上納金不足、遅刻につき組頭等町宿預け、赦免執成方) 名主吉右衛門外三名 源真寺宛 天保九年八月

一通く二四

上条村源真寺歎願書(同前件赦免方) 寺内外二名宛 同月

一通く二五

花尾村三役人緋り書(月割上納金不揃、遅刻につき長百姓町宿預け、赦免執成方) 名主弁吉外四名 願生寺宛 天保九年八月

一通く二六

小鍋村願生寺歎願書(同前件赦免方) 郡奉行所宛 同月

一通く二七

徳間稲倉村・上野村名主連印願書(二ヶ村租税不足につき商社手形一二五両分を引換えられたき旨) 甚四郎・永吉 松代藩引換所役所宛 明治四年二月

一通く二九

諸村月割上納金取延願書綴 明治四年

美

一綴く三五

1 四ツ屋村三役人・惣代連印願書(月割上納金一〇月、一一分三三兩余、用水堰普請入用莫大のため当暮まで取延られたき旨) 名主池田茂一郎外三名 松代県役所 明治四年一〇月

一通

2 原村三役人・惣代連印願書(同前、月割上納金九七兩) 名主丸田庄七外三名 同前宛 同年九月

一通

3 布施高田村三役人・惣代連印願書(同前、月割上納金八三兩) 名主曾根川新左衛門外五名 同前宛 同月

一通

4 会村三役人・惣代連印願書(同前、月割上納金六〇兩余) 名主山岸利右衛門外四名 同前宛 同月

一通

5 民事掛り伺書(四ヶ村用水堰普請入用莫大のため月割上納金二六三兩余取延への件、許可ありたき旨) 一〇月

一通

6 民事掛り伺書(徒刑掛り捕亡の職禄の件、早急に聞済ありたき旨) 未一一月二日

一通

〔徒目付連名申上書〕〔殺留にて大豆・小豆の売出しできず・村々月割上納金差支のこと・勘考ありたき旨〕 佐藤佐右衛門・竹内六郎兵衛 九月四日

○不正納入

封筒〔妻科村三右衛門納扱不正一件書類 四〇八  
四一七番在中〕 郡奉行岡嶋莊藏 天保一三年九月

叔藏方伺書〔納主名三右衛門の儀に不正あり。名代兵左衛門・役人代作右衛門町宿預け申渡たるにより吟味されたき旨〕 八月四日

妻科村名三右衛門親類組合・三役人并町宿連印請書〔名三右衛門吟味中、手鎖にて町宿預けのこと承知の旨〕 親類利兵衛外六名 郡奉行所宛 天保一三年八月七日

扱納不正一件答書綴 岡嶋莊藏 八月

1妻科村名三右衛門答書〔納扱濕らせのこと一言申訳なき旨〕〔奥書、三役人〕 郡奉行所宛 天保一三年八月

2妻科村兵左衛門答書〔同前件、不念不調法の旨〕〔奥書同前〕 同前宛 同月

3妻科村作右衛門答書〔同前〕〔奥書同前〕 同前宛 同月

妻科村名三右衛門親類組合・三役人等連印縫り書〔納扱不正一件赦免執成方〕 名主与市外七名 長明寺宛 天保一三年八月

東寺尾村長明寺歎願書〔同前件赦免方〕 郡奉行岡嶋莊藏外二名宛 同月

一通く 三八七

一点く 四〇七

一通く 四四四

一通く 四六六

一綴く 四二三

一通

一通

一通

一通く 四四五

一通く 四二二

妻科村名三右衛門親類組合・三役人連印請書〔名三右衛門村預けとされ有難き旨〕 名主与市外五名 郡奉行所宛 同月

妻科村作右衛門・三役人連印請書〔作右衛門吟味中、農業以外の他行差留のこと承知の旨〕 名主与市外四名 同前宛 同月

妻科村兵左衛門・三役人連印請書〔同前〕 同前 同前宛 同月

郡奉行連名伺書并附札〔名三右衛門に過料錢二貫文 兵左衛門に叱りに処すべき旨并許可附札〕 岡嶋莊藏・金児丈助・竹村金吾

妻科村吟味人・三役人連印請書〔答申渡への請書〕 名三右衛門外六名 郡奉行所宛 天保一三年九月五日

○先納

先納年貢金請取証文〔年貢一〇ヶ年分金一九五〇兩〕 柳八右衛門〔奥書、郡奉行〕 小河原村三役人宛 宝暦一一年十二月

千本柳村百姓連印願書〔元給人分の年貢過納につき本年の年貢は差繼とされたき旨〕 多兵衛外三名 代官所宛 文政九年十二月

上松村藏元平藏願書〔同前〕 同前宛 同月

○年貢納払勘定

郡奉行連名伺書并附札〔辰年納扱にて来年までの払積。扱方掛の納扱払積勘定帳を付属并許可附札〕 金井左源太・鹿野外守・松本源八 辰〔文政三年カ〕 一〇月

郡奉行連名伺書并附札〔巳年分同前〕 金井・鹿野・岡嶋〔莊藏〕 巳〔文政四年カ〕 一〇月

一通く 四九六

一通く 四〇〇

一通く 四〇八

一通く 四三三

一通く 四七七

一通く 三七三

一通く 二八九

一通く 二九〇

一綴く 二六四

一綴く 二六七

郡奉行連名伺書并附札〔巳年分同前〕 興津権右衛門・岡嶋莊藏・金兒丈助 巳〔天保四年カ〕一〇月	一綴く二五	善光寺領年貢勘定書	一通く五二
御收納郡方伺書并附札〔酉年分同前〕 酉一〇月	一綴く三五九	善光寺領年貢勘定書	一通く五四
御收納郡方伺書并附札〔戌年分同前〕 戌一〇月	一綴く二六〇	善光寺領七瀬村年貢勘定書	一通く五三
御收納郡方伺書并附札〔亥年分同前〕 亥一〇月	一綴く二六一	松代・飯山・善光寺町米相場書立 午〔明治三年〕	一通く五三
御收納郡方伺書并附札〔子年分同前〕 子一〇月	一綴く二六二	松代・飯山・善光寺町米相場書立	二枚く五六
御收納郡方伺書并附札〔丑年分同前〕 丑一〇月	一綴く二六三	民事掛り伺書〔諸国寺院領上知のため收納物返還、よつて年貢租直段の取扱方伺い〕〔明治四年〕二月	一通く五五
御收納郡方伺書并附札〔未年分同前〕 一月	一綴く二六六	民事掛り伺書草案〔同前〕 二月一五日	一通く五七
○明治期税制改正		善光寺領年貢勘定書	一通く五六
包紙〔善光寺領收納方一件書類 五一四・五三〇番一括〕〔明治三、四年〕	一点く五三	善光寺領年貢勘定書	四枚く五九
善光寺役人連名書状〔寺領收納方別紙の通り、相場決定したらば報せられたき旨〕 今井・磯左衛門・柄沢彦三 野中喜左衛門宛 一二月三日	一包紙一通く五四	寺社領編入一件留書〔神社郡政副主事伺書、計政副主事御尋物答書、太政官布達等の写〕	一綴く五〇
名札〔今井彦三、今井中三〕	三枚く五五	封筒〔租税收納物之儀伺〕 東京在勤大属 松代県権大参事宛 〔明治四年〕	一点く二六
善光寺役人連名書状〔租税取立帳、配符の認方の時期切迫につき相場至急報せられたき旨〕 今井・柄沢 野中宛 一二月一八日	一通く五六	松代県伺書〔租税運用につき月割上納制度は如何取計らうべきやの旨〕 大蔵省宛 辛未〔明治四年〕九月一五日	一綴く二六
善光寺役人連名書状〔同前〕 同前 同前宛 正月一六日	一通く五七	大属職事掛り渡迎憲蔵書状〔大蔵省より月割上納金は藩債か否かの尋問ありし旨〕 権大参事宛 一〇月七日	二通く二六
〔野中喜左衛門書状草案〕〔相場の件承知、是迄の收納方等調査のうえ面談したき旨〕	一通く五八	松代県伺書控〔当県大負債につき今年月割前納を許可ありたき旨〕 大蔵省宛 辛未一二月	一綴く二六
〔野中喜左衛門伺書草案〕〔善光寺領七瀬村等三ヶ村の俵内量・相場の件〕 正月二二日	一通く五九		
善光寺領年貢勘定書	一通く五〇		

松代県歎願書草案〔同 前〕 同前宛 同月

一通く三七

長野県移管諸村年貢清算一件書類〔四〇二  
〇五番一括〕

民事掛り伺書〔長野県へ引渡一〇ヶ村の既納の人  
足役・月割上納金分は去年未納分に差継とされ  
た旨〕 一二月二二日

一通く四二

監督御尋物答書〔同前件、異論なき旨〕 一二月

一通く四三

移管諸村人足遣払差引勘定書 監督

一通く四五

民事掛り伺書〔同前件、既使用の御用人足の扱代金  
を未納の郡役・買役で相殺した旨〕 一二月

一通く四四

### 山 年 貢

上宮野尾村村役人并立入人連名願書案〔山田  
中村忠助より差出の山年貢扱の受領有無を巡る公  
事一件。和談成立につき吟味流しとされた旨〕 文  
政九年三月

一通く二六

上宮野尾村村役人并立入人連名願書草案〔同  
前草稿〕

一通く二七

有旅村山年貢差継一件綴込伺書 〔天保二年〕

一綴く四一

1代官山田兵次伺書〔別紙請書の通り取計りたる  
ところ当年地押にて山年貢減少につき、去年上  
納扱にて差継きたき旨〕 一二月

一通

2有旅村三役人請書〔当村山年貢のうち八俵余は  
中山新田村納入分なれど、同村難渋につき当村  
より納入の旨〕 名主藤兵衛外二名 代官所宛  
天保二年一二月

一通

柴村御林永預冥加扱一件綴込伺書 民事懸  
明治四年八月

一綴く三八

1郡政算師連名伺書〔柴村御林山年貢一俵に減額  
して命じたき旨〕 草川吉右衛門・吉野芳馬  
辛未八月

一通

2柴村三役人請書〔当村御林冥加扱五斗に減額さ  
れ有難き旨〕 名主水沢勇右衛門外二名 草川・  
吉野宛 明治四年八月 美

一綴

清野村三役人願書〔妻女山へ新規道路出来につき  
山年貢減額されたき旨〕 名主柳沢恒治外三名  
松代県役所宛 明治四年八月

一通く四〇

### ○

扱差上切願 矢代村 勘定所扱方役所宛 天保一  
〇年

一通く三六

田中村忠之助上納米勘定書 寅三月

一通く四三

郡政副主事市場源七郎申上書〔二分金上納方等  
の儀につき庶務掌より別紙進達あり、早急に差図  
ありたき旨〕 一二月一二日

一通く四六

庶務掌野中喜左衛門申上書〔二分金不通用の件  
年貢上納に二分金差出たるところ役人等請取を拒  
絶につき不穩の情勢たる旨〕

一通く四六

### 諸役・運上

### 郡 役

中沢村市郎治請書〔これまで頂戴の郡役二人分の  
うち一人分引上げのこと承知の旨〕 郡奉行所宛  
文政七年二月

包紙一通く二六



諸村小役郡役手充引書立(布施五明村外の御用人馬触状継送り手充 開発手充、困窮手充等一覽) 横長美 一綴く 三五六  
勘定吟味役草間権平 郡奉行宛 (天保頃)

諸村小役郡役手充引書立(同前の清帳) 横長半 一冊く 三五九

郡役代金請取一紙証文 北河原村本役市左衛門・幸左衛門 勘定所宛 卯一二月 半 一綴く 三八三

追鳥役・川役

封筒(文政五年追鳥井鯉鴨納不調之村々尋答一件書類 四五九、四九三番在中) 勘定所元々矢野倉惣之進・菊池孝助 一点く 四五六

鏡村三役人答書(献上雉子の有無の件。当村は諸役免許にて雉子御用は無き旨) 名主斧右衛門外二名 代官所宛 文政五年閏正月 一通く 四六三

新安村三役人答書(同前件。神領荒安村へ諸役人足伝馬勤につき免許の旨) 名主喜右衛門外二名 同前宛 同月 一通く 四六四

中山新田村役人答書(当村追鳥免許の訳。寛文年中よりの新田村なれば諸役等一切無き旨) 吉兵衛外二名 同前宛 同月 一通く 四六五

青池村三役人答書(当村雉子代不納の訳。住古山布施村より分村の節、雉子役は引訳ずとの申伝えある旨) 名主六郎治外二名 同前宛 同月 一通く 四六六

柳沢新田村役人答書(同前件。当村薄地新田につき諸役一切免許の旨) 名主佐四郎外一名 同前宛 同月 一通く 四六七

笹平村三役人答書(同前件。山中入口にて船渡、触状伝達人足等御用多く諸役免許の旨) 名主孝蔵外四名 同前宛 同月 一通く 四六八

灰原村三役人答書(同前件。少高にて人少なにつき免許。尤も上様御問懸の節は隣村へ増人足命ぜられたる旨) 名主清右衛門外二名 勘定所元々役所宛 同月 一通く 四六九

松岡新田村三役人答書(同前件。川除普請等にて難渋につき先年より免許の旨) 名主佐市外二名 同前宛 同月 一通く 四七〇

大豆嶋村三役人答書(同前件。御膳鯉御用につき免許の旨) 名主与惣治外三名 同前宛 同月 一通く 四七一

大豆嶋村三役人答書(同前件。当村越後少將の時代より川鯉御用鯉上納にて諸役免許、別に鴨運上を上納の旨) 同前 勘定所元々役所宛 文政五年二月 一通く 四七二

大豆嶋村三役人願書(当村鯉二五〇本上納にて諸役免許のところ川並悪敷七〇本手充引となる。此度手充引返上したき旨) 同前 同前宛 同年七月 一通く 四七三

丹波嶋村三役人答書(献上追鳥雉子代不納の訳。宿役勤仕につき越後少將より宿証文項戴の旨) 名主勘左衛門外五名 代官所宛 文政五年閏正月 一通く 四七四

福嶋新田村三役人答書(同前件。新田村につき赦免の旨) 名主卯太夫外二名 同前宛 同月 一通く 四七五

上徳間村三役人答書(同前件。八幡宮産子につき赦免の旨) 名主喜左衛門外二名 同前宛 同月 一通く 四七六

上徳間村三役人答書(同前件。同文) 同前 勘定所元々役所宛 同月 一通く 四七七

上平村三役人答書(同前件。当村百姓持山の松木にて御林同様御用達なすにより赦免の旨) 名主林左衛門外二名 勘定役片桐惣右衛門宛 同月 一通く 四七八

上平村三役人答書〔同前件。言伝えのみにて証拠書付は無けれども従前通りとされたき旨〕 同前 勘定所元ノ役所宛 同年四月	一通く四九三	川合村三役人答書〔当春より小役勤仕有無の件。本田五〇石分の小役勤めたく、自余の諸役は免除されたき旨〕 同前 同前宛 同年九月	一通く四六二
上平村三役人請書〔当年より雄子五羽上納のこと承知、但し代銭納〕 同前 片桐宛 同年八月	一通く四三二	川合村入木入草免許証文〔川合村、近年身代不成につき入木入草用捨の旨〕 河野加兵衛 川合村之新田共肝煎中宛 甲午一〇月一七日	一通く四七三
西寺尾村三役人答書〔雄子役不納の訳。道橋役所の人足を持切勤仕のゆえと申伝えの旨〕 名主久右衛門外二名 代官所宛 文政五年并正月	一通く四八三	川合村諸役年季引証文〔川欠難洪につき綿、荏、大豆、御飯米、二八匁夫銀、五ヶ年間手充引の旨〕 代官長谷川藤五郎 川合村宛 酉一二月	一通く四七四
西寺尾村三役人答書〔同前件。証拠書付は無き旨〕 同前 勘定所元ノ役宛 同年四月	一通く四九一	川合村門役免許証文〔川合村打切、那惣人足より川合一郷人足に変更につき同村門役を引出の旨〕 菅沼九兵衛 川合村肝煎・組頭宛 寅九月五日	一通く四七五
鼠宿村・新池村三役人連印答書〔同前件。宿御用勤仕につき諸役免許の旨〕 鼠宿村名主市郎左衛門外五名 代官所宛 文政五年閏正月	一通く四八五	新田川合村三役人答書〔当村雄子不納の旨。鯉鴨川役勤仕につき赦免の旨〕 名主喜藤太外二名 代官所宛 文政五年并正月	一通く四七六
鼠宿村・新池村三役人連印答書〔同前件。同文〕 同前 勘定所元ノ役所宛 同月	一通く四八六	新田川合村三役人答書〔当村鯉十八本手充引につき小役勤仕諸否の件。手充引を返上にて鯉上納勤めたきこと、鯉代銀規定等〕 同前 勘定所元ノ役所宛 同年六月	一通く四八六
小松原村三役人答書〔同前件。当村犀口堰元村にて諸人足勤仕のため赦免の旨〕 名主清治郎外四名 代官所宛 同月	一通く四九八	輕井沢村三役人願書〔当村薄地ゆえ追鳥御用免除のところ近年高野村へ追鳥出張命ぜられ難洪。先例の通りにされたき旨〕 名主伊右衛門外二名 勘定所元ノ役所宛 同年二月	一通く四七〇
小松原村三役人答書〔同前件。証拠書付は無けれども従前通りとされたき旨〕 同前 勘定所元ノ役宛 同年四月	一通く四九〇	小市村三役人答書〔先年は馬市の節は諸役免除、亥年中は半諸役免除ありし旨〕 名主瀬左衛門外二名 元ノ役所・勘定役所宛 同年二月六日	一通く四八八
川合村三役人答書〔同前件。川役勤仕のため諸役赦免の旨〕 名主弥忠太外二名 代官所宛 文政五年并正月	一通く四九六	真田豊後守禁制写〔殺生、喧嘩口論、竹木伐採禁止〕 八幡村宛	一通く四八四
川合村三役人答書〔当村諸役免許の訳。従前当村小役は綿、荏、大豆、御飯米、二八匁夫銀のところ川欠難洪にて手充引とされし旨〕 同前 勘定所元ノ役所宛 同年二月	一通く四七七	袋〔雄子役、川役上納一件書類 三二一―三二四番在中〕 郡方 文政五年	一点く三〇〇

郡奉行申上書〔追鳥雉子代錢不納諸村の調査報告。大豆嶋村ら三ヶ村の諸役増減の件〕 四月一四日	一通く三三	横長半
追鳥雉子不納村々取合取調帳 勘定所元ノ役矢野倉惣之進・斉藤善九郎 午四月	一冊く三三	横長半
家老恩田靱負差図書〔雉子代の件、別紙の通り承済みたる旨〕 郡奉行鹿野外守宛 七月一七日	一通く三三	
郡奉行同書并家老差図書写〔仙仁村外に当年より雉子上納を命じたまふ旨〕 七月	一通く三四	
郡奉行同書〔大豆嶋・川合・新田川合村の各村とも諸役免除にて川役勤めたまふ旨〕 一〇月	一通く三七	
大豆嶋村等三ヶ村川役諸役差引勘定書 矢野倉・斉藤 九月	一冊く三七 2	横長半
西条村三役人請書〔当村内神領につき今年より追鳥雉子赦免のこと承知の旨〕 名主又五郎外二名 郡奉行所宛 文政六年一月	一通く三三 包紙一	
冥加・運上		
○定例上納		
水道方元ノ宮沢左伝治進達書〔増田徳左衛門役代弥吉より水車冥加銀五匁上納、相違無き旨〕〔奥書、郡奉行四名〕 水道奉行所宛 天保八年二月	一通く二七	
諸所御林払冥加金書立〔小松原、柴、山田、小網村等の御林払、ノ金一六八四兩余〕	一通く二六	
水車冥加金上納切手〔金一兩余〕 大塚村束組〔宛所ナシ〕 安政五年二月五日	一通く二九	
水車冥加金上納切手〔銀二匁余〕 押鐘村 勘定所宛 午二月	一通く二五	
水車冥加金上納切手〔金三兩余〕 小森村 同前宛 安政五年二月五日	一通く二五	
品々冥加金上納切手〔水車金三分、酒造一兩余、桶工銀三匁、小役金一分余〕 布施五明村 同前宛 同日	一通く二四	
品々冥加金上納切手〔川漁一匁余、水車三分余等〕 網懸村〔宛所ナシ〕〔年月ナシ〕	一通く二五	
水車冥加金上納切手〔金二兩〕 広田村 安政五年二月五日	一通く二六	
種売所冥加金上納切手〔種売所字兵衛分、金二兩余〕 広田村 同日	一通く二七	
川漁諸冥加金上納切手〔金二兩余〕 小森村 勘定所宛 同日	一通く二六	
品々冥加金上納切手〔水車金三分、酒造金余兩余、桶工銀三匁、小役金一分余〕 布施五明村 同前宛 同日	一通く二九	
品々冥加金上納切手〔用水堰永金三分余、紺屋銀三匁〕 布施五明村瀬原郷組 同前宛 同日	一通く三〇	
品々冥加金上納切手〔川漁金一分余、舟場銀七匁〕 岩野村 午二月四日	一通く三一	
品々冥加金上納切手〔水車金二分余、揚酒金一分、土手式冥加銀二匁余〕 田中村 二月四日	一通く三三	
品々冥加金上納切手〔水車金三分余、川漁銀六匁〕 新山村 勘定所宛 安政五年二月	一通く三三	
品々冥加金上納切手〔水車金三分余、質屋金一分、紺屋銀二匁、仕事師銀一匁余〕 檀田村 同前宛	一通く三四	
品々冥加金上納切手〔水車金三分余、酒造金一兩、質屋金一分、揚酒金一分、紺屋金一分等〕 小嶋村 午二月五日	一通く三五	

品々冥加金上納切手〔高札冥加金一分、瀬越冥加金二朱、髪結銀一二匁、左官銀五匁余等〕 小柴見村 勘定所宛 午二月五日

水車運上金上納切手〔金二分余〕 赤野田新田村 午二月四日

品々冥加金上納切手〔質屋金二分、揚酒金一分、蜜種壳銀一二匁等〕 上五明村 安政五年二月

品々冥加金上納切手〔水車金二匁余、川漁金三分余、漁場銀五匁余〕 同前 同月

品々冥加金上納切手〔鉄金一分余、揚酒金二分、酒造金二分〕 大豆嶋村 勘定所宛

品々冥加金上納切手〔桶工三匁、大工見習銀五匁余等〕 同前

品々冥加金書立〔水車金一匁余、川漁銀一匁余、唐弓打九人銀一三匁余、職人銀三匁余等〕

網懸村三役人答書〔当地地頭祢津氏拜領山、桑畑開発冥加切の件〕 名主塩野入磯右衛門外二名 勘定所宛 役宮善治宛 明治二年九月

開発場冥加切上納辻書立〔網懸、上平、中御所、高野村等、切七俵余〕 改役倉田助九郎 未年

開発場冥加切上納辻書立〔上八町、小柴見、川口、久保寺村等、切一〇俵余〕 改役 未一〇月

諸職人冥加金本上納証文〔金四匁余、去々午年分〕 佐藤伊予之進 中嶋渡浪・徳嵩広馬・野本力太郎宛 明治五年二月

諸職人冥加金本上納証文〔金三五匁余、去未年分〕 同前 同前宛 同月

松代城内諸年税調書写〔御堀運限冥加金二八匁、掃除料金一二匁余外五項目、金六二匁余〕〔松代藩〕〔東京鎮台第二分管宛〕 二月一八日

○諸役・運上皆済

小役諸運上銀皆済目録 代官山田兵次 赤田村宛 文政一二年

小役諸運上銀皆済目録 同前 同前宛 天保元年二月

小役諸運上銀皆済目録 同前 同前宛 天保二年二月

小役諸運上銀皆済目録 同前 同前宛 天保三年二月

小役諸運上銀皆済目録 代官細田久作 羽尾村仙石組宛 慶応三年

小役諸運上銀皆済目録 代官伊藤賢治 長井村宛 慶応三年

小役諸運上銀皆済目録 同前 中条村町組宛 慶応三年

小役諸運上銀皆済目録 同前 中条村蓬野組宛 慶応三年

小役諸運上銀皆済目録 同前 中条村月夜樋組宛 慶応三年

小役諸運上銀皆済目録 同前 青池村宛 慶応三年

小役諸運上銀皆済目録 (不明) 下越村宛 慶応三年

小役諸運上銀皆済目録 代官久保三郎 北高田村宛 慶応四年

小役諸運上銀皆済目録 四年	同前 沓野村宛 慶応四年	一通 二七九
小役諸運上銀皆済目録 年	同前 原村宛 慶応四年	一通 二八〇
小役諸運上銀皆済目録 慶応四年	同前 北長池村十二組宛 慶応四年	一通 四九五
小役諸運上銀皆済目録 慶応四年	同前 南長池村宛 慶応四年	一通 五〇四
小役諸運上銀皆済目録 慶応四年	同前 上高田村宛 慶応四年	一通 五〇三
小役諸運上銀皆済目録 四年	同前 石川村宛 慶応四年	一通 五〇五
小役諸運上銀皆済目録 慶応四年	同前 布施高田村宛 慶応四年	一通 五〇六
小役諸運上銀皆済目録案紙（小嶋、中俣、布野、里村山村辰年分） 代官柳遊亀尾 明治二年		一卷 四三二
小役諸運上銀皆済目録案紙（布施高田、小出謹三郎役代多吉、伊藤一学役代忠兵衛、原村外已年分） 同前 明治三年		一卷 四三三
小役諸運上銀皆済目録（後欠）		一通 四九六
○冥加上納出願		
湯田中・沓野・佐野村温泉場冥加金一件綴込伺書 郡方・道橋方（天保二年）九月		一綴 三七五
1 郡奉行・道橋奉行連名伺書并差図書（温泉場旅籠屋に幕領同様冥加永命したところ、別紙出願につき聞済まれたき旨） 興津権右衛門・藤井喜内 家老矢沢監物宛 九月		一通

2 勘定役・道橋方元々役連名申上書（同前件） 小林三左衛門・宮川長太夫 九月		一通
3 湯田中村三役人請書（温泉冥加金二両二分を上納したき旨） 名主善右衛門外二名 小林・宮川宛 天保二年九月		一通
4 沓野村三役人請書（同前金二両三分） 名主源太郎外二名 同前宛 同月		一通
5 佐野村三役人請書（同前金二分） 名主専助外四名 同前宛 同月		一通
荒神町三平外二名連印願書（加賀井村御用地山より瀬戸物細工用の土採取、冥加銀上納にて許可ありたき旨） 荒地掛り役所宛 嘉永七年八月		一通 三三九
荒地掛り伺書（同前件、差支無きにより聞済まれたき旨） 八月		一通 二四〇
冥加上納関係願書綴		
1 下布施村願人・村役人連印願書（当村前沖田の地所に小屋懸して瓦焼き渡世をしたき旨） 佐左衛門外二名 郡奉行所宛 万延元年十二月		一通 四三七
2 杵淵村願人・三役人連印願書（畑地に小屋懸して揚酒渡世したき旨） 七郎右衛門外四名 同前宛 同年十一月		一綴
3 清野村願人・三役人連印願書（畑地に小屋懸して青物商売したき旨） 左吉外四名 同前宛 同年一〇月二日		一綴
4 宮崎新田村願人・村役人連印願書（自分屋敷添畑に物置普請したき旨） 常太郎外二名 同前宛 文久元年八月		一通

関谷村三役人・頭立小前惣代連印願書〔高四二石余の荒地新田高 起返まで無高とし冥加粗上納の形にされたき旨〕 名主文源治外四名 郡奉行所宛 元治元年五月 美

一綴く三七

勘定所元々役同書并郡方添同貼紙〔丹波嶋村栄十郎、冥加金百兩献上の件聞済まされたき旨〕 (幕末) 二月

一通く一六  
11

家老赤沢助之進差図書〔別紙伺の通り承済みたる旨〕 郡奉行草間一路宛 二月九日

一通く一六  
12

瀬戸川村願人・三役人連印願書〔水車小屋建てたく場所見分ありたき旨〕 願人平四郎外四名 郡奉行所宛 慶応四年七月

一通く三三

椿峰村高屋組三役人願書〔当村九郎右衛門、水車渡世したく場所見分ありたき旨〕 名主源左衛門外二名 同前宛 同年八月

一通く三三

高屋村三役人請書〔当村九郎兵衛、水車小屋冥加粗二升上納のこと承知の旨〕 同前 勘定役田中増作宛 同月

一通く三三

羽尾村村役人請書〔須坂村寿作、当村分地にて水車渡世につき冥加上納のこと承知の旨〕 名主友藏外二名 田中増作宛 慶応四年九月六日

一通く三三

品々冥加粗上納方綴込同書 郡奉行斎藤友衛 一二月

一綴く一三

1 郡奉行連名伺書并附札〔別紙冥加粗上納の件。聞済されたき旨〕 山寺源太夫・磯田音門・宮下兵馬・斎藤友衛 (万延頃) 一二月

一通

2 勘定役関田慶左衛門伺書〔土口村、杵渚村、西寺尾村の開発冥加粗五俵余。当年より広土方へ上納の件〕 一二月

一通

計監・御城地樹芸方連名伺書〔立枯櫓二本、冥加金上納にて払下げ出願の件〕 未〔明治四年 五月三日〕 野外守・野嶋元作宛 前嶋有年・鹿

○冥加金免除願

日影村三役人願書〔当村八郎兵衛、水害にて水車渡世休止につき冥加銀赦免されたき旨〕 名主勇藏外三名 郡奉行所宛 万延元年九月

一通く五三

椿峯村願人・三役人連印願書〔病身にて水車商売引払い〕 彦右衛門外四名 同前宛 万延二年二月

一通く四七  
15

椿峯村願人・三役人計願書〔和吉子蔵、大童原野にて小屋懸揚酒渡世したれども病身につき廃業〕 和吉外四名 同前宛 万延二年二月

一通く四七  
16

古間村三役人願書〔岩草村栄作、当村地所にて水車小屋建設の予定なれど水害につき中止〕 名主磯吉外二名 同前宛 文久元年三月

一通く四七  
17

仁礼村願人・三役人連印願書〔焚湯渡世なれど病身につき廃業〕 八右衛門外五名 同前宛 文久元年三月

一通く四七  
18

千田村三役人願書〔当村国治、水災にて水車渡世廃業につき冥加粗免除されたき旨〕 名主治兵衛外二名 慶応四年八月

一通く三三

袋町慎一郎願書〔元道橋役所裏の地、冥加金上納にて稲作すれども水落の故障出来。冥加金減額されたき旨〕 松代県役所宛 明治四年一月

一通く三三  
11

民事掛り伺書〔別紙出願の件、聞済まされたき旨〕 一二月

一通く三三  
12

紙屋町清水戸佐久請書〔御為替金取組の冥加金の件、日延べ許可のこと承知の旨〕 勘定役酒井市治・水野清右衛門宛 慶応元年二月

一通く三八

○冥加増銀

材木師・鍛冶職等増税一件評議書類（三四一）（三四七番一括）（明治二、三年）

計政副主事伺書〔材木渡世人、鍛冶職、銅職、金具師、紺屋職等の冥加金の増税の件〕 二月

一通く三二

計監御尋物答書〔計政局の案に意義なし、藍瓶冥加金は今少し増額あるべき旨〕 二月

一通く三三

計政副主事御尋物答書〔藍瓶増税の件、在方紺屋職の者は産物会所にて藍元師へ冥加金二分上納の事情も考慮されたい旨〕 二月

一通く三三

議事御尋物答書〔人心不安定の折から増税に反対の旨〕 二月

一通く三四

監察御尋物答書〔材木、鍛冶、藍瓶の三職のみの増税には反対、貨幣改鑄のゆえならば一律増税とすべき旨〕 二月

一通く三五

計政副主事申上書〔増税一件差図なし、早急に裁断されたい旨〕 二月

一通く三六

計政副主事申上書〔三職は鑑札引替時期ゆえ先ず伺いたること、自余の税金は取調べのうえ伺う積りの旨〕 二月

一通く三七

諸職人増冥加・御定賃銀一件評議書類（三三一）（三四〇番一括）（明治三年）

営繕庶務伺書并営繕属下札（大工、杣、屋根葺、左官、煮職等諸職人の増冥加、半役規定等の件） 午（明治三年）正月

一通く三二

議事御尋物答書〔同前件。暫くの間増税は見合わせるべき旨〕 二月

一通く三三

営繕庶務伺書〔諸職人見習い年明けよりの賦課税額の件〕 午正月

一通く三三

営繕庶務伺書〔諸職人増冥加につき別紙の通り調べたれど、職人等騒動も懸念される旨〕 午正月

一通く三四

営繕庶務伺書〔諸職人賃銀不同にて一統難決。沓工につき銀五匁とし他に賄雑用を下されたい旨〕 正月

一通く三五

営繕属御尋物答書〔冥加銀、賃銀の件。三三一番下札の外に意見なき旨〕 正月

一通く三六

営繕司伺書〔諸職人冥加并賃銀の件、営繕庶務、同属の取調べ書類差添え伺い〕 二月三日

一通く三七

計政副主事御尋物答書〔同前件。当今物価高騰中につき賃銀公定は熟慮すべき旨〕 二月

一通く三八

計監御尋物答書〔同前件。計政副主事答申に同意、また冥加増しは作料値上となるゆえ不可の旨〕 二月二〇日

一通く三九

議事御尋物答書〔同前件。職人のみの増税は不可、賃銀公定は営繕庶務の案にて施行されるべき旨〕 二月

一通く四〇

御尋物答書草案〔同前件。冥加増は一律とすべきにて職人分のみは不可、職人賃銀は先年の例と異なるにより尚勘弁ありたい旨。初稿〕

一通く四一

御尋物答書草案〔同前。第二稿〕

一通く四二

御尋物答書草案（同前。成稿）

○不納・延滞

中条村諸商職人連印願書（運上、水役上納滞り、今度は赦免されたき旨） 揚酒売三郎右衛門・大工幸左衛門外四名 郡奉行所宛 天保六年二月

中条村三役人願書（水役、月割上納滞滞につき赦免ありたき旨） 名主治平外五名 勘定所元々役所宛 同月

中条村三役人・諸商職人連印請書（同前件。此度は赦免にて以来滞滞なすまじき旨） 名主治平外二名 郡奉行所宛 天保七年三月

封筒（地京原村諸冥加金差滞吟味一件書類） 郡奉行岡嶋莊藏 天保一〇年一〇月

1 御余慶上納掛り申上書（地京原村、諸冥加金不納につき三役人召出し詮議ありたき旨） 九月

2 地京原村吟味人親類組合惣代・村役人并町宿連印請書（当村下組長百姓金五郎不埒につき吟味中手鎖にて町宿預け承知の旨） 名主竹藏外一〇名 郡奉行所宛 天保一〇年九月一三日

3 地京原村吟味人親類組合惣代・村役人・頭立連印縫り書（同前件赦免執成方。当村去年も月割金滞滞にて寺院縫りなれば、如何様咎受けるや知れざる旨） 名主竹藏外一四名 臥雲院・松厳寺宛 同月

4 念仏寺村臥雲院・鬼無里村松厳寺連印歎願書（同前赦免方） 郡奉行所宛 同月

触書草案（冥加銀上納催促） （五月一九日）

一通く五七

一通く一三

一通く一四

一通く一五

一点く三七

一通

一通

一通

一通

一通く一八

○

原村三役人答書（伊藤一学、小出祐之助への直上納高の掛り物諸役の件。両家高除外にて割合につき村方難渋の旨） 名主九右衛門外二名 勘定所元々役所宛 嘉永元年八月

美

上ヶ尾村中沢五左衛門願書（自分慶長年中より諸役赦免の老百姓。此度管轄替につき長野県庁に申立られたき旨） 旧松代庁宛 明治五年五月

諸役免許証文写（持高五〇石、口留分共六〇石の諸役、老中差図により免許の旨） 大日方佐五右衛門・山中小平治・近藤江左衛門 上ヶ尾村八左衛門宛 元禄一五年十二月

手 充 引

町川田村手充引居出願一件綴込伺書 郡方 天保七年

1 郡方伺書并附札（別紙代官申立の件、聞済まされたき旨） （勝手掛家老宛） 九月

2 代官宮下善左衛門伺書（町川田村出願の件、近年無賃伝馬等多きにつき是迄通り五ヶ年手充引居とされたき旨） 九月

3 町川田村問屋・宿役人連印願書（当村川欠多く宿御用繁忙。犬銀、添運上等二三匁余、宝曆三年以来手充引にて尚延長されたき旨） 問屋西沢又三郎外五名・代官所宛 天保七年九月

諸村手充引并冥加増上納取扱一件綴込伺書 郡方 天保一二年

1 郡方伺書并附札（別紙申立の諸件伺并許可附札） 一〇月

一綴く三五

一通く一五  
1

一通く一五  
2

一綴く三六

一通

一通

一通

一綴く一五

一通



2山里村々山年貢井品々冥加粗之内引方引居 伺 荒地掛 一〇月	横長半	一冊
3新馬喰町御用地圃込願ニ付冥加粗上納伺 小林三左衛門・町田権之助 天保一二年一〇月	横長半	一冊
4上平村古入下御手充頂戴ニ付冥加粗上納伺 荒地掛 同月	横長半	一冊
5西条村田直願ニ付冥加粗上納伺 衛門 丑（天保一二年）一〇月	横長半	一枚
6代官伺書断簡（別紙小河原村歎願につき粗一九 俵減額ありたき旨）		一通
7小河原村東組村役人願書（荒地開究の井戸堀 に多分の入用のうえ當年不作につき上納粗減額 されたき旨） 名主常八外一名 代官所宛 天 保一二年一〇月		一通
8代官宮下善左衛門伺書（別紙稲積村の件。三ヶ 年引居されたき旨） 一〇月		一通
9稲積村問屋・三役人・頭立小前惣代連印願書 〔干損と宿御用難渋にて粗手充貸与さる。返上残 粗五六俵は据置とされたき旨〕 問屋伴右衛門 外五名 代官所宛 天保一二年八月		一通
諸村小役并免相手充引居一件綴込伺書 郡方 天保一二年一〇月		一綴く一毛
1郡方伺書并附札（諸村小役、清野村免相手充引 居の年季延長の件、勘定役検見廻村のうえ申立 につき聞済まされたき旨并許可附札） 一〇月		一通
2御小役高御手充引方引居伺一紙（牧野嶋、下 高埜、入山村以下二三ヶ村の諸役控除分と上納 分との調査報告） 天保一二年九月	横長半	一冊

3牧野嶋村三役人願書（従前引居の六〇石余分 の小役手充、年季明けなれど用水、土手普請にて 多分の雑費入用につき延長されたき旨） 名主 清左衛門外二名 勘定役池田良右衛門・水井忠 藏・町田権之助宛 天保一二年八月		一通
4下高埜村三役人願書（高一五石余分の小役手 充引居の件。荒川舟渡等入用多分ニ付、同前） 名主六兵衛外二名 同前宛 同月		一通
5入山村三組村役人願書（高八百石余分の小役 引居の件。役免粗返納、火災等ニ付、同前） 犬 飼組名主丈右衛門外五名 同前宛 同年九月		一通
6上平村三役人願書（天明度の地押改以来高八〇 石の小役免除の件。当村御林元村ニ付、同前） 名主太兵衛外二名 同前宛 同月		一通
7上徳間村三役人願書（高一八四石の小役引居 の件。川除普請、御用人足等ニ付、同前） 名主 村上左五兵衛外二名 同前宛 同年八月		一通
8岩野村三役人願書（川欠永引高一〇五石の藁納 分の件。当村薄地ニ付、同前） 名主佐源治外二 名 同前宛 同年九月		一通
9清野村三役人願書（川欠高三一九石の薪、藁、 二八匁夫銀等の引居の件。触状持、伝馬人足御用 等ニ付、同前） 名主弥平太外三名 勘定所元々 役所宛 同月		一通
10西条村三役人願書（当村般若寺の高四斗余諸役 手充引居の件。貧地ニ付、同前） 名主平兵衛外 二名 池田外二名宛 同年九月		一通
11荒町村役人願書（高七〇石の小役引居の件。 触状持送り勤仕ニ付、同前） 名主三郎治外一名 同前宛 同月		一通

12 西条村町分役人願書〔高七八石の小役引居の件。免相五分増上納いたすにより、同前〕 名主 平右衛門外一名 同前宛 同月	一通	21 清野村三役人願書〔田方千水損につき毎年免相七分下げ、本年も引居とされたき旨〕 名主 弥平 太外三名 郡奉行所宛 同年八月	一通
13 加賀井村三役人願書〔高七一石の小役引居の件。川欠難渋ニ付、同前〕 名主 宗右衛門外二名 同前宛 同月	一通	諸村小役・免相引居一件綴込伺書 郡方 天保一二年	一綴く一弄
14 田中村三役人願書〔高五一石の川敷手充として小役引居の件。川除入用莫大ニ付、同前。手充引の由来詳細〕 名主 久兵衛外二名 同前宛 同月	一通	1 郡方伺書并附札〔別紙申立の件聞済ありたき旨并許可附札〕 一一月	一通
15 町川田村三役人願書〔犬銀、株運上銀等諸役引居の件。川欠、宿役難渋ニ付、同前〕 名主 瀬左衛門外二名 同前宛 同月	一通	2 勘定役連名伺書〔八幡村、志川村、郡村、川欠につき免相七分引の件。年季明けなれど三ヶ年延長されたき旨〕 池田・水井・町田 一一月	一通
16 小河原村四組三役人願書〔本組一四六石、北組七〇石、新田組一九石、更組一四石の夫銀、伝馬夫銀引居の件。過重難渋ニ付、同前〕 本組名主 新右衛門外九名 同前宛 同月	一通	3 代官宮下善右衛門伺書〔長井村御救い扱手充、小役手充等三〇石返納の件。年季明けなれど一〇石上納、残り二〇石分は三ヶ年引居としたき旨〕 一一月	一通
17 久保寺村役人願書〔高八六石の三ヶ年諸役引居の件。先年検地よりの慣例ニ付、同前〕 名主 藤兵衛外七名 同前宛 同月	一通	4 長井村三役人・頭立小前惣代連印願書〔同前件出願〕 名主 初右衛門外四名 代官所宛 天保一二年 一一月	一通
18 綱嶋村役人願書〔高五一石の小役引居の件。川欠高多きニ付、同前〕 市右衛門外二名 同前宛 同月	一通	和乎村諸役御免高書立〔高八石九斗、此役扱一俵二斗余。従前困窮手充引〕	一通く三五
19 上横田村三役人願書〔高三〇石の藁、二八匁夫銀、高崎銀三ヶ年引居の件。川欠高多きニ付、同前〕 名主 佐源治外二名 同前宛 同月	一通	包紙〔囲穀之内、領分村方江御手充指加出願一件〕 天保四年一〇月二日	二点く一五
20 勘定役連名伺書〔清野村願いの件。詮議したるところ申立の通り相違なく、三ヶ年引居とされたき旨〕 池田良右衛門外二名 九月	一通	真田家留守居伺書并附札〔松代領内凶作につき囲穀のうち千石を手充米に加えて放出したき旨并放出囲米は三ヶ年賦詰戻しとすべき旨回答〕 小松儀兵衛 幕府勘定奉行土方出雲守宛 九月四日	一通く一五 包紙一
		真田家留守居請書控〔同前附札差図のこと承知の旨〕 小松儀兵衛 土方出雲守宛 九月一二日	一通く一五 一

国 役 金

河川国役金

○国役金上納

幕府勘定所触書〔東海道筋諸川国役普請、百石二付金一分、銀一四匁五分上納すべき旨〕 亥八月

一通く 三

国役金納目録控〔子丑年東海道、信州諸川国役普請分。惣高九万七二〇二石余、役金四三二兩余〕

真田家留守居石川新八 幕府代官風祭甚三郎手代中宛 明和八年三月

一通く 六

国役金納目録控〔子丑寅年同前。惣高九万九三六六石余、役金四四五兩余〕 同前 代官川崎市之進宛 安永三年四月

一通く 二五

国役金納目録控〔未年戊戌年分同前。惣高一〇万二七七石余、役金四八五兩余〕 留守居池村八太夫代官蔭山外記手代中宛 安永九年二月

一通く 二〇

国役金上納届書控〔子丑寅年東海道、信州諸川国役普請分。惣高九万七二〇二石余、役金四三二兩余。代官方へ納入したる旨〕〔幕府勘定所宛〕 同年一〇月

一通く 元

国役金上納届書控〔子丑寅年分。惣高九万九三六六石余、役金四一八兩余〕 幕府勘定所宛 安永元年四月五日

一通く 七

国役金上納届書控〔子丑寅年分。惣高九万九三六六石余、役金四四五兩余〕 同前宛 安永三年三月

一通く 六

国役金上納届書控〔子丑寅年分。惣高九万九三六六石余、役金四六二兩余〕 同前宛 安永四年二月

一通く 五

国役金上納届書控〔子年戊午年分。惣高一〇万二七七石余、役金四八二兩余〕 同前宛 安永五年三月

一通く 四

国役金上納届書控〔辰年未年分。惣高一〇万二七七石余、役金四八八兩余〕 同前宛 安永六年二月

一通く 三

国役金上納届書控〔巳年申年分。惣高一〇万二七七石余、役金四八七兩余〕 同前宛 安永七年四月

一通く 三

国役金上納届書控〔巳年酉年分。惣高一〇万二七七石余、役金四九一兩余〕 同前宛 安永八年四月

一通く 二

国役金上納届書案文

一通く 九

○請取証文

国役金請取証文〔戌亥年東海道、信州諸川国役普請分。惣高九万八五四五石余、役金四八九兩余〕 代官布施孫三郎手附齋藤勘三郎 真田家役人中宛 寛政九年二月

包紙一通く 三

国役金請取証文〔亥子年分。惣高九万八五四五石余、役金四八九兩余〕 松下内匠手附橋本大次郎 同前宛 寛政九年二月二日

包紙一通く 三

国役金請取証文〔子丑年分。惣高同前、役金同前〕 岡田清助手代東住野五郎次・宮本品九郎 真田家留守居鈴木弥左衛門宛 寛政一〇年二月二六日

包紙一通く 三

国役金請取証文〔丑寅年分。惣高同前、役金同前〕 榊原小兵衛手附青木長五郎・小林祐次郎 真田家役人中宛 寛政一一年二月二五日

一通く 三

国役金請取証文〔寅卯年分。惣高同前、役金同前〕 岩佐郷藏手附大川喜七郎・同前宛 寛政一二年二月二六日

包紙一通く 四

<p>国役金請取証文〔卯辰年分。惣高同前、役金同前〕 早川八郎左衛門手代鈴木縫右衛門・野中森助 鈴木源兵衛宛 享和二年二月一日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔寅巳年分。惣高同前、役金同前〕 上野四郎三郎手代内村俊八・公森愛二 同前宛 享和三年二月二六日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔巳午年分。惣高同前、役金同前〕 大岡久之丞手代福井仲右衛門 津田善右衛門宛 享和四年正月二五日</p>	<p>一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔午未年分。惣高同前、役金同前〕 川崎平右衛門手附森澄郡次郎外一名 同前宛 文化二年正月二八日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔申酉年分。惣高同前、役金同前〕 野田源五郎手附亀井百助外一名 鈴木源兵衛宛 文化二年二月八日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔酉戌年分。惣高同前、役金同前〕 稲垣藤四郎手代中沢良右衛門外二名 石川新八宛 文化四年正月</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔戌亥年分。惣高同前、役金同前〕 大岡源右衛門手附山崎八十吉外二名 津田善左衛門宛 文化五年正月二六日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔亥子年分。惣高同前、役金同前〕 辻甚太郎手附鈴木小弥太外二名 鈴木源兵衛宛 文化六年二月二六日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔子丑年分。惣高同前、役金同前〕 杉庄兵衛手附秋元利左衛門外二名 同前宛 文化七年二月二四日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔丑寅年分。惣高同前、役金同前〕 布施孫三郎手附斎藤勘三郎外一名 鈴木弥左衛門宛 文化八年二月九日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔寅卯年分。惣高同前、役金五八三兩余〕 池田仙九郎手附奥野右源太外一名 同前宛 文化九年正月二二日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔辰巳年分。惣高同前、役金五九一兩余〕 山田常右衛門元ノ手附和田一九郎外二名 石川本之助宛 文化一一年正月一四日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔巳午年分。惣高同前、役金五九一兩余〕 山本大膳手附森戸十郎外二名 同前宛 文化一二年正月二六日</p>	<p>包紙一通 三</p>	<p>包紙〔国役金請取証文五八、六六番在中〕</p>	<p>一点 三</p>	<p>国役金請取証文〔未申年分。惣高九万八五四五石余、役金五九一兩余〕 布施孫三郎手附松本仙右衛門外二名 石川本之助宛 文化一三年正月一〇日</p>	<p>一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔亥年分。惣高同前、役金四三〇兩余〕 川崎平右衛門手附森澄伝左衛門外二名 石川新八宛 文化一四年六月四日</p>	<p>一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔子年分。惣高同前、役金三四四兩余〕 三河口八藏手附早川軍二外二名 同前宛 文化一五年四月二五日</p>	<p>一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔丑寅年分。惣高同前、役金三六二兩余〕 古山善吉手附外二名 小松文治宛 文政二年四月六日</p>	<p>一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔寅卯年分。惣高九万九三二四石余、役金一九五兩余〕 寺西重次郎手附坪内泰次郎外一名 同前宛 文政三年三月九日</p>	<p>一通 三</p>	<p>国役金請取証文〔卯辰年分。惣高九万九三二四兩余、役金一五五兩余〕 大原四郎右衛門手附鮮門犀次外一名 同前宛 文政四年三月二九日</p>	<p>一通 三</p>
---	-------------------	--	-------------------	--	-----------------	---	-------------------	---	-------------------	--	-------------------	---	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	---	-------------------	---	-------------------	--	-------------------	--	-------------------	----------------------------	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------	--	-----------------

上納金改賃請取証文(銀二一匁下改賃、銀四匁端銀常是包入用) 村田七右衛門 真田家役所宛 丑 (文化一四年カ) 六月三日	一通く 六	大名高役金請取証文(朱印高一〇万石、高役金七五〇兩五ヶ年賦の当年分一五〇兩) 野田源五郎手附龜井百助外二名 鈴木弥左衛門宛 文化五年十二月二日	一通く 三五
上納金改賃請取証文(銀七匁下改賃) 同前 真田家勘定役水井忠藏宛 辰十一月一日	一通く 六	大名高役金請取証文(同前) 同前 石川新八・鈴木弥左衛門宛 文化六年八月二二日	包一 一 一通く 七
上納金改賃請取証文(銀四八匁下改賃、端銀常是包入用共) 住友吉次郎 巳(文政四年カ) 三月二八日	一通く 六	大名高役金請取証文(同前) 同前 同前宛 文化七年八五日	包一 一 一通く 三
国役金請取証文(辰年分、惣高九万九三二四石余、役金四八五兩余) 川崎平右衛門手附森澄伝左衛門外二名 座間百人宛 文政五年閏正月二七日	一通く 七	大名高役金請取証文(同前) 川崎平右衛門手附鴨下万助外二名 小松文治・石川新八・鈴木弥左衛門宛 文政二年九月二四日	包一 一 一通く 三
国役金請取証文(巳年分、惣高同前、役金四七五兩余) 平岩右膳手附館雄次郎外二名 小松文治宛 文政六年四月九日	一通く 五	大名高役金請取証文(同前) 同前 小松宛 文政三年十一月二日	一通く 三
国役金請取証文(午年分、惣高同前、役金四九六兩余) 柑本兵五郎手附百瀬慎助外一名 座間百人宛 文政七年八月二六日	一通く 六	日光法会国役金	
朝鮮信使国役金 金児総左衛門 (文化五年十一月)	一通く 七	真田家留守居伺書并附札(朝鮮信使国役金二ヶ年分残存につき日光法会国役金上納延期伺い并許可附札) 鈴木弥左衛門 幕府勘定奉行柳生主膳正宛 亥(文化一二年) 一〇月一九日	包紙二 一 一通く 六
国役金請取証文(惣高九万六五九七石余、国役金一九三兩余) 代官野田源五郎手附龜井百助外二名 真田家留守居鈴木源兵衛宛 文化六年正月二九日	一通く 五	国役金請取証文(惣高九万七三七六石余、役金三二〇兩余) 代官杉庄兵衛手附川村大助外三名 真田家留守居座間百人宛 文政四年十二月二八日	包紙二 一 一通く 四
国役金請取証文(同前) 鈴木弥左衛門宛 文化七年十一月九日	一通く 三	上納金改賃請取証文(後藤、常是の改包料銀四匁余) 伊藤吉二郎 真田家役人衆中宛 (文政四年)	一通く 四
国役金請取証文(惣高九万七三七六石余、国役金一九四兩余) 川崎平右衛門手附鴨下万助外二名 小松文治宛 文政四年四月四日	一通く 六	国役金請取証文(惣高、役金同前) 杉庄兵衛手附園部金左衛門外三名 小松文治宛 文政五年二月二四日	包紙三 一 一通く 四
		包紙(日光法会国役金、東海道諸川国役金の請取証文五、六番在中) 文政七年八月二六日	一点く 四

国役金請取証文(惣高、役金同前) 園部金左衛門外三名 座間百人宛 文政七年八月二六日	一通く	五
包紙(国役金請取証文七番在中) 文政八年一〇月二二日	一点く	八
国役金請取証文(惣高、国役金同前) 園部金左衛門外三名 座間百人宛 文政八年九月一四日	一通く	七
包紙一通	七	
国役金請取証文(同前) 同前 竹村権左衛門宛 文政九年一二月三日	一通く	三
包紙一通	三	
国役金その他		
国役金取調掛り伺書(国役金賦課石高と天保郷帳高との相違の調整方) 七月	一綴く	五
御手充金頂戴証文(幕吏に対する国役金免除願方の入用への手充金三両) 新町村・里穂前村三役人八名 安政三年	一綴く	五
勘定所元々春日儀左衛門御尋物答書(幕府への国役金上納猶予申請の件。国役普請の重要性のゆえに延期反対の旨) (幕末) 五月	一通く	七
預所元々太田藤左衛門書状(旧幕中の国役金上納時の請取印書交付手続きの件、回答) 勘定役水野清右衛門宛 六月二三日	一通く	三
権大参事赤沢蘭溪書状(国役金上納猶予の件。郡政副主事の申上書よろしく処置ありたき旨) 權大参事大熊薫宛 (明治三年カ) 五月一九日	一通く	三
封筒一通	三	
郡政副主事申上書写(河川国役金につき持高五分以上荒地引、無地高免除の儀を東京府へ申請されたき旨) 三月	一通く	二
郡政副主事申上書(同前件。上納期限近日ゆえ猶予を願われたき旨) 五月一八日	一通く	三

川除普請金中借証文〔金九〇兩〕 同年閏四月二四日	同前 同前宛	一通く二四六	網掛村等七ヶ村三役人連印請書（同前） 掛五明、力石、山田、若宮、須坂、八幡村三役人 同前宛 寛保三年七月	一通く二四六
川除普請金中借証文〔金二五兩〕 同年閏四月五日	西村山村三役人 同前宛	一通く二四四	東寺尾村等六ヶ村三役人連印請書（同前） 東寺尾、柴、大宝、町川田、牛嶋、福嶋村三役人 同前宛 寛保三年七月	一通く二四三
川除普請金中借証文〔二七兩〕 同年閏四月二四日	同前 同前宛	一通く二四三	横田村等一六ヶ村三役人連印請書（同前） 横田、小森、東福寺、西寺尾、杵淵、小嶋田、牧嶋、真嶋、川合、大豆嶋、風間、北長池、福嶋新田、中俣、布野、村山村三役人 同前宛 寛保三年七月	一通く二四六
川除普請金中借証文〔金二五兩〕 役人 同前宛 同年閏四月六日	福嶋新田村三役人	一通 二四〇	鼠宿村等一三ヶ村三役人連印請書（川除普請所保全方につき江戸表よりの書付の趣承知の旨） 真田家領分埴科郡鼠宿、徳間、千本柳、栗佐、矢代、雨之宮、岩野、清野、東寺尾、柴、高井郡大宝、町川田、福嶋村三役人（宛所ナシ） 寛保三年八月	一通く二五二
川除普請金中借証文〔金八〇兩〕 同前宛 同年閏四月六日	福嶋村三役人	一通 二四三	網掛村等二四ヶ村三役人連印請書（同前） 真田家領分更級郡網掛、五明、力石、小田、若宮、須坂、八幡、向八幡、横田、小森、東福寺、杵淵、西寺尾、小嶋田、真嶋、牧嶋、川合、牛嶋、大豆嶋、水内郡風間、北長池、中俣、布野、村山村三役人（宛所ナシ） 寛保三年八月	一通く二五三
川除普請金中借証文〔金一一九兩〕 宛 同年閏四月二五日	同前 同前	一通 二四三	文化五年国役普請 真田幸專国役普請願書控（千曲、犀川水破箇所国役普請出願）（幕府宛）（文化四年々）七月	一通く二五三
川除普請金中借証文〔金一八〇兩〕 人・幕領中嶋村名主・須坂領名主 同前宛 同年閏四月二五日	福嶋村三役人	一通 二四五	国役普請入料勘定書（普請金減少承知の旨、請書） 一六ヶ村惣代鼠宿村重左衛門他四名（真田家勘定方役人宛） 文化五年一〇月	一通く二五三
川除普請金中借証文〔金八〇兩〕 同前宛 同年六月六日	福嶋村三役人	一通く二五四	封筒一	一通く二五二
川除普請金中借証文〔金二〇兩〕 新田村組頭 同前宛 同年六月一日	福嶋村三役人	一通く二五二	封筒一	一通く二五二
入樋用水普請金中借証文〔金二兩〕 悪水払入樋普請 福嶋村三役人 同前宛 同年閏四月二五日	同前宛	一通く二四三	封筒一	一通く二五二
入樋用水普請金中借証文〔金一〇兩〕 同前宛 同年閏四月	同前 同	一通く二五三	封筒一	一通く二五二
鼠宿村等九ヶ村三役人連印請書（今般川除普請の箇所の保繕） 鼠宿、徳間、千本柳、向八幡、栗佐、矢代、雨之宮、岩野、清野村三役人 奉行所宛（真田家） 寛保三年七月		一通く二四七	封筒一	一通く二五二

国役普請入料請取証文 同前 (同前宛) 文化  
五年一〇月

文政六年国役普請出願一件

横田村上下両組三役人答書〔岸開普請にては組合迷惑、堀川へ切普請を懇望する旨〕 名主与三郎  
他五名 海沼与兵衛・池田良右衛門宛 文政六年  
十一月

矢代村三役人答書〔堀川へ切普請の差し障り有無につき尋答〕 名主文左衛門他七名 同前宛 同  
年十一月

勘定役連名申上書〔国役普請出願ニ付関係諸村の利害を調整されたき旨〕 海沼・池田 一一月

横田村上下両組三役人日延願書〔岸開普請御請の件、日延べありたき旨〕 名主藤右衛門他五名  
郡奉行所宛 同年十二月

下横田村三役人答書〔上横田村前岸開普請は差障りなれども国役普請は承知の旨〕 名主藤右衛門  
他二名 同前宛 同年十二月

下横田村三役人等名前書〔和談召喚人名〕 (一  
二月八日)

上下横田村三役人等名前書〔同 前〕

矢代村・粟佐村三役人連印御訴書〔普請所下見分の幕府役人に村境等につき請書提出の旨。写記載〕 矢代村名主善右衛門他一名 郡奉行所宛  
文政七年四月

粟佐村三役人願書〔此度一件につき矢代村と組合の儀不調よって往還開普請手伝い免除されたき旨〕 名主吉右衛門他三名 同前宛 同年九月

一通く二

一通く四九四

一通く四九五

一通く四六六

一通く二八二

一通く二八二

一通く四九七

一通く二八三

一通く二八五

一通く二八六

袋〔千曲川通国役普請願村々箇所附絵図面、一五三八(一五四六番在中) 池田良右衛門・古岩彦作  
岡嶋莊藏宛 (文政七年) 閏八月五日

屋代村普請箇所附絵図

山田村普請箇所附絵図

網掛村普請箇所附絵図

杵淵村普請箇所附絵図

須坂村普請箇所附絵図

土口村普請箇所附絵図

粟佐村普請箇所附絵図

千本柳村普請箇所附絵図

鼠宿村普請箇所附絵図

真田幸貫国役普請願書并幕府老中附札〔千曲、  
犀川通国役普請出願。改正幕令により却下の旨〕  
(老中水野忠成宛) (文政七年) 一一月二三日

文政一〇年御手普請

粟佐村三役人願書〔住居開千曲川除普請所水没ニ  
付仕継普請出願〕 名主伝十郎他三名 郡奉行所  
宛 文政九年五月

粟佐村三役人御訴書〔千曲川満水にて幕領杭瀬下  
村古借地川欠の旨届出〕 同前 同前宛 同年六  
月(二三日)

粟佐村三役人御訴書〔千曲川出水なれども当春普  
請所丈夫の旨届出〕 同前 同前宛 同年九月(一  
八日)

25×97cm

25×97cm

25×64cm

25×64cm

25×64cm

25×80cm

25×64cm

25×74cm

25×64cm

一通く四〇  
包紙一通

一枚く一五六

一枚く一五五

一枚く一五四

一枚く一五三

一枚く一五二

一枚く一五一

一枚く一五〇

一枚く一四九

一枚く一五八

一点く一五七

一通く一五〇三

一通く一五七九

一通く一五八〇



粟佐村三役人申上書(当村岸圍、村方自普請の分は昨日完成の旨) 同前 同前宛 文政一〇年七月(六日)

一通く二五四

東福寺村・中沢村三役人連印御訴書(両村組合、千曲川御手普請昨日完成の旨) 東福寺村名主名左衛門他六名 同前宛 同年八月(九日)

一通く二五六

西寺尾村三役人御訴書(当村二ヶ所御普請昨日完成の旨) 名主左忠太他二名 同前宛 同年八月二三日

一通く二四九

上横田村三役人御訴書(当村千曲川住居除御普請、明後日完成の運びとした旨) 名主勸左衛門他二名 同前宛 同年八月(九日)

一通く二五三

上横田村三役人申上書(今日出来栄見分なし下され有難き旨) 同前 同前宛 同年八月(二一日)

一通く二五三

下横田村三役人願書(雨之宮村五ヶ村組合御普請所へ、当村命ぜられし過怠普請は当月二〇日に開始したき旨) 仮名主藤右衛門他二名 同前宛 同年一月

一通く二五五

下横田村三役人御訴書(過怠普請昨日完成の旨) 同前 同前宛 同年二月(七日)

一通く二五六

弘化四年震災復旧川普請

綱嶋村等一五ヶ村三役人・頭立小前惣代連印請書(農繁期につき普請所へ早朝出の人別手充賄い下され、普請出精いたす旨) 綱嶋、下真嶋、川合、大塚、柴、小出、上八町、下八町、保科、牧嶋、町川田、上真嶋、東川田、赤野田新田、大宝村三役人等 (宛所ナシ) 弘化四年一〇月一〇日

美

一綴く二五九

弘化四年犀川堤川除普請諸入料金請取証文綴

一綴く二三三

1 犀川堤川除普請諸入料金勘定書(金二八六七兩余) 馬場忠吾 (嘉永元年二月)

一通

2 堤腹付等人足賃金請取証文(金二四兩余) 小嶋村峯松(代印仙吉) 御普請掛り中宛 弘化四年二月

一通

3 合掌枿切拵立込賃金請取証文(金三八兩余) 丹波嶋村善三郎他三名 同前宛 同月

一通

4 鳥居枿切拵立込賃金請取証文(金八兩余) 小松原村助右衛門他二名 同前宛 同月

一通

5 鳥居枿石詰入賃金請取証文(金二〇兩余) 同前他三名 同前宛 同月

一通

6 枿乗込小船損料請取証文(銀四匁) 四ツ屋村新十郎(世話役勸右衛門) 同前宛 同月

一通

7 菱牛結立乗込賃金請取証文(金一三兩余) 丹波嶋村勸介他二名 同前宛 同月

一通

8 菱牛石詰入賃金請取証文(金一九兩余) 小松原村世話役勸右衛門他四名 同前宛 同月

一通

9 統菱牛石岩鋸請負入料金請取証文(金一二兩余) 丹波嶋村善三郎他一名 同前宛 同月

一通

10 石積岩割出人足賃金請取証文(金四〇兩余) 丹波嶋村世話役八重三郎他二名 同前宛 同月

一通

11 岩船乗送等人足賃金請取証文(金六兩余) 丹波嶋村八重三郎他一名 同前宛 同月

一通

12 岩割道具火取直代金請取証文(金一兩余) 青木嶋村友右衛門他一名 同前宛 同月

一通

13 岩背負出シ賃金請取証文(金一八兩余) 丹波嶋村八重三郎他一名 同前宛 同月

一通

- 14 腹付石積諸職人請負賃金請取証文(金三四兩余) 丹波嶋村八重三郎他一名 同前宛 同月 一通
- 15 品々入料金請取証文(金一九兩余) 丹波嶋村音五郎他一名 同前宛 同月 一通
- 16 岩船乗届分等日払入料金請取証文(金五〇兩余) 丹波嶋村喜代五郎 同前宛 同月 一通
- 17 石積堤等普請入料金請取証文(金七〇兩余) 丹波嶋村介八郎 同前宛 同月 一通
- 18 ねこ明俵買上代金請取証文(金一兩余) 下水鉤村名主祐左衛門他二名 (宛所ナシ) 嘉永元年一月 一通
- 19 続菱牛水留人足賃金請取証文(金四兩余) 丹波嶋村名主勘助他二名 普請掛り中宛 弘化四年一月 一通
- 20 底樋臥込請負代金請取証文(金四兩余) 丹波嶋村銀作他一名 同前宛 同月 一通
- 21 急難除人足賃金請取証文(金三兩余) 丹波嶋村名主勘助他一名 同前宛 同月 一通
- 22 酒代請取証文(金三分余) 丹波嶋村銀作他三名 同前宛 同月 一通
- 23 犀川仕越普請諸入料金請取証文(堤腹付菱牛入料金一二兩余、亀甲入料金一四兩余) 小松原・四ツ屋村三役人世話役九名 (宛所ナシ) 同月 一通
- 24 島居梓石詰入賃金請取証文(金一兩余) 小市村峯松(代印仙吉) 普請掛り中 同月 一通
- 25 石積賃金請取証文(金六兩余) 森荒町金藏 同前宛 同月 一通
- 26 通船渡賃金請取証文(金一分余) 小市村舟頭 專吉 同前宛 同月 一通

- 27 下樋等諸入料金請取証文(金一五六兩余) 小川原村世話役助右衛門他三名 同前宛 同月 一通
- 28 扣樋諸入料金請取証文(金四兩余) 犀口中樋堰組合惣代原村名主九右衛門他一名 同前宛 同月 一通
- 29 水門通上置等入料金請取証文(金三兩余) 犀口下堰組合惣代上布施村新平他一名 同前宛 同月 一通
- 30 丁場請負入料金請取証文(金四兩余) 小松原村富吉(代印名主種吉) 同前宛 同月 一通
- 31 丁場請負入料金請取証文(金二八兩余) 小森村三役人 同前宛 同月 一通
- 32 丁場請負入料金請取証文(金二〇兩余) 中沢村三役人 同前宛 同月 一通
- 33 丁場請負入料金請取証文(金四二兩余) 布施高田村三役人 同前宛 同月 一通
- 34 丁場請負入料金請取証文(金四四兩余) 東福寺村三役人 同前宛 同月 一通
- 35 丁場請負入料金請取証文(金五一兩余) 原村三役人 同前宛 同月 一通
- 36 丁場請負入料金請取証文(金三六兩余) 会村三役人 同前宛 同月 一通
- 37 丁場請負入料金請取証文(金四兩余) 小松原村小三郎他一名 同前宛 同月 一通
- 38 堤砂利持人足賃金請取証文(銀一一匁余) 吉窪村名主喜三郎 同前宛 同月 一通
- 39 堤砂利持人足賃金請取証文(銀九匁余) 吉窪村代印名主喜三郎 同前宛 同月 一通

40	丁場請負入料金請取証文（金三四兩余） 佐平川村三役人 同前宛 同月	一通
41	丁場請負入料金請取証文（金九二兩余） 四ツ屋村三役人 同前宛 同月	一通
42	丁場請負入料金請取証文（金二九兩余） 布施五明村名主勇作 同前宛 同月	一通
43	丁場請負入料金請取証文（金三四兩余） 石川村下組名主南沢只吉 同前宛 同月	一通
44	丁場請負入料金請取証文（金二九兩余） 布施五明村瀬原田組名主大吉 同前宛 同月	一通
45	丁場請負入料金請取証文（金二五兩余） 四ツ屋村清左衛門他一名 同前宛 同月	一通
46	丁場請負入料金請取証文（金五四兩余） 二ツ柳村名主喜右衛門 同前宛 同月	一通
47	丁場請負入料金請取証文（金九一兩余） 下小嶋田村三役人 同前宛 同月	一通
48	丁場請負入料金請取証文（金三三兩余） 西寺尾村三役人 同前宛 同月	一通
49	丁場請負入料金請取証文（金四一兩余） 四ツ屋村三役人 同前宛 同月	一通
50	丁場請負入料金請取証文（金九二兩余） 藤牧村三役人 同前宛 同月	一通
51	丁場請負入料金請取証文（金六三兩余） 三水嶋田村三役人 同前宛 同月	一通
52	丁場請負入料金請取証文（金一〇兩余） 上布施村名主、組頭 同前宛 嘉永元年一月	一通
53	丁場請負入料金請取証文（金八兩余） 下布施村名主、長百姓 同前宛 弘化四年二月	一通

54	丁場請負入料金請取証文（金一七兩余） 杵淵村三役人 同前宛 同月	一通
55	丁場請負入料金請取証文（金四七兩余） 広田村三役人 同前宛 同月	一通
56	丁場請負入料金請取証文（金四六兩余） 下水鉋村三役人 同前宛 同月	一通
57	丁場請負入料金請取証文（金二一兩余） 丹波嶋村世話役八重三郎他一名 同前宛 同月	一通
58	水門建込等普請入料金請取証文（金一〇兩余） 小山堰組合惣代丹波嶋村名主勤助他一名 同前宛 同月	一通
59	丁場請負入料金請取証文（金三八兩余） 四ツ屋村名主佐七他一名 同前宛 同月	一通
60	丁場請負入料金請取証文（金四八兩余） 丹波嶋村世話役八重三郎他一名 同前宛 同月	一通
61	丁場請負入料金請取証文（金八六兩余） 同前 同前宛 同月	一通
62	丁場請負入料金請取証文（金八二兩余） 同前 同前宛 同月	一通
63	丁場請負入料金請取証文（金六九兩余） 同前 同前宛 同月	一通
64	土堤築立村請人足賃金請取証文（金六兩余） 今里村源六 同前宛 弘化四年一〇月	一通
65	丁場請負入料金請取証文（金一九兩余） 無里村築立分共、丹波嶋村八重三郎他一名 前宛 弘化四年二月	一通
66	土堤築立村請人足賃金請取証文（金六兩余） 中水鉋村兵左衛門 同前宛 同年一〇月	一通

- 67 土堤築立貸金請渡証文(金三兩余 大町治助分) 丹波嶋村八重三郎他一名 同前宛 弘化四年十二月 一通
- 68 丁場請負入料金請取証文(金六八兩余、越後国市松分共) 同前宛 同月 一通
- 69 丁場請負入料金請取証文(金一六兩余) 小市村峯松(代印丹頭仙吉) 同前宛 同月 一通
- 70 横堤下埋普請貸金請渡証文(金七兩余、越後国市松分) 丹波嶋村八重三郎他一名 同前宛 同月 一通
- 71 丁場請負入料金請取証文(金六兩余) 青木嶋村友右衛門他一名 同前宛 同月 一通
- 72 丁場請負入料金請取証文(金三兩余) 丹波嶋村善三郎 同前宛 同月 一通
- 73 丁場請負入料金請取証文(金六一兩余) 丹波嶋村八重三郎他一名 同前宛 同月 一通
- 74 丁場請負入料金請取証文(金三七兩余) 丹波嶋村八重三郎他一名 同前宛 同月 一通
- 75 丁場請負入料金請取証文(金一五兩余) 北原村八作他三名 同前宛 同月 一通
- 76 丁場請負入料金請取証文(金三二兩余) 丹波嶋村八重三郎他一名 同前宛 同月 一通
- 77 丁場請負入料金請取証文(金二五兩余) ツ屋村嘉藤治(代印佐七) 同前宛 同月 一通
- 78 丁場請負入料金請取証文(金三二兩余、麻積宿万弥分友) 丹波嶋村八重三郎他一名 同前宛 同月 一通
- 79 丁場請負入料金請取証文(金一一兩余) 小森村大助(代印長百姓平三郎) 同前宛 同月 一通

- 80 丁場請負入料金請取証文(金一〇兩余) 丹波嶋村健左衛門他一名 同前宛 同月 一通
- 81 丁場請負入料金請取証文(金一三兩余) 広田村専藏 同前宛 同月 一通
- 82 丁場請負入料金請取証文(金七兩余) 栗田村林兵衛 同前宛 同月 一通
- 83 丁場請負入料金請取証文(金六兩余) 今里村常治 同前宛 同月 一通
- 84 丁場請負入料金請取証文(金一六兩余) 下横田村三役人 同前宛 同月 一通
- 85 佐藤権三郎書状(甲州伴右衛門帰国につき人足手当金一五兩を渡されたき旨) 春日儀左衛門・成本寿助宛 九月晦日 一通
- 86 伴右衛門請負入料金勘定書(金二五三兩) 馬場忠吾 申(嘉永元年) 一一月 一通
- 87 川普請請負金請取証文(金一五兩) 甲州巨摩郡浅尾新田伴右衛門 普請掛り中宛 弘化四年九月晦日 一通
- 88 川普請請負金請取証文(金五〇兩) 同前 同前宛 同年一一月三日 一通
- 89 川普請請負金請取証文(金二〇兩) 同前 同前宛 同年一一月七日 一通
- 90 川普請請負金請取証文(金二〇兩) 同前 同前宛 同年一一月二一日 一通
- 91 川普請請負金請取証文(金九五兩) 同前 同前宛 同年一一月二八日 一通
- 92 川普請請負金請取証文(金五三兩) 同前(め) 同前宛(め) (月日不祥、虫損) 一通

弘化四年堤川除普請人足賃金等請取証文綴  
弘化四—嘉永二年 一綴く二三

1 普請諸入料金勘定書(金三〇八四兩余、大工賃金、人足賃金等) 竹内多吉 (嘉永二年) 一通

2 人足・大工賃金等請取証文(金二三六兩余) 市村三役人・世話役二名 普請掛り元ノ中宛 弘化四年一二月 一綴

3 人足賃金請取証文(金五二二兩余) 川合新田村三役人 同前宛 同月 一通

4 人足賃金等請取証文(金七九兩余) 大豆嶋村三役人 同前宛 同月 一綴

5 人足賃金等請取証文(金四八兩余) 北長池村名主 組頭 同前宛 同月 一通

6 土堤・諸色入料金請取証文(金一一〇兩余) 福嶋村新田三役人 池田良右衛門・春日儀左衛門宛 嘉永元年一二月 一綴

7 人足賃金請取証文(金三七兩余) 福嶋新田村三役人 普請掛り元ノ中宛 弘化四年一二月 一通

8 人足賃金・雑木代金請取証文(金三〇兩余) 布野村三役人 同前宛 同月 一通

9 人足賃金請取証文(金一八四兩余) 里村山村三役人 同前宛 同月 一通

10 人足賃金請取証文(金七五兩余) 大塚村南組三役人 同前宛 同月 一通

11 人足賃金請取証文(金五〇二兩余) 綱嶋村三役人 同前宛 同月 一綴

12 人足賃金請取証文(金八〇八兩余) 川合村三役人 同前宛 同月 一通

13 土堤・諸色入料金請取証文(金二五三兩余) 川合村三役人・頭立惣代・小前惣代 同前宛 嘉永元年一二月 一綴

14 人足賃金請取証文(金一九〇兩余) 牛嶋村三役人 同前宛 弘化四年一二月 一通

弘化四年堤川除普請諸色代金・人足賃金請取証文綴 一綴く二五三

1 川普請諸入料金勘定書(金七七四兩余) 竹内多吉 (嘉永二年一〇月) 一通

2 材木藤縄代・人足賃金請取証文(金二九七兩余) 小市村三役人 普請掛り元ノ中宛 弘化四年一二月 一通

3 材木鹿代・人足賃金請取証文(金二七一兩余) 久保寺村名主・長百姓 同前宛 同月 一通

4 煤花川通石積・菱牛立込人足賃金請取証文(金四兩余) 同前 同前宛 同月 一通

5 材木藤縄代・人足賃金請取証文(金五六兩余) 小柴見村三役人 同前宛 同月 一通

6 諸色代金・人足賃金請取証文(金三三兩余) 中御所村三役人 同前宛 同月 一通

堰水門普請入料金請取証文綴 弘化四年七月一二月 一綴く二七四

1 堰水門普請入料金勘定書 丸山保次 (嘉永二年カ)一二月 一通

2 犀口三堰樋普請入料金請取証文(金一二〇兩余) 小松原・二ツ柳 原、会、大塚、藤牧、上布施名主等、堰守中沢弥七・久五郎 普請掛り中宛 弘化四年七月 一通

3 小山堰仮水門普請入料金請取証文(金四兩余) 丹波嶋、下真嶋、下水鉋村名主等、堰守金石衛門・健左衛門 同前宛 同月	一通	7 材木買上代金請取証文(銀一七貫余、四ツ屋、丹波嶋村分同前) 市村南組清兵衛・惣右衛門 同前宛 同月	一通
4 犀口上堰扣水門新規普請入料金請取証文(金六兩余) 組合惣代小松原名主種吉、堰守二名 同前宛 同年二月	一通	8 材木買上代金并菱牛代金請取証文(銀七〇一匁余、丹波嶋村分同前) 有旅村源兵衛・浅吉 同前宛 同月	一綴
5 犀口中堰扣水門新規普請入料金請取証文(金七兩余) 組合惣代名主佐七、堰守二名 同前宛 同月	一通	千曲川犀川除普請入用材木匱采等代金請取証文綴 弘化四年二月・嘉永元年七月	一綴く三八〇
6 小山堰水門新規普請入料金請取証文(金一二兩余) 組合惣代丹波嶋村名主勘助、堰守二名 同前宛 同月	一通	1 材木匱采等代金勘定書(金九八〇兩余) 竹内多吉 (嘉永二年一〇月)	一通
犀川川除普請入用材木等買上代金請取証文綴 弘化四年一二月	一綴く三七七	2 材木買上代金請取証文(銀三二匁余、市村・新田川合村分の普請入用材木) 市村南組清兵衛・要右衛門 普請掛り中宛 弘化四年一二月	一通
1 材木・藤縄匱采代金勘定書(金六一七兩余、金四一兩余) 馬場忠吾 (嘉永元年一二月)	一通	3 材木買上代金請取証文(銀一四貫余、市村・新田川合村分同前) 三輪村伊曾八 同前宛同月	一綴
2 材木買上代金請取証文(銀三貫余、材木種類明細勘定記載アリ、以下同じ) 小松原村治右衛門・四ツ屋村新治 普請掛り中宛 弘化四年一二月	一綴	4 材木買上代金請取証文(銀六七匁余、市村・新田川合村分同前) 妻科村梅吉・大八 同前宛同月	一通
3 材木買上代金請取証文(銀七貫余) 有旅村源兵衛・浅吉 同前宛 同月	一通	5 材木買上代金請取証文(銀三貫余、市・川合新田・大豆嶋分同前) 小市村庄右衛門 同前宛 同月	一通
4 材木買上代金請取証文(銀九八匁余、小松原村分の普請入用材木) 久保寺村利右衛門・次太夫 同前宛 同月	一通	6 材木買上代金請取証文(銀四貫余、新田川合村分同前) 御用達市村清兵衛 池田良右衛門・春日儀左衛門宛 同月	一通
5 材木買上代金請取証文(銀四貫余、四ツ屋、丹波嶋村分同前) 同前 同前宛 同月	一通	7 材木買上代金請取証文(銀九一二匁余、綱嶋村分同前) 市村清兵衛・要右衛門 普請掛り中宛 同月	一通
6 材木買上代金請取証文(銀二貫余、丹波嶋村分同前) 久保寺村新太郎 同前宛 同月	一通	8 材木・匱采代金請取証文(銀七八匁余、金二兩余、村方才覚分) 大豆嶋村三役人 同前宛 同月	一通

9 材木代金請取証文（金六兩余、同前） 三役人 同前宛 同月	一通	5 材木買上代金請取証文（銀一貫余、同前） 柴見村三役人 同前宛 同月	一通
10 沈雜木代金請取証文（錢二貫文余、同前） 野村三役人 同前宛 同月	一通	6 材木買上代金請取証文（銀二貫余、同前） 御所村三役人 同前宛 同月	一綴
11 材木・雜木代金請取証文（銀一貫余、同前） 里美 村山村三役人 同前宛 同月	一綴	犀川川除普請入用松葉鹿采等代金請取証文綴 弘化四年二月一 同五年三月	一綴く三七六
12 材木買上代金請取証文（銀九貫余、大塚・綱嶋・川合村分并仕様外普請入用材木） 下真嶋村初弥・大宝村仲右衛門 犀川除普請掛り中宛 嘉永元年七月	一通	1 雜木買上代金勘定書（金三兩余） 半田亀作 （嘉永二年一〇月）	一通
13 材木請負代金請取証文（銀二貫余、綱嶋・川合・牛嶋・大豆嶋・新田川合・川合村分入用材木） 牛嶋村千代藏・徳右衛門・八百藏 同前宛 嘉永元年七月	一通	2 柳鹿采代金請取証文（金二兩余） 塩崎村庄屋藤七 犀川普請掛り中宛 弘化五年三月一日	一通
14 材木代金請取証文（銀六匁余、村方才覚分同前） 牛嶋村三役人 普請掛り中宛 弘化四年二月	一通	3 松葉鹿采買上代金請取証文（銀一八匁余、丹波嶋・新田川合村分の普請入料雜木） 市村清兵衛・要右衛門 同前宛 弘化四年二月	一通
犀川・煤花川川除普請入用材木代金請取証文綴 弘化四年一二月	一綴く三七五	4 松葉代金請取証文（金二兩余） 有旅村浅吉（代印源兵衛） 久保孫左衛門宛 弘化五年正月	一通
1 材木買上代金勘定書（金二七兩余） 竹内多吉（嘉永二年一〇月）	一通	5 松葉代金請取証文（金二分余） 小松原村治右衛門・四ツ屋村新次 普請掛り中宛 弘化四年二月	一通
2 材木買上代金請取証文綴（銀一貫余、小市村分犀川除普請入用材木） 市村清兵衛・要右衛門 普請掛り中宛 弘化四年一二月	一通	6 松葉竹代金請取証文（金二兩余） 小松原村三役人・世話役 同前宛 同月	一通
3 材木買上代金請取証文（金一一兩余、金一一兩余、犀川除普請分） 久保寺村民弥・治太夫・利右衛門 同前宛 同月	一通	7 鹿采代金請取証文（金一六兩余） 松代預所高井郡大嶋村三役人 同前宛 弘化四年一二月二九日	一通
4 材木買上代金請取証文（銀三三匁余、煤花川除普請分） 久保寺村民弥 同前宛 同月	一通	8 雜鹿采買上代金請取証文（金二朱余、綱嶋村分） 牛嶋村徳右衛門 同前宛 弘化四年一二月	一通
		9 松鹿采買上代金請取証文（金一兩余） 下真嶋村初弥 同前宛 同月	一通
		10 松葉代金請取証文（銀七匁余） 上松村三役人 同前宛（弘化五年）正月	一通

11 松葉代金請取証文（銀三匁余、村方才覚分） 村三役人 同前宛 弘化五年正月 腰	一通
12 雜庵代金請取証文（銀六匁余、同前） 村名主・組頭 同前宛 同月	一通
13 柳庵代金請取証文（金一分余） 山村名主和吉 同前宛 弘化四年二月	一通
14 柳庵代金請取証文（銀四匁余） 田村三役人 同前宛 同月	一通
15 柳庵代金請取証文（銀四匁余） 野村三役人 同前宛 同月	一通
16 柳庵代金請取証文（銀二三匁余） 嶋村名主彦太夫 普請掛り久保政右衛門宛 同月	一通
17 松庵代金請取証文（金二分余、里村山 村分普請入用雑木） 牛嶋村德右衛門他二名 普 請掛り中宛 同月	一通
18 平竹買上代金請取証文（銀一六匁余、里村山 分同前） 沓野村三役人 同前宛 同年一〇月	一通
犀川川除普請入用麻繩等代金請取証文綴 弘化四年二月―同二月	一綴 〓四三
1 麻繩等代金勘定書（金三六匁余） 馬場忠吾 （嘉永元年二月）	一通
2 麻代銀并縄打手間料請取証文（金八匁余、麻 繩種類、手間料明細記載アリ。以下同じ） 新町村 巴屋与右衛門 普請所役所宛 未二月	一通
3 麻代銀并縄打手間料請取証文（金一〇匁余） 同前（宛所ナシ） 弘化四年一〇月	一通
4 麻代銀并縄打手間料請取証文（金八匁余） 同前 同年九月	一通

5 麻代銀并縄打手間料請取証文（金一一匁余、 山平村・丹波嶋村等四ヶ村分普請入用） 同前 同月	一通
6 鉄輪・大銓代金請取証文（金一分余） 守吉 同年二月 鍛冶町	一通
7 杉戸・松板等代金請渡証文（金一分余、当村治 右衛門等より買上代金） 小松原村三役人 普請 掛り中宛 同月	一通
8 冥加上納真木代金請取証文（銀七匁余） 丹波嶋村三役人 同前宛 同月	一通
犀川川除普請入用藤代金請取証文綴 弘化四年二月	一綴 〓五三
1 藤代金勘定書（金七九匁余、藤一万一八八四房 五万、四ッ屋村以下各村分入用明細記載アリ） 半田亀作（嘉永二年九月）	一通
2 藤代金請取証文（金六匁余） 助 普請掛り中宛 弘化四年二月 丹波嶋村名主勘	一通
3 藤代金請取証文（金二匁余、牛嶋・丹波嶋村分普 請入用） 牛嶋村德右衛門 同前宛 同月	一通
4 藤代金請取証文（金八匁余、犀川除普請入用買 上代金） 東野田村清三郎 同前宛 同月	一通
5 藤代金請取証文（金四匁余、同前） 左衛門 同前宛 同月 東川田村庄	一通
6 藤代金請取証文（金六匁余、同前） 八・善太夫 同前宛 同月 東川田村善	一通
7 藤代金請取証文（金一匁余、同前） 右衛門（代印伴七） 同前宛 嘉永元年七月―一月 東川田村三	一通
8 藤代金請取証文（金一匁余、同前） 七 同前宛 弘化五年正月三日 東川田村伴	一通



9 藤代金請取証文（金二兩余、丹波嶋・網嶋村分普請入用） 下真嶋村初弥 同前宛 弘化四年二月	一通	安政三年国役普請	国役普請入料金中借証文（金五百兩。入料金の内中借にて請取、後日本証文に引替えるべき旨）春日儀左衛門 斎藤善蔵・佐川保左衛門・関山平治・鹿野外守宛（奥書高田幾太） 安政三年三月	一通く 六
10 藤代金請取証文（金四六兩余、丹波嶋・網嶋・川合・牛嶋・小市・久保寺、小柴見、中御所、市、新田川合、大豆嶋、福嶋新田・布野・里村山村分同前）布野村瀬左衛門 同前宛 同年十一月	一通	国役普請入料金中借証文（金三百兩） 同前 同	国役普請入料金中借証文（金三百兩） 同前 同	一通く 六
普請中諸色入料金内借証文等綴 弘化四年一月、十二月、嘉永二年二月	一綴く 六六	国役普請入料金中借証文（金三百兩） 同前 同	国役普請入料金中借証文（金三百兩） 同前 同	一通く 七
1 諸色入料金内借金等勘定書（金一二六兩余）馬場忠吾（嘉永二年四月）	一通	国役普請入料金中借証文（金三百兩） 同前 同	国役普請入料金中借証文（金三百兩） 同前 同	一通く 七
2 御小屋其他諸色入用金内借証文（金三〇兩余、来三月返上納） 丹波嶋村三役人・頭立惣代八重三郎 普請掛り池田良右衛門・春日儀左衛門宛 弘化四年二月	一通	国役普請入料金中借証文（金五百兩） 同前 同	国役普請入料金中借証文（金五百兩） 同前 同	一通く 七
3 御用中御屋給金等請取証文（金二兩余） 東寺尾村此右衛門（代印丹波嶋村勘右衛門） 普請掛り元ノ宛 同月	一通	国役普請入料金中借証文（金百兩） 同前 同前	国役普請入料金中借証文（金百兩） 同前 同前	一通く 七
4 酒代・人足手当金等請渡証文（金一五兩余）道橋附野中軍兵衛・鷹山清太夫（宛所ナシ） 同年十一月	一通	国役普請入料金中借証文（金一五〇兩） 同前 同前	国役普請入料金中借証文（金一五〇兩） 同前 同前	一通く 七
5 品々入用物代金内借証文（金二兩余） 小松原村三役人 普請掛り元ノ中宛 同年十二月	一通	国役普請金預ケ証文（金一〇兩。幕府代官所中之条陣屋よりの下金一一〇兩の残金一〇兩を請取、御納戸余計方に預けたる旨） 関山平治 高田幾太宛 安政三年四月五日	国役普請金預ケ証文（金一〇兩。幕府代官所中之条陣屋よりの下金一一〇兩の残金一〇兩を請取、御納戸余計方に預けたる旨） 関山平治 高田幾太宛 安政三年四月五日	一通く 七
6 御小屋其他諸色入用金内借証文（金八兩余）四ツ屋村三役人 同前宛 同月	一通	国役普請金預ケ証文（金二六七兩余） 同前 同	国役普請金預ケ証文（金二六七兩余） 同前 同	一通く 七
7 幕府役人賄方其他諸色入用金内借証文（金六五兩余） 丹波嶋村三役人・頭立惣代 普請掛り池田・春日宛 同月	一通	国役普請金預ケ証文（金六六八兩余） 同前 同	国役普請金預ケ証文（金六六八兩余） 同前 同	一通く 七
8 太芋綱代金請取証文（金三兩余） 元ノ宮川輔十郎（奥印堀田寛兵衛） 西二月	一通	安政三年千曲・犀川国役普請入料材木鹿朶等買上代金請取証文綴 安政三年二月	安政三年千曲・犀川国役普請入料材木鹿朶等買上代金請取証文綴 安政三年二月	一綴く 三七

○安政三年千曲・犀川国役普請入料代金勘定書 野中軍兵衛・中沢義市 春日儀左衛門宛 安政五年二月

一通

○材木買上代金請取証文(自村分国役普請入料材木) 上山田、若宮、丹波嶋、川合新田村名主等 国役普請掛り中宛 安政三年二月

四通

○材木買上代金請取証文(須坂、小森、福嶋新田、東福寺、西寺尾、清野、川合、大豆嶋、松岡新田、丹波嶋、真嶋、小松原、四ツ屋、川合新田分国役普請入料材木) 上山田、志川、東寺尾、清野、上松、北上野、牛嶋、大宝、北東条、保科、久保寺、小松原、吉窪、有旅村名主等 同前宛 同月

二〇通

○枝開雑木買上代金請取証文(金二分余。西寺尾村内組合御城地開国役普請入料雑木一七八本) 岩野村組頭安兵衛 同前宛 同月

一通

○鹿袋買上代金請取証文(金二兩余。自村分千曲川国役普請入料鹿袋七〇九本) 大宝村名主六左衛門 同前宛 同月

一通

○材木鹿袋等買上代金請取証文(金四兩余。自村分同前材木五五本等) 福嶋新田村政右衛門 同前宛 同月

一通

安政三年千曲・犀川国役普請諸色買上代金請渡証文綴 安政三年二月 同五年二月

一綴く二五六

1 安政三年国役普請諸色代金勘定書(金一七七兩余) 倉田三之丞・関田莊助 (年月ナシ)

一通

2 白口藤買上代金請渡証文(金七九兩余。網掛山田、若宮村等一八村より買上の白口藤一万余房代金、村々へ渡したる旨) 野中軍兵衛・中沢義市 春日儀左衛門宛 安政三年二月

一通

3 明俵買上代金請渡証文(金三二兩余。若宮村等一三村より買上分。明細勘定記載) 同前 同前宛 同月

一通

4 中繩買上代金請渡証文(金三九兩余。網掛村等一七村より買上分) 同前 同前宛 同月

一通

5 差戻材木代金御手充請渡証文(金七兩余。菱牛減少につき請負人へ引取らせ分) 同前 同前宛 同五年二月

一通

6 材木筏川下諸入料請渡証文(金一九兩余。筏組立入料、川下賃金) 同前 同前宛 同月

一通

安政五年国役普請

真田幸教国役普請願書案(去春中国役普請あれども同年八月の洪水にて大破、当年四月よりの出水にて普請所総て流失の旨) (幕府宛) 已(安政四カ)年

半

一綴く二〇三

安政五年国役普請目論見中臨時入料金請取覚綴 安政四年一〇月一同五年正月

一綴く二六三

1 国役普請目論見中臨時入料金勘定書(金一四兩余) 高坂守之助 (安政五年一月)

一通

2 鍋・網等金物代金請取覚(金一分余) 現金屋理兵衛 富岡喜代之助・月岡九左衛門宛 已(安政四年)十一月

一通

3 蠟燭代金請取覚(銀五匁) 丁子屋次三郎 同前宛 午(同五年)正月

一通

4 土瓶代金請取覚(銀五匁余) 会津屋卯兵衛 同前宛 巳二月

一通

5 西内紙・手拭等代金請取覚(金一分余) 美濃屋喜兵衛 同前宛 巳一〇月

一通

- 6 竹・宿札等代金請取覚(銀一四匁余) 丹波鳴村名主八重三郎他一名 同前宛 安政四年二月  
一通
- 7 手拭・煙草等代金請取覚(銀三匁余) 上山田村名主善右衛門 同前宛 同月  
一通
- 8 紺足袋代金請取覚(銀六匁余) 新町村六右衛門 同前宛 同月  
一通
- 9 白紬代金請取覚(金五兩余) 山田村九郎兵衛(宛所ナシ) 已一〇月二日  
一通
- 10 白斜子代金請取覚(金一兩余) きく屋伝兵衛 已一〇月  
一通
- 11 酒肴代金請取覚(金二兩余) 現金屋祖吉 富岡・月岡宛 已一二月  
一通
- 12 味噌代金請取覚(銀一二匁余) 江戸屋佐吉 已一〇月  
一通
- 13 杉折代金請取覚(銀四匁余) 建具屋国治 已一月  
一通
- 14 かすてら代金請取覚(金三分余) 長戸屋儀助 富岡・月岡宛 已一〇月  
一通
- 15 杉折代金請取覚(銀四匁余) 建具屋国治 同前宛 已一月  
一通
- 16 かすてら等代金請取覚(銀三九匁余) つた屋嘉吉 同前宛 已二月  
一通
- 17 鰯叩代金請取覚(金二分余) 現金屋祖吉 同前宛 已二月  
一通
- 18 煙草代金請取覚(銀二匁余) 榎屋喜兵衛 已一〇月  
一通
- 19 白木箱・杉原紙等代金請取覚(銀九匁余) 丹波鳴村治左衛門 富岡・月岡宛 已二月  
一通

- 20 御用紙代金勘定覚(金二分余。並杉原紙、上粘入紙、小盤紙、黒半紙、在所美濃紙) (勘定所附忠左衛門カ) (年月ナシ)  
一通
- 国役普請中品々臨時入料金請取証文綴 安政四年二月一々五年二月  
一綴く四八
- 1 国役普請中臨時入料金勘定書(金二六兩余) 高坂守之助 (午十一月)  
一通
- 2 普請目論見中諸入料金勘定覚(金四兩余) 幕府檢使往来時の宿料、茶代等) 勘定所附忠左衛門 安政五年一〇月  
一通
- 3 幕府役人通行時諸入料金勘定書(金三分余、酒肴・茶菓子代) 丹波鳴村御宿岡沢介八郎 富岡喜代之介・月岡九左衛門宛 安政四年二月  
一通
- 4 駕籠賃人足賃錢請取証文(金三分余、幕府役人新町村見分時入用) 丹波鳴村治左衛門 同前宛 同月  
一通
- 5 普請仕立中諸入料金勘定覚(金四兩余、中之条陣屋へ普請金請取時の郷宿への茶菓子代) 勘定所附忠左衛門 同五年一〇月  
一通
- 6 幕府役人通行時諸入料金請取証文(金三兩、酒肴・茶菓子差出しへの御手充) 鼠宿村・新地村長百姓等 富岡・月岡宛 同五年二月  
一通
- 7 幕府役人通行時諸入料金請取証文(金二兩二歩) 桑原村名主完左衛門他一名 同前宛 同月  
一通
- 8 酒肴代金請取覚(金一兩余、幕府役人下戸倉自在山參詣時小休入料) 須坂村坂田善右衛門 同五年三月  
一通
- 9 酒肴代金請取覚(金一兩余) 高たや 三月二四日  
一通

10 酒肴雜用金請取証文(金二兩余、幕府役人善光寺參詣時入料) 丹波嶋村岡沢介八郎 富岡・月岡宛 同五年四月一〇日 一通

11 普請人足酒代金請取証文(金一兩余 丹波嶋村治左衛門 同前宛 同年三月 一通

12 雜用金請取覚(金二分、幕府役人仏參時小休につき御手充) 後町村頭立忠八 同年四月 一通

13 茶菓代等諸雜用金請取証文(金三分余、幕府役人戸隠山參詣案内時入料) 丹波嶋村伊助 富岡・月岡宛 同年四月朔日 一通

14 賄料・茶代金請渡証文(金一分余、中之条陣屋へ普請金請取時入料) 上徳間村徳兵衛 富岡宛 同年六月 一通

15 髮結料請渡証文(錢一貫余、出没中髮結新助らへの被下分) 新町村三役人 同年三月二五日 一通

16 髮結料請取証文(金一分余、幕府役人分) 丹波嶋村治左衛門 富岡・月岡宛 同年四月 一通

国役普請入料金中借証文(金四百兩、新町村等六村分。(紙背文書) 郡奉行磯田音門 幕府中之条代官所元ノ桑山奎助宛 安政五年六月 一通

幕府普請方役人賄代酒肴代請取証文綴 安政五年四月一十一月 一綴

○幕府普請方役人賄代酒肴代勘定書(金一一〇兩余) 高坂守之助 (安政五年十一月) 一通

○幕府普請方役人賄代酒肴代請取証文 上山田、新町、須坂、乘原、矢代、鼠宿、新北、丹波嶋名主等 富岡喜代之助・月岡九左衛門宛 安政五年四月一十一月 八通

普請中雜入料勘定覚綴 安政五年 一綴

○普請中雜入料金勘定書(金三兩余) 高坂守之助 (安政五年二月) 一通

○普請中雜入料勘定覚(紙、水引、木綿、煙草、手拭、縮緬、下駄等) みのや彦兵衛他 賄掛り宛 安政五年二月一二月 二二通

千曲・犀川国役普請入用材木買上代金請取証文綴 安政五年 一綴

○普請入用材木買上代金勘定書(金四七一兩余) 宮坂民左衛門 (奥書野中軍兵衛・中沢義市青柳丈左衛門宛) 安政五年 一通

○材木買上代金請取証文 新町村久之承、上山田村喜野作、須坂村与右衛門等材木請負人 国役普請掛り中宛 安政五年 三五通

千曲、犀川国役普請諸色代金請取証文綴 安政五年 一綴

1 諸色代金勘定書(金七三兩余) 高坂民左衛門 一通

2 白口藤買上代金請渡証文(三五兩余、山田、須坂、丹波嶋村等六ヶ村への支払い分) 野中軍兵衛・中沢義市 青柳丈左衛門宛 安政五年一〇月 一通

3 中繩代金請渡証文(金一四兩余、同前) 同前宛 同月 一通

4 明俵代金請渡証文(貫三兩余、同前) 同前同前宛 同月 一通

5 惡水払樋入用釘買上代金請渡証文(金一分、四寸釘五八四本) 同前 同前宛 同月 一通

国役普請金預ケ証文(金九七四兩、請取て御納戸余計方へ預け置たる旨) 斎藤善藏 磯田音門宛 安政五年三月一〇日 一通

国役普請金預ケ証文（金三九一兩） 同前 同前  
宛 同年六月二二日 一通く 七

国役普請金預ケ証文（金五五五兩余） 鹿野外守  
同前宛 同年七月二六日 一通く 八

安政五年大瀧見分一件

袋（大瀧一件品々書類入 一五五五二一五七八番  
在中） 一点く 五二

道橋方元ノ野中軍兵衛書状（出役なくしては宜  
しからざるニ付仰上げられたき旨） 勘定役酒井  
市治宛 六月二二日 一通く 五三

御取次役横田甚五左衛門伺書草案（千曲川筋  
通船路見分等のため幕府普請役近日来訪につき手  
配方） 六月 一綴く 五三

横田甚五左衛門書状（竹村氏より普請の件ニ付通  
達あるにより順達、治定となり大慶の旨） 春日儀  
左衛門・酒井市治宛 七月二四日 一通く 五三

野中軍兵衛書状（幕吏小諸宿まで到着とのこと、  
矢代宿にて出迎えるべきかの旨） 酒井市治宛  
八月一日 一通く 五四

上田町申送り覚（幕吏兩名今日上田宿泊りの先触  
到来したる旨） 鼠宿宛 午（安政五年）八月一  
日 一通く 五五

鼠宿村新地村名主連名申上書（上田宿問屋より  
同右申越ありし旨） 春日・酒井宛 八月一日 一通く 五六

上中下泊り賃勘定覚（上五人、中一人、下六人、  
計七四四文） 桑名川村宿祐太郎 松代役人宛  
（月日ナシ） 一通く 五七

御書取（御内用掛りを命ず、委細は横田甚五左衛門  
と申談すべき旨） 勘定役酒井市治宛 （月日ナシ） 一通く 五八

御書取（同 前） 勘定所元ノ春日儀左衛門宛 一通く 五九

横田甚五左衛門書状（幕吏明日松代到着の予定）  
酒井宛 八月一日 一通く 六〇

先触草案（来る一六日舟路にて西大瀧村へ赴くに  
より上下一八人、宿一軒泊り賄いの用意すべき旨）  
真田家横田甚五左衛門 八月一日 一通く 六一

（普請掛申上書草案）（酒井、野中ら幕吏出迎えの  
ため矢代宿に赴き面談したる旨） 八月二二日 一通く 六二

普請掛伺書草案（幕吏への仕向銀、料理代の件）  
（春日儀左衛門） 八月二三日 一通く 六三

（普請掛伺書草案）（同 前） 同日 一通く 六四

犀川筋普請入料金見積積書（四ツ屋、丹波嶋、市村  
分ノ金五六七九兩） 一通く 六五

犀川筋普請入料金見積積書（同 前） 一通く 六六

〇日々申上書

日々申上書草案（一二日、幕吏松代到着。一三日、  
犀川見分、大瀧見分の手順打合せ） 一通く 六七

日々申上書草案（二四日、幕吏丹波嶋村本陣着、四  
ツ屋村難場、小松原村犀口堰見分。一五日、幕吏善  
光寺参詣、そのち新田川合村旅宿にて国役普請  
の件申談じ） 一通く 六八

日々申上書草案（一六日、江戸へ進達の犀川筋普  
請付積帳、絵図面を幕吏に提出） 一通く 六九

日々申上書草案（一七日、二六日、幕吏ら船にて  
西大瀧村より越後国十日町まで千曲川通船路堀割  
り箇所見分、春日、酒井ら同行） 一通く 七〇

日々申上書草案(二七日、長沼駅出立、一行松代到着。二八日一晦日、掛り一同取調物、絵図面作成。九月朔日、二日、幕吏歸府の見送り) 大瀧一件内掛 九月

一通く一五二

○大瀧見分入料関係書類

(米山加兵衛書状) (大瀧一件入料の内、中借金二五兩落手の旨) 酒井市治宛 九月五日

一通く一六三

勘定役丸山保次書状(杉原御用紙送付する旨) 酒井市治宛 八月二〇日

一通く一五六

幕吏賄方入料金中借証文(金二五兩。先般幕吏大瀧見分につき当町止宿賄いの内) 米山加兵衛酒井宛 安政五年九月二〇日

一通く一六七

勘定役青柳丈左衛門書状(別封幕吏への御用状よろしく取計られたき旨) 春日儀左衛門宛 八月二二日

一通く一五三  
1

御用紙代金請取覚(金一兩余) 町田仙之助 酒井宛 同年一〇月一六日

一通く一六三

書状別紙(郡奉行竹村金吾への御用状相届、大安心の由仰せられたる旨)

一通く一五三  
2

幕吏賄方入料金中借証文(金一〇兩) 米山加兵衛 酒井宛 同年二月

一通く一六四

覚書(幕府江戸勘定所から見分幕吏宛御用状ある旨)

一通く一五三

大瀧一件入料金中借証文(金一五兩) 月岡九左衛門・富岡喜代之助 酒井宛 文久元年八月

一通く一六五

勘定役・徒目付連名書状(馬喰町様への出頭を命じられるも持参すべき品参らざるにより別紙の通り取り成し下されたき旨) 入久左衛門・竹花富之進 酒井市治宛 八月二九日

一通く一五四  
1

返上納内借金請取証文(元金三〇兩、但し礼金三兩余不納) 勘定役堀内莊治・田中増治 春日・酒井宛 同年八月二七日

一通く一六元

別紙口上書(一同出頭すべきところ持参の品、新町より参らざるにより明夕にも伺たき旨) 八月二九日

一通く一五四  
2

田中増治添状(内借返上納金三〇兩落手の旨) 同日

一通く一六六

覚書(幕吏より江戸勘定所宛御用状の送付方) 八月晦日

一通く一五五

内借礼金勘定覚(春日儀左衛門内借金三〇兩の礼金勘定、金五兩上納不足)

一通く一六三

幕府普請役方歸府道中休泊所附

一通く一五七

幕吏賄方入料金勘定覚(金六七兩余)

一通く一六〇

道中先触草案(駕籠一挺、主用にて中野代官陣屋まで) 真田家横田 松代町一中野町問屋役人中宛 九月四日

一通く一五六

大瀧一件入料残金請取覚(金六兩余) 横田甚五左衛門 酒井宛 文久二年二月

一通く一六三

四通く一六三

文久元年犀川国役普請

国役普請金預ケ証文(金二〇〇兩。掛り青柳丈左衛門より送付、御納戸余慶方へ預け置く旨)元方御金奉行斎藤善蔵 郡奉行長谷川三郎兵衛宛 文久元年四月一〇日	一通く	八
国役普請金預ケ証文(金二五八〇兩余) 西村源兵衛 同前宛 同年五月一三日	一通く	三
国役普請金預ケ証文(金九〇〇兩) 伊藤伊予之進 草間元司宛 同年六月八日	一通く	三
国役普請金預ケ証文(金四九八兩余) 綿貫泰蔵 同前宛 同年一二月一二日	一通く	六
袋(文久元年国役普請諸色買上引当証文 四五、五四番在中) 長谷川三郎兵衛 戊一二二月	一点く	四
諸色買上代金請渡証文(金二二兩余) 道橋方元 野中軍兵衛 文久元年一二月	一綴く	四
○雑木代金勘定書 新町村名主・世話役等 同年五月	一通	
○鹿朶代金勘定書 新町・里穂菟村名主等 同月 横長半	一綴	
諸色買上代金請渡証文(金四五兩余) 野中 同年一二月	一通く	五
○遺残し材木代金請取覚(金一兩余、五一本分代金の三分一) 新町村久之丞	一通	
○材木代金請取証文(金四四兩余、材木二六六〇本) 同前 文久元年一一月	一通	
諸色買上代金請渡証文(金四一兩余) 野中 同年一二月	一通く	五

○御買上代金請取印形帳(中縄二〇五六束余、四ツ屋村 丹波嶋村普請所入料) 杵淵・中沢村組頭等 一二月一〇日 横長半	一冊	
諸色買上代金請渡証文(金四兩余) 野中 同年一二月	一通く	七
○板代金請取証文 小市村塚田源吾役代春吉 同年二月	一通	
○材木算盤等代金請取証文 吉窪村伊平 同月	一通	
諸色買上代金請渡証文(金七一兩余) 野中 同月	一通く	四
○御買上物代金請取印形帳(明俵二万余、綱嶋村・川合新田村普請所入料) 西寺尾、杵淵村組頭等 同月 横長半	一冊	
諸色買上代金請渡証文(金七五兩余) 野中 同月	一通く	四
○御買上物代金請取印形帳(白口藤一万房余) 赤野田村清三郎・東川田村善太夫 横長半	一冊	
諸色買上代金請渡証文(金六兩余) 野中 文久元年二月	一通く	五
○御買上物代金請取印形帳(古ねこ一九二枚) 下水鉋・四ツ屋村組頭等 横長半	一冊	
諸色買上代金請渡証文(金九八兩余) 野中 文久一二月	一通く	五
○材木代金請取証文(材木六万本余四ツ屋・丹波嶋村普請所入料) 小松原村治右衛門・吉窪村伊平・久保寺村松五郎等 同月	三通	
諸色買上代金請渡証文(金二三六兩余) 野中 同月	一通く	五

○材木代金請取証文〔材木一万本余、綱嶋・真嶋・川合新田村普請所入料〕 久保寺村義平・下真嶋村健左衛門・町川田村瀬左衛門等 同月  
諸色買上代金請渡証文〔金四九両余〕 野中 同月

○龜朶代金請取印形帳〔龜朶八七一五本〕 渠  
沢・古窪村名主等 横長半

○国役普請仕立中日々申上書

日々申上書草案〔三月三日、幕府普請方役人明日丹波嶋村本陣へ入来ニ付出迎へ手配。四日、幕吏到着ニ付挨拶禮物進呈、普請手順打合せ〕〔国役普請掛勘定役青柳丈左衛門・酒井市治・関田莊助〕

日々申上書草案〔五日、普請人足、諸色調達方。六日、普請見積り。七日、幕吏須坂藩土屋坊村見分、青柳ら四ツ屋村裏堀川普請所見分〕 国役普請掛 三月七日

日々申上書草案〔八日、幕吏土屋坊村一件紛議調停。九日、幕吏新町村普請所見分。一〇日、四ツ屋村普請所見分。一日、土屋坊村一件協議、普請人足手配〕

日々申上書草案〔二二日、四ツ屋村堀川并々切普請、土屋坊村一件につき須坂藩役人と協議〕

日々申上書草案〔二三日、川合新田村普請所見分、四ツ屋村普請所菱牛立込石詰。一四日、土屋坊村一件調停案〕

日々申上書草案〔二五日、川合新田村石出し菱牛乗込、四ツ屋村堀川見分〕 国役普請掛 三月

日々申上書草案〔二六日、四ツ屋村々切普請等見分。一七日、大雨増水にて梓・菱牛乗込不調〕

三通

一通く 五四

一冊

一通く 三〇〇

一通く 三〇二

一通く 三〇三

一通く 三〇四

一通く 三〇五

一通く 三〇六

一通く 三〇九

日々申上書草案〔二八日、幕吏に普請金の請取手形の調印依頼、丹波嶋村榎形土堤普請の打合せ。一九日、々切普請水中菱牛乗込差図、大石運搬手配、真嶋村普請仕様の調整。二〇日、幕吏へ料理代進呈、川合村を国役普請より除外の件〕 国役普請掛 三月二三日

日々申上書草案〔二一日、出水にて真嶋村土堤決壊、四ツ屋村々切普請菱牛乗込困難〕

日々申上書草案〔二二日、水勢強く菱牛乗込作業中の船衝突事故、川合新田村普請所仕様替、真嶋村上堤普請増積り出願、四ツ屋村々切り普請、堀川普請増強の件で幕吏と議論〕

日記草案〔幕吏、堀割場所、々切水中菱牛乗込見分差図〕 二二日

国役普請掛り申上書草案〔幕吏への礼物進呈方、四ツ屋村々切普請の報告〕 三月二三日

日々申上書草案〔二三日、四ツ屋村普請所見分。二四日、幕吏新町村出向、幕吏の一人近藤忠五郎普請所にて怪我、土屋坊村名主安右衛門一件紛議につき幕府寺社奉行所へ出訴の件。二五日、幕吏新町村付近普請諸所見分、医師嶋田全隆到着して近藤を診察。二六日、幕吏丹波嶋村・川合新田村等諸所普請差図〕

日々申上書草案〔二七日、出水にて諸所急難につき普請補強、青柳丈左衛門松代へ赴き勘定所御納戸より国役普請金三〇〇両請取、土屋坊村一件の処置。二八日、郡奉行長谷川普請所見分、幕吏に礼物進呈し普請増強并土屋坊村一件善処方依頼、医師嶋田来訪〕

日々申上書草案〔二九日、長谷川々切普請の増強を申し入れるも幕吏許容なし、長谷川帰還〕

一通く 三二〇

一通く 三二二

一通く 三二三

一通く 三二八

一通く 三二七

一通く 三三三

一通く 三三四

一通く 三三五



日々申上書草案（三〇日、近藤駕籠にて普請所見分、）	一通く二三六	日々申上書草案（二八日、洪水にて菱牛等大量流失、土堤諸所決壊）	一通く二三九
日々申上書草案（四月一日、水勢強く諸所大難場、土屋坊村一件取扱い方。二日、普請所人足増加の件申談。三日、大雨出水、切普請、諸所決壊、菱牛等流失。四日、切所へ菱牛立込等差図） 国役普請掛 四月二日	一通く二三七	日々申上書草案（一九日、決壊箇所修復。二〇日、幕吏当月中の普請出来の請証文を村役人に命ず。二一日、四ツ屋村へ切普請を促進。二二日、堀川普請所土砂埋まりにつき堀増しの件）	一通く三三〇
日々申上書草案（五日、切所手当、人足増加の手配、土屋坊村一件につき早急の示談方指示）	一通く三三一	日々申上書草案（二三日、堀川堀増し人足差し出し、水勢強く水中楯杵釣込に失敗し小舟四艘ともに流失、右騒動にて菱牛多く破損）	一通く三三一
日々申上書草案（六日、四ツ屋村普請所菱牛・楯杵・合掌杵等立込差図。七日、幕吏佐藤友次郎小県郡御嶽堂村普請所出来栄見分に外向）	一通く三三三	日々申上書草案（二四日、新町村普請につき道橋附和田忠太来りて幕吏と面談） 国役普請掛 四月	一通く三三三
日々申上書草案（八日、酒井市治普請金請取に中之桑代官陣屋に赴き元々役桑山全助より金二千兩の手形請取。九日、酒井鼠宿にて佐藤友次郎出迎え、土屋坊村一件につき福嶋村手切れを主張）	一通く三三三	日々申上書草案（二七日、真嶋村普請所模様替出願。二八日、同普請所増強、幕吏土屋坊村見分。二九日、減水、土屋坊村一件につき松代・須坂両藩役人丹波嶋宿にて面談）	一通く三三三
日々申上書草案（一〇日、今里村更級久右衛門方にて普請金二千兩請取、松代表へ上納、四ツ屋村普請所咩職職の増加手配）	一通く三三四	日々申上書草案（五月一日、同前面談、幕吏新町村普請所出来栄見分に外向、同普請所真田家側に仮引渡し。二日、四ツ屋村普請所出水にて土堤決壊。三日、堀川普請所菱牛増強）	一通く三三四
日々申上書草案（二一日、福嶋村示談に同意、幕吏土屋坊村普請所見分）	一通く三三五	日々申上書草案（四日、諸普請所差図。五日、出水にて四ツ屋村普請所へ切楯杵・菱牛等多数流失、土堤決壊、堀川土砂押埋まり、普請所全面欠壊につき村役人に普請附見込みの上申を命ず。六日、菱牛一斉乗込のため人足動員の指示）	一通く三三九
日々申上書草案（二二日、四ツ屋村普請所模様替。二三日、郡奉行山寺源太夫来りて幕吏と土屋坊村一件申談。二四日、四ツ屋村堀川の堀増しを願うも幕吏却下。二五日、幕吏より普請二五日までの完了を申入れ）	一通く三三六	日々申上書草案（七日、長谷川三郎兵衛来訪、幕吏に面談礼物進呈し手堅き普請願入れ）	一通く三三五
日々申上書草案（二六日、諸所普請差図） 国役普請掛（四月カ）	一通く三三七	日々申上書草案（八日、へ切菱牛乗込差図。九日、出水にて諸普請所決壊。一〇日、諸村より人足大量動員）	一通く三三六

日々申上書草案（二一日、領分畔嶽者動員を郡方に手配、関田莊助普請金手形請取のため中之条陣屋へ出向、佐渡奉行通行。一二日、拾五間出堤完成、幕吏二名明日帰府につき善光寺参詣）

一通く二三七

日々申上書草案（二三日、矢代宿まで幕吏の見送り、土屋坊村普請完成、四ツ屋村・丹波嶋村等普請所は続行。一四日、幕吏佐藤・近藤兩名は留まりて普請差図。一五日、土屋坊村・川合新田村普請所出来栄見分、幕吏山本勘助石碑、武田典厩廟所参詣。一六日、真嶋村普請所出来栄見分、四ツ屋村へ切普請大幅断念、村方より仕継普請を申立も却下。一七日、丹波嶋村普請所差図）

一通く二三六

日々申上書草案（一八日、出水につき人足動員、幕吏へ料理代進呈し手堅き普請願入れ。一九日、四ツ屋村普請所差図。二〇日、出水にて普請所決壊。二一日、決壊場所菱牛等増強）

一通く二三〇

日々申上書草案（六月一日、丹波嶋村普請所差図。二日、同前）

一通く二三六

日々申上書草案（三日、幕吏善光寺参詣、幕吏より普請出来形帳に村々三役人調印を命ぜらる）

一通く二三九

日々申上書草案（四日、四ツ屋村・丹波嶋村普請所出来栄見分、普請所飯引渡、真田家使者池村良太郎・郡奉行草間元司より幕吏に礼物進呈、土屋坊村一件につき懇話、村々の請証文等提出。五日、幕吏より出来形帳末書印形済みにて渡さる、幕吏帰府）

一通く二三〇

日々申上書草案（五日、青柳・酒井鼠宿にて幕吏見送り、村方惣代等は領分境目まで見送り、酒井は普請金手形請取に中之条陣屋へ出向） 国役普請掛六月

一通く二三一

○仕立中諸書付

国役普請掛り勘定役連名書状草案（普請掛下役返し人の件、幕吏より仕様帳下渡し（の件） 青柳丈左衛門・関田莊助 宮本慎助宛（文久元年）三月一日

一通く二六三

国役普請掛り勘定役宮本慎助書状（下役を中間と引替の件承知、仕様帳写進上、人足私底にて困惑の旨） 三人（青柳丈左衛門・酒井市治・関田莊助）宛 三月一二日

一通く二三六

宮本慎助書状（普請金・御用紙・綿入羽織を送られたき旨） 三人宛 三月一三日

一通く二三九

青柳丈左衛門申上書草案（幕吏への料理代の件、川合村国役普請除外の件、御手前見回りの件等）（郡奉行長谷川三郎兵衛宛カ） 三月一四日

一通く二三〇

青柳丈左衛門書状草案（土屋坊村一件立入人二名差出しを幕吏佐藤友次郎より命ぜられし旨）須坂堀家役人小松三郎宛 三月一四日

一通く二三三

宮本慎助書状（幕吏御用状所より届られたき旨）関田莊助宛 三月一四

一通く二三四

宮本慎助村継立状（此毫封違滞なく丹波嶋村へ届くべき旨） 新町・水内・赤田・原・丹波嶋村三役人宛 三月一四日

包紙一通く二三五

新田川合村三役人等名前書

一通く二三六

御内仕向積り書（幕府勘定役佐藤・同普請役四名および用人・下役等への諸礼物金勘案、安政五年先例見合わせ見積もり、都合二三兩余）（国役普請掛）

一通く二三七

（青柳丈左衛門申上書草案）（同前仕向安政五年より三〇兩余増額なれど四ツ屋・丹波嶋村は大普請なれば賢慮ありたき旨）

一通く二三六

青柳丈左衛門伺書草案〔御内仕向銀、書面の通り許可ありたき旨〕 三月	一通く二三九	〔青柳丈左衛門書狀草案〕〔大藏当地普請場所持にて差し支え、明日には罷出させたき旨〕	一通く二三三
〔青柳丈左衛門書狀草案〕〔土屋坊村一件福嶋村示談承服せず心痛の旨〕〔郡奉行山寺源太夫宛〕	一通く二四〇	宮本慎助書狀〔昨日の普請金一円過分にては無きやの旨〕 青柳宛 三月二五日	一通く二三七
宮本慎助村継立狀〔此迄封急御用ニ付丹波嶋村へ差出すべき旨〕 新町・上条・水内・三水今泉・赤田・中山新田・柳沢新田・布施五明・原・丹波嶋村三役人宛 三月一五日	一通く二四七	長谷川三郎兵衛村継立狀〔此迄封遅滞なく達すべき旨〕 東寺尾・小嶋田・丹波嶋村三役人宛 三月二五日	一通く二四九
須坂堀家役人小松三郎書狀〔土屋坊村一件立入人又右衛門を幕吏佐藤の下へ差出しの件承知の旨〕 青柳丈左衛門宛 三月一五日	一通く二三三	家老小山田壹岐差図書〔医師嶋田全隆丹波嶋村出向ニ付賄方〕 長谷川三郎兵衛宛 三月一五日	一通く三五〇
宮本慎助書狀〔新町村普請所仕様の件〕 三人宛 三月一五日	一通く二三三	家老小山田壹岐差図書写〔丹波嶋村へ出向し幕府普請役近藤忠五郎を診察すべき旨〕 嶋田全隆宛 三月一五日	一通く三五二
勘定所元ノ役春日儀左衛門書狀〔幕府勘定役の敬称は様付や殿付や教示ありたき旨〕 青柳丈左衛門宛 三月一五日	一通く二三五	〔長谷川三郎兵衛添狀〕〔別紙仰渡の趣心得あるべき旨〕 三月二五日	一通く三五三
〔青柳丈左衛門申上書草案〕〔此度普請費用は私領出金分差引きても三千両以上の由、よつて仕向銀も増額の旨〕 三月一六日	一通く二三四	宮本慎助村継立狀 新町村―丹波嶋村一〇ヶ村三役人宛 三月二六日	一通く三六八
郡奉行長谷川三郎兵衛書狀〔同前普請金、仕向銀の件承知、自分見舞い出向の時節よろしく取計らわれたき旨〕 青柳宛 三月一七日	一通く二三四	青柳丈左衛門書狀草案〔普請金過分の件、壹朱銀取交えの節の粗相ならん。五一兩差上げの形に処理されたき旨〕 宮本宛 三月二六日	一通く三三八
新町村名主源之丞願書〔名代をもつて印形差上げたき旨〕 普請掛宛 三月一七日	一通く二四八	国役普請諸掛り役人名前書	一通く三三九
宮本慎助書狀〔料理代落手、当地普請三分出来の旨〕 青柳宛 三月二〇日	一通く二四六	堀川井ノ切普請所掛り役人名前書	一通く三五五
小松三郎書狀〔土屋坊村普請のため太蔵を無心の件〕 青柳宛 三月二三日	一通く二四二	石川新亀井五番普請所掛り役人名前書	一綴く二五四
		宮本慎助村継立狀 新町村―丹波嶋村一〇ヶ村三役人宛 三月二八日	一通く三六九

宮本慎助書状〔幕吏北村勝之助より江戸への贈物  
水蕎麦一箱等頼まれたるにより宜しく取計られた  
きこと、黒巻御用紙三本送られたき旨〕 青柳宛  
三月二十八日

須坂堀家申渡書写〔丹波嶋村山口太蔵・福嶋新田  
村山岸新平、土屋坊村国役普請の世話方行届きに  
つき褒賞の旨〕 文久元年三月二十八日

青柳丈左衛門書状草案〔太蔵等への褒賞の件に  
つき堀家小松への返書の件〕 水井忠蔵・春日儀  
左衛門宛 三月三〇日

勘定所元々役連名書状〔同前の件。長谷川公の意  
向には小松に面談の折、挨拶までにて別儀不要と  
のこと。中之条陣屋へ普請金請取の節、元々役への  
礼物の件は伺の通り聞済となりたる旨〕 水井・春  
日 青柳宛 三月晦日

宮本慎助書状〔普請金六〇両中借の件等〕 三人宛  
三月晦日

見分休泊附先触控〔幕吏による新町村、上田宿、御  
嶽堂村の普請所見分〕

川合村三役人請書写〔当村普請、私領出金内にて  
可能により自普請たるべきこと承知の旨〕 普請  
掛役人中宛 文久元年三月

御内仕向銀勘定書

国役普請掛り日記草案〔普請金請取の件。新亀普  
請所の入料金高の件〕 四月一日

四ツ屋村新亀普請所掛り役人名前書〔四月二  
日〕

一通く二三〇

一通く二三二

一通く二三三

一通く三四三  
包紙一

一通く三五九

一通く三六三

一通く三五三

一通く三五六

一通く三六〇

一通く三五六

青柳丈左衛門書状草案〔中之条陣屋元々への礼  
物の件につき四月二日付青柳丈左衛門申上書、四  
月四日付長谷川三郎兵衛申上書の二通分草案。四  
ツ屋村へ切普請所大難場となり入料増大にて心痛  
之旨〕 長谷川宛 四月二日

関田莊助書状〔宮本急ぎ松代へ赴きたる旨〕 二人  
〔青柳・酒井〕宛 四月二日

勘定所元々役連名書状〔宮本母病死にて新町村  
へは六日帰還の予定、幕吏へは母病氣見届と取計  
いの旨〕 水井・春日 青柳宛 四月三日

春日儀左衛門村継立状 東寺尾・小嶋田・丹波嶋  
村三役人宛 四月三日

勘定所元々役連名書状〔普請所水破の件、日々申  
上書提出の件、中之条陣屋元々への礼物の件等、い  
づれも承知の旨〕 水井・春日 青柳宛 四月四日

勘定吟味方留役倉田三之丞書状〔普請中借金二  
百両落手ありたき旨〕 酒井市治宛 四月四日

国役普請掛り日記草案〔普請所水破の件、各種御  
用状授受の件〕 四月四日

青柳丈左衛門書状等草案〔申上書と書状の二件  
分の草案。幕吏の御用状の江戸通送方外〕 水井・  
春日宛 四月五日

国役普請掛り申上書草案〔幕吏北村より江戸へ  
の御用状につき飛脚出されたき旨〕 四月八日

道中先触草案〔新町村普請所見分のため勝手掛家  
老赤沢助之進、郡方草間元司ら上下二人罷越に  
より諸所昼賄い一汁一菜たるべき旨〕〔四月四日〕

郡奉行草間元司書状草案〔幕吏への仕向銀の明  
細報告、土屋坊村一件分を含む〕 水井忠蔵宛 六  
日

一通く三五七

一通く三六一

一通く三四三  
包紙一

一通く三五五

一通く三四四

一通く三五三

一通く三五八

一通く三五四

一通く三四五

一通く三五七

一通く三五九

青柳丈左衛門書狀草案（北村御用狀、水破普請所修復の件） 水井、春日宛 四月八日

一通 くら三七六

国役普請掛り日記草案（六日、幕吏明日御嶽堂村見分のため関田莊助菓子持参にて矢代宿へ赴く。七日、関田慶左衛門普請所物見。八日、酒井市治普請金の件にて中之条陣屋へ赴き手形請取、手形写）

一通 くら三七七

国役普請掛り日記草案（八日、土屋坊村一件、川合村御手普請の件、新亀普請人足の件等）

一通 くら三七二

宮本慎助書狀（昨八日当村帰還。普請所水破の件心労なれど、これも手厚き普請となるための道具ならん。中借金三九両落手、先日の一兩を足し四〇兩の中借証文を送付の旨） 三人宛 四月九日

一通 くら三五三  
包紙一

国役普請掛り日記草案（九日、土屋坊村一件立入人等罷出。一〇日、更級久右衛門方にて普請金二千兩請取、青柳土屋坊村一件にて松代へ赴く）

一通 くら三四六

丸山保次書狀（普請金二千兩落手、御納戸へ預け上納せし旨） 青柳宛 四月一〇日

一通 くら三四九

丸山保次書狀（普請金内預けニ付其方へは仮受取書を差出すべきや御納戸請取証文を出すべきや教示ありたき旨） 酒井宛 四月一〇日

一通 くら三五〇

青柳丈左衛門披露狀草案（丹波鳴村太蔵ら褒美項戴有り難き旨） 小松三郎宛 四月

一通 くら三三三

国役普請掛り日記草案（四月一八日、出水にて丹波鳴村役人、人足ら出精につき夕飯、酒を給したる旨）

一通 くら三七三

青柳丈左衛門申上書草案（当一八日より出水にて普請所菱牛など流失にて大手戻り、心痛の旨） 長谷川宛 四月二二日

一通 くら三七四

宮本慎助書狀（普請所危難にて模様替の旨） 三人宛 四月二二日

一通 くら三七五

丸山保次書狀（国役普請中借証文を回されたるにより金三百兩を弁次へ渡したる旨） 青柳宛 四月二五日

一通 くら三七六

宮本慎助口上書（幕吏より普請二七日までに仕上げとの意向、出来形見分の儀宜しく含みおかれたく、委細は周蔵より聞取られたき旨） 青柳宛 四月二五日

一通 くら三七七

宮本慎助村継立狀 新町村一丹波鳴村八ヶ村三役人宛 四月二六日

一通 くら三七〇

宮本慎助書狀（幕吏よりの御用狀差上げ、出来栄見分は二九日の段取りの旨） 青柳宛 四月二六日

一通 くら三七六

宮本慎助書狀（出来栄見分の節、金二〇兩・黒巻紙一本持参下されたきこと。普請小頭海沼辰之丞妻病氣につき一時帰宅の旨） 青柳宛 四月二七日

一通 くら三七九

竹垣三左衛門役所村継立狀写（幕府勘定所より勘定役佐藤友次郎宛御用狀の送付。帰府道中の同人に差出すべき旨） 中道板橋宿・信州丹波鳴村迄右宿村々役人宛 四月二七日

一通 くら三七七

金子請取書（はし代金一朱、折代五百文） はし屋和吉 五月一日

一通 くら三六

川合村三役人名前書

一通 くら三六三

青柳丈左衛門申上書草案（普請所水破手戻りにて進捗せず、近日御手前出張ありたきこと。昨日新町村出来栄見分に赴きたる旨） 五月二日

一通 くら二七

臨時礼物一件伺書草案（幕吏への臨時礼物の件につき、国役普請掛り伺書（長谷川三郎兵衛宛）、長谷川三郎兵衛伺書（勝手方家老宛）の二件分の草案） 五月二日

一通 くら二八

丸山保次書狀（中借金二百兩落手ありたきこと、中借証文は綿貫出勤につき宛所書き替えありたき旨） 青柳宛 五月三日

四ツ屋村請負人請書草案（度々の出水手戻りにて普請完成せず察当を蒙る、来る一〇日まで急度完成する旨）（奥書三役人、場所掛り）（五月四日）

青柳丈左衛門申上書草案（昨日出水にて菱牛等流失、新亀出堤は普請なりがたく模様替止むなしとのこと、損金多く恐れ入る旨） 五月五日

（青柳丈左衛門申上書草案）（兼ねて申上の御内使者明日にも出張ありたき旨） 五月五日

長谷川三郎兵衛書狀（普請所水破の由承知、自分明後日赴くゆえ料理代宜しく取計われたき旨） 青柳宛 五月五日

中之条陣屋元ノ役桑山全助書狀写（真田領国役普請金の内、七分通りの残金一五八〇兩余あり、代官支配替につき受け取られたき旨） 衛・寺源太夫・磯田音門・宮下兵馬・長谷川三郎兵衛・斎藤友衛・草間元司宛 五月七日

長谷川三郎兵衛差函書（中之条陣屋より別紙到来につき宜しく取計うべき旨） 青柳宛 五月八日

郡方物書頭取岸田三千次添状（裏町様の判は無く馬場丁様の判あるにより、上封は馬場丁様にて達すること承知ありたき旨） 青柳宛 五月八日

丸山保次書狀（普請金中借二百兩落手ありたき旨） 青柳宛 五月八日

青柳丈左衛門返書草案（中之条陣屋より普請金につき別紙到来の件承知の旨） 五月九日

一通く二八九

一通く二四三

一通く二九二

一通く二九三

一通く二九六

一通く二九三

一通く二九五

一通く二五五

一通く二六六

一通く二五四

青柳丈左衛門申上書草案（昨日出水にて普請所水破のこと、中之条陣屋への礼物の件） 五月一〇日

幕府普請方役人帰府道中休泊附（普請役中村延之助、北村勝之助分） 五月十一日

青柳丈左衛門申上書草案（幕府幕吏への礼物の件、畔鐵職の者動員の件、二通分の申上書） 五月十二日

郡方役所触廻状（諸村畔鐵職の者、五日間丹波嶋村普請所へ出すべき旨） 桑原・郡・志川・八幡・羽尾・若宮・上山田・新山・力石村三役人宛 五月十二日

宮本慎助書狀（幕府幕吏見送りに鼠宿へ出発の予定） 青柳宛 五月十三日

青柳丈左衛門書狀并勘返状（中御所村普請出来につき見分に赴く予定、都合の程聞かされたき旨、今夕過來駕ありたき旨、勘返） 野中軍兵衛宛 一三日

丸山保次書狀（普請金一五八〇兩余受取、御納戸へ預けたること、中之条元ノへの礼物は月岡九左衛門へ渡したるにより落手されたき旨） 青柳宛 五月十三日

（青柳丈左衛門申上書草案）（畔鐵者少なく當惑、再度触出されたき旨、着到人數明細書添え） 五月十四日

丸山保次書狀（普請入料金中借証文回されたるにより、金三百兩落手ありたき旨） 青柳宛 五月十四日

宮本慎助書狀（幕吏中村・北村兩名見送り、昨夜当地へ帰着したる旨） 青柳宛 五月十四日

一通く二九七

一通く二七三

一通く二九八

一通く二九六  
包紙一

一通く二〇〇

一通く二〇二

一通く二〇三

一通く二〇三

一通く二〇四

一通く二〇五

国役普請掛り日記草案（五月一日―十五日分）	一通く二三三	青柳丈左衛門書狀草案（国役普請御用掛り変更の件承知のこと。当一〇日までの日々申上書を差上につき草間公へ提出されたき旨） 水井・春日宛 五月三日	一通く二三三
青柳丈左衛門申上書草案（四ツ屋、丹波嶋村普請所手戻り多く更に一〇日を要す。農繁期にて人足不足の旨）	一通く二二六	四ツ屋村三役人・頭立小前惣代連印願書（人足差出さず察当を蒙り恐れ入、是迄等閑の始末許されたき旨） 普請掛り宛 文久元年五月二十五日	一綴く二四九
長谷川三郎兵衛御用狀草案（幕吏中村・北村帰府、北村より内預かりの琉球包一ツ今便にて送付につき落手のうえ届けられたき旨） 真田家江戸留守居役津田軫・玉川一学宛 五月一日	一通く二〇七	郡奉行草間元司差函書（畔鋏ども別紙病氣申立の分よろしく取計らうべき旨） 青柳宛 五月二六日	一通く二三四
青柳丈左衛門書狀草案（御詔の蚊帳染め立出来につき進上の旨） 北村勝之助宛 五月二六日	一通く二〇八	丸山保次書狀（普請入料金三百両・御用紙落手されたき旨） 青柳宛 五月二八日	一通く二三五
野中軍兵衛書狀（酒井病氣につき灸治の者派遣）酒井市治宛 一九日	一通 二六四	青柳丈左衛門申上書草案（小松原村家別人足を差出さず、幕吏も立腹。委細は野中より道橋奉行宮嶋守人へ申上たるにより賢慮ありたき旨） 五月二八日	一通く三七七
幕府普請方役人江戸住所書（近藤忠五郎、中村延之助、桜井規矩郎分）	一通く二三五	書狀別紙（小松原一件不埒ニ付宮嶋氏とも相談にて即刻吟味をなす所存） 五月二八日	一通く三六
幕府普請方役人江戸住所書（佐藤友次郎、近藤中村、北村、桜井分）	一通く三六	青柳丈左衛門書狀草案（当所への出張は三、四日がよろしき旨） 三方宛 六月一日	一通く三六
諸普請所入料金覚書（金一五八〇両余）	一通く三六七	青柳丈左衛門申上書草案（普請は当八日までに完成させたきこと。江戸にて普請方役人への御礼使者勤めの件） 六月一日	一通く三八一
青柳丈左衛門書狀草案（なおまた畔鋏者来る二四日より五日間出づるよう触示されたきこと。長谷川出府につき御手許まで申上） 斎藤友衛宛 五月二一日	一通く三〇九	（草間元司書狀）（普請所へ四日出張のこと、御礼使者の件承知の旨）（青柳宛） 六月一日	一通く三八三
丹波嶋村石川亀普請所等諸掛り役人名前書 五月二二日	一通く三二〇	宮本慎助書狀（妻重体により幕吏見送りととの兼合当惑の旨。（紙背）青柳等からの返書草案） 三人宛 六月一日	一通く三八三
勘定所元々役連名書狀（長谷川出府につき国役普請御用掛りは草間元司に命ぜられし旨） 水井・春日 青柳宛 五月二二日	一通く三二一		
注進書（権現松横堤普請所湛水の旨）	一通く三二三		

草間元司申上書草案〔普請完了に伴う諸件申上。幕吏五日に引き払のこと、江戸へ飛脚のこと、江戸にての使者勤めのこと、三件分の草案〕六月	一通く三六九	触書草案〔家老普請所見分につき案内をなし、昼賄いは一汁一菜たるべき旨〕清野村・東福寺村外三四ヶ村宛	一通く三六九
勘定役春山磯治書状〔宮本引取りの処置如何なすべきやの旨〕〔青柳宛〕六月三日	一通く三六四	関田莊助書状〔家老見分の件承知の旨〕草間宛六月六日	一通く三六五
春山磯治書状〔宮本妻余命知れず、一寸の出張も成りがたしとのこと〕青柳宛六月三日	一通く三六五	国役普請掛り連名書状草案〔人足賃金一人ニ付銀一匁二分、夜中廻村は二匁、菱牛川人足三匁余等諸賃金書上〕青柳・関田水井・春日宛六月六日	一通く三六六
青柳丈左衛門申上書草案〔普請中、幕吏へ進呈の諸品江戸への送り届方〕六月三日	一通く三六九	丸山保次書状〔普請金九百両落手、御納戸へ上納。中借証文廻されたるにより金三百両渡す旨〕青柳宛六月八日	一通く三六七
草間元司御用状草案〔普請方役人への諸品の進呈方よろしく取計られたき旨〕江戸留守居津田軒、玉川一学宛六月	一通く三六九	国役普請掛り連名書状草案〔家老見分も首尾よく済み大慶、草間眼病への見舞いとして素品呈上の旨〕青柳・酒井・関田草間宛六月一日	一通く三六八
公辺役人見送り人数覚書六月四日	一通く三六六	犀川通国役普請出来形帳写〔五ヶ村分合金五三六五両余、内三八六両余私領出金分、残金四九七九両余〕四ツ屋丹波嶋真嶋川合新田、新町村三役人普請掛役人中宛	一通く三六八
公辺役人仕向書六月四日	一通く三六七	慶応二年三川国役普請	
国役普請掛り日記草案〔六月四日、幕吏より江戸勘定所宛御用状を託されたる旨〕	一通く三六八	幕府老中申渡書〔真田家領分七ヶ村国役普請、願いの通り許可の旨〕真田信濃守〔幸氏〕宛〔慶応二年六月一日〕	一通く三六八
勘定所元ノ連名書状〔八日には勝手掛家老出張につき明日松代へ出向くべき旨〕水井・春日青柳宛六月五日	一通く三六九	丑寅年千曲・犀・裾花川三川普請掛り名前書	一通く三六九
勘定所元ノ連名書状〔当普請の人足賃金一人何程か報らされたき旨〕同前関田莊助宛六月五日	一通く三六九	上山田村等四ヶ村三役人連印歎願書〔村方難渋につき幕吏への料理賄い等の儀藩にてなしたされたき旨〕普請掛り宮本慎助宛慶応二年二月	一通く三六九
草間元司書状〔家老赤沢助之進出張の日程通告〕関田宛六月五日	一通く三六九		一通く三六九
草間元司申上書草案〔赤沢普請所見分の節、休泊村名〕六月六日	一通く三六九		一通く三六九



申上書草案（去年国役普請の節、医師吉原一安出張して幕府普請役羽生田直三郎の病氣診察に付、目錄七百疋下された旨）  
一通く二四五

吉原一安申上書写（旧幕府普請役を診察に丹波嶋村へ出向き施業せし旨）  
一通く二四六

○

慶応二年一同四年諸川普請入料金請渡証文綴  
明治三年二月  
一綴く二六九

1 慶応二年普請入料金請渡証文（金一八九兩余、鬼無里、日影阿村組合字瀬戸道御普請）草間一路、佐川俣八郎、水井市治、谷口大角、池田富之進、徳嶋広馬（奥書、前嶋有平） 明治三年二月  
一通

2 慶応四年普請入料金請渡証文（金一八兩余、力石村渡舟新規矧立につき請負人庄左衛門へ支払分） 同前 同前宛 同月  
一通

3 慶応三年普請入料金請渡証文（錢六八貫余、犀口用水堰御入料被下自普請の分） 同前 同前宛 同月  
一通

4 慶応三年普請入料金請渡証文（錢一六二貫余、犀口堰新規堰形拵につき御入料被下自普請の分） 同前 同前宛 同月  
一通

○

市場源七郎伺書（雨宮、下横田村普請所見分したるところ破損の危険あり、掛り評議のうえ模様替普請伺上げ）（慶応三年）一〇月  
一通く一六五七

野中軍兵衛書状（一昨日よりの大雨出水にて真嶋、新田川合村等諸所欠壊、当惑の旨） 野中喜左衛門・酒井市治宛（年不詳）八月三日  
一通く一八四

野中軍兵衛書状（仕立中の普請所相次いで流失、急難防方の連続の旨） 同前宛 八月七日  
包紙一通く一八五

野中軍兵衛書状（普請現地は出水欠壊にて当惑。御両所の出張今に実現せず、此段取計方伺い） 同前宛 八月九日  
一通く一八六

明治三年三川国役普請

○目論見見分

民部省土木司連名道中先触写（両掛二荷、人足四人、松代藩管轄川々見分御用） 松原土木大令史・三浦土木少令史 中山道板橋宿より松代宿宿役人中宛（明治二年力）二月一七日  
一通く一八七

民部省土木司連名道中先触写（上下六人、宿一軒賄い用意あるべき旨） 松原土木大令史・河野土木少令史外二名 中山道桶川宿より小諸宿宿役人中宛 二月一十九日  
一通く一八八

松代藩預所民政判事三沢清美書状（先触泊付確かに拝見、善処方願入れ） 郡政副主事市場源七郎宛 二月二十二日  
一通く一八九

袋（小松原村、原村、広田村外二ヶ村犀川・三用水路御普請願目論見書、一三九二一四一八番在中）  
一点く一九〇

川合村三役人願書案（時節柄にてもあり此度は国役普請から当村は除外されたい旨）（奥書、郡政一等算師倉田三之丞） 松原土木大令史・三浦土木少令史宛 明治三年正月  
一通く一九一

掛り算師申上書草案（土木司出張につき金五〇兩中借ありたい旨）（倉田三之丞力） 正月一五日  
一通く一九二

掛り算師申上書草案（見分土木司への礼物の件） 正月一五日  
一通く一九三

掛り算師内密申上書草案（仕越普請は昨年六月  
停止とはなりたれど饗応次第にて勘弁の筋もある  
旨）正月一九日

掛り算師申上書草案（犀口用水堰普請の件、用水路は村方自普請とて土木司より却下されし旨）  
倉田三之丞 正月

〔掛り算師申上書草案〕〔犀口用水堰普請も特別に国役普請に組入れとなるにより早速仕越普請を開始したき旨〕 正月一九日

犀口用水堰組合物代連名請書案(犀口堰普請に  
つき仕越普請の差図ありたく、東京にて却下の節  
は自普請となすべき旨) 四ツ屋村弥七郎・久右  
衛門(奥書、倉田) 松原・三浦宛 明治三年正月

〔掛り算師申上書草案〕  
〔国役善請掛り手附増員の件〕  
正月一九日

○国役普請施行

民部省達書〔普請諸規則〕 松代藩宛 午（明治三年）二月

民部省達書〔松代藩支配所堤防修復の儀、官普請の旨〕  
松代藩庁宛 午三月

公用人申上書〔東京出張の倉田三之丞に民部省より別紙達書を渡されたる旨〕（玉川一学力）三  
月十五日

国役普請許可關係留書 午三月

郡政算師・監使連名申上書并郡政副主事添伺  
貼紙〔国役普請所の流失材木引揚げの者へ手允下さ  
れたく、不埒の者は過忌人足勤めさせたまひ〕（権  
大参事宛）三月一三日

一通く二三九四

堤川除普請規則心得書 (民部省土木司) 午七月

千曲川犀川裾花川堤防取締役名前書

半	一冊	一通
	く二四九	く二五〇〇

郡政算師倉田三之丞申上書〔出張土木より堤  
防取締役の増員を要請され規則書を渡されたる  
旨〕 八月五日

一通 二五〇  
一通 二五〇

倉田三之丞申上書草案〔同前草案〕  
八月五日

一通く一五六

民部省土木司廻状写（川凌のため村高百石ニ付五人三日間集合すべき旨） 1小市・久保寺・小柴見村外二三ヶ村 2川合新田・松岡新田・西風間村外二七ヶ村、役人中宛 八月二六日

半綴く四〇〇

袋〔兩川分、午国役御普請金下ヶ渡証書入、一三八二  
 一三八九番在中〕

一点く九〇

普請内借金請取白紙証文（千曲川通当村地内川  
除普請金。金額記載ナシ） 向八幡村三役人 松代  
藩役所宛 奥書、高橋土木少令史。高橋宛向八幡村  
三役人請取文言記載） 明治三年七月

美綴くハ

普請内借金請取証文〔金四兩余〕 福嶋新田村  
三役人 松代藩役所宛（奥書、松原土木権少佑、松  
原宛同村三役人請取文言記載）（月日ナシ）

美綴く三八四

普請内借金請取証文綴

一綴く三八五

○普請内借金請取証文(金四一〇兩余、犀口堰用  
水普請) 四ツ屋・原・布施高田村外一四ヶ村  
三役人 松代藩役所宛(與書、松原・高橋) 明  
治三年七月

一通

○普請内借金請取証文〔犀川通各村地内川除普

八通

治三年七月、八月

普請内借金請取証文雛型

美

一綴く二六七

国役普請材木伐届人足雑用差引上納取調帳

（村名不詳）名主水井孫左衛門・長百姓源左衛門

横長半

一冊く二六八

外二名 国役普請役所宛 明治三年七月

川除入料材木直段取調書

横長半

一冊く二六九

千曲川通当午夏川除御普請出来形帳

福嶋新田村三役人・場所取締役（奥書 松代藩 松原・高橋） 明治三年八月

美

一冊く二七三

普請皆済金請取白紙証文綴

一綴く二六六

○普請皆済金請取白紙証文（去年犀口堰用水普請諸色代金、人足賃金。金額記載ナシ） 犀口中

下堰組合惣代四ツ屋村百姓代塚田孝左衛門外三名 松代藩役所宛（奥書 松原・高橋） 明治四年

一通

○普請皆済金請取白紙証文（犀川・堀花川通各村地内、去年堤川除普請諸色代金、人足賃金。金額記載ナシ） 中御所・市村、真嶋村、丹波嶋村、久保寺村、四ツ屋村、川合新田村、綱嶋村三役人 松代藩役所宛（奥書同前） 明治四年

七通

○包紙（犀川の方）

一点

普請皆済金請取証文（去年千曲川、松川、浅川、駒沢川、弘誓川通り各村地内堤川除普請諸色代金、人足賃金） 元松代藩預所大嶋村、福嶋村、山王嶋村、宮竹村、金箱村、上駒沢村、下駒沢村、飯田村、小布施村役人 松代藩役所宛（奥書 松原・山川） 明治四年三月

六通  
（二四九）  
（二四四）

普請皆済金請取白紙証文（去年千曲川通り各村地内堤川除普請諸色代、人足賃金。金額記載ナシ）

（二四五）

小森村、栗佐村、若宮村、向八幡村、東八幡村、西寺尾村、五明村、須坂村、上山田村、小嶋田村、牧嶋村三役人 松代藩役所宛（奥書 松原・高橋） 明治四年

一一通

（四三三）  
（四三六）

普請皆済金請取白紙証文（同前） 福嶋新田村三役人 松代藩役所宛（奥書 土木権少佑松原斐君・土木大令史山川純孝） 明治四年

一通く二四二

明治三年今井村堀割普請

小沼村等四ヶ三役人連印歎願書（千曲川水災の原因は飯山本多家領今井村郷地の曲流、瀬直しありたき旨） 小沼・大熊・小布施・相之嶋村三役人 一一名 郡奉行所宛 明治二年九月

美

一綴く二六一

郡政副主事伺書（千曲川通り今井村堀割普請の件、普請入料一統割合を嫌いて福嶋村ら離脱を申立ニ付勘弁ありたき旨） 六月

一通く二四九

郡政副主事伺書（政府土木司より福嶋村ら六ヶ村に人足二万五千人の差出しを命令の件、郡役か賃金支給かいつれかの救済ありたき旨） 六月

一通く二七〇

郡政副主事伺書草案（同前） 六月二十八日

一通く二七二

計政副主事御尋物答書并附札（郡役使用は不都合ゆゑ買上ないし請負人足が妥当、実地見分の上治定されたき旨） 六月

一通く二七六

郡政副主事伺書（人足一件見分報告。請負人足妥当の旨） 七月

一通く二七三

郡政副主事伺書（松原土木司より堀方坪数減少の積直しの件） 七月

一通く二七三

今井村堀割普請入料見積書

横長半

仮一冊く二七六

書取（今井村堀割積直し一四八五兩の件承済、朝廷より四八七兩余の下ケ金ある時はそのまま上納すべき旨）（計政主事鎌原力） 郡政副主事宛

一通く二七六

今井村堀割普請請負証文（来る二五日までに堀割千百坪完成すべき旨） 中御所村久左衛門・久保寺村慶五郎 普請掛宛 明治三年七月五日

一通く二七三

郡政副主事市場源七郎書状（計政主事鎌原溶水より別紙の達あるにより差越え伝達。庶務掌へ申談すべき旨） 玉井繁之助宛 八月六日

一通く二七六

郡政算師玉井繁之助伺書并郡政副主事貼添（堀割普請入料、人足食料にても日々二〇兩を要すにより官札三百兩中借ありたき旨） 八月

一通く二七三

（計政副主事御尋物答書草案）（同前件。官札払底につき百兩のみ許可ありたき旨） 八月一三日

一通く二七五

書取（官札百兩中借、承済たる旨）（計政主事鎌原力） 郡政副主事宛

一通く二七二

郡政副主事伺書并附札（普請入料金なお不足につき御手札にて二百兩中借ありたき旨。許可附札）（計政主事宛力） 八月

一通く二七〇

飯山藩廻状写（当管轄今井村堀割潰れ地の件。検見坪刈りにて地代金勘定のため来る一八日出張立合ありたき旨） 松代藩・椎谷藩・中野庁宛 庚午九月十五日

一通く二七〇

（郡政副主事進達書）（預所判事より別紙回したるにより玉井へ立合の儀申越したき旨） 九月一六日

一通く二七九

玉井繁之助伺書（今井村普請入料の件。土木司より時借入のところ同人帰還、返金催促につき官札五百兩の中借ありたき旨） 二月

一通く二七九

會計方御尋物答書（同前中借金の件、二五〇兩許可ありたき旨） 一二月

一通く二七六

玉井繁之助伺書（普請入料残金九〇兩余あり、官札五〇兩の下ケ金至急ありたき旨） 二月

一通く二七三

玉井繁之助伺書并民事掛貼添（中俣村・布野村へ下ケ金一六〇兩并利金二四兩。時借入の形にて引き延ばすも右村々も金主の催促にて難渋につき至急下ケ金ありたき旨）（明治四年）二月

一通く二七四

書取（別紙伺の件、五〇兩官札にて渡し残金は手形となすべき旨） 民事掛宛

一通く二七五

国役掛伺書（去年千曲、犀川国役普請の下ケ金を今井村普請入料に流用。よって村々難渋につき下ケ金残余四百兩至急渡されたき旨） 未（明治四年）二月

一通く二七四

民事掛伺書（同前の件。藩札にても下ケ金なされたく、そのまゝ年貢上納として回収することなれば勘弁ありたき旨） 一二月一九日

一通く二七五

今井村堀割普請入料金勘定書写（下ケ金残余の処置方。藤井宛矢野の送り状添付） 矢野唯見 藤井善則宛（明治五年力） 八月二一日

美 一綴く二七六

矢野唯見書状（福嶋村外五ヶ村一条にて多額の下ケ金となりたること。此三結の書類熟覧くれるよう玉井より申聞たる旨） 藤井善則宛（明治五年力） 九月一四日

一通く二七一

### 明治四年国役仕越普請

郡政算師倉田三之丞書状草案（普請完成にて松原土木司発足後、当七日より大雨出水にて普請所決壊。土木司ら上田藩見分の後、再度右場所見分願いたき旨） 高橋宛（明治三年）八月二一日

一通く二八九

<p>治水手連名申上書（川合新田村の国役普請去月完成後、大水にて決壊。掛り一同評議のうえ再普請申上） 和田忠之助・荒木富之助（奥書、治水庶務館三郎） 午九月</p> <p>一通く二六二</p>	<p>松代藩願書案（出水にて普請所破損。当国へ土木司出張中にてあれば見分の上にて至急仕越普請命令ありたき旨） 民部省宛 庚午閏一〇月二十八日</p> <p>一通く二六八</p>	<p>袋（当県并長野県管轄所丹波嶋・川合新田・久保寺・中御所村御普請出来形帳 一六〇七―一六〇九番在中） 松代県</p> <p>一点く二六六</p>	<p>袋（犀川、裾花川国役普請仕立方御達書類） 明治四年正月</p> <p>一点く二六七</p>	<p>1 松代藩願書案（犀口用水堰普請、御入用願金高五九四兩余） 民部省宛 庚午（明治三年）閏一〇月</p> <p>一通</p>	<p>2 民部省達書（用水普請は自費たること、其余は土木司目論見金高二四五八兩にて仕立てるべき旨） 松代藩宛 辛未（明治四年）正月</p> <p>一通 包紙一</p>	<p>3 普請目論見帳末文案（入用金高書面の通り、至急仕越普請の下知ありたき旨） 民部省宛 辛未六月</p> <p>一通</p>	<p>4 松代藩願書案（丹波嶋村外三ヶ村去月四月の大水にて諸所決壊につき仕越普請下命ありたき旨） 民部省宛 辛未六月</p> <p>一通</p>	<p>5 丹羽嶋村外三ヶ村三役人・堤防取締役連名願書写（至急仕越普請下命ありたき旨）（奥書、松代藩倉田少属・坂本少属） 出張検査掛り土木司宛 明治四年六月</p> <p>一通</p>	<p>6 土木掛り申上書草案（出願国役普請、仕越の形にて当月迄に完成の旨） 一〇月二十五日</p> <p>一通</p>	<p>7 土木掛り申上書草案（村方難渋につき下ヶ金残余早急に支払われたき旨） 一〇月二十五日</p> <p>一通</p>	<p>封筒 長野県少属鈴木光長 松代県少属倉田貴久宛</p> <p>一点く二六九</p>	<p>1 長野県公同状（中御所村、当県移管につき当夏仕越普請も当県にて扱ふべきとの書面なれど、貴県にて扱われたく関係書類返信の旨） 鈴木光長 倉田貴久宛 辛未一〇月三日</p> <p>一通</p>	<p>2 工部省達書写（丹波嶋村外三ヶ村普請、目論見金高一八九三兩余にて仕立てるべき旨） 松代県宛 辛未九月</p> <p>一通</p>	<p>3 丹波嶋村外三ヶ村三役人・堤防取締役連名願書写 出張検査掛り土木司宛 明治四年六月</p> <p>一綴</p>	<p>4 松代藩願書写 民部省宛 辛未六月</p> <p>一綴</p>	<p>5 中御所村普請目論見帳写</p> <p>一綴</p>	<p>6 普請目論見帳末文写（二六〇七―三番と同文） 松代藩 民部省宛 辛未六月</p> <p>一通</p>	<p>○</p> <p>犀川千曲川通り諸村普請所龜絵図（丹波嶋、大塚、青木嶋、久保寺、岡嶋、中御所、市、川合新田、大豆嶋、川合、真嶋、四ツ屋村）（明治三年、四年） 半</p> <p>一綴 （三通） く四〇一</p> <p>小市村犀口用水堰普請所絵図 26×63cm 一枚く四〇三</p> <p>小市村犀口用水堰普請所絵図 小市村三役人・世話人 未四月二月 25×63cm 一枚く四〇三</p> <p>小市村犀口用水堰普請所絵図 25×63cm 一枚く四一〇</p> <p>小市村犀口用水堰普請所絵図 25×63cm 一枚く四一一</p>
--	--	--	--	--	---	--	--	---	---	--	--	--	--	---	-------------------------------------	--------------------------------	--	--

四ツ屋村堤川除普請所絵図	25×39cm	一枚	く四〇四	相之嶋村村役人願書（去年五月の千曲川普請入用の下ケ金ありたき旨） 名主甚左衛門外一名 郡政役所宛 同年十二月	美	一綴	く四〇五
四ツ屋村堤川除普請所絵図	25×32cm	一枚	く四〇六				
中御所村堤川除普請所絵図	25×128cm	一枚	く四〇五	普請請負人連名願書（当七月の四ツ屋村犀川へ切普請の諸色代金の下ケ金ありたき旨） 丹波嶋村吉右衛門・竹松、青木嶋村和三郎・勇三郎 道橋掛宛 同月	半	一綴	く四〇六
青木嶋村堤川除普請所絵図	26×63cm	一枚	く四〇七				
小松原村堤川除普請所絵図	25×95cm	一枚	く四〇八				
丹波嶋村堤川除普請所絵図	25×61cm	一枚	く四〇九	○明治三年			
市村堤川除普請所絵図	54×77cm	一枚	く四一二	大豆嶋・川合新田村犀川普請下ケ金出願一件 綴込伺書 明治三年		一綴	く四一七
綱嶋村堤川除普請所絵図 綱嶋村名主小山弥重 郎・組頭小山重作・長百姓小山龍治 明治四年四月	49×95cm	一枚	く四一三	1 郡政副主事申上書（大豆嶋、川合新田村去年犀川普請下ケ金の儀、余儀無き次第ニ付聞済ありたき旨） 二月		一通	
久保寺村堤川除普請所絵図	26×123cm	一枚	く四一五	2 治水庶務伺書（岡村年貢上納分だけの下ケ金なし下されたき旨） 二月		一通	
川合村堤川除普請所絵図	26×33cm	一枚	く四一六	3 大豆嶋村三役人願書（去年凶作にて年貢不納の金一五〇両御借入の処置となる。この分の普請下ケ金ありたき旨） 郡政役所宛 明治三年二月	美	一綴	
川合新田村堤川除普請所絵図	28×39cm	一枚	く四一七	4 川合新田村三役人願書（年貢・食料に差し支え。普請人足賃金、諸色代金一三二両余の下ケ金ありたき旨） 同前宛 同年正月	美	一綴	
粟佐村堤川除普請所絵図	41×77cm	一枚	く四一四	下横田村去年千曲川普請下ケ金出願一件綴込伺書 明治三年三月		一綴	く四一五
網掛村堤川除普請所絵図 網掛村名主堤野入治 郎兵衛・組頭大井久之丞・長百姓小宮山三郎右衛門	26×153cm	一枚	く四一八	1 郡政副主事伺書（至急下ケ金ありたき旨） 三月		一通	
○明治二年				2 治水庶務伺書（下横田村下ケ金の内、御飯米上納分七〇両を下げ渡されたき旨） 三月		一通	
久保寺村材木師惣代連名歎願書写（材木代金の金札不通用にて難渋。別紙山本借り金分だけ時拝借なし下されたき旨） 佐源太・新太郎・春三郎・嶋藏 明治二年四月	美	一綴	く一五三				
材木師入料金調書（正金三〇九両余） 明治二年 横長半		一冊	く一五三				
真田家文書目録（その四） 藩政 堤川除普請							

3 下横田村三役人願書（昨年千曲川普請の下ケ金なく難渋。今般江戸出し御飯米代金七〇兩の上納差し支えニ付この分の下ケ金ありたき旨） 郡政役所宛 明治三年三月 一通

辰巳年犀川普請下ケ金出願一件綴込伺書 明治三年 一綴く二四五

1 治水手連名申上書（今般国役普請なれど去年普請残金不払ニ付材木等調達不能。早急に下ケ金ありたき旨） 和田忠之助・荒木富之助・宮入秋之助（奥書、館三郎） 午三月 一通

2 御普請買上材木代金御下ケ金残り書上帳（金五五七兩余） 横長半 仮一冊

3 川方御用材木師惣代連名願書（去年普請の下ケ金なく、今般犀口堰普請の用木差し出し不能） 久保寺村春三郎外三名 郡政役所宛 明治三年三月 半 一綴

4 治水手申上書（犀口堰普請、四ツ屋村外六ヶ村普請、辰巳年分下ケ金ありたき旨） 和田・荒木（奥書、館） 午三月 横長半 一綴

5 久保寺村名主四人連名願書（辰巳年犀川普請残金二五〇兩余下されたき旨） 名主嘉助外三名 普請掛り役人中宛 明治三年三月 美 一綴

6 綱嶋村三役人願書（去年普請残金二三兩余の下ケ金ありたき旨） 名主小山弥三郎外二名 同前宛 同月 一通

7 中御所村九反組名主幸左衛門願書（同前八六兩余下ケ金ありたき旨） 同前宛（月付ナシ） 一通

8 中御所村岡田組名主金左衛門願書（同前四八兩余下ケ金ありたき旨） 同前宛 明治三年三月 一通

9 新田川合村三役人願書（去年普請残金二二三兩余のうち御飯米代金上納分差し引き、一二五兩余の下ケ金ありたき旨） 名主宇兵衛外二名 川方掛り役人中宛 同月 美 一綴

郡政副主事伺書（御用材木師は木伐拵持運び人足賃金、日雇料等にて難渋は事実。早急に下ケ金ありたき旨） 三月 一通く二四七

郡政副主事伺書（須坂村千曲川普請下ケ金の儀、余儀なき次第ゆえ至急下ケ金ありたき旨） 四月十五日 一通く二四七

治水庶務申上書（須坂村日々飯米にも難渋、今般国役普請にて差し支えるにより下ケ金百兩ありたき旨） 四月 一通く二四七

大豆嶋村三役人聞置届書并郡政副主事申上附札（当三月出水にて古筈二〇流失すれども村方費用負担にて乗込たる旨） 名主佐兵衛外五名 明治三年五月 一通く二四六

辰巳年犀川・煤花川普請下ケ金出願一件綴込申上書 明治三年 一綴く二四六

1 郡政副主事申上書（諸村普請残金につき借入の措置を含めるも承服せず。今般国役普請に差し支えニ付下ケ金ありたき旨） 五月 一通

2 久保寺村名主四人連印願書（当村国役普請始まるも諸払差し支え、去年普請残金二六〇兩余の下ケ金ありたき旨） 郡政役所宛 明治三年五月 美 一綴

3 中御所村岡田組・九反組三役人連名願書（去年煤花川普請残金二〇九兩余下ケ金ありたき旨） 同前宛 同月 一通

4 新田川合村三役人願書（去年当春普請残金二九六兩余下ケ金ありたき旨） 同前宛 同月 一通

5 市村北組・南組三役人連名願書〔去年普請残金八〇兩余下ケ金ありたき旨〕 同前宛 同月	一通	3 上山田村村役人願書〔昨年千曲川普請一九七兩余の積高にて完成。下ケ金二〇兩を頂戴するも仕越普請破損繕積立の分は下ケ金なしとて当惑。今般国役普請に差支、村内治まりかねるにより下ケ金ありたき旨〕 名主若林佐治兵衛外五名 同前宛 同月	一綴
6 綱嶋村三役人願書〔去年川除住居囲仕繕普請の残金三兩余下ケ金ありたき旨〕 同前宛 同月	一綴	美	
已年千曲川普請下ケ金出願一件綴込申上書 明治三年	一綴く四六〇		
1 郡政副主事申上書〔諸村昨年千曲川普請の残金二三〇兩余の下ケ金ありたき旨〕 六月	一通		
2 上山田村三役人願書〔昨年千曲川普請の入用残り分の下ケ金ありたき旨〕 名主勘右衛門外六名 郡政役所宛 明治三年六月	一通		
3 志川村三役人願書〔昨年当村耕地開千曲川除ニ付 御入料被下の自普請なれど右入料金六〇兩余下ケ金なし。当四月より国役普請開始ゆえ下げ渡されたき旨〕 名主民治外二名 同前宛 同年五月	一通		
4 小森村三役人願書〔今般国役普請に差支ニ付昨年千曲川普請残金九〇兩余の下ケ金ありたき旨〕 名主五左衛門外三名 同前宛 同月	一通		
已年犀川・千曲川普請下ケ金出願一件綴込申上書 郡政副主事 六月一三日	一綴く四三三		
1 郡政副主事申上書〔村々川除普請の下ケ金ありたき旨〕 六月	一通		
2 新田川合村三役人願書〔去年春、秋、当春の普請残金二八二兩余の下ケ金ありたき旨〕 名主宇兵衛外二名 郡政役所宛 明治三年六月	一綴	美	
3 上山田村村役人願書〔昨年千曲川普請一九七兩余の積高にて完成。下ケ金二〇兩を頂戴するも仕越普請破損繕積立の分は下ケ金なしとて当惑。今般国役普請に差支、村内治まりかねるにより下ケ金ありたき旨〕 名主若林佐治兵衛外五名 同前宛 同月	一綴	美	
已年犀川普請下ケ金出願一件綴込申上書 郡政副主事 明治三年六月二十四日	一綴く四六四		
1 郡政副主事申上書〔別紙歎願の通り下ケ金ありたき旨〕 六月	一通		
2 久保寺村名主四人連名願書〔今般国役普請差支ニ付、去年普請残金二六〇兩余の下ケ金ありたき旨〕 名主嘉助外三名 郡政役所宛 明治三年六月	一通		
辰巳年犀川普請下ケ金出願一件綴込申上書 郡政副主事 明治三年七月	一綴く四七五		
1 郡政副主事申上書〔別紙歎願の通り下ケ金ありたき旨〕 七月	一通		
2 川合村三役人願書〔今般当村は御手普請にて人足、諸色の私も差支ニ付、辰巳年普請残金一七〇兩の下ケ金ありたき旨〕 名主富作外二名 郡政役所宛 明治三年七月	一綴	美	
郡政副主事申上書〔犀川用水堰普請ニ付昨年より材木代人足賃金の残金四三〇兩の下ケ金ありたき旨〕 七月	一通く四七三		
治水手連名申上書〔同 前〕 荒木富之助・大嶋半助 午七月	一通く四七四		
郡政副主事申上書〔四ッ屋村外諸村犀川普請の下ケ金ありたき旨〕 七月	一通く四七五		



治水手荒木富之助申上書（四ツ屋、丹波嶋村去年普請の残金一六二両余の下ケ金ありたき旨） 午七月	一通 一四八 11	1 郡政副主事申上書（別紙歎願あるにより下ケ金ありたき旨） 九月	一通
治水手連名申上書（四ツ屋村、犀口用水堰普請出来ニ付九四九両余の下ケ金ありたき旨） 和田・荒木（奥書、館） 午七月	一通 一四八 12	2 久保寺村名主四人連名願書（去年普請の残金二六〇両余下ケ金ありたき旨） 名主嘉助外三名 郡政役所宛 明治三年九月	一通
郡政副主事申上書（別紙申立の通り下ケ金ありたき旨） 七月二二日	一通 一四七	3 須坂村三役人願書（急破御手普請命ぜられ有難し。諸色代金差支につき中借金下されたき旨） 名主善三郎外二名 同前宛 同月	一通
治水庶務申上書并郡政副主事貼添（犀口用水堰普請等の下ケ金一一二両余のうち金三百両は当一二日に支払われたれど残金不払にて多勢催促に罷越、治水手当惑の旨） 七月晦日	一通 一四六	玉井繁之助同書并郡副主事貼添（上今井村普請金二百両、土木司より借入分返金の件。福嶋村普請中借金の件） 九月	一通 一六六
治水手連名申上書（同前） 和田・荒木 午七月	一通 一四六	郡政副主事伺書（上今井村への官札中借の件、許可なきにより大嶋村久兵衛より借入。一〇月下旬元利返済の証書差出おくにより返済ありたき旨） 九月	一通 一六七
献金出願一件綴 明治三年八月	一綴 一四六	郡政副主事申上書（網掛堰組合外諸村仕越普請ニ付御入料被下方聞済なきにより見分手派遣なしえず、早急に許可ありたき旨） 一〇月	一通 一四六
1 伺書断簡（別紙の通り献金の出願あるよし司税申立。聞済なされたく御賞は別紙の通りの旨） 八月	一通	郡政副主事申上書（相野嶋村普請残金二九五両の下ケ金ありたき旨） 一〇月	一通 一六二
2 司税柳遊亀尾伺書（小河原村安吉金一五両の献金出願の件） 八月	一通	治水庶務伺書（千曲川犀川普請出来するも下ケ金なされず年貢上納に差支。別紙の通り下ケ金ありたき旨） 一一月	一通 一六三
3 小河原村新田組村役人願書（当村安吉献金なしたき旨） 名主松弥外一名 司税役所宛 明治三年八月	一通	千曲川犀川除并犀口両堰用水取揚普請御下金辻（金六六七〇六両余）（治水庶務）	横長半 仮一冊 一六三
4 柳遊亀尾伺書（福嶋新田村大治郎金二五両の献金出願の件） 八月	一通	治水庶務伺書（犀川通り普請残金のうち金二四両の下ケ金至急にありたき旨） 一二月	一通 一六七
5 福嶋新田村大治郎願書（近年松代藩莫大の用途ゆえ献金したき旨） 司税役所宛 午八月	一通	計政副主事御尋物答書（普請下ケ金の件。来春まで相当の利付にて御借入となし、真に難渋村のみ下ケ金なされたき旨） 一二月二五日	一通 一六〇
巳年千曲川普請下ケ金出願書類 明治三年九月	一綴 一四七		

道橋方元ノ連名申上書〔相野嶋村外三件の普請  
金一四〇〇兩は真に難決ニ付下ケ金ありたき旨〕  
中沢義市・春日千左衛門 一一二月

郡政副主事伺書〔同 前〕 一二月二九日

明治四年

千曲・犀・煤花三川普請御入用辻取調書〔文政  
元年より同六年までの入料金書上。年平均二二五  
兩〕 中沢義市 重之助・覚之進宛 二月一四日

千曲・犀・煤花三川普請御入用辻取調書〔同  
前〕 同前 同前宛 同日

治水手申上書〔材木山師への去年犀川普請残金八  
七五兩の下ケ金ありたき旨〕 未三月

民事掛伺書并計監答書貼紙〔同前下ケ金の件〕  
三月

犀川掛り治水手申上書〔普請仕立て金高明細報  
告。材木山師難決申立ニ付下ケ金ありたき旨〕 未  
五月

治水庶務伺書〔同前普請残金の件、先月皆済と申含  
めたるころ半金不足にて不都合の次第。至急下  
ケ金ありたき旨〕 五月

民事掛伺書〔同前の件〕 五月

民事掛り算師申上書〔今般急水除国役普請出願ニ  
付、普請着手のためにも材木師らへの残金の下ケ  
金ありたき旨〕 六月一二日

出納掛伺書〔去年九月官札の借入をなし、元金は返  
済するも利子分六二兩余あり、下ケ金ありたき旨〕  
六月一二日

一通く一四八〇

一通く一四六九

一通く一六四四

一通く一八三三

一通く一六二五  
包紙一

一通く一六二六

一通く一六三七  
包紙一

一通く一六三六

一通く一六三五

一通く一六四三

一通く一六四三

算師倉田三之丞申上書〔盆前ニ付金千兩の下ケ  
金ありたき旨〕 七月九日

民事掛伺書〔同 前〕 七月九日

算師申上書〔同前件、再度申上〕 (倉田カ) 七  
月二三日

明治五年

用度司伺書〔下ケ金これまで百兩のみにて一同当  
惑の旨〕 七月一三日

會計掛伺書〔川普請、武庫方、台所入料等ノ金一〇  
六二兩余、盆前下ケ金の旨〕 七月

諸口勘定覚 (會計方算師)

明治五年官普請

千曲・犀川川除普請并堰用水普請中借証文綴  
明治五年三月、四月

1 犀川普請金中借証文〔金三八三兩余、四ツ屋、  
丹波嶋村川除并犀口堰普請入用金中借。後日本証  
文を以て引替えるべき旨〕 中沢義市 宮繕方佐  
藤伊予之進宛 明治五年三月

2 千曲川普請金中借証文〔金五七七兩余、上山  
田、八幡、下横田、中沢村川除普請〕 同前 同前  
宛 同年四月

3 犀川普請金中借証文〔金七〇兩余、小松原、四  
ツ屋村組合用水并犀口堰普請〕 同前 同前宛  
同月

4 犀川普請金中借証文〔金七六兩余、川合村川除  
御入用被下自普請〕 同前 同前宛 同月

一通く一六五九

一通く一六三八

一通く一六四〇

一通く一六四一

一通く一六四二

一通く一六四四

一綴く一五四

一通

一通

一通

一通

5 煤花川普請金中借証文(金二三兩余、中御所村川除普請) 同前 同前宛 同月	一通
6 千曲川普請金中借証文(金五八兩余、東福寺、中沢 志川、西寺尾村川除普請) 同前 同前宛 同月	一通
7 洪川・角間川普請金中借証文(金一〇七兩余、湯田中村川除普請) 同前 同前宛 同月	一通
8 千曲川普請金中借証文(金三三兩余、向八幡、小舟山岡村組合川除普請) 同前 同前宛 同月	一通
9 千曲川普請金中借証文(金二七三兩余、上山田、向八幡村川除普請) 同前 同前宛 同月	一通
10 千曲川普請金中借証文(金一〇兩余、粟佐村川除普請) 同前 同前宛 同月	一通
11 犀川普請金中借証文(金三三六兩余、大豆嶋、市村川除御入用被下自普請) 同前 同前宛 同月	一通
12 犀川普請金中借証文(金一七兩余、小市村川除御入用被下自普請) 同前 同前宛 同月	一通
13 犀川普請金中借証文(金二二五兩余、小山堰水門建込并陸下げ、御入用被下自普請) 同前 同前宛 同月	一通
14 千曲川普請金中借証文(金六一兩余、相之嶋村、程嶋村川除并用水普請) 同前 同前宛 同月	一通
その他の川普請	
文化元年・二年 国役普請見歩使往來雜用勘定書類	
一綴 一六四	

○見歩使往來雜用勘定書(錢三貫余) 西村源藏(文化二年一二月)	一通
○見歩使往來雜用請渡証文(山札見幸右衛門、国役普請見分のため追分宿までの往來入用) 三輪六十郎・中村仲右衛門・片岡治郎右衛門(奥書、矢野倉直右衛門・渡辺友右衛門) 文化元年一二月、同二年正月、同三月、同七月	四通
○道中諸雜用勘定覚(金一分余) 山札見幸右衛門 普請掛り役所宛 子一 一月一九日、丑正月二日、三月一七日、五月四日・五月二日・七月二日	四通
○旅籠代錢請取覚 追分宿大黒屋弥右衛門外 一 一月一八日、丑正月二〇日	二通
○旅籠代錢請取覚 海野宿柳屋庄兵衛 一 一月一四日	一通
○旅籠代錢請取覚 小諸宿米屋喜八外 丑正月一八日、五月三日、五月二日	三通
○旅籠代錢請取覚 上田原町甚助 六月晦日	一通
○兩替覚書(銀二朱分錢七二文) 海野宿万屋五兵衛外 一 一月一四日、丑正月一八日、五月三日	四通
○飛脚往來雜用請渡証文 三輪・中村外二名(奥書 渡辺) 文化二年一〇日	一通
力石村外五ヶ村名主連印願書(上平村出浦沢度々の洪水にて土砂埋めとなる。見分のうえ善処方出願) 力石・山田・新山・網掛・五明村名主(奥書、上平村名主) 郡奉行所宛 文政六年四月	一通
若宮村三役人御訴書(当村千曲川除自普請組合、明三日より普請開始する旨) 名主円右衛門外三名 郡奉行所宛 文政八年八月	一通
包紙 一 一通 一五六	
一綴 一五六	

石川村三役人願書〔当村北山の内より赤田村まで一円抜口。水通し修復なされたき旨〕 名主吉右衛門外三名 郡奉行所宛 文政九年四月

一通く八四二

中山新田村三役人答書〔石川村願立て差障り有無の件。水溜確保されるならば御請の旨〕 名主弥左衛門外二名 宮沢彦左衛門・片桐重之助宛 同年

一通く八四四

中山新田村三役人答書〔堀割の件は用水差支ニ付御請しがたき旨〕 同前 宮沢・片桐・立合水野七郎兵衛宛 同年五月

一通く八四五

袋〔石川村覆場所并水通場所見分申上〕 勘定役宮沢・片桐・立合徒目付水野 五月

一点く八六七

1 勘定役・徒目付連名伺書〔石川村堀割の件、中山新田出作の者承服せざる旨〕 宮沢外二名 五月

一通

2 石川村覆之場所見分申上一紙 同前 文政九年五月

横長半

一綴

石川村三役人願書〔当村西方の水通しの処置なされたき旨〕 名主吉左衛門外三名 郡奉行所宛 同年六月

一通く八四三

石川村村役人請書〔堀割にて中山新田出作人弥左衛門の地所畑に支障の節は代地を提供の旨〕 名主吉左衛門・長百姓勘兵衛 同前宛 同年七月

一通く八四六  
包紙一通

久保寺村三役人願書〔御入用被下自普請の場所、来る二二日に開始したき旨〕 名主長蔵外二名 川手掛り役所宛 文政一三年三月

一通く八五三

久保寺村三役人願書〔当村自普請開始、当一日に変更ニ付検使見分願上げ〕 名主長蔵外三名 同前宛 同年并三月

一通く八五四

東福寺・清野村連名御訴書〔千曲川除御仕継普請、明九日完成の旨〕 道橋役所宛 同年七月

一通く四八四

福嶋村三役人願書〔当村西、御入用被下自普請の場所、明後一三日に開始したき旨〕 名主宇右衛門外四名 〔宛所〕 同年九月

一通く一五三

千本柳村三役人願書〔当村御入用被下自普請、昨日までに完成。検使見分ありたき旨〕 名主良右衛門外二名 郡奉行所宛 天保三年四月

一通く一五〇

八幡村三役人歎願書〔当村千曲川除自普請所決壊の恐れあるにより打杭四通なされたき旨〕 名主庄右衛門外二名 広土掛り役所宛 天保一五年一〇月

一通く一五七

請負人芋川村喜三郎請書〔小松原村地先舟路堀川普請等仕様の通りなす旨〕 掛り奉行・掛り役人衆中宛 嘉永二年八月

一通く一五九  
包紙一通

下横田村三役人御訴書〔当村耕地開千曲川除普請、明後一日完成の旨〕 名主奎左衛門外二名 勘定所宛 安政四年一月九日

一通く一五八

志川村三役人御訴書〔当村耕地開千曲川除自普請、明後二五日完成の旨〕 名主作右衛門外二名 川方掛り役所宛 安政五年九月

一通く一四五

文久三年御林伐出御用賄請渡証文〔上山田、郡、倉科、西条、沓野、佐野村への御手充賄銀五八俵余、代金二九両余〕 道橋方元へ春日安治方一名 〔加印、道橋奉行〕 勝手元へ磯田音門外三名宛 文久四年正月

一通く一七〇

元治元年犀川御普請御定金差引勘定書〔御定金四五〇兩、三月・八月・中諸村普請積金開済の分へ金四二四両余、明細記載〕

一通く一六三

元治元年犀川御普請中借勘定〔四月・一二月までの二二件分、中借へ四三七両〕

一通く一六四

元治元年犀川御普請道橋方中借勘定（勘定金四五〇兩、内四二六兩余中借）

一通く六五

元治元年野石取出御用賄糶請渡証文（東条村への手充賄糶四俵余 代金二兩余） 春日外一名（加印、道橋奉行） 磯田外四名宛 元治二年三月

一通く七二

元治元年御林伐出御用賄糶請渡証文（上山田村外五ヶ村への賄糶五五俵余 代金二七兩余） 同前 同前宛 元治二年三月

一通く七三

計監御尋物答書（福嶋新田村土堤自普請の件。新規のことゆえ近村差障り有無調査、御收納向勘案あるべき旨） 三月晦日

一通く六六

勘定役連名申上書（下横田村石積の場所見分の件。村方召出し尋問ありたき旨、復命） 小林三左衛門・吉沢十助 四月

一通く六〇

犀口用水堰龜絵図

一通く七四

堤川除普請関係勘定覚書

六通く七四

（郡方御尋物答書草案）（鬼無里村土橋懸替の人足手充につき道橋方宮嶋守人伺の件） 一〇月

三通く七四

森嶋某歎願書草案（国役普請にて幕吏の止宿命ぜられるも、難渋により玄米二〇俵を拝借したき旨） 青柳丈左衛門宛（月日ナシ）

一通く六八

達書（神田川出水につき郷人足三七二人差出すべし。二百人に糶五俵の代銀下す旨） 四月

一通く六五

洪水注進

川合村三役人御訴書（当村耕地開普請なしたところ大雨出水にて決壊。憐愍の処置ありたき旨） 名主庄左衛門外二名 川方掛り役所宛 文政九年四月七日

一通く六四

川合村三役人願書（別紙届出の通り土堤決壊。見分の上御情けの処置ありたき旨） 同前 同前宛 同日

一通く六五

向八幡村・小舟山組三役人連印御訴書（今六日大水にて国役土堤等決壊ニ付見分の上、普請ありたき旨） 名主彦左衛門外四名 勘定役所宛 同年四月

一通く五五

千本柳・向八幡・小舟山村三役人連印御訴書（大水にて組合普請の打杭 下笈等流失。見分のうえ普請ありたき旨） 名主多兵衛外七名 同前宛 同月

一通く五六

向八幡村・小舟山組三役人連印御訴書（当一七日大水にて普請所決壊。憐愍の処置ありたき旨） 名主彦左衛門外四名 郡奉行所宛 同年九月

一通く五四

丹波嶋村三役人御訴書（犀川五番普請所、出水にて極難場となりたる旨） 名主勘左衛門外二名 勘定所普請掛宛 文政一一年四月

一通く四九

諸村普請所水破御訴書綴 道橋方申上附札 万延元年五月一四日

一綴く四三

1 上山田村村役人御訴書（大雨出水にて当村土堤等流失の旨） 名主俣兵衛外五名 道橋奉行所宛 万延元年五月一三日

一綴

2 八幡村三役人御訴書（千曲川出水にて須坂村分借地上堤の普請流失、本瀬迫寄極難場たる旨） 名主三郎右衛門外二名 同前宛 同月

一通

<p>3 東寺尾村三役人御訴書〔当村耕地田千曲川普請所決壊の旨〕 名主関治外三名 同前宛 同年五月一三日</p> <p>4 大宝村三役人御訴書〔千曲川出水にて牧嶋浦普請所決壊の旨〕 名主佐治郎外三名 同前宛 同月</p> <p>5 下小嶋田村三役人御訴書〔当村千曲川耕地田、御入料被下自普請完成のころ出水にて四方笈等流失。見分ありたき旨〕 名主大八外二名 同前宛 同月</p> <p>里穂刈村三役人答書〔水害報告。麦作水損、家屋浸水は別帳にて申上げるべき旨〕 名主孫右衛門外四名 田中増治・鈴木富治・立合伊藤房吉宛 慶応四年五月</p> <p>里穂刈村三役人綴り書〔此度水害見分につき出役に見分書の伺をなさず不調法旨〕 同前 同前 同月</p> <p>勘定役池田良右衛門伺書〔福嶋村・福嶋新田村川欠け見分につき、合二斗余の引居となしたき旨〕 横長平 九月一七日</p> <p>川普請出入、吟味</p> <p>○矢代村、塩崎村争論</p> <p>封筒〔矢代村、塩崎村争論之徳本河原一件 郡方〔文政三、四年〕</p> <p>矢代村三役人御訴書〔塩崎村の千曲川へ切普請を巡る紛議。和談となるも規定書取扱いに疑惑あるにより調印を拒否せし旨〕 名主林左衛門外七名 郡奉行所宛 文政三年二月</p>	<p>一通</p> <p>一通</p> <p>一通</p> <p>一綴 〇四元 11</p> <p>一綴 〇四元 12</p> <p>一綴 〇五〇</p> <p>一点 〇二七</p> <p>一通 〇二八</p>
<p>矢代村三役人御訴書〔当村国役普請所に小舟にて侍・村役人鉢の者来たりて、杭抜取り見回りたる旨〕 同前 同前宛 文政四年八月</p> <p>矢代村三役人申上書〔塩崎村なおまた普請等致すようならば注進する旨〕 同前 同前宛 同年一月</p> <p>封筒〔矢代、塩崎両村論所御裁許被仰付、川式相定候旨証書類〕 郡方 天保五年</p> <p>矢代村出訴人源之助・文七連印申上書〔幕府へ出訴の際の寺社奉行宛の願書、請書等の写〕 勘定役町田源左衛門・春日儀左衛門宛 午八月</p> <p>矢代村三役人御訴書〔争論示談の為取替規定書の写をもつて届出。川式決定の場所への出普請禁止等の旨〕 名主藤五郎外七名 郡奉行所宛 大保五年九月</p> <p>○三領普請不調法一件</p> <p>福嶋村三役人願書〔松代藩預所中嶋村、松代藩福嶋村、須坂藩高梨村外四村より松代藩預所役所へ提出の川普請願書の写をもつて普請許可の出願〕 名主治郎右衛門外四名 郡奉行所宛 文政九年八月</p> <p>福嶋村三役人御訴書〔預所役所へ提出の仕越普請請書の写をもつて届出〕 同前 同前宛 同年九月</p> <p>福嶋村新古三役人連印綴り書〔此度三領普請出願の件、手続き等閑にて藩主を軽蔑の次第となり恐入、不調法赦免執成方願い上げ〕 古名主治郎右衛門外五名 勝樂寺宛 文政一〇年四月</p> <p>福嶋村勝樂寺歎願書〔同前件赦免されたく、目論見願書、仕越願書両通ともに取用いられたき旨〕 郡奉行所宛 同月</p>	<p>一通 〇二九</p> <p>一通 〇三〇</p> <p>一点 〇二五</p> <p>一綴 〇二六</p> <p>一通 〇二七</p> <p>一通 〇二八</p> <p>一通 〇二九</p> <p>一通 〇三〇</p>

福岡村三役人請書〔不調法一件にて吟味を蒙るも、普請は滞り無く仕立てるべき旨〕 名主宇右衛門外四名 同前宛 同月二三日 一通く二五九

福岡村三役人縫り書〔不調法一件赦免の節、高障りの儀は願うまじき旨申上たるにより村方収まりがたし、この件執成方依頼〕 同前 勝樂寺宛 同年十一月 一通く二五二

勝樂寺歎願書〔同前の件〕 郡奉行所宛 同月 一通く二五三

○牛嶋村混雑一件

牛嶋村新古三役人・頭立小前惣代連名歎願書写〔稗嶋村との普請出入入用割合方にて当村混雑、出入落着前後の事情明白となり村内収まるよう善処ありたき旨〕 名主富蔵外六名 郡奉行所・道橋奉行所宛 安政六年三月 一綴く二三三

牛嶋村小前百姓連名歎願書写〔同前の件、奉行所よりの吟味あり普請出入入用は差出すべし。但し去年よりの村内混雑の入用多分ニ付この件の吟味ありたき旨〕 善治外六名 同前宛 安政七年二月 一通く二三六

郡奉行高田幾太評議廻状写〔牛嶋、稗嶋両村示談前後の事情説明。高田の見解記載〕 郡奉行竹村金吾・山寺源太夫・磯田音門・道橋奉行宮嶋守人目付竹内金左衛門宛 二月八日 一通く二六四

高田幾太評議廻状写〔牛嶋村小前の者に入出入用差出しを命じるも不埒の返答をなす旨。手荒の処置は控えるべき旨の山寺回答〕 山寺・宮嶋竹内宛 三月朔日 一通く二六五

勘定所元々役御尋物答書〔牛嶋村小前ら覚悟のうえにて不承服なれば不穩の旨〕 三月 一通く二六七

代官細田久作御尋物答書〔出入入料多分にて小前ら難渋は事実なれば御情けの処置ありたき旨〕 三月 一通く二六八

高田幾太評議廻状写〔牛嶋一件処置方存念〕 山寺外二名宛 三月六日 一通く二六九

高田幾太別紙添廻状写〔小前ら強情なれば評定吟味にて威圧するほか無き旨〕 同前宛 三月六日 一通く二七〇

山寺源太夫存意書〔評定吟味には不同意、大度の取扱い肝要の旨〕 (高田宛) 三月七日 一通く二七一

高田幾太評議廻状写〔小前らへ過料をもって出入入料に充当したき旨。吟味詰なくしての過料は不可との諸回答〕 竹村・山寺・磯田・宮下(兵馬)宛 四月七日 横長半 一綴く二七三

○文久元―元治元年土屋坊村一件

封筒〔土屋坊村一件 一一二―一一七九番一括〕 玉川左門 赤沢助之進宛 一点く二三五

須坂堀家役人連署状〔公訴一件ニ付寺社奉行より松代役場へ土屋坊村の者呼出し吟味すべきとの達ありしこと承知の旨〕 山村祐左衛門・河野主税・土屋修蔵・広沢軍記 郡奉行山寺源太夫・道橋奉行宮嶋守人外四名宛 (文久元年) 正月二十四日 一通く二四二

堀家役人連名書状〔通知次第土屋坊村出頭すべきことなど御内章の趣承知の旨〕 同前 山寺・宮嶋宛 正月二十四日 一通く二四三

堀家役人連署状〔雪解洪水の時節も迫り早急示談のため願人安右衛門外一名を松代役場へ差出したる旨〕 広沢外三名 山寺外五名宛 正月二十五日 一通く二四三

堀家役人牧又右衛門書狀〔牛嶋村裏の普請を和談条件にては手切のほかなしのこと承知。松代役所へは貴君より執成ありたき旨〕 三月三日	一通く二七四	（幕府寺社奉行申渡書）〔大豆嶋地内より新堤築立ての件、示談趣意として人足一二〇〇人は大豆嶋・福嶋両村にて出し、一八〇〇人は大豆嶋村にて出すべき旨〕 大豆嶋村宛	一通く二七六
東川田村中嶋有左八願書写〔土屋坊村一件手切のこと、牧又右衛門の返書差添え始末申上〕 郡奉行所宛 万延二年三月四日	一通く二七五	（幕府寺社奉行申渡書）〔新堤築立てニ付牛嶋村支障ある時は大豆嶋村にて勘弁ある旨〕 牛嶋村宛	一通く二七九
郡奉行長谷川三郎兵衛書狀〔堀川普請入念仕様のこと。土屋坊村名主ら無断にて江戸出訴に及びたること不届、須坂役人存念も不審の旨〕 青柳又左衛門宛 三月八日	一通く二八三	真田家役人書狀草案〔去一九日寺社奉行より内濟下命につき別紙趣意書等送られ当方も同意。立入人・訴答一同現場にて取極めたく土屋坊村への手配方頼入れ〕 （堀家役人宛）	一綴く二八六
勘定役青柳丈左衛門申上書并評定所留役窪田喜三太添貼紙〔幕吏佐藤友次郎の調停は新堤高さを二尺程下げることなれど福嶋村承服せず。同村説得方〕 （群奉行山寺源太夫宛カ） （文久元年） 三月二三日	一通く二五〇	一件掛り奉行連名申上書写〔二件打合わせのため青柳丈左衛門を須坂表へ派遣したき旨〕 山寺・宮嶋 （月日ナシ）	一通く二三七
堀家役人連名書狀〔公訴一件ニ付幕府寺社奉行より内濟命じられたること承知。示談趣意書下案。細注朱筆下札いたし略図面とも送付の旨〕 青木軍右衛門・河野主税 山寺・宮嶋宛 三月二七日	一通く二五二	土屋坊村一件論所絵図	一通く二三六
土屋坊村一件示談趣意書案〔土屋坊村新堤引き払、改めて大豆嶋村前に二尺低、馬踏八尺の土堤築立。土屋坊村・大豆嶋村より人足差出にて福嶋村土堤の上置、腹付をなす旨〕	一通く二七二	天明三年土屋坊・大豆嶋村土堤引崩一件絵図写 （福嶋村カ）	一鋪く二七三
示談趣意書案〔一一七一番の原案〕	一通く二七四	土屋坊村一件関係書類目録〔天明三年綿内村より福嶋村宛一札外〕	一通く二七三
示談趣意書案〔同前〕	一通く二七六	一件訴答陳述覚書〔土屋坊村訴狀の諸箇条に対する福嶋村の反駁〕	一通く二七五
（幕府寺社奉行申渡書）〔万年嶋宮と論所堤との中央へ新堤築立ての件、末の方は三尺となすべき旨〕 福嶋村宛	一通く二七七	堀家役人連署狀〔幕吏佐藤在宿の丹波嶋にて談判したく、同宿まで出張ありたき旨〕 青木・河野 山寺・宮嶋宛 四月二七日	一通く二五三



牛嶋村公事惣代・三役人・頭立小前惣代連名願書案（今般幕府差図による新堤築立ての件） 惣代茂右衛門外七名 郡奉行所・道橋奉行所宛 文久元年四月 美

一綴く二三

一件掛り奉行連名評議廻状（須坂より別紙来翰あり。一昨日の談判手控え添回覧） 山寺・宮嶋郡奉行磯田音門・長谷川三郎兵衛・斎藤友衛・草間元司・道橋奉行柘植嘉兵衛宛 五月二日

一通く二五

堀家役人連名書状（牛嶋裏へ切二尺高の件、土屋坊村過分の願により承服せしむべき所存の旨） 青木・河野 山寺・宮嶋宛 五月二日

一通く二五

真田家役人書状案（牛嶋へ切二尺高の件承知下され降心の旨等） （山寺・宮嶋） （青木・河野宛）

半

一綴く二五

（宮下兵馬書状）（須坂来状の件につき御念書の趣承知の旨） 五月三日

一通く二五

堀家役人連名書状（丹波嶋での談判五ヶ条につき存念の下札を送付の旨） 青木・河野 山寺・宮嶋宛 五月三日

一通く二五

示談趣意書案并勘返下札（新堤高さ二尺の件、土屋坊村旧堤築延しの件、示談文言の件等）（堀家役人）（真田家役人宛）

一通く二六

堀家役人連名書状（新堤一尺低にては福嶋村承服せずとの下札の趣承知の旨） 青木・河野 山寺・宮嶋宛 五月六日

一通く二五

勘返下札草案（新堤本末とも三尺低を福嶋村主張。土屋坊村方を説得されたい旨）

三通く二七

堀家役人連名書状別紙（江戸にて寺社奉行より両家留守居に、公訴一件領主にて示談なすべしとの口達ありし旨） 青木・河野 山寺・宮嶋宛 五月二九日

一通く二五

山寺源太夫評議廻状（須坂来状への意見聞かせられたきこと。土屋坊村惣代安右衛門も二六日に帰り示談成立と見えたる旨） 磯田・宮下・斎藤・草間宛 辛酉（文久元年）五月三〇日

一通く二五

江戸留守居津田転書状（一件内済取扱いニ付須坂堀家役人手荒の処置に土屋坊村の者承服せず男子全員逃散。出府にて駕籠訴などするやも知れず不容易のこと。済口証文文面修正の箇所指示） 山寺源太夫宛 七月二三日

一通く二六

須坂堀家役人丸山次郎書状（土屋坊村逃散の件穏やかになるもなお混雑ある旨） 山寺宛 八月一六日

一通く二六

堀家役人連署状（一件示談のため青柳丈左衛門の下へ中沢孫右衛門派遣のこと、河野は転役にて丸山跡役の旨） 広沢重記・丸山次郎・山村祐左衛門 山寺・宮嶋宛 八月一六日

一通く二六

一件掛り奉行連名評議廻状（一件落着近し。村方一同別紙済口証文提出したる旨） 竹内金左衛門・成沢勘左衛門 磯田音門・斎藤友衛外三名宛 八月二二日

一通く二六

堀家役人中沢孫右衛門書状（土屋坊村へ嚴重理解申付るも承服せざる旨） 青柳丈左衛門宛 一月二二日

一通く二四

堀家役人広沢善兵衛書状（去る三日訴答村々済口証文に調印。江戸にて双方留守居取計にて村方出府に及ばずとのこと承知の旨返報） 山寺・宮嶋宛 二月八日

一通く二五  
包紙一

広沢善兵衛書状別紙（土屋坊村名主安右衛門の役儀取放しの件、不問にされたき旨） 同前宛 二月八日

一通く二五  
12

広沢善兵衛書状（一件厚情への謝礼として粗品進呈の旨） 山寺宛 同日

一通く二五

山寺源太夫書狀控（進呈品への謝辞） 同日	廣沢宛	一通く二七五
福嶋村出府人連印申上書（今日寺社奉行へ罷出、 済口証文認め直しの沙汰ありし旨報告）長百姓 文八・年寄仙左衛門・立添人定之助 留守居役所宛 戌（文久二年）正月二十五日		一通く二三
大豆嶋村出府人・長百姓連名願書案（土屋坊村 一件公訴ニ付当村も引合なれど、水害難渋ゆえ済 口提出の出府は有免ありたき旨）重蔵外四名 郡奉行所宛 文久二年正月	美	一綴く二三
牛嶋村出府惣代連名願書案（同 前） 丈左衛 門外一名 同前宛 同月		一通く二三
福嶋村出府人連印申上書（済口証文に土屋坊村 安右衛門調印の是非を巡る、寺社奉行所との応答 の次第報告） 文八外二名 留守居役所宛 戌二 月四日	半	一綴く三四
福嶋村出府人連印申上書（文久二年二月付の評 定所宛済口証文写。万延元年五月公訴以来の次第、 和談取極の土堤築立て仕様） 同前 同前宛 戌二 月八日	美	一綴く三五
大豆嶋村出府人連印申上書（差紙にて出府した る段を寺社奉行所に届たる旨報告） 重蔵外二名 同前宛 文久二年三月	美	一綴く三七
大豆嶋村出府人連印申上書（今日済口証文に調 印し寺社奉行より帰村を命ぜられたる旨） 同前 同前宛 戌三月四日		一通く三六
福嶋村出府人連印申上書（今日済口証文に調印、 来る一〇日に仰渡ある旨） 文八外二名 同前宛 同日		一通く三九
留守居津田軫伺書（大豆嶋出府人帰村の件） 三 月六日		一通く二四五
留守居津田軾申上書（福嶋村出府人別紙の通り届 出たる旨） 同日		一通く二四六
江戸家老玉川左門添状（済口調印済みのこと留 守居より別紙の報告あり、よつて送付の旨） 松代 家老赤沢助之進宛 三月六日		一通く二四七
福嶋村出府人連印申上書（明日訴答一同評定所 へ出頭を命ぜられし旨） 文八外一名 留守居役 所宛 文久二年三月二日		一通く二三
福嶋村出府人連印申上書（今日評定所にて済口 証文聞済あり、寺社奉行より証拠物下渡され帰府 を命ぜられし旨） 文八外二名 同前宛 戌三月 一三日		一通く二三
福嶋村出府人連印申上書（済口証文写、一二五 番と前文のみ相違） 同前 同前宛 同月一四日	美	一綴く二六
津田軾伺書（済口完了、福嶋村出府人帰村せしむべ きやの旨） 同日		一通く二四八
玉川左門添状（一件書類福嶋村出府人より差出し たるにより送付の旨） 赤沢助之進宛 同日		一通く二四九
大豆嶋村出府人連印申上書（土屋坊村出府人、 当八日に須坂へ帰着したる旨） 重蔵外一名 郡 奉行所宛 文久二年四月		一通く二三
土屋坊村一件掛り役人褒賞留書（磯田音門、宮 嶋守人、青柳丈左衛門、関田慶左衛門、窪田喜三 太、中嶋有左八外） 文久二年七月二四日	半	一綴く三四
土屋坊村一件掛り役人褒賞取調書 元ノ役		一通く二七
道橋方元ノ中沢義市内々申上書（野中軍兵衛一 件御賞の沙汰なきこと勘弁ありたき旨）（文久三 年カ）一一月		一通く二六

竹内金左衛門書狀〔二件褒賞取扱い方〕 左衛門宛 一二月一七日	成沢勘	一通く二五	草間一路評議廻狀〔欠落者持高等取計方〕 音門・斎藤友衛宛 一〇月二三日	磯田	一通く二五
成沢勘左衛門書狀并勘返狀〔昨日差上げの書類返却されたき旨〕 竹内宛 同日	一通く二六		堀家役人連名書狀〔江戸寺社奉行所より今般見分の場所水破につき破損絵図仕立ての命あり。立合の件打合わせたき旨〕 川内久左衛門・加藤徳兵衛 磯田・斎藤・草間・片岡・祢津宛 一二月二〇日	一通く二六	
郡方・道橋方連名申上書控〔二件褒賞取扱い方〕 一二月一七日	一通く二七		赤沢助之進差図書〔別紙書面の趣、心得て取計らうべき旨〕 草間宛 同月二五日	一通く二七	
一件掛り奉行連名評議廻狀〔一件再発後の分ニ付掛り褒賞の件、別紙取調への意見聞かせられたき旨〕 竹内金左衛門・成沢勘左衛門 磯田音門・岡野弥右衛門外二名宛 一二月一八日	一通く二八		草間一路評議廻狀〔堀家側との立合の件、自分出役に及ばず掛り兩名と勘定役を差出すべきかの旨〕 磯田・斎藤・祢津・宮嶋〔嘉織〕宛 同月二七日	一通く二八	
土屋坊村惣代安右衛門・丈太夫連名存意書写 〔我ら兩名訴訟惣代に選出され、今度は覚悟をきめ出府歎願するにより村内のこと頼上げ〕 土屋坊村中一同宛 子〔元治元年〕七月	半 一綴く二七		草間一路評議廻狀〔幕府の意向もあれば自分出役致すこと、よって道橋方も一人出役ありたき旨〕 同前宛 一二月五日	一通く二九	
惣代安右衛門・丈太夫連名存意書写〔当地にての幕吏よりの一件尋問への返答心得〕 同前宛 子七月	半 一綴く二七		堀家役人連名書狀〔出役立合見分の件承知の旨返報〕 川内・加藤 磯田外四名宛 一二月八日	一通く二九	
〔福嶋村村役人届書〕〔幕府役人の福嶋村分地、北長池村、風間村、土屋坊村等の境筋見分の次第〕 〔七月二〇日〕	一通く二七		立会見分改杭数覚書	一通く二七	
論所土堤分間明細書写 大豆嶋村長百姓重蔵外二名	横長半 一綴く二七		福嶋・牛嶋・大豆嶋村惣代連印請書〔幕吏見分の後打杭流失、変地もあるにより実意に示談すべき旨〕 文八外六名 青柳丈左衛門・窪田喜三太宛 元治元年一二月	一通く二七	
福嶋村惣代文八・仙左衛門連名届書〔幕吏の地境見分次第報告〕 掛り出役宛 子七月二一日	美 一綴く二七		○市村普請所乱妨一件	一綴く二八	
〔福嶋村村役人届書〕〔同 前〕〔七月二三日〕	一通く二八		市村要右衛門普請所乱暴一件書類 慶応三年	一通く二八	
郡奉行草間一路書狀并勘返狀〔郡方、馬場町当番の件〕 磯田音門宛 九月晦日	一通く二九		1 道橋方手附連名申上書〔丹波嶋村儀左衛門等三名と市村要右衛門の双方申口合わず、領主の裁判を願たる旨〕 木下伝五郎・倉嶋茂左衛門 卯〔慶応三年〕九月	一通	

2 市村水内要右衛門答書〔要右衛門住居耕地地圃普請所へ丹波嶋村の者乱妨の一件〕 出役中宛 慶応三年八月二八日	美	一綴	11 丹波嶋村三役人答書〔二件事実関係〕 名主庄兵衛外四名 木下・倉嶋宛 同月	美	一綴
3 市村水内要右衛門歎願書〔丹波嶋村の者横暴の所業見分ありたき旨〕 郡奉行所・道橋奉行所宛 同月	美	一綴	12 上町村百姓名前書		二通
4 丹波嶋村三役人聞置届書〔要右衛門刎出普請は当方の国役普請の障りにつき若者等同所の詰石など持来ること。要右衛門より申立あるやも知れず、此段聞置かれたき旨〕 名主莊兵衛外五名 道橋奉行所宛 同月二七日	美	一綴	13 広瀬村百姓・中町町宿等名前書 八月二八日		一通
5 四ツ屋村三役人等連印答書〔丹波嶋村より要右衛門に普請取払を申入れるも聞かず。乱妨の当日は雨天ゆえ一向存ぜざりし旨〕 名主弥七郎外三人 出役中宛 同月	美	一綴	14 丹波嶋村百姓・村役人・郷宿名前書		二通
6 四ツ屋村三役人答書〔当日は休日雨天にて乱妨目撃の者なき旨〕 同前 郡奉行所・道橋奉行所宛 同月	美	一綴	15 市村要右衛門・名主・町宿等名前書 九月五日 一三日		二通
7 市村名主常平誓書〔要右衛門行動の証言。双方申口合わざるにより吟味願上げ〕 木下・倉嶋宛 同年九月	美	一綴	乱妨一件普請所絵図	32×36cm	一枚く一五〇
8 道橋方手附申上書〔乱妨目撃の者なく委細は不詳の旨〕 九月一三日	美	一綴	乱妨一件普請所絵図	32×36cm	一枚く一五二
9 丹波嶋村吟味人親類・三役人并郷宿連印請書〔儀右衛門等三人、吟味中手鎖腰繩にて郷宿預け承知の旨〕 名主庄兵衛外九名 郡奉行所宛 慶応三年九月	美	一綴	○その他		
10 市村要右衛門親類・名主并町宿連印請書〔要右衛門吟味中、町宿預け承知の旨〕 名主常平外二名 郡奉行所・道橋奉行所宛 同月二日	美	一綴	赤田村弥五左衛門地所紛議一件済口証文〔弥五左衛門新堤築立の節、地所為取替一条につき村方と出入〕 名主勝五郎外八名 郡奉行所宛 文政八年七月	封筒一通	一通く二五七
			小河原村三役人御訴書〔当六日出水の節、小布施村議定を破り出普請なすにより当村等洪水。道橋奉行所に見分を願たる旨〕 名主金蔵外九名 同前宛 文政九年四月		一通く二四七
			小河原村三役人御訴書〔同前件、道橋奉行所との尋答次第の報告。小布施村御預所の威光をもつて不埒をなす旨〕 同前 同前宛 同年五月		一通く二四八
			福嶋新田村三役人・頭立小前惣代連印御訴書〔耕地開千曲川除普請ニ付本郷と出入一件、道橋奉行所へ提出の返答書の内容報告〕 名主喜平太外五名 川方掛り役所宛 文政九年九月		一通く二四九

中町町宿連印日延願書〔須坂領小嶋村と当領小河原村との出入一件。立入人婦村まで日延べ願上げ〕東作・惣五郎 郡奉行所・道橋奉行所宛 文政九年一〇月二七日 一通く二六三

中町町宿連印日延願書〔同前件〕 同前 同前宛 同年二月八日 一通く二六三

牛嶋村三役人御訴書〔牛嶋村新規川除普請ニ付須坂領綿内村との出入一件。訴答連名にて道橋奉行所へ内済証文提出の旨〕名主彦左衛門外二名 川方掛り役所宛 天保一〇年一〇月 封筒一通く二五八

大豆嶋村・松岡新田村三役人・吟味人親類等連印請書〔両村六名の者 川合村普請ニ付重役方に欠訴なすにより吟味中腰縄にて村預け承知の旨〕大豆嶋村名主友之助外一四名 郡奉行所・道橋奉行所宛 慶応三年七月一三日 一綴く二四七

大豆嶋村・松岡新田村三役人・頭立小前惣代連名歎願書〔川合村へ切追川普請は当両村の存亡に関われば早急に取払われたき旨〕名主友之助外一六名 同前宛 同年九月 一綴く二五六

川普請出入并趣意書〔福嶋新田村等二村と中河原村との出入〕〔卯年三月二八日〕 一通く二五〇

用水堰組合加入一件立入人連名願書〔上水鉋村ら七ヶ村 上嶋居堰等への加入につき上水鉋村の勝手順より紛議出来。右吟味ありたき旨〕岡村莊作外四名 郡奉行所・道橋奉行所宛 巳五月一七日 一通 一五五

信濃国  
松代

## 真田家文書目録（その四） 解題

### 真田家文書の伝来と特色

#### 文書の伝来

本目録には当館所蔵の真田家文書のうちの書付型史料の一部を収録した。この書付型史料をも含めて、当館の真田家文書全体の伝来およびその関連史料の所在については『史料館所蔵史料目録第二八集・真田家文書（その二）』の解題を参照されたい。真田家文書目録「その一」には簿冊型史料を収録したのに対して、同「その二」（目録第三七集）以降の目録には書付型史料を配している（「その三」は目録第四〇集）。書付型史料の全体は基本的に目録「その一」で用いられた分類項目に従って順次目録化していくものであり、今回はそのうち大項目『藩政』の一部で土地・年貢・川普請等に関係する史料を収めた。

#### 本文書の特徴

本目録収載史料は総て書付型史料である。書付型史料は簿冊型史料とは異なる特性をもつものであり、その一般的な性格は目録「その二」に記した通りであるが、なお本目録収載史料については次のような特色を指摘することが出来る。

1、大名家文書の中の農民史料。本目録収載史料の大半は農村の村役人等の手によって作成・上申された史料である。これらは地押改・年貢上納・川普請などの藩の行政的行為に関連して、また山野の開発・土地所持などを巡る訴訟事件において、農村の側より藩に提出された願書・届書・請書等の各種の史料である。

大名家文書の中にこのように大量の農民史料が存在するという事実は、我々が「大名家文書」とは何か、「農村文書」とは何を指して言うのかという史料の概念規定を巡る問題に一つの検討材料を与えるものであろう。即ち日記や勘定帳といった記録を主たる目的とする簿冊型史料の場合には、それらは藩庁の各役職部局あるいは農村の名主の家において作成され、そしてそのままの場所において伝存される傾向をもっている。

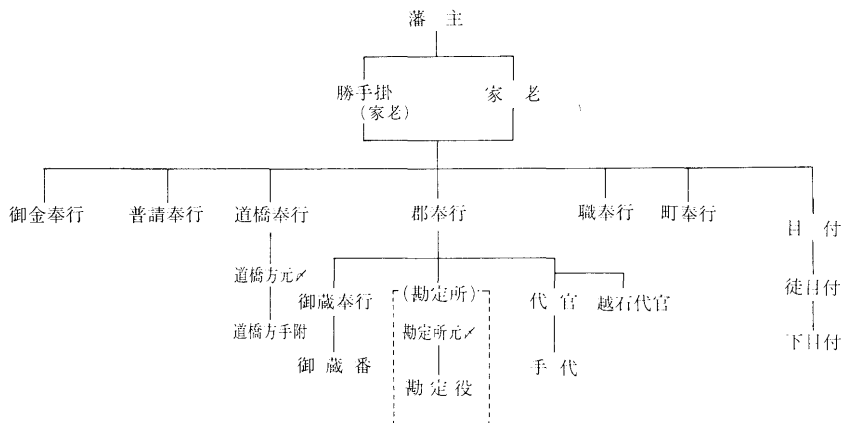
これに対して書付型史料の場合には、他者への意思伝達を主たる目的とする狭義の「文書」がその中核をなすものであるから、史料の空間的な移動が生じ史料の作成場所・作成主体と伝存場所・伝存主体とが分離する性格を本来的に持つものなのである。従ってこの空間的な移動という事実、およびこの移動によって他の諸史料と有機的な関連をもちつつ、特定の役割りを果たしているという事実を踏まえて史料は理解されねばならないのである。それ故にこれら農村から上申された願書などについて、それと同種類の史料（その上申史料の控や副本、あるいは未提出史料）が農村側にあるからといってこの両者を同一視することは出来ないし、「村の史料」であるとの理由でこれらだけを分離して単独に扱うといったことも、史料のもつ意味を損なうことになるであろう。それらは「大名家文書」という史料群の中において捉えることによってのみ、その史料の意味を理解することが出来るのである。

2、郡奉行所伝存史料。本目録収載史料はその大半が松代藩の役職部局のうちでも郡奉行所に伝存された史料であると推定される。ここで本目録収載史料に関係する役職と、部局組織について概述しておこう（松代藩の全職名の一覧は目録「その一」の巻末にあるので参照されたい）。

勝手掛は通常、首席家老の兼帯（複数の場合もある）で年貢関係事項・普請等諸入用・役人手充て等の財政支出全般を統括し、更にこれら諸問題に関する吟味・公事出入りの決裁を行う。本目録史料のうちこれらの問題に関する郡奉行よりの伺書は、その宛所が明記されていないが、この勝手掛に提出されたものである（従ってその回答の附札も勝手掛によるものである）。これに対して自余の家老は月番交替制のもとで、財政問題以外の諸事項、触れの示達、役人の身分に関する諸問題等を扱う。従って松代藩の諸奉行は勝手掛と月番家老とに両属する形になる。

松代藩では町奉行・職奉行・郡奉行を三奉行と称した。町奉行は本目録史料には登場しないが松代城下の町人住居の町々を支配する。職奉行は松代藩に独特のものであるが、善光寺を含む寺社修験を支配し、領民に関わる訴訟および刑事事件の裁判を扱った。その他にも鑑札・冥加物の取り扱いなど領民に関する諸事項を管掌した。郡奉行は代官・御蔵奉行および勘定所諸役人を支配下に置き、年貢収納・検地・治水等を担当しました村方三役人の役儀に関わる公事出入り、他領よりの公事・田畑山境出入りを扱った。さてこの三奉行制は天保一四年の改

図 I：松代藩職制系統図（部分）



備考：『更級埴科地方誌』近世編上 P. 78, 「文化十四年御郡方支配勤年歴調下」(国立史料館蔵, 番号あ 144), その他, 国立史料館蔵「御勝手方御用扣日記」「(国家老)日記」「御郡方日記」等に拠る。

正で職奉行が廃止され、その寺社支配の職掌は新設の寺社奉行に移管され、領民に対する裁判機能は郡奉行に加えられることになった。そしてこれに伴い、郡奉行が公事方と収納方に二分され、全体としてみれば幕府職制における三奉行制と近似した形となっている。

次に本目録史料に頻出する役職として道橋奉行がある。これは伝馬人足・道橋通船・用悪水・山林竹木などを管掌する。治水問題は郡奉行と道橋奉行の共同管理となっている。普請奉行は城郭・殿舎の普請・作事を担当し、川普請には関かっている。目付は家中の非違検察、藩主の供奉警固を専らとし、また触れの伝達を行った。本史料では、勘定役のなす論所等の見分に目付が立合うという形で現れてくる。御金奉行は現金の出納・授受を担当し、本史料では川普請の普請資金の取り扱いを行っている（以上の説明は図 I 備考掲載諸書に拠る。なおこれら各役職就任者の人名については、国立史料館編『史料館叢書第八巻、真田家家中明細書』を参照されたい）。

さて、本目録史料にはこれら各役職が差出者となりまた宛所となるものが多く含まれているが、史料の伝存の観点からした時は、これら諸史料は各役職者の部局に万遍なく伝存したものではなく、その大半が郡奉行所に伝存したものであると推定されるのである。即ち本目録収載史料の形状を見る時、村役人等より勘定役・代官宛に差出された史料は、後者より郡奉行宛の上申書と共に一綴となって存在している（後述の「綴込伺書」を参照）。また代官



所で取り扱った地所争論等の史料も、代官所の手限り詮議が不能となって郡奉行の下に移管され、こうして一件史料がそこで纏められ郡奉行の名を記した封筒に保管されているというようなケースが多いのである。

右のような階続関係になく郡奉行とは並列関係にある道橋方や職方・目付方の部局の史料であっても、郡奉行に事件が移管された関係史料であるか乃至は郡奉行が多少とも関与しているような史料なのである。その意味で本目録収載史料は基本的に郡奉行所史料であると見なしうるのである（但しこれの例外の一つは『堤川除普請』の項目にある幕末期の川普請関係史料である。そこでは書状や上申書が勘定役青柳丈左衛門という人物を中心に存在しており、これは他の史料とは違ったあり方を示している。それと今一つは『国役金』の項目の国役金の請取証文である。これは対幕府関係の中で授受されたもので、その伝存の部局は江戸の留守居方である）。

史料というものは漫然と伝存するものではない。記録を目的とする簿冊型史料と異なり、意思伝達を目的とする書付型史料の場合には当座の目的を果たした後には廃棄される運命が常に待ちかまえている訳である。これを証するのは簿冊型史料たる一連の「勘定所元々日記」のあり方である。同史料は大半が反古紙を用いており、その紙背文書は農村から勘定所に提出された願書・届書の類なのである。書付型史料の多くはこのような使われ方をするか、あるいは宿紙に漉返されていくようなものであったと思われる（真田家文書中の大量の宿紙の存在がこれを示唆している）。それ故に完形で残されている書付型史料は、その「伝存」に独自の意味を有しているであろうこと、およびこれから史料が郡奉行所を中心に伝存しているという事実は、史料の伝存と同部局の史料保管のあり方との間に何がしかの関連性があるのではないかということに注意を惹くものである。そしてこのことは、本目録の史料の次の特色と関係するものであろう。

3、多量の比較的古い年代の史料。目録「その二」（目録第三七集）および目録「その三」（目録第四〇集）収載の史料は幕末・維新期の史料が大部分であった。これに比して本目録の史料においては宝暦年間よりの比較的古い史料がそれに劣らず多数含まれていることが特色の一つをなしている。そしてそれらは次の様な性格の史料である。

イ、公事出入り関係史料。『土地』の項目の質地・入会山・開発等の問題を巡るもの。ロ、吟味関係史料。『年貢』の項目の年貢延滞・不正納入や検見廻村時の人足不揃いに関するもの、『土地』の項目の高抜け地所売買等にかかわるもの。ハ、権利確認関係史料。これは『土地』

の項目の地押改に際して高除地の証拠開示に関わるもの、『諸役・運上』の項目の川役・追鳥役の免除の理由説明に関わる史料。二、各種の誓約史料。これは『土地』の項目の開発に際しての農民側の提出した開発条件を巡る請書の類、『年貢』の項目の定免請に関するもの、『諸役・運上』の項目の各種営業の免許に対する運上・冥加上納の申請に関するもの等である。その他、地所見分の関係史料、年貢減免出願の史料、御用地の管理にかかわる史料等が見られる。

これらの諸史料は多くの場合、「一件物史料」として各事案ごとに関係史料が纏められて封筒の中に封入され、そしてその上ツ書には例えば「西寺尾村小百姓共、古川欠砂留高請合済候処、今以人別割合不仕迷惑之旨、大検見向江願出候ニ付、右者共并村役人双方相尋、割地願之通申渡ス、右詮義一卷書付入 安永二年一〇月 祢津要左衛門」の如くに、当該事件の内容を詳細に記している。この封入者たる祢津要左衛門は郡奉行であり本史料が郡奉行所に伝存したことを推定しうるとともに、史料のこのような存在形態はこれら諸史料が強い伝存意思の下に伝存せしめられてきたことを示している。これら諸史料が比較的古い年代のものであるのはそのためである。これら諸史料の伝存の理由については、個々の史料について検討していく他はないが、一般的に言えることは、これらが後代の事務参考に供すべき先例資料としての意味をもつこと、またそこに封入された農民提出の請書・済口証文・各種の誓約史料が永続的な証拠効力を有するといった事情によるものであらう。

いづれにせよこれら比較的古い年代の書付型史料については、封筒に纏まって収められていない史料も含めて、その伝存の意味が問われなければならないであらう。

4、川普請関係史料。これは本目録収載分の他の史料とは大分性格を異にするものであり、寧ろ目録「その二」「その三」収載分の史料と同性格のものである。それらは専ら幕末・維新期のものであり史料の伝存の観点からは保存・廃棄の選別や淘汰を経ていない、自然残存の性格の強いものである。これらの史料は国役普請を中心とした川普請の実態を教えてくれる点で貴重なものであるが、他方史料の存在の観点からした場合にも、前項で述べたことは対照的に、作成された史料がそのままに伝存していることによって、大名家―藩における史料の存在の生きた姿をありのままに見せてくれているという点において意義を有するもの言うべきであらう。

## 史料の表題について

近世の書付型史料の史料名称については、周知の通りその大半が未確定のままである。真田家文書の書付型史料については、整理の必要からこれらの諸史料に統一的な史料名称を付与しており、その説明については真田家文書目録「その二」（目録第三七集）および「その三」（目録第四〇集）の解題を参照されたい。

さて目録「その二」「その三」で扱った史料は専ら藩内の各役職間・他藩間・幕藩間という武家社会内部で作成・授受された史料であった。これに対して本目録収載史料では、村役人らの手になる農民上申史料がその大半をなしている。本目録ではこれらのものに史料名称を付与し、それに基づいて目録上の表題表記を行っていたが、これら農民史料の名称については武家社会内史料のそれに比して確定の度合い、史料取扱者の間での合意の度合いが一層低いものである。従って本目録において採用したところのものも確定されたものではなく、暫定的・試案的な要素を含むものであり、将来における変更の可能性をもつものであることを御了解頂きたい。そしてここでは、これら各史料の定義をできる限り明確化することによって、個々の史料名称によって指示する各史料の類型的な性格を読者により分かり易く伝達するように努めると共に、将来の改変に際しても、その定義との照合による統一的な操作によって、その変換がなされるように配慮をした。

## 1、史料名称付与の基準

史料というものは人間社会の中で作成・授受され、人間社会の中である特定の目的を果たすべきものとして存在しているものであるから、史料名称の付与に際しては史料のもつ社会的な性格を出来る限り表現しうるように努めた。このような観点に立って村役人やその他の農民から差出された願書・請書等について、差出者の社会的属性と史料の基本的な様式性・機能性を組合わせて、例えば「福島村三役人願書」というように史料名称を構成した。このうち「福島村三役人」の部分を「差出者の社会的属性」、「願書」の部分を「要素的史料名称」と呼ぶこととする。当該史料が村役人などではなく個人の資格で差出された場合には、差出者の社会的属性を示す部分には個人の名前が入ることとなる。

史料名称と目録上の表題との関係について述べておくならば、史料名称は個々の史料の類型的性格を表示し、かつ原則的な性格をもつものであるのに対して、目録の表題は当該史料を具体的に表示していくものであると共に、目録の見やすさ分かりやすさという実際の配慮を加味したものである。従って公事・出入りの際の内済証文（済口証文）や、材木代金・人足賃銀等の請取証文等のように史料名称付与の原則通りには表題が煩雑となるものについては、省略記法を用いたり、当該関与事項を中心に表題を構成するなどの適宜の処置をなしている。表題にはまた、当該史料の記載内容、差出者・宛所の人名、年号月日等の具体的な事項を注記していくものである。以下、史料名称についてその「差出者の社会的属性」と「要素的史料名称」の各々について項を分かつて述べていこう。

## 2、差出者の社会的属性

農民上申史料が武家社会内史料と区別される一番大きな問題は差出者の連印の数の多さと、それに伴う差出者の身分の多様さであり、従ってここにいる史料の社会的属性の表現が煩雑となるところにある。これをどう適切に類型化しうるかが問題の要となるであろう。本目録ではこの問題について次のような処理をなした。

### イ、村方三役人連印の場合。

例えば、真田領の一村の福島村の名主宇左衛門・組頭藤兵衛・長百姓市右衛門の三名が連印している願書の場合、この史料の差出者の社会的属性を「福島村三役人」と類型化した。蓋しこの連印が三名であることは偶々意思を同じくする人間が三人いることを意味するものではなくして、村役人としての職務に基づいて村全体の意思を公式的に伝達すべき要件を充足したということを示しているのである。従ってこの史料の差出者の社会的属性としては「村方三役人」とあるという点において把握されるべきものと考ええる。「福島村三役人願書」という史料名称が意味するものは「福島村の村としての意思を公式的に伝達する願書」ということである。そして更にこの村の公式的意思伝達は三役人の連印が揃って初めて発効するものであるから、三役人の連印は纏まった一つの単位と理解すべきものであり、この史料名称では「連印」という語は敢えて省略した。

また新田村等で三役人の揃っていない場合があるが、これについては「三役人」に代えて「村役人」等の語を用いた。なお松代藩の三役

人の呼称であるが、古くは「肝煎・組頭・長百姓」であつたが明和元年に改制があり安永三年までかつて「名主・組頭・長百姓」と変更している（田中薫「松代藩における村役人名称改めと月割上納制」―信濃教育二一〇〇号）。但し幕府宛の史料においては、明和元年以前であつても、この三役人は幕領風に「名主・組頭・百姓代」となっている（『堤川除普請』『寛保三年一統御普請』参照）。

村方三役人の連印の史料は農民上申史料の基本的なものであり、自余のものはその派生形態ないし後述するような意味においての対抗形態と見做すことが出来る。

ロ、頭立惣代・小前惣代が加印の場合。

村方三役人の連印の次に来る形態は、頭立百姓（大前百姓）の惣代と小前百姓の惣代の連印が加わるものである。これは村の意思をより強固に表現したものと解すべきものである。即ち同じく「願書」であつても三役人のみの場合に比してこちらはより重みを持った、出願の度合いの強いものとして理解されるべきものである。これは「請書」などの誓約性・証拠性の要求される史料に多く見られる。

さてこの場合の史料名称の問題であるが、ここでも頭立惣代と小前惣代の連印を一つの単位と見做して、この両者の存在を「頭立小前惣代」と略記し、全体の史料名称を例えば「福島村三役人・頭立小前惣代連印願書」の如くにした。また両惣代が揃わず、単に頭立が若干名連印しているような場合には「福島村三役人・頭立連印願書」の如くにした。

ハ、願人などに三役人等が加印の場合。

新田開発や特定の営業を出願する願人や、奉行所等より吟味を受けた吟味人の提出する書付に三役人等が加印をなす様な種類の史料も多々ある。この種の史料名称は例えば「福島村願人・三役人・頭立小前惣代連印願書」とした。但し表題表記において煩雑に見えた時には「福島村願人・三役人等連印願書」という様な省略記法を用いた。

この種の史料では願人や吟味人の名前は表題の差出者の人名の注記項に記した。また願人が寺院等であつて、主表題に表記するのが適当な時にはそのようにした。この史料名称の意味するところは、同じく「願書」であつても、「村方三役人願書」は村が主体であるのに対し、これは願人個人の出願に村が連帯保障を与えた願書であるということである。

二、吟味人の親類や五人組の人間と三役人等とが連印の場合。

これは刑事的事件に際して奉行所に提出する「請書」や寺院に提出の「縫り書」に見られるものである。この場合、吟味人ならびにその親類惣代と組合（五人組）惣代、更に三役人等の連印の形態をとるのが一般的である。従ってここでも親類惣代と組合惣代の連印を一つの単位と見做して、これを「親類組合惣代」と略記し（単に「親類」と「組合」との連印は「親類組合」とした）、全体の史料名称を「福島村吟味人・同親類組合惣代・三役人連印請書」の如くにした。本目録ではこの史料名称をそのまま表題表記における主表題に用いたが、煩雑に過ぎるという非難をこうむるかも知れない。これも「済口証文」の場合に採ったのと同様に問題事項に即して、例えば「年貢不正納入一件請書」の如くにした方が適切であろうか。但し済口証文の場合には訴答両当事者と立入人とが連印していることが一般的に予想されるものであるが、請書にはそのような含意はなく、寧ろその差出者の性格がどのようなものかの表示に意味があるようにも思われる。いづれにせよ議論の分かれるところであろう。

へ、村外の人間が連印の場合。

これは『地押改』の項に見られる願書などの史料に、その村の役人と共に村より上位の組・郷レベルの村役人が連印に加わる場合、また前述の吟味の請書に町宿などが連印するようなケースである。これまで連印者は「・」で結んだが、これら村外の連印者は「并」で結びそれと明示した。そこでこの種の史料名称は例えば「芦野尾村頭立并宮平組三役人連印願書」の如くにした。

ト、三役人の連印を有さない場合。

これは『地押改』や『新田開発』の項に見られるもので、三役人の連印を有さない小前百姓のみの願書がある。これらは例えば「広田村小前惣代連印願書」の如くにした。これは「広田村三役人願書」の対抗形態をなすもので、その背後に小前百姓層と村役人・頭立層との対立が伏在することを示唆していることになるであろう。

史料名称における差出者の社会的属性の表現の基準は大体において以上のものである。実際の表題の表記においては、史料目録としての見やすさの観点から煩雑なものは適宜の改変を加えているから、史料名称の基準通りには表記されてはいない。またこの基準そのものを逸

脱する過ちも少なしとしないが、未確定の分野の問題でもありこの点御了解頂きたい。なお「連印」と「連名」の区別については、農民上申史料でも意図的に調印を拒否しているものが見られるので、これは「連名」とした。写で印形の有無の不明なものも同様である。また「奥書印形」については表題の注記事項の差出人名の項に（奥書、——）と付記する形でそれと示した。

### 3、要素的史料名称

ここでは本目録で採用したもののうち、特に説明を要するものを掲げた。

**縫り書** これは刑事的事件において農民が郡奉行所等の吟味を蒙ったおりに出てくる史料である。吟味を受けた農民は最終的な判決が下されるまでの間、手鎖・腰縄で町宿預け・村預け等に処せられる。この際に吟味人の親類・組合（五人組）の人間および村方三役人は連印をもって吟味人の檀那寺等に対して、吟味人が赦免されるよう当該奉行所に執成してくれることを頼入れる。この種の史料はその冒頭に「以書付御縫り奉申上候事」等の文言を有しており、「縫り書」と命名するのが適当と思われる。

これを受けて寺院は関係奉行所宛に吟味人の赦免を求め、寺院が責任をもって警戒し以後の過ちのなきことを誓約する書付を提出する。この書付は冒頭「口上覚」で始まるものが専らであるが、その機能的な性格に基づいて「歎願書」とした（この書付については「訴訟書」というような呼称もまま見られるが、公事出入りの意味での訴訟の書付と紛らわしくなるので敢えて採らなかつた）。そしてこの寺院の歎願によって大体的場合に吟味人は赦免されるか軽い過料程度の処罰で済み、吟味人と親類・組合・三役人の連印の「請書」を当該奉行所に提出することで一件が完了するものであった。即ち、史料的に見た時には村方の「縫り書」、寺院の「歎願書」、吟味人以下の「請書」の三種の史料が一組となつて、この独特の刑事制度の中で機能連関をもちつつ存在するものである（本目録冒頭の口絵写真参照）。

「縫り書」という時、寺院に対してのみならず、農民側より関係奉行所に宛て差出されることが稀にある。これは通常の願書・歎願書に比して一段と希求の度合いの強い史料と見做しうるであろう。

**御訴書** これも真田家文書に特有の性格の史料である。これは史料冒頭に「乍恐以書付御訴奉申上候事」とか史料の止め文言に「此段、

御訴奉申上候以上」というような様式をもつ史料である。

本史料の機能的性格には誠に微妙なものがあり、明確に規定することが出来ず、ある幅をもつて理解せねばならないものである。それはその語から想像されるような訴訟の訴状として用いられることは殆ど無い。機能的性格としては届書に一番近いようである。しかし単なる届には留まらず、若干の「願」のニュアンスを含んでいる。本史料の使用される局面は水害や田畑荒凶等の注進、川普請の完成の報告、あるいはまた他領農村との訴訟事件において江戸での幕府の審理の経過を報告するといったようなものである。次にその一例を掲げる。

乍恐以書付御訴申上候

一、当村名所稗嶋南半右衛門嶋沖、耕地囲上水除引土堤、去秋中奉願候処、御見分之上、村方江出精被 仰含被成下置候付御請申上、当春中築立皆出来、早々御訴可申上哉与奉存罷在候、然処比程中打続日々大雨ニ而犀川出水仕、右引堤并上続腹付上置之処悉危罷成候故、村中罷出、ねこむしろ・繁木等を以相防候得共、難相保、昨六日四時過、右引堤凡式百間余茂欠込、名所南半右衛門嶋沖と稗嶋欠下方能沖迄、不残水押ニ罷成、夏作之分大半流失仕、大小御百姓一同難洪至極奉存候、乍恐以段御訴申上候、幾重ニも御勘弁之上 御憐愍之 意奉仰候以上

文政九戌年四月七日

川方御掛り御役所

川合村

名 主 莊左衛門 印

組 頭 嘉惣治 印

長 百 姓 佐右衛門 印

〔洪水注進〕番号く一六〇四〕

右の、水害を報告してその善処方を求める「御訴書」は実質的に「願書」と大差ないように見える。しかし御訴書は願書とも異なるものとして扱われていた。右の御訴書については同村より同日付、同一宛所で願書が別に差出されているのである(冒頭口絵写真参照)。だから御訴書は願書とは別物であつて、あくまで注進という機能目的をもつような性格の史料として扱われていたと理解されるのである。



御訴書は暫々、他の役所へ願書などを提出した旨を、その願書全文を本文に写し込んで記載される場合が多い。この謄写引用型の御訴書では引用願書が前段に出るために、冒頭事書もその願書の「乍恐以書付奉願上候事」がそのまま用いられて、願書そのものと甚だ紛らわしいものとなっている。御訴書の利用についてはこの点の考慮が必要であろう。なお御訴書については後述の「史料の配列と概要」の『開発』の項をも参照されたい。

日延願書 質地や金子貸借の公事出入りにおいては、奉行所より内済が奨励された。特に幕領等の他領の者との公事出入りにおいてはこの内済方式による解決が求められている。この場合、奉行所より立入人が指名されてこの下で示談が進められる。示談は日限りで行われ、期日までに内済が成立しない時は更に日延を更新していくものであった。松代藩の「御仕置御規定」（『藩法集第五卷・諸藩』）の第四条「他所出入」の項に「立入人等有之、扱中ハ品ニ依、再応日延も承済候事」とあるのに拠るものである。この日延の際に、立入人ないし公事当事者から奉行所宛に提出されるのが本史料である。

（編纂者）

「内川村日延」

乍恐以書付奉願上候

一、中之条御支配杭瀬下村義太夫、当村良左衛門・孫之丞借用金残り、先達而奉願出候ニ付、右之者共被召出済方被 仰付、奉畏、今日迄御日延奉願上、良左衛門儀は先達而済方三郎右衛門江仕置候ニ付、三郎右衛門・孫之丞両人分ち手段仕候処、孫之丞之儀ハ三郎右衛門方相済候上ニ而可致挨拶由申候ニ付、三郎右衛門方ち右立入人繁蔵を以、済方相頼候処、承知仕候様子ニ御座候得共、儀太夫ハ右金五両江利分相加江勘定可仕様申候得共、三郎右衛門儀ハ手形相見不申、殊利分之誤合之金子ニ御座候得は、利分ニ利分差出兼候由申候ニ付、昨日迄ニ相片付兼候ニ付、乍恐此上十三日迄御日延被成下置候様奉願上候、御情ニ願之通被 仰付被下置候様奉仰候以上

内川村

願

人 三郎右衛門

㊦

文政九戌年九月八日

同 断 孫 之 丞 印  
組合惣代 三 郎 治 印  
同 断 重 兵 衛 印  
立 入 人 繁 藏 印  
名 主 佐次右衛門 印  
組 願 莊 三 郎 印  
長 百 姓 左五兵衛 印

御郡御奉行所

〔「質地」杭瀬下村儀太夫質地出入一件、番号く七九六〕

「日延願書」は願書の一型であるが、その機能目的が公事出入りの際の示談期日の延長という特定されたものであり、これに対応してその文言・書式といった文書の様式が右の事例の如くに定型化されたものであるから、これを固有の史料類型として捉えてよいように思われるのである。

答書 「願書」や「御訴書」が百姓の自発的に提出する史料であるのに対して、「答書」は藩役所よりの何らかの尋問に対して、その返答として提出するような史料である。次のものは文政五年に藩の勘定所において雑税の一つである雉子・鯉の献上役について、それを上納していない諸村にその不納の理由を調査したおりの史料である。

御尋ニ付乍恐以口上書奉申上候

御献上追鳥雉子代上納之儀、当村ニ而不仕候訳合御尋ニ付、乍恐左ニ御答申上候

当村之儀は宿御役相勤候付、去ル慶長十六年ニ諸役御免并御役勤方、万端宿御証文従

松平越後守様頂戴仕罷在候、依之諸役之義は

御免被成下置候故、右雉子代上納仕候義、一向無御座候、此上幾重ニも 御情之 御意奉仰候以上

丹波嶋村  
名主 勘左衛門 印

文政五年閏正月

組頭 多吉 印

組頭三名略

長百姓 弥八郎 印

御代官所

〔「諸役・運上」「追鳥・川役」、番号く四七九〕

本類型の史料はこのような年貢・諸役の不納のような特権の証拠開示・理由説明とか、開発の差障有無の問い合わせ等の場合に用いられる。本目録では『地押改』や『開発』の項などに多数見られる。それと今一つ特殊なあり方として、刑事的事件における供述書としての機能を有するが、これは次項で述べる。さて本類型史料は権利問題や現状変更の問題に関わるものであるから、農民側からの返答に「願」の要素が入ってくる。前掲史料でもその止め文言は「願書」のそれである。こうして「答書」と「願書」との境界が不明確となってくる。まして冒頭の事書が「乍恐以口上書奉願上候御事」などとなっていれば、「願書」に一層近似したものとなる。本目録では「答書」たることの様式の要件として、史料文言中に藩側の尋問内容が記載されているか否かの点を問題とした。尤も尋問文言は例示史料のように明確に区別されて記載されることは稀で、通常は尋問文言と返答文言とは一つ文章の中に打ち込みの形で記されている。

吟味答書 これは次の様なような形をもつもので、通常の「答書」とは異なるものである。

御吟味ニ付乍恐以書付御答奉申上候

坂木村団右衛門儀、当村入作銘々小作仕居、尤役代之義は村役元ニ而仕来候処、今般右役代小作人之内ニ而相勤可申段、頭取仕、郷法相破候趣蒙 御吟味、乍恐左ニ御答奉申上候

此段当正月中旬頃、当村重吉儀私方江罷越申聞候ハ、此程中坂木村团右衛門方江年始ニ罷越候処、当村入作役代是迄村役元ニ而勤来候  
処、当年ハ引上、貴様方三、四人ニ而引受可申由候間、貴様も引受可申段申候付、地親之申候義、兎も角も可致旨相答申候（中略）小作  
人一同ニ而鬪引仕、私共四人引請候段、先達而申立候得共、左様ニは無御座候、全私共四人ニ而相談之上、引受候義ニ御座候、此段心  
得違申立候段奉恐入候（中略）全頭取仕候心得ニ而無御座候得共、年来取極罷在候郷法相破、右躰蒙 御吟味候而は頭取仕候筋ニ陥、  
一言申上訳無御座、重々奉恐入候、然上は团右衛門規定帳江印形仕候場は消印仕度奉存候、自然消印不相成趣申候ハ、是迄小作仕居  
候地所差戻候而も是非ノ消印仕、役代之義相断可申候、此段 御吟味ニ付乍恐有躰御答奉申上候、此上幾重ニ茂 御情之 御意奉仰  
候以上

天保五年四月

上五明村  
養右衛門（瓜印）

御郡御奉行所

右之通、養右衛門御答奉申上候通承届、相違無御座候以上

名主 栄五郎 印

組頭 喜兵衛 印

長百姓 良助 印

〔「出作、入作」「天保五年团右衛門役代一件」、番号く九〇二二〕

これは坂木村入作团右衛門の役代一件で、事件の頭取をなして、上五明村の团右衛門小作人を扇動したとして、郡奉行所の吟味を受けた  
同村小前養右衛門の吟味に対する返答書である。これは通常の「答書」に比して、冒頭の事書も「御吟味ニ付」と記されたり全体の調子も  
厳格であるなどの違いを有する。特に重要な点として本類型史料においては差出者が爪印を用いていることが指摘できる。右の養右衛門の  
場合、彼是有印者であって通常の文書にはそれで捺印しているのである（番号く八〇四・八八八）。右事件の他の被吟味人についても同様で  
ある。従って爪印は本類型史料の形式要件と見るべく、それは同時にこれを通常の答書と区別する根拠となるであろう。そして更にこの養

右衛門等が奉行所の白州吟味を受けている事実をも勘案するならば、この「吟味答書」は幕府の刑事裁判における「吟味詰り之口書」と類似の機能を有している点を指摘しうるであろう（平松義郎著『近世刑事訴訟法の研究』七六二頁以下）。即ち幕府の刑事裁判においては、被告が自己の刑事責任を承認し、伏罪の意思を表明することが処罰の執行のための要件をなしていたが、松代藩のこの「吟味答書」も同様に、処罰の要件としての「罪状の自認」という機能目的をもつ史料であつたと思われる。この「罪状の自認」と処罰が不可分の関係にあつたことは、『川普請出入・吟味』の「牛島村混雑一件」で奉行所側の命令に承伏しない者たちの処断を巡る郡奉行間の評議において、吟味詰なくして過料申付は不可との見解が大勢を占めていること、或はまた、『耕作』の項目にある作付に偽装工作をした五十平村の事件において「御答書差上候ハ、如何様、重御咎可被仰付哉」〔番号く八一二〕として「寺院縫り」をなしている事実からも推測されるものである。

尤も刑事事件における「罪状の自認」ということは、この厳格な様式の「吟味答書」だけではなく、通常の「答書」の様式の史料によつてもなされている（『村境』番号く一〇三三、『年貢』番号く四一二等）。但しこれらの史料においても文中に「蒙 御吟味（ないし御尋）」「一言申訳無之」の文言は明記されているものである。この問題における、「吟味答書」と通常の「答書」との適用の違いについては後考に待ちたい。

□ 書 刑事的事件の奉行所における吟味において、「吟味答書」とならんで出てくる史料に「口書」ないし「申口」と呼ばれる史料がある。本目録では「口書」の名称で統一した。次の様な様式の史料である。

（端裏書）  
「金作申口」

以口書申上候

一、私儀心意之所申上候、坂木村団右衛門田地六升五合蒔作居候所、二月十五日頃、重吉倅初五郎参り申候様は、当年右坂木村団右衛門役代相勤度哉と申候ニ付、早速出来候ハ、少茂致度与申候得は、初五郎申候様は手前之役高いたすニ何之子細無御座と申候故、出来候ハ、少々致度御座候と申候（中略）廿四日ニ重吉参り申候は団右衛門役代ニ付、参り候処、其座一同之内良右衛門義見江不申候、団右衛門申

候様は兵左衛門・藤右衛門・金作此三人計ニ御座候ニ付、早速連印可致様被申候ニ付、無擔連印仕候、段々御上様御理解奉恐入候、此上御役人中御取成可被下候

一、四人ノ者、小作人一同鬪引ニ而役代引請惣代四人ニ取極候趣、四人者共々申候得共、於私鬪引致候覚、決而無御座候

(中 略)

右之通、以口上申立候通、相違無御座候以上

午四月

上五明村  
金作(瓜印)

右之通、当人申口承り候処、相違無御座候以上

御役人衆中

親類惣代衆吉代親類 市郎治 ⑩  
組 合 惣 代 勝三郎 ⑩

(同前、番号く九〇三)

これは同じく団右衛門役代一件の際の、騒動の頭取養右衛門らの行為についての証言をなすものである。本型史料は、被吟味人の処罰のための要件たる「罪状の自認」としての「吟味答書」ないし「答書」とは違って、事件の事実関係確認のために関係者の証言を求める史料という性格のものであるように思われる。しかしながら本型史料の意味・機能についても、なお精査が必要である。右史料の提出先の「御役人衆中」は村役人とも藩役人とも解せるが、実際的な使用方法としては、どちらにでも使えるようにしてあるものであろう。形式的な観点からすれば、差出側に村方三役人の連印も奥書も無いところからして、村方三役人と解すべきであらう。

竿請証文 これは『地押改』の項目に見える史料で、地押改に非分なく、その結果に基づいて水帳を作成されたき旨を述べた請書の一型である。

御竿請証文之御事

一、此度大岡村々御地改被 仰付、坪々御見分之上、名所違、地主名違、御竿之延縮茂御座候哉、打寄詮儀仕、自然相違之儀茂御座候ハ、可申上由ニ而、野帳面御借被下置、大小之御百姓打寄、得と奉拝見候所、名所違、地主名違、御竿之延縮茂無御座、何ニ而茂御非分之儀無御座候、則此御帳面を以、御水帳御極可被下置候、為念惣御百姓連判仕、御竿請証文如斯差上申候以上

明和元申年十月

大岡村  
芦野尾村

新右衛門 印

吉右衛門 印

利右衛門 印

御地押御改御役人中様

〔「地押改」、番号く七二二〕

これは一般的には「請書」として捉えられるものであるが、本型史料は中でもその機能性が地押改・検地の結果の受認という特定されたものであり、かつ様式上も冒頭に「御竿請証文之御事」と記し、文言も定型化しているものであるからして、一つの独立した固有の史料類型として理解してよいと思われる。それは「願書」から「日延願書」が独立して捉えられたのと同様であると言えるであろう。

中借証文 これは専ら『堤川除普請』の項において見られる次の様な史料の類型である。

請取申金子之事

合金式拾三両者 小判也

右は信州更級郡私共村方千曲川通川除御普請之儀、御積之通を以、一式村請負被仰付、御仕様帳写取、御普請相仕立候ニ付、為御中借金、

此度書面之通御渡被遊被下、慥奉請取候處実正ニ御座候、則小前銘々割渡、私方印判取置可申候、尤御普請不殘出来候上、一紙手形引替指上可申候、仍而如件

寛保三年亥閏四月

信州更級郡川合村

名主 十左衛門 印

組頭 仁兵衛 印

百姓代 又左衛門 印

野呂猪右衛門様  
御役所

右之通相改申候、書面之金貳拾三兩御渡可被成候以上

亥閏四月廿四日

片桐半平 印

〔堤川除普請〕「寛保三年一統御普請」、番号く一四四〇〕

これは寛保二年の千曲川大水害に際して、翌三年に幕府の手で千曲川筋一帯の「一統御普請」がなされたが、これはそのおりに松代藩川合村から幕府代官野呂猪右衛門宛に提出された、普請金の「中借証文」である。これは松代藩の手限りの「御手普請」の際には、藩宛に提出されるものである。川普請の諸方式および普請資金の授受手続きについては後述の「史料の配列と概要」の当該箇所を参照されたいが、村方より提出の「中借証文」はその普請が村請方式でなされる時に用いられる。即ちこの場合、普請は事前の見積りに従って村の責任において施行されるものであるが、その普請資金は普請の進行状況に基づいて分割して暫定的に下げ渡されるものであり、その際に提出されるものがこの「中借証文」である。そして普請完了時にこれらが清算され、そして正式の普請金の請取証文に引替られる。

「中借証文」は資金の暫定的な分割支払いの請取証文であるから、村方よりのみならず、藩役人の間や藩と幕府との間でも作成・授受されるものである。従って「中借証文」についてはそれがどのレベル、どの局面で作成・授受されているかに留意する必要がある。また「中借証文」は川普請以外の種々の財政事項に關しても用いられるものである。



綴込伺書 これは農民上申史料をその中に含み込むが、本質的には藩の部局内授受史料といふべきものである。

（端裏貼紙）「町川田村御手充引居之義伺 御郡方」

1、（郡方伺書并附札）〔切紙、宿紙〕

口上覚

町川田村

右村川欠高多、宿役難渋ニ付、年限を以御手充引被成下候処、当年年季明ニ付、猶又当申子迄五ヶ年之間引居之義願出候段、委細別紙之通、御代官申聞候間、願之通御聞濟被成下候様仕度、此段奉伺候以上

九月

御郡方

（附札）「可為伺之通候」

2、（代官宮下善左衛門伺書）〔切繼紙、宿紙〕

口上覚

町川田村

一、銀三拾三匁四分六厘 大銀

一、銀拾四匁七分八厘 漆御運上

一、銀七拾五匁 保科村漆挽日傭銀

銀百貳拾三匁貳分四厘

右三筆支配所町川田村、先年川欠高多、宿役難渋ニ付年季御手充被成下置候処（中略）当年年季明ニ付、引居之儀願出候付、精々申含仕候得共、近年別而無賃御伝馬、諸御住来共多難渋之旨、一向相歎申候、御情唯今迄之通当申子迄五ヶ年御引居被成下、御百姓相統為仕度、願書相添、此段奉伺候以上

九月

宮下善左衛門

3、(町川田村宿役人・三役人連印願書)

(豎繼紙)

乍恐以書付奉願上候

一、当村方之儀前々々川欠高多罷成候ニ付、御高千式拾壹石四升八合式勺之処、諸御役御赦免ニ而宿御役相勤来候處、宝曆三酉年御檢地御座候而も諸御役御赦免被成下置(中略)文政十一子地改御檢地被成下置、猶又右三筆宝曆三酉年之通り、年限を以、去未年迄御手充引被成下候処、当年御年季明ニ付、奉願上候、文政年中御改後、本新田ニ而五百六拾石余ニ茂相成候得共、宿方之儀、近年別而無賃御伝馬其外御朱印御証文并諸御往来共ニ毎度物多相掛り、大小御百姓一同難渋至極奉存罷在候間、何卒御年季御引居被成下置候様ニ奉願上候、御情ニ願之通被仰付被成下置候ハ、宿方難渋相凌、如何計難有仕合ニ奉存候、此上幾重ニも御憐愍之御意奉仰候以上

天保七申年九月

町川田村

問屋 西澤又三郎 印

年寄 彦左衛門 印

同断 勘助 印

名主 健左衛門 印

組頭 彦治 印

長百姓 瀬左衛門 印

御代官所

〔諸役・運上〕『手充引』、番号く三三八

これは見られる通り三つの史料からなっている。町川田村より代官所宛に犬銀・漆運上等の年季引きの願書が提出され、代官はこれを受けて郡奉行宛にその伺をなす。郡奉行は冒頭「口上覚」と記した伺書を作成し、これら関係史料を一綴にし、且つ綴込の史料全体の端裏の

部分に事例の如き伺文言を記した紙片を貼付して、これを勝手掛家老に提出する。そして後者よりの回答附札が郡奉行（郡方）の伺書の部分に付されて返進されるという形を採るものである（冒頭口絵写真参照）。本型史料に対する当時の呼称は単に伺書とするのみであるが、これは本型史料の特性を表示するものとしては不充分であるので、本目録ではこれに「綴込伺書」の名称を付与することとした。「綴込伺書」は右のような史料の授受手続きによって作成されたところの、それ自体が纏まった独立の史料なのであるから、この一綴を分解して一点ごとに取り扱っては史料の意味を損なうものである。

その他 この他に「一件詮議覚書」としたものがある。これは郡奉行所で取り扱う公事・吟味の案件についての郡奉行の心覚えのメモと言ふべきものであり、特に定まった様式は無く、訴答両者に対する尋問事項や争論点の整理、証拠史料の収集の方針等が列記されたものである。次に「聞置届書」としたものは真田家文書のみならず他家文書の中にも広く見えるものである。これは史料の止め文言を「此段御聞置可被下候、以上」とするもので、願書というよりも届書の一種で「一通り届」と称せられるものである。即ち、殊更に届けたり伺いをなす程のことも無いが、参考のため一通り心得おかれたしとして報告する場合に用いられるものである。

## 史料の配列と概要

### 分類の方針

先にも述べたように本目録においては第二八集の真田家文書目録「その一」の分類方式を基本的に踏襲している。但し書付型史料の多くは、地押改・検見廻村等の藩の行政行為や公事出入りの裁許といった事案ごとに「一件物史料」として封筒・袋等に一括伝存しているものであるから、この伝存形状を尊重して史料を配列した。或はまた一件物袋に纏まっておらずとも、同一事案を巡って継起的に作成されたと推定される諸史料も「群」として捉えて、一括配列した。だから分類は個々の史料の記載内容に関わるものではなく、史料の作成の事情に基づくものであり、より具体的には、この「一件物史料」の群を発生せしめたところの事案の性格を基準とするものであると理解されたい。

さて本目録収載史料の概要を述べるが、個々の史料の記載内容は各史料の表題の下に内容摘記してあるのでそれに譲り、ここでは各項目に配された史料群の理解に必要なかぎりでの一般的説明をするに止める。

本目録収載分史料の大項目は目録「その三」（目録第四〇集）に引続いて『藩政』であり、本目録ではこの中を『土地』『山野・河川』『年貢』『諸役・運上』『国役金』『堤川除普請』の六つの中項目に分かった。以下の説明において『内ゴジックは中項目、』『明朝は小項目、』『は細項目を示す。また（ ）内は仮名と数字は史料の整理番号を示している。

## 『土地』

ここには田畑耕地を巡る諸問題を契機として作成された諸史料を配した。

『地押改』。ここには明和・安永期と文政・天保期の二つの期間の地押改関係の纏まった史料群が残されている。真田松代藩では寛文六（一六六六）年に全領一斉の総検地（差出検地）が行われた後は廃藩に至るまで一斉検地は見られず、個別の村毎の地押改（有地改）がおこなわれているのみである。そして松代藩の地押改の実施状況を見るならば、寛文期前後を除くならば宝暦——安永期（延べ一〇九村）と文政——天保期（延べ三〇村）にピークがあり、残存史料はほぼこの実施状況に対応しているといえる（鈴木寿『近世知行制の研究』四五四頁）。そしてこの両時期の地押改を比較した場合、文政・天保期のものが農村側からの要請によってなされている（願による地押改）要素が強いのに対して、明和・安永期のそれは藩の統一的な政策として実施されている側面が強く（御趣意による地押改）、この時期は恩田木工の宝暦改革の直後でもあり、またこの統一的な地押改を指揮しているのが、木工の下で抜擢された成沢勘左衛門・祢津要左衛門の二人の郡奉行であることからしても、この一連の地押改の関係史料は松代藩宝暦改革を考える上でも興味深いものである。

さてこの項目に収めた史料は農村および寺社からの提出史料が大半をなし、しかも書付型史料の性格からして地押改施行過程そのものについての史料というよりは、高除地の確定についての証拠的性格を有する史料、或は地改の施行に際しての紛議に関する史料といったものが主流をなしている。

「明和元・二年大岡四組地押改」。更級郡大岡村は総村高本新田共二八八九石余（宝永五年）の大村で宮平・根越・和平・川口の四組の計四七村の枝村から成っている（川口組も六村の枝村から成っているが、史料ではこれらは現れず「川口村」で代表されている）。次に表示す、

表：更級郡大岡村の枝村一覧

組 名	枝 村 名	村 高	本田免	本畑免	組 名	枝 村 名	村 高	本田免	本畑免	
宮平組	外 花 見 村	15.176	0.22	0.13	和平組	桐 沢 村	26.314		0.2	
	内 花 見 村	24.610	0.23	0.13		平 村	69.570		0.27	
	慶 師 村	42.304	0.21	0.15		長 瀬 村	25.666		0.29	
	荻 窪 村	32.260		0.21		下 大 岡 村	32.210		0.25	
	宮 脇 村	23.710		0.22		町 田 村	47.556	0.38	0.3	
	雨 池 村	10.012		0.19		大 田 和 村	64.148		0.35	
	桃 内 村	58.519	0.25	0.18		萱蒔(場)村	8.198	0.38	0.25	
	芦ノ尾村	127.529	0.32	0.18		櫛 木 村	19.616		0.25	
	八 重 堀 村	41.690	0.3	0.18		仏 風 村	41.100		0.33	
	高 市 場 村	12.079		0.28		女 蔵 里 村	24.960		0.32	
	北小松尾村	41.993		0.31		梶 平 村	19.622	0.36	0.25	
	上 栗 尾 村	31.623		0.37		和 平 村	94.903	0.38	0.32	
	下 栗 尾 村	50.260		0.31	(小計)	12村	483.863	〔生高340石16〕		
	宮 平 村	62.465		0.21	川口組	上 安 賀 村	} (枝村帳 =無之)			
(小計)	14村	574.230	〔生高660石118〕							
根越組	中 挟 村	81.289		0.31		下 安 賀 村				
	笹 久 村	95.301		0.18		梨 子 木 村				
	泥 平 村	40.032		0.18		日 合 村				
	覆 盆 沢 村	32.270		0.2		舟 手 場 村				
	南小松尾村	39.723		0.22	川 口 村	164.263		0.39		
	白 井 沢 村	20.840		0.22	(小計)	6 村	164.263	〔生高180石165〕		
	越 中 川 村	29.840		0.24	〔計〕四組47枝村高1876石908					
	相 堀 村	} (欠記)		0.3	〔四組生高1612石95〕					
	棚 原 村				御朱印高 1913石414	} 2889石7117				
	岸 田 村				改出新田 976石2977				(宝永 5 年)	(内739石45荒地永引)
	門 増 村									
	佃 見 村				35.010	0.25				
	佃 代 村	105.570	0.31							
	石 津 村	67.127	0.35	0.28	(註)村高=慶長 7 年, 元和 8 年, 正保 4 年, 1913石414, 元禄15年, 1923石914, 天保 5 年, 2900石2117 明治 1 年3147石5950					
	根 越 村	106.550	0.33	0.18						
(小計)	15村	654.552	〔生高432石507〕							

備考：『更級埴科地方誌』第三卷近世編上P.488に拠る。

る通りである。

ここでの史料は地境、高除地の由緒・証拠、高除地の範囲の確定、地所の名義変更、地押改結果の確認等についてのものであり、残された史料の大半は寺社の除地に関わるものである。これらの高除地の整理と確定がこの地押改の主要な関心事の一つであったことを示している。

「明和六年東条村地押改」。ここでは先ず皆神山社領除地一一三余の地所の確定が主要な問題となっている。長年の間の地所分合、地目変更、荒廃と起返、譲渡等によって朱印地の地所が特定しえなくなったものであろう。ここでは上杉氏・松平氏以来の社領安堵の旧記の写が多数

提出されている。次に実相院の問題では、「三拾間四方」屋敷地の他に境内除地が更に存するか否かが究明の対象になっている。

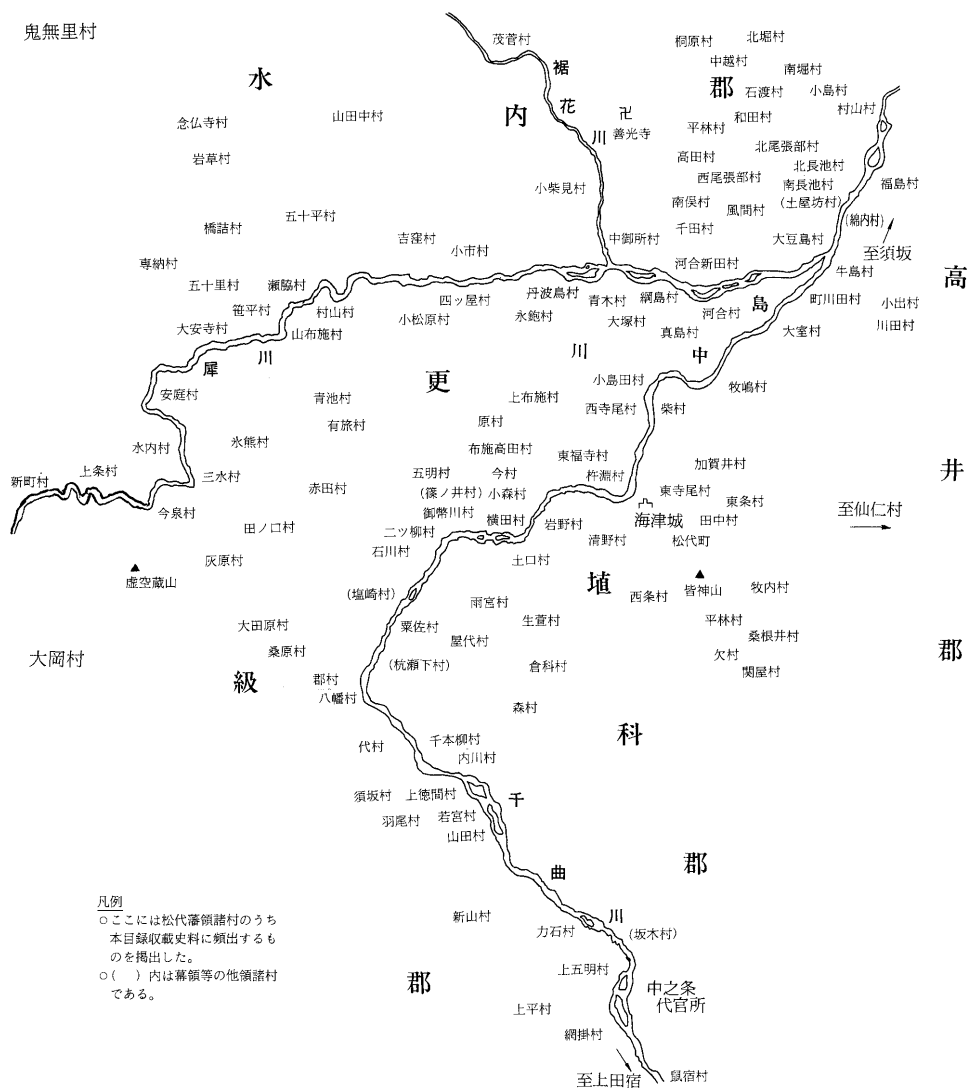
「明和九年西条村地押改」。同村は松代の郊外に位置するために家中武家屋敷地の取り扱いが問題となっている。この家中屋敷の多いことが同村の地所混雑の原因の一つをなしているのである。ここで地押改の手法を示すものとして興味深いのは、家臣佐藤左源太に関する一連の史料である〔番号く五八二・五九二・五九三・五九四・六二三〕。彼の所持する田畑屋敷地一〇石の諸役免許の件について、その根拠を巡る尋答の結果、彼が諸役免許の特権を享受するのは不当であるということが判明した。そこでこの免許は停止されたのであるが、それは一方的・強権的になされたものではなかった。この過程は次のような図式で示される。尋問↓証拠提出↓証拠の不審吟味↓評議・上申↓本人の意思確認↓服命。ここでは尋答による事実関係の慎重な確認、特権の不当性に付いての論理立った説明、そして本人の自発的な判断の尊重という側面を見ることが出来る。

「明和九年大林寺地押改」。西条村大林寺は朱印高七〇石を有しているが、長年にわたる地所混雑でこの朱印高に対応すべき地所の所付・石盛が不明となり、八斗五升分の不足を生じていた。よって芝野・萱野等の無高地を編入することでこれを調整している。「明和九年諸寺社地押改」。ここにはこの時期の諸寺社の地押改関係史料を収めた。ここでも除地の根拠と除地の地所範囲の確定が主要な問題である。即ち除地高は境内だけにかかるのか境内外の添田畑を含むものであるのか、更には年貢地たるべき切添田畑との境界がどこにあるのか、境内を他の場所に引移した寺社の除地の確定、また寺領では墓地が無年貢地であるためにその範囲が問題となっている。「明和九年円通寺地所一件」は地押改の結果、年貢高増加となったため円通寺が難渋を申立てたおりの一件史料。

「文政元年浄福寺地押改」。田中村の浄福寺地の地境の件につき地押改の節、村役人ら軽率の回答をなし郡奉行所より差紙を受けるも出頭せず、目付役所に欠訴して咎を受けた一件。「文政七年青池村地押改」。同村の地押改に伴う田畑石盛・取箇・役銀および寺社の除地に関するものである。

「文政七―同一一年広田村地押改」は地押改の出願の可否を巡る、村内大前・小前百姓の紛争に関する史料。永年の高狂いの是正のゆえをもって小前百姓たちは単独で出願している。ここでは村内の対立が解けず一同の出願の連印が無いため、「願」による地押改ではなく「御

松代藩領図 (部分図)



趣意」によるそれが申渡されている。「文政一一年上布施地押改」。同村においては枝郷の地押改出願に対して本郷より異議が唱えられ、ここでも「御趣意」による地押改が議されている。「天保四年山平林村地押改」は地押改の節、村民が明畑を多く見せる作為をなして年貢地の減少を策し、それが露見して吟味を蒙った一件。「天保期地押改」にはこの時期の地押改の諸件を収めた。

『田畑石盛』。「地所見分」には田畑の地目転換、入会野山の割地、耕地の荒地化や起返等の問題で藩役人の見分を受けたものについての史料を収めた。地所見分は、村側よりの見分出願があった時、郡奉行はその配下の勘定役に出役を命じると共に、家老に上申して立会の徒目付を派遣されるべきことを要請する「番号く四四三―2参照」。そしてこの勘定役と立合徒目付との連名の復命の申上書が提出されるという手続きを取る。「地所・石高」には地所の所持、新田高請、高地起返、地所譲渡およびそれらに伴う紛争関係の史料を収めた。開発関係史料については、ここには村内限りの小規模なものを収め、村間の大規模なものについては『山野・河川』の項に配した。「高名日違い吟味」は田畑の高抜け譲渡に関するものである。このうち「天保三年西寺尾村源吉訴訟一件」の史料群には郡奉行の手元で作成されたと思われる、訴訟の詮議のための覚書が多数残されている。これは簿冊型史料には見られないものであり、郡奉行の訴訟指揮の実際を示すものとして興味深いものである。

『質地』の「文政九年杭瀬下村儀太夫質地出入り一件」は他領間質地紛争の一件史料として発端より内済成立までの経過を纏まって知ることのできる好史料である。杭瀬下村（幕領）の儀太夫はこの地方の屈指の大地主である。「天保一三年町川田村質地一件」は田地の請戻しを巡る紛争で、ここでは同一田地の書入と質入との二重抵当の問題と、流地の効力如何の問題が主題となっている。

『御用地』には松代城曲輪の御用地の移管を巡る、普請方と郡方との往復書付その他を収めた。

『耕作』には欠落者の跡地の手入れ方が等閑で、見分直前に作為をなして吟味を蒙った五十平村の一件史料を収めた。

『出作・入作』「天保五年团右衛門役代一件」。幕領坂木村の团右衛門は千曲川対岸の松代藩領上五明村に高二〇石余の出作地を所持しており、上五明村の小前百姓を小作人として地主経営を行っていた。この出作二〇石余分の郡役人足等の諸役勤仕については上五明村の役元（名主）において差配するのが「郷法」であったが、この年团右衛門は小作人の内から重吉・養右衛門・勝郎治・良右衛門の四名を役代引



請人別惣代に指名し、自余の小作人全員から役代引請の印形を徴した。これは団右衛門が自己の土地に対する支配を強固なものにしようとする態度から出たものと解されるが、同時にこれには上五明村内部での大前層と小前層との土地所持を巡る対立が連動していた。この内部対立の問題については『開発』の「天保五年上五明村割地開発紛議」を参照されたい。

「天保一二年団右衛門夫銀等紛議」は同じく団右衛門が出作分の夫銀・役代扱・本年貢等の納入拒否に対して、上五明村の村役人側が団右衛門の小作扱の差押で対抗した事件に関する史料である。松代藩領の上五明村と網掛村は千曲川対岸の幕領坂木村と千曲川の河川敷の領有を巡って、古く寛文・延宝年間より数度に亘って紛争を繰り返していたが、ここでは文化一四年の紛争において要した出入り夫銀の割掛問題が事件の発端を成している。文化一四年の出入りでは幕府の手で検地が実施され、検地帳・絵図面が作成されている（『更級埴科地方誌』近世編上、三九〇頁以下）。この多額に上った出入り夫銀の割掛について、坂木村より出作の団右衛門は差出しの謂無しとしてこれを拒否し、これから小作扱の差押と、役代扱・本年貢の上納停止へと発展していったものである。この問題は立入人の下で、未進年貢以下について詳細な弁済規定を設けて同年一二月に解決している。

「天保八―一〇年源左衛門役扱等紛議」も他所出入りの夫銀の割掛を巡る紛争史料。ここでは入作百姓の年貢について、村役人の手を介さない年貢直上納が問題となっている。これは村側の同意の下で一〇年季で順次更新継続していくものであったが、本件紛議では栗田村源左衛門の夫銀不払いに対抗して、入作村たる市村側が源左衛門の年貢直上納の年季更新に不同意をもってしているのである。

### 『山野・河川』

『入会山』には入会山の領有・入会規定・山札の取扱い等に関わる問題の関係史料を収めた。入会山の開発や地境に関する事件の史料は、それぞれ『開発』『村境』の項目に配したが、もとより入会山の領有や境界が問題として顕在化するのはその開発を巡ってのことが多いのであるから、これらの諸問題は密接に関連したものである。

「天明二年御料所永井村麻績町村入会山札一件」は幕領入会山に山入りする松代藩領の更級郡諸村の、札米（山札の）納入に関する問題。寛保二年の千曲川大水害以来これら諸村の札米は免除されていたが、この天明二年に幕府中之条代官所よりその納入が命ぜられたものである。本件史料はこの問題の交渉の過程で作成された諸史料である。

「天明七年東条村諸組入会秣場紛議一件」は同村の入会野山の割合・兼留等の規定を巡る頭立百姓と小前百姓との対立を巡る紛争史料。

「文化一〇——文政二年仙仁村入会山一件」は高井郡仙仁村（村高一三二石余）の有力頭立百姓丹藏・平藏の両名の持山、細尾・大木ノ入・大根子の三ヶ所山の帰属を巡る一件の史料である。本件史料においては凡そ村を巡って発生する主要な問題が網羅され、紛争事件の殆どあらゆるパターンが継起的に展開されているものであり、松代藩領の村の具体相を集約的に示しているという意味において、本目録収載史料中の白眉とも言えるべきものである。この複雑な展開を示した事件の概略は次の通りである。文化一〇年十一月、幕領栃倉村・井上村らの者が仙仁村に來たり、當時同村名主の平藏に対し細尾山等は一ヶ村組合入会山であるとして、平藏らがその開発することに異議を申入れた。平藏は、同山は平藏・丹藏の人別持山にして山年貢も上納するところと反駁し物別れとなった。この問題は翌一一年一二月に内済が成立し、丹藏側は礼金を支払って、組合側主張の根拠となった「享保八年野火除印書」を取り戻し、内済規定書を差入れた。しかるにこの内済規定書によれば一ヶ村組合入会山に対して仙仁村百姓の炭焼稼ぎが禁止されていることから仙仁村の小前百姓が憤慨し、翌一二年正月、小前惣代幸右衛門は細尾など三ヶ所山の山留を松代藩代官所に申立て、更に同二月には丹藏・平藏らが名主勤役中に、川欠起返高の取り扱いについて不正の高操作をなした旨を同じく代官所に訴え出た。こうして事態は村間出入りから村方騒動へと展開していった。藩役所からは勘定役・徒目付役らが派遣されて一件の吟味がなされたが、その中で三ヶ所山に対する丹藏・平藏の所持の根拠の曖昧なことが判明し、もと村持山であったものを、名主役中に役務に紛らかして横領したものではないかとの嫌疑が濃厚になっていった。別件の川欠起返高の高操作の事実もこの嫌疑を補強するものであった。事件の調査は足掛け四年に亘って行われたのち文政元年六月に判決が下され、三ヶ所山は引上げのうえ丹藏・平藏に対して過料金三〇両が課された。しかして三ヶ所山のうち細尾・大根子は村中に下し、大木ノ入は丹藏・平藏両名に下げ渡された。同村小前の者には前記過料金を配分して、川欠起返高の高操作による年貢・夫銀の過重分の補填がなされた。

しかし丹藏らはこの処置を不満とし、請書の提出を拒否して出奔し江戸に赴いて幕府への直訴を企てるに至った。江戸よりの情報では、両名は水戸徳川家の附家老中山備前守の家老大貫半助方に身を置き、若年寄林肥後守へ出願したところ、林より真田氏の来年六月の参府まで控居るべきことを申渡された由であった。こうして丹藏らが不在の時、翌二年七月、幕領小布施村要吉なる者から、仙仁村の幸右衛門ら

八名を相手取って訴訟が起こされた。三ヶ所山は天明年間に丹藏らの親の宅藏・平右衛門より質入れされて質流れとなったが、小布施村より遠距離のため兩人に預けて山見を頼みおいたものであること、しかるに去年より仙仁村小前の者ら無断に立入って木立を伐採するにより堤訴に至ったとするものであった。ここで問題は再度村間出入りとなった。この出入りの最中に丹藏・平藏は帰国し、それぞれ東谷村興国寺・井上村浄運寺へ「懸入」をなして一連の行為の赦免を求めた。この寺院への駆込行為は「史料の表題について」の項で述べた「寺院継り」の問題と関連しており、松代藩領における寺院の機能、特に所謂アジール・レヒトとの関係を示唆するものとして注目すべきであろう。さて丹藏・平藏両名は大木ノ入のみの所持を承知する旨の請書を提出し、居宅押込のち同年十二月に赦免となっている。他方の小布施村との村間出入りは金子支払いで内済が成立した。しかし次いで、小布施村との出入り内済金の割方を巡って村内の頭立二人と小前一八人との間に対立が生じた。この紛議は結局、大根子山を外へ売却し細尾山は三〇人にて平等割合とする形で和解し、こうしてこの長い複雑な紛争は終結している。

「文政一三―天保二年牧内村・二ヶ村山論」は埴科郡関谷村等二ヶ村組合入会山と牧内村との地境を巡る紛議。この紛争は藩庁よりの見分使によって境界が確定され絵図調印で解決したが、その後、牧内村民がこれを無視して墨引外で木立伐採をしたことから、事件は裁許違反の刑事事件へと展開していったものである。

『開発』の項目には山野・河川敷の開発を巡る諸案件の関係史料を時代の順に収めた。開発問題は幾つかの類型に纏めることが出来るが、先ず第一に開発の「願人」をめぐるものである。山野の無高の荒無地について開発高請を出願する願人が享保期以降、幕藩領主の開発奨励政策の下にいずれの地域においても出現してくるが、ここ松代藩においてもその存在を多く見ることが出来る。かような願人があった際には、藩では当該山野を利益する関係諸村に開発の差障りの有無を問い合わせるという手続きを踏む。そして関係諸村の側に開発優先権を認めた上で、願人の提示する開発請高と同等ないしそれ以上の条件での開発を村方に説得する訳である。「宝暦二年沢山開発願人」「明和六―同八年小沼村等入会秣場新開出入一件」「明和八年東川田村芝野高請一件」「安永一〇年湯田中村開発願人」「安永一〇年佐野村開発願人」等の項目の諸史料がそれである。

第二に新開対象地の割地を巡る村内紛争がある。新開によって土地を所持し、更にはそれによって百姓身分としての地位上昇を願う小前百姓は新開に積極的であるし、他方本田耕地を充分に有して新田増加は寧ろ本田の障りと考える頭立層は開発に消極的であり、開発を巡って両者の対立するのは不可避であると言える。「安永二年西寺尾村川欠地開発」「文化三年石川村開発場地境論」「天保二―同五年上横田村新田割合紛議」「天保五年上五明村割地開発紛議」等の諸史料がそれである。

第三として新田開発地所の帰属を巡る村内および村間の紛争事件の史料がある。「文化三年石川村開発場地境論」（本件は村内紛争から村間紛争へと展開している）「嘉永元―同三年瀬戸川村・古山村法蔵寺地論一件」「安政六―文久元年瀧本新田割地一件」「明治四年日名村開発地領有紛議」等がそれである。

第四として開発の進め方そのものに関する諸問題がある。開発政策の是非、開発手充の支給、開発田地の年貢の免決定等に関するものである。「安永四年西寺尾村開発定免出願」「安永九年森村等開発手充一件」「文政四―同七年白石荒所開発一件」「幕末維新期開発出願」等がそれである。

これらのうち主要なものについて概述をしておこう。「明和六―同八年小沼村等入会秣場新開出入一件」は高井郡大熊・小沼村の入会秣場の開発問題。この秣場は右の松代藩領両村と幕領の大熊・小沼村との計四ヶ村の入会地であった。これについて幕領小沼村の村民平内なる者が幕府の中野代官所に開発申請をなした。本件は幕領との領分違いの地の開発問題であり、幕府の著名な新田開発令（享保七年九月、「御触書寛保集成」一三五九号）の対象となるものである。同令によれば他領入組の山野の開発は、私領主はこれをなしえず幕府の手で一元的に行うべきことが規定されている。本問題は同令の適用のもと、幕府の新田開発政策の実際の遂行のあり方を検証するうえでも興味深い史料といえるべきものである。入会秣場の開発に反対の松代領両村は開発対象地が野手高賦課の高請地であって無主地ではないとの主張を展開し、しかも恐らくは事実を反するであろうこの主張を、松代藩側の役所にも含みおかれたしと報告して藩庁との連携作戦をとっている。本項目の史料を形式の観点から見た時は、本事件の吟味が幕府の中野代官所および江戸勘定所で行われていることにより、その吟味経過や場所見分の次第を藩の郡奉行所・代官所に報告をする「御訴書」がその大半をなしている。

「文政三年石川村開発場地境論」は同村草山の開発の可否を巡って頭立百姓と小前百姓が対立していたが、その間に他村の中山新田村の側より同所の切添が進行していたために、石川村内では開発坪数減少のうえで開発の合意にたっし、そこから村間の境界確定問題に展開していつている。係争の中山新田村の切添地は石川村内への出作地として処理されている。「文政四―同七年白石荒所開発一件」は田畑の増加を目的とした開発ではなく、埴科郡地藏峠の往還の安全と便宜を目的とした沿道地開発に関するものである。これの開発掛りとして関谷村居住の足輕にして武芸者の武兵衛が任命されたもので、その開発手充や武兵衛の役割についての評議史料。

「天保二―同五年上横田村新田割合紛議」。同村が矢代・塩崎・粟佐村との千曲川河川敷の領有を巡る江戸訴訟で獲得した開発地の、割地を巡る村内紛争の史料。小前の与平太は上横田村の訴訟惣代として同村の勝訴に貢献した者であったが、その功績を背景に開発場割地問題で、小前層の利害に立って過大な要求をなしたことから生じた紛議である。ここでは割合の際の、軒割り分と高割り分の比率を巡る問題と、五七年以前の安永年間の荒地開発場の割合方が不当であったとしてその割り直しを求める問題との二つが絡まって問題が展開している。

「天保五年上五明村割地開発紛議」の史料は、『出作・入作』の項の「天保五年团右衛門役代一件」と一括で伝存していたものであるが、問題が別個であり各々多量の史料から成るので、例外的に分割して本項に配したものである。しかし二つの問題は、特に小前養右衛門の動きを軸に、関連して把握されるべきものである。さて上五明村の千曲川河川敷の東川原の地一万五千歩余は文化年間の坂木村との境界確定ののち村方で割地開発したが、その後の満水で開発場は流失し、川辺には差柳が施された状態になっていた。同村小前一四、五名の者は同地の開発を主張したが、村役人以下の大高持は田畑既に多分として同意しなかった。そこで小前の養右衛門・九郎治らは頭取となって、難渋者のみへの開発場の分配を主張して、天保五年正月に道橋方役人に直訴したものである。この問題はその背景に、小前百姓養右衛門らによる村内の政治的へゲモニーの獲得を目指す動きがあった。村役人側はこの養右衛門らの勢力抑制を求めて藩に訴え、藩側もまたその必要を感じてであろう、小前らの開発出願についてその手続き的な非違を咎めて差し止めている。

「安政六―文久元年瀧本新田割地一件」。これは百姓の新田割地の所持を巡る問題が、小規模ながら藩役人の疑獄事件に発展していったものである。東条村百姓左源治（のち徳左衛門と改名）は文政三年以来瀧本新田の開発の世話方を引受け、その故をもって開発場の割地が配

分された。しかるに同人は開発不出精で立木の伐採のみをなし、素行不良でもあったので同一〇年にその割地は没収された。それが安政六年になって徳左衛門から引上げ割地の返還歎願がなされ、郡奉行の高田幾太はこれを許可した。だがこの返還許可は、徳左衛門の親類にあたる藩土堀内権左衛門の権勢を背景にしたものであった。果してこの安易な割地返還に対しては瀧本新田村側より異議が唱えられ、処置に窮した郡奉行高田は、割地返還の代わりとして徳左衛門に、地代金二〇両相当の郡役免除等の案を家老に上申している。史料に「御賞替」とあるのは、瀧本新田開発の褒賞であり、かつその割地に代わるべきものの意である。しかし同じ郡奉行磯田音門はこの問題について再調査に乗り出し、その結果、徳左衛門の御賞替の沙汰は破棄され、高田幾太は翌万延元年五月に預所郡奉行に左遷されている。本件の経緯は『家老日記』『郡方日記』『目付方日記』等の史料では見出せないところであり、ここに収めた書付型史料群の重要性を示すものである。また同役高田幾太を指揮する郡奉行磯田音門の家老宛伺書の草案「番号く一八一〇、一八一四等」は、その推敲の筆の中に磯田の微妙な心理の揺れをも留めるものであって、草案なるもののもつ独自の史料的価値をも知らしめてくれるものなのである。

『村境』には山野・河川敷等に関わる村境紛争や、特定地所の帰属を巡る村間紛争の一件史料を時代順に収めた。このうち入会山および開発の問題と村境紛争とが絡まっているものについては、それぞれ『入会山』『開発』の項におさめたのでそちらも参照されたい。ここでは特に説明を要するものは無いが、本項のうち文政一三年の福島村の一件「番号一〇二五、一〇四三」は村境紛争という民事的訴訟を主題として始まりながら、途中から差紙不出頭問題を巡る刑事事件に発展していくものである。この場合、史料の内容的な主題は異質なものであるが、史料の作成・成立の観点からはこれら一群の史料は、村境紛争問題を巡って継起的に展開していく事態の流れに添った有機的な関連性を有するものであるから、これらを分割することなく本項の中に収めたものである。

## 『年貢』

ここには年貢問題を巡って作成される諸史料を検見から年貢納入に至る事務手続きの順に従って配列した。

『検見』。検見には大検見と小検見があり、前者は領内の各村に対して毎年郡奉行が行う検見で、勘定所元・勘定役・徒目付等を率いて全般的な見分をし、例年より悪作の場所について後日の小検見を指示する。小検見は郡奉行の属寮たる代官・手代が中心になって実施するものである。「検見出願」には川欠・山崩れ等による減免出願のものが収められているが、これらと類似の性格のものが『土

地』の「地所見分」、『堤川除普請』の「洪水注進」の項にもあるので参照されたい。「検見廻村」の項の史料は検見廻村の過程を記した史料ではなくして、主として検見廻村に関連して発生した紛議の史料である。「検見引・手充」には水災等による減免関係の史料を収めたが、この関連のものは『諸役・運上』の『手充引』の項にもあるので、そちらも参照されたい。

『年貢納入』には年貢納入関係の各種史料を収めた。松代藩の稲俵は五斗俵で、稲は五合摺、従って取米一〇〇石ならば稲俵四〇〇俵という勘定になる。この稲に対してその三％が口稲として賦課され、本年貢稲と口稲を合せた本口稲は右の場合、四一二俵ということになる。「年貢割付」の項の御年貢土目録は年貢割付状である。さてこの土目録および「年貢皆済状」の項の年貢皆済状は本来農村側に交付されて藩庁側に残らない性格の史料である。これらの諸史料が伝存しているのは如何なる事情に基づくものであるかは、遺憾ながら今のところ不明である。

「不納・延滞」の項には月割上納金の遅延を巡る史料その他がある。「不正納入」の天保一三年妻料村名三右衛門納稲不正一件は同人が納俵を濡らせその貫目を偽った事件のものである。松代藩では上納貫目定制度を採用しており、毎年その年の一俵の目方の公定標準を決め、それに基づく年貢上納をなしていたものであり、上記の事件はこの制度に関わるものである（西沢武彦「松代藩における恩田奎の改革」『信濃』八巻一・二・三・四頁参照）。尤もこの事件では寺院・縫子をなすことによって、不正を働いた名三右衛門は過料錢二貫分という比較的軽い処罰で住んでいる。「先納」には月割上納と異なる本来の意味での先納年貢関係のものを収めた。

『山年貢』。山年貢は検地石盛されていない山林地所の所持に対して賦課される雑租で稲納をする。入会山の場合には入会山札の「札米」の形で山年貢が賦課される。入会山の地元村がこの山年貢の代行納入をし、山札所持の村より札米を地元村へ納める形をとる。本項目には、この山年貢の額の決定やその納入を巡る諸案件の史料を納めた。

### 『諸役・運上』

松代藩の諸役・運上としては次の様なものがあつた。先ず小役と称せられるもので、これには式拾八匁夫銀（高百石につき銀二八匁）・高崎夫銀（高百石につき銀四〇匁）・御蔵人足銀（同、銀四匁）・夫給銀（同、銀三〇匁）・犬銀（同、銀三匁三分三厘）等があつた。この他に雑租として薪（高百石につき一ヶ月二駄）・藁（同、一ヶ月三駄）・萱（同、一ヶ月五束）・真綿（同、元綿四〇

夕）・荏(同、三斗)・大豆(同、六俵)・御飯米(本田高一石につき米八升三合五勺)・御膳白覆粃(本口粃高一石につき粃五升四合二勺)・雉子数羽・鯉数匹があった。次に現夫役として郡役がある。これは高百石につき人足三人で二百日勤め、延べ六百人分の夫役で川普請等に使役された。粃代納の時は出人足二百人につき粃五俵、金納なら金一両である。そしてその他に漆運上・紙運上・鉄炮運上等の諸運上銀、また水車・桶工等の営業に対して冥加銀が賦課された(前掲『更級埴科地方誌』六一一頁以下)。

『郡役』の項には郡役の取り扱いに関する史料若干を収めたが、郡役に関する問題は『出作・入作』の「団右衛門役代一件」や『堤川除普請』等の項目にも見られる。

『追鳥役・川役』には献上雉子・鯉の不納の諸村についてその理由を調査した際の史料である。これは『地押改』の際の高除地の証拠開示を求めたのと同様の手続きで行われている。史料としては各村の三役人より提出の答書の形式を有しており、これが後代の証拠ないし政務の参考資料とされたものであろう。各村の答書の内容については本文表題に内容適記した通りである。

『冥加・運上』。松代藩では漆栽培・紙漉・炭焼・猟師鉄炮等の旧来よりの農民の稼業に賦課する雑税を運上、水車稼ぎ・質屋・揚酒商売・桶工等の新規出願の営業の見返りに賦課されるものが冥加として用語を使い分ける傾向が見られる。しかし勿論混同されている事例も多い。冥加には特殊なものとして開発冥加粃なるものがある。これは山野の開発に際して新田高請できるまでの間、暫定的に上納するものである。『手充引』には災害・困窮を理由にした小役等の年季引据の關係史料を収めた。尤も史料の形態が「諸村手充引并冥加増上納取扱一件綴込伺書」というようなものであるから、その中には冥加粃の新規上納に關係する史料も混在していることに注意されたい。また同じく「諸村小役并免相手充引居一件綴込伺書」の場合には、小役のみならず本年貢分の減免關係史料も混在している。これは綴込伺書という史料の形状を尊重して、その一通毎に分離分類することを避けたことに拠るのであるが、この点御了解頂きたい。

## 『国役金』

ここには河川国役金・朝鮮信使国役金・日光法会国役金の三種類の国役金について、松代藩真田家よりこれらを幕府に納入した際の請取証文等を配している。国役金は農民の高掛物であるから、前記の年貢・諸役と關係を有するといえるが、史料の性格から見た時は、ここに収められた諸史料は松代藩領農民から徴収された国役金を江戸において幕府に納入した際の上納届書や幕



府側より発給された請取証文の類であり、これらの諸史料は真田家の江戸留守居役の管掌するところのものである。その意味で、本目録記載史料の大半が郡奉行所の管掌史料であるのに比して、本項目史料群が異質のものであることに注意されたい。

『河川国役金』には東海道筋・信州諸川の国役普請の国役金上納に関する史料を収めた。国役普請はこの国役金を用いて行われる川普請の形態であるが、本項に見られる国役金と次項『堤川除普請』の松代藩領で実施される国役普請とが直接に関係したものであるとする誤解があり、それが各方面において少なからぬ混乱を引き起しているように思われるので、この両者の関係について一言しておく。

国役普請は国役金を用いて行われる川普請であるが、国役金は個々の国役普請に際して事前に徴収されるものではなく、普請完了の後に徴収されるものであり、普請は幕府の立替支出（「取替金」）をもって幕府役人の管理の下に行われるものである。国役普請について次に注意すべきは、それが関東から畿内までを七つに分割するブロック制で行われている点である。松代藩領が含まれるのは東海道・信州のブロックで、ここでは富士・大井・安部・天龍・千曲・犀川の六河川（およびその枝川）が国役普請の対象となり、国役金の賦課対象国は駿河・遠江・三河・信濃・甲斐・伊勢・伊豆の七ヶ国（総石高一九六万四千石余）である。さて右の六ヶ川のうち私領主の自力でなし難い大規模な川普請について、幕府は国役普請として幕領・私領の区別なく幕府役人の手でこれを遂行する。普請は幕府の自発的判断で行う場合もあるが、大名（旗本も含む）側より自領の普請を出願するのが通常である。これを「私領願国役普請」といい、大名は自領の普請について、普請箇所を持つ村の村高百石について金一〇兩の「私領出金分」（これは国役金と紛らわしいが別物である）を幕府に提出せねばならない。後述の松代藩犀川で例示すれば、犀川添いの同藩四ツ屋村（村高八六八石余）の地先に国役普請が施行されれば、松代藩は幕府に八六兩余を納入せねばならない、更に丹波島村（同七三二石余）、青木嶋村（同五五三石余）も含めて三ヶ村にそれが行われたならば、計二一四兩余を納入するというような計算をするものである。さて幕府は前記六ヶ川において実施された国役普請の一ヶ年分の支出総額を計算する。そしてその総額（右の「私領出金分」を控除した）の十分の一を幕府の純支出とし、残額を、このブロック内の七ヶ国一九六万石余（松代藩領もこの内に含まれる）に対して平均賦課するのである。これが即ち国役金なのである（拙稿「近世国役普請の政治的位置」——『史林』五九卷四号）。右の仕組みからして、松代藩領における国役普請の入用資金と、松代藩領に賦課される国役金とは無関係ではないが、直接の関係をもち

ないということが理解されるであろう。国役金は松代藩領の国役普請のみならず、もっと広くの国役普請に関わるものなのである。次項『堤川除普請』の史料の中には、松代藩領の国役普請に際して運用される入用資金について、それを国役金と呼んだり、それと紛らわしい表現がなされたりするが、当時の人間はこの両者が別物であることを当然に理解した上で便宜的に呼んでいるに過ぎないのであって、これらは混同されてはならないものである。

さて『河川国役金』にはこの東海道筋・信州六ヶ川の国役普請の国役金の上納に関する史料を収めた。国役金納入の手続きは、先ず毎年一〇、十一月頃に幕府勘定所よりの触書をもって、当該年の国役金の金額（高百石あたりの金額）と納入先となる幕府代官の名を報せてくる。国役金は松代藩領の当該年の有高（本新田高から荒地高を控除し、新田起返高を加えた高）を基準にして賦課され、各村から藩に上納し、そして江戸において指定された幕府代官に納入するものであった。その請取証文の宛所は松代藩の江戸留守居役となっているが、これは国役金の納入が同役によって行われたからである。

『朝鮮信使国役金』は文化六年の朝鮮信使の対馬来聘に関するものである。財政窮乏に陥っていた幕府は、將軍家齊の継続祝賀の朝鮮信使接待を先例に反して対馬で行うと共に、その費用を全国に賦課したものである。この賦課役には二種類あり、一つは全国の農民に賦課する国役金で、これは村高百石につき金一両である。今一つは万石以上の大名に賦課される高役金で、その領知朱印高一万石につき金七五両である。そして二種類の役金とも五ヶ年賦で納入されるものであった（『御触書天保集成』六六〇一号、「日本財政経済史料」四卷二〇一九頁等）。この二種の役金は同じ松代藩を対象としながら、その賦課基準が異なることに注意されねばならない。国役金は農民から徴収するものだから、村々の有高に基づく。高役金は大名自信に賦課されるものだから、真田家の場合は一〇万石という固定された朱印高に基づいているのである。

『日光法会国役金』は文化一二年の日光における家康二百回忌のりの国役金に関するものである。公家・門跡・武家の日光参向の道中人馬入用金を日光街道・東海道・中山道沿いの武蔵から近江までの一ヶ国に対し、国役金として五ヶ年の間毎年、村高百石につき金一分余の徴収を命じたものである（『御触書天保集成』五五七六号）。

『国役金その他』には国役金上納についての、賦課高の問題、納入猶予に関する諸件の史料を収めた。

### 『堤川除普請』

『寛保三年一統御普請』。寛保二年の水害は「戌年の水災」と呼ばれるもので、関東・信州方面を中心に甚大な被害を及ぼした。松代藩領では千曲川が氾濫し、海津城の本丸御殿にまで浸水し、藩主真田信安は小船で高台地の開善寺にまで避難した由である。さてこの未曾有の水災に対して幕府は、その指揮の下に幕領・私領の区別なく一円的な川普請を行った。これは「一統御普請」と呼ばれる普請方式である（この普請費用が事後的に国役割されれば国役普請となるが、この時のものは国役割されていない）。関東方面では肥後細川・備前池田家等の有力国持大名を「御手伝」に動員してそれが行われたが、信州方面では「御手伝」を用いず幕府のみの手でこの一統御普請が遂行されている。

さて本項目の史料として先ず千曲川普請の通りの普請金の「中借証文」がある。この史料については「史料の表題について」の項を参照されたい。次に普請所各村より提出した、普請所の保全・修繕に関する請書がある。これは二種類あり、一つは真田家の郡奉行所宛に提出されたものであり、今一つは宛所記載の無いもので幕府への提出を予定したものと思われる。但しそれが真田家側に伝存している理由は不明である。

『文化五年国役普請』は松代藩領で行われた国役普請に関する史料である。これは先述の「私領願国役普請」であり、以下、真田家文書に見える国役普請は総てこの方式に基づくものである。

『文政六年国役普請出願一件』は千曲川の鼠宿村から上下横田村あたりにかけての国役普請の出願に関するもの。しかし文政七年、幕府は私領願国役普請について一万石以上の大名家よりの出願を停止しており、「御触書天保集成」六二六七号、松代藩よりの出願も却下されている。しかしながら嘉永五年には国役普請制度は文政七年以前と同様の形に復している（『日本財政経済史料』九卷三九頁）。本目録史料の安政三年以降の国役普請の史料はその関係のものである。

『文政一〇年御手普請』。真田松代藩では大名真田氏の手限りで行う普請のことを「御手普請」と称している。本項史料はこの関係のものである。本項史料に關係する種々の普請制度について述べておくならば、「仕継普請」（番号く一五〇三）とは、一旦完了した普請所が再度水破

の危険に晒された時に行う補強の普請のこと。『村方出精自普請』（番号く一五〇四）とは普請費用を村方で賄う村方自普請の意。これに対して単に『自普請』とある時は村請普請を意味するのが一般的で、この場合には普請費用は藩から下渡されるのである。『過怠普請』（番号く一五〇五、〇六）は恐らく、何がしかの処罰を蒙った時に、その懲罰として川普請に人足を供出して行われるような性格のものと思われる。

『弘化四年震災復旧川普請』。弘化四年三月二十四日に善光寺平に大地震があり、甚大な被害をもたらしたのみならず更級郡の岩倉山（虚空蔵山）が崩壊して犀川を押し埋め、終に四月一三日に決壊して川中島一帯に惨状を呈した（『松代町史』上、四〇六頁）。この押し埋めによって犀川の水行が悪くなり、この後犀川の水災に松代藩は連年の如く苦しめられることとなるのである。さてこの弘化四年の犀川の修築普請について、松代藩は幕府に国役普請を出願したのであるが、この時期は大名よりの国役普請の出願が停止されていたので、「国役に似寄候ものニ而国役の名目無之」普請が幕府の手で施行されている（『弘化四年 川除御普請日記』五月二日条〔番号い一七六四〕）。これは寛保三年の場合と同様の一統御普請と見做しうるものである。

本項にはこの普請のおりの人足賃銀や材木代金等の請取証文が収めてある。川普請には大別して堤普請と川除普請の二種があり、前者は土堤を築きあげて河道の大枠を定めるもの、後者は牛・笈・石枠などと呼ばれる水制具を用いて川瀬を調整し護岸を目的とするものである。この他に『切普請・堀川普請』と称して乱流を纏めあげ川瀬を固定していくものがあるが、これも川除普請の中に含まれるであろう。本項史料のうち『丁場請負』の請取証文は右の堤普請に関するものと思われる。また材木や麻縄・藤の買上代金の請取証文も多数あるが、これは専ら菱牛・合掌杵・鳥居杵といった水制具を造るための材料であると思われる。なおこれらについての請取証文は、本項以後の分については、同一種類のものは一つの表題の下に纏め、その通数のみを記した。但し初出の種類の請取証文についてはその全体を表示した。

『安政三年国役普請』は犀川の国役普請に関する史料である。ここに見える普請入料金の中借証文は藩役人間のレベルでの普請金の中借証文である。松代藩領内の国役普請に際しての普請資金の流れを概述するならば、次の通りである。国役普請では幕府がその資金を立替支出して行うので、松代藩役人は普請の進行状況に応じて分割してこれを受け取る。具体的には、国役普請を指揮する幕府役人（勘定役ないし普請役）の裏書を得た普請金の中借証文を松代藩役人が持参して、中之条村の幕府代官所の元々役に提出する（『安政五年国役普請』の番

号く一五五一参照）。次いで同元ノ役から手形を交付してもらい、これで松代近辺の代官所御用達から現金を受け取るのである。この受け取られた普請金は一旦、松代城内の御納戸余計方へ「内預」をされる。そして松代藩の国役普請掛の勘定役が、普請の進行状況に応じてこの預けられた普請金を「中借」をして引き出し、普請現地で人足賃銀・材木代金に支払うものである。本項に現れる中借証文や預ケ証文はこの一連の手續きに関するものである（『文久元年犀川国役普請』の「日々申上書草案」の諸史料、および本項の国役普請金預ケ証文〔番号く七五以下〕の勘定明細の記載を参照）。このように国役普請の資金授受の手續きは複雑であり、中借証文といつても、幕府役人と松代藩役人、松代藩役人間、松代藩役人と現地農民といった種々のレベルのものが錯綜することになるので、その授受関係に留意して取り扱われない。

『安政五年犀川国役普請』の目論見中臨時入料金請取綴は国役普請の施行に先立って行われる目論見時での、幕府役人に対する応接の諸費用に関する史料である。普請施行中の諸証文とも併せてこれらの証文類は無味乾燥なものだが、そこに現れる費目は国役普請における幕府役人に対する応接がどのようなものであったかを教えてくれるという点では興味深いものである。

『安政五年大瀧見分一件』は安政五年の国役普請の際に幕府役人一行が千曲川の通船路の見分を行っており、その関係のものである。この見分には松代藩の国役普請掛の勘定役春日儀左衛門・酒井市治および道橋方元ノ役の野中軍兵衛らが同行し、水内郡大瀧村を越えて越後国に入り、十日町方面まで見分をなしている。本項の「日々申上書草案」は出張先の勘定役から日々の様子を報告した申上書の草案。清書の正文は勘定所元ノおよび郡奉行の下に送られるものである。

『文久元年犀川国役普請』は国役普請の実態を教えてくれる貴重な史料群である。このうち「日々申上書草案」は国役普請掛の松代藩勘定役青柳丈左衛門らよりの普請進行次第を記した報告書であるが、これは簿冊史料の「国役御普請御仕立中日々申上扣」（番号い一七四〇、四一）にその留が収められている。「仕立中諸書付」に収めた書状類に対応する簿冊の留帳は見出せない。次に、この年の国役普請に際しては、これと並行して松代藩福島村と須坂藩（堀家）土屋坊村との堤普請を巡る紛争が生じており、幕府役人は国役普請の指揮と共にこの紛争の調停にも当たっている。従って本項史料は『川普請出入り・吟味』の「土屋坊村一件」の史料と併せて見られたい。また本項の諸史料には「石川亀」「新亀」「梵天裏上堤」等の個々の普請所の名が見えるが、これら普請所の全容については『明治四年国役仕越普請』の項の

史料にこの方面の普請所の絵図〔番号く一四〇一―一四一八〕があるので、それを参照されたい。

『慶応二年三川国役普請』。慶応二年の七月から九月にかけて、犀・千曲・裾花川三川の国役普請が行われている。しかしこの関係史料は多くない。本項にはこの関係史料と、この前後の松代藩領での普請関係史料の断片的なものとを便宜的に纏めて収めた。

『明治三年三川国役普請』は明治新政府下での国役普請の史料である。国役普請の制度は新政府においても継承され、それは廃藩置県後の明治七年まで継続されるものである（『大日本租税志』所収、明治八年二月布告）。本項史料はこのような新政府下での国役普請の実態を教えてくれるものである。新政府下では国役普請を管掌するのは民部省であり、その土木司が旧幕府の勘定役と同様の職務を国役普請において行っている。本項史料には松代藩の国役普請を有利に進めるべく、藩の普請掛役人による出張土木司に対するあからさまな接待攻勢の様子が記されている。次に本項史料の普請金の請取証文の中に「内借」の語がみえるが、これは既述の「中借」と同義であると思われるが詳らかではない。また請取証文に白紙のものが多く見られるが廃藩を迎えて決算する必要が無くなったからであろうか。いずれにせよこれが本来的な取扱われ方たであるとするならば、請取証文なるものの見方についての材料を提供してくれるものというべきであろう。

『明治三年今井村堀割普請』は高井郡小沼村等四ヶ村より千曲川（信濃川）水災の原因は飯山藩領の水内郡今井村辺の曲流にあるとして、その瀬直しを求めたことに関わる史料である。この請願は容れられ、明治三年の国役普請の一環として今井村の堀割普請が行われている。しかしながらこのために今井村に対して損地の地代金を支払わねばならず、国役普請出願六ヶ村のうち福島村等六ヶ村がその負担を嫌って、今井村堀割普請出願からの離脱を申立てた。国役普請の指揮のために出張中の政府土木司はこれに対して、負担金の提出を不要としたうえで、福島村等に対して今井村堀割普請への人足二万五千人の供出を懲罰的に申付けた。本項史料は専らこの問題の処理に関するものである。

『明治四年国役仕越普請』は明治三年の国役普請の完了後に引き続いて行われた国役普請に関するものである。明治三年八月に先の国役普請は完了し政府土木司は帰還の途にしていたが、その直後より千曲・犀川が出水し、完成したばかりの普請所が次々に水破していった。これは緊急の事態であったので、松代藩では民部省に対して、出張土木司の見分を受けたうえでの「仕越普請」の許可を求めている。通常、

国役普請を行う際には藩側の出願を受けた後、幕府勘定役人なり明治政府の土木司なりが普請出願箇所の見分と普請の見積り（『目論見』）を行い、その復命を待つて幕府ないし中央政府においてその国役普請の可否が決せられ、施行の際には先の目論見に準拠してなされるものであった。ところが出水急破の緊急事態の際には、これら出先の役人の判断で応急の普請を実行し、その普請費用もその後の本来の国役普請費用の中に組込むことが例外的に認められていた。これが「仕越普請」と呼ばれるものである（拙稿「国役普請の実働過程について」——論集・近世史研究一三八頁）。この事後承認的な普請方式は国役普請の野放図な増大につながるものであるために幕府もその濫用を規制していたが、明治政府は仕越普請を明治二年六月に廃止している（『明治三年三川国役普請』の番号く一三八四）。この明治三年閏一〇月に出願された仕越普請も許可されず、翌四年正月に通常の国役普請が認められている。しかし同四年六月には再度犀川・千曲川方面で洪水が発生し、仕越普請を民部省に申請している（番号く一六〇七—三）。丹波島村等四ヶ村の三役人は仕越普請の願書を出張の土木司に提出し、普請不許可の時は、費用は村方負担とするとの誓約の下で仕越普請を行っている（番号く一六〇七—五、六）。この国役普請出願は九月に許可されたが、普請は仕越の形で既に行われており一〇月に完成している。本項にはまた千曲・犀・裾花の三川筋各村の普請所の絵図が収められており、普請の具体的なあり方を知る上での参考となるものである。

『普請金不払一件』は川普請の材木代金や人足賃銀等の普請金の農民や請負人への不払に関する一連の史料である。戊辰戦争で各地を転戦した松代藩の財政は窮迫を告げており、川普請を含めて一切の財政の運用が麻痺状態に陥っていた。明治元年、二年に行われた松代藩の「御手普請」の普請費用の不払が後々まで尾を引くこととなっている。明治三、四年と松代藩が国役普請に依存せねばならない理由がここにある。明治三年には財政窮迫は頂点に達し、藩札が乱発され、そしてその価値下落から「午札騒動」と呼ばれる大農民一揆を引き起こし、藩主以下執政方重職が処分を蒙るという事態に至っている（前掲『更級埴科地方誌』八六〇頁）。

『明治五年官普請』には明治五年の三川普請の普請金中借証文を収めている。この普請の性格は明らかでは無いが、松代県による官普請ではないかと思われる。

『その他の川普請』には小項目に掲出したものの以外の各年次に行われた川普請の関係史料を纏めて収めた。これらの諸普請が重要でない

ということではなく、関係史料が断片的であるが故の便宜の処置である。

『洪水注進』には洪水の注進と普請修復の出願についての史料を収めた。ここには「史料の表題について」の項で述べた「御訴書」が多数収められている。

『川普請出入り・吟味』。ここには川普請を巡る百姓間の公事出入り、および藩より吟味・処罰を受けた諸事件の史料を収めた。川普請を巡る出入りは、その普請によって川瀬を対岸に押し付けようとするやり方から生ずるものが多く、それ故に河川敷の開発出入りや境界出入りと密接な関係を持っているので、『山野・河川』の関係項目の史料も併せ参照されたい。

「三領普請不調法一件」。松代藩福島村、同預所（幕領）中島村、須坂藩高梨村等七ヶ村は千曲川通土堤について組合普請所を有していたが、文政九年四月の出水大破について村方自力におよび難しとして、同八月に、松代藩預所役所を通して幕府に來春の定式御普請を出願した。更に同九月にはこれを仕越普請でなしたき旨を追加出願した。この出願自体は何ら問題では無かったが、福島村がこの出願について松代藩側に届けもせず、願いもしなかったことから藩主を等閑、蔑しうにしたとのことで叱責吟味を蒙ったものである。この事件は寺院、継り、で解決をみているが、ここで注目すべきは文政九年八月、同九月付で福島村より藩郡奉行所宛に提出している願書および御訴書〔番号く一五一七、一五一八〕が、実は右の吟味を蒙った後の文政一〇年四月段階で、月付を遡らせて作成されているという事実である〔番号く一五二〇、一六〇一〕。これは原史料・正文だからとてその内容を鵜呑みにしえぬことを示す好個の事例である。

「土屋坊村一件」は須坂藩土屋坊村の新規の土堤築造に対して、対岸の松代藩福島村が異議を唱えたことによる出入りの一件史料である。これは藩領間の川普請係争事件の史料として良質のものである。安政四年、須坂藩綿内村の枝村土屋坊村では松代藩大豆島村の地所を借りて掻揚上堤を築きたい旨を松代藩に出願し、関係諸村の差障り有無を糺したうえで許可された。しかしその後水損が続いたために土堤の延長築造を願ったところ、福島村より故障が申立てられた。しかしことは土屋坊村の存亡に関わるものとして、土屋坊村の名主安右衛門らは万延元年五月に幕府寺社奉行所に出訴して、福島村の異議の取下げを願った。福島村側の主張は、対岸の大豆島村地内に聊の土堤を築かれても同村の水損は免れないこと、よって大豆島村より絵図朱引の外に土堤築くまじき旨の印書を藩役所に提出していること、此度の一件は



大豆島村と土屋坊村の馴れ合いによる規定破りであるというものであった。この訴訟事件の取扱は松代藩役場でなすべきことが幕府寺社奉行より命じられ、（これは水論における所謂「地頭下ゲ」の手續きである―小早川欣吾著『近世民事訴訟制度の研究』四五三頁、更に翌文久元年三月よりは幕府の国役普請がこの辺り一帯に施行され（『文久元年犀川国役普請』参照）、その指揮者たる幕府勘定役佐藤友次郎の下で本訴訟事件の調停が進められた。この事件は翌文久二年三月に内済が成立し、右の土屋坊村の築いた搔揚土堤は取払って地所を大豆島村に返還し、改めて大豆島村国役土堤築留より二尺低にて都合六〇九間余の新規土堤を築立てること、大豆島・土屋坊村より人足を供出して福島村の土堤の設置・腹付をなすというのがその内済の規定であった。本項史料はこの内済に至るまでの、松代・須坂両藩役人間での折衝を中心とした史料群である。特にそこに見える「示談趣意書案」の史料は示談各事項についての両藩役人の意見・要求の応答を下札の形で提示したものであり、下札に下札が延々とつながっていく姿は壯観ですらある。内済成立に至るまでの経緯も迂余曲折を経ており、文久元年三月には示談手切れとなって土屋坊村名主安右衛門が江戸寺社奉行に訴に及んだり、また須坂藩役人が土屋坊村側を強行的に内済に同意せしめようとしたことより、同村の男子が全員逃散するという事件を引き起し、須坂藩役人の交替を見るなどしている。さて前述の内済成立にも関わらず、再度出入りが勃発し、これは文久三年九月に示談成立。しかるに三度、元治元年七月にも出入りが起こっている（本事件の最終的結果については未詳である）。河川の流路の変更、変地そしてまたそれによる居村の危険性の増大というような事情によって、取極めが永続性をもたないことによるものであろう。

## 〔付記〕

本目録の作成は笠谷和比古が担当し、館員諸氏の教示を得た。松代真田宝物館の関係者の方々にはその所蔵史料の閲覧に際して諸般の御配慮を頂いた。記して謝意を表わすものである。

史料館所蔵史料目録 第四十三集  
信濃国松代真田家文書目録(その四)

昭和六十一年三月三十一日 印刷発行

東京都品川区豊町一丁目十六番十号

国文学研究資料館内

編集者 国 立 史 料 館  
発行者

東京都文京区小石川一丁目三番七号

印刷所 勝美印刷株式会社

(本文用紙は中性紙を使用)